

坂出市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 結果報告書

**令和5年8月
坂出市 かいご課**

目次

I	調査概要	1
1	調査目的.....	1
2	調査設計.....	1
3	報告書の見方.....	1
4	評価項目の判定について.....	1
II	回答者の属性	2
1	性別.....	2
2	年齢構成.....	2
3	日常生活圏域.....	3
5	記入者.....	3
III	調査結果	4
1	家族や生活状況について.....	4
	(1) 家族構成について.....	4
	(2) 介護・介助の状況について.....	7
	(3) 現在の経済状況.....	11
	(4) 現在の住まいについて.....	12
2	からだを動かすことについて.....	13
	(1) 運動器の機能について.....	13
	(2) 転倒について.....	14
	(3) 閉じこもり傾向について.....	15
3	食べることについて.....	20
	(1) BMI 算出.....	20
	(2) 口腔機能について.....	20
	(3) 体重減少について.....	23
	(4) 孤食の状況について.....	24
4	毎日の生活について.....	25
	(1) 認知機能について.....	25
	(2) < I ADL : 手段的日常生活動作 > について (老研式活動能力指標).....	26
	(3) < 知的能動性 > について (老研式活動能力指標).....	28
	(4) 社会的活動について.....	29
	(5) 趣味・生きがいについて.....	30
	(6) 記憶力・判断力・伝達力について.....	33
5	地域での活動について.....	35
	(1) 社会参加の状況.....	35

(2) 地域づくりへの参加意向.....	43
6 たすけあいについて	45
(1) 心配事や愚痴（ぐち）について.....	45
(2) 看病や世話について	47
(3) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	49
(4) 友人・知人との関係性.....	50
(5) 地域の高齢者への手助けについて.....	52
7 健康について	53
(1) 主観的健康感	53
(2) 主観的幸福感	53
(3) うつ傾向について	54
(4) 飲酒の習慣	55
(5) 喫煙の習慣	55
(6) 現在治療中、後遺症のある病気について.....	56
8 認知症にかかる相談窓口の把握について	57
(1) 認知症の症状の有無について.....	57
(2) 認知症に関する相談窓口について.....	57
9 在宅医療・介護について	59
(1) 治療・ケアに関することについて.....	59
10 介護・福祉サービスについて	60
(1) 介護予防について	60
(2) 介護保険について	62
(3) 将来の住まいと介護サービスの利用について.....	63
(4) 高齢化社会において重要な方策.....	64
IV 前回調査との比較.....	65
1 家族や生活状況について	65
2 からだを動かすことについて.....	72
3 食べることについて	86
4 毎日の生活について	97
5 地域での活動について.....	116
6 たすけあいについて	122
7 健康について	131
8 認知症にかかる相談窓口の把握について	139
9 在宅医療・介護について	142
10 介護・福祉サービスについて	144

V	生活機能評価等に関する分析	150
1	機能別リスク該当者割合の分析	150
(1)	運動器の機能低下	151
(2)	転倒リスク	153
(3)	閉じこもり傾向	155
(4)	低栄養状態	157
(5)	口腔機能低下	159
(6)	認知機能低下	161
(7)	うつ傾向	163
2	日常生活・社会参加	165
(1)	IADL－手段的日常生活動作	166
(2)	知的能動性	168

I 調査概要

1 調査目的

本調査は「第9期坂出市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆さまの日頃の生活や介護の状況などを把握し、基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

- (1) 調査対象 65歳以上の坂出市在住の高齢者より無作為抽出（要介護1～5以外のかた）
- (2) 実施期間 令和5年2月10日～3月10日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

	配布数	有効回収数	有効回答率
一般高齢者・事業対象者	2,500	1,777	71.1%
要支援認定者	1,000	681	68.1%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) 0%については表示を省略している場合があります。
- (6) 一般高齢者とは、「総合事業対象者」、「要支援1・2」に該当しないかたのことをいいます。

4 評価項目の判定について

評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものです。

各種リスク判定の「非該当」には判定不能の場合も含まれます。

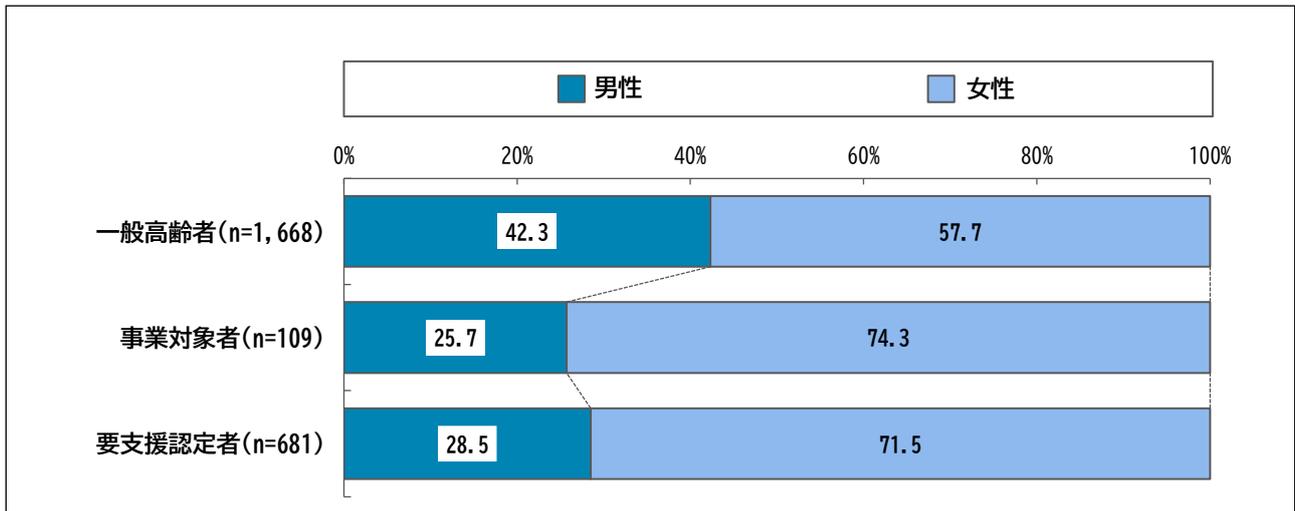
II 回答者の属性

I 性別

一般高齢者では、「男性」が42.3%、「女性」が57.7%となっています。

事業対象者では、「男性」が25.7%、「女性」が74.3%となっています。

要支援認定者では、「男性」が28.5%、「女性」が71.5%となっています。

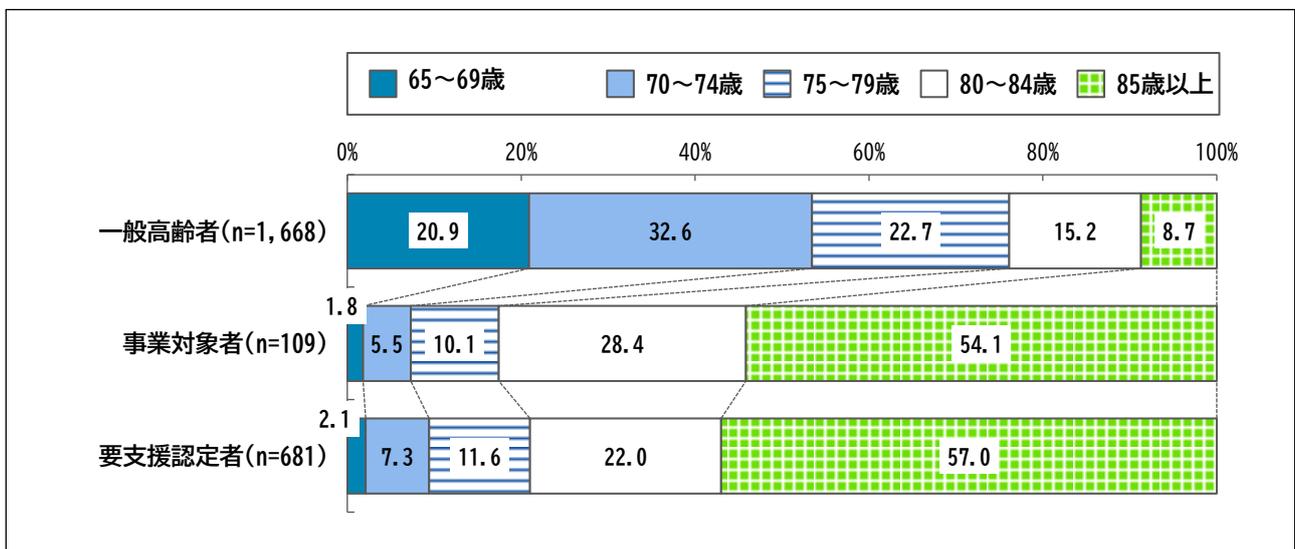


2 年齢構成

一般高齢者では、「70～74歳」が32.6%で最も高く、次いで「75～79歳」が22.7%、「65～69歳」が20.9%となっています。

事業対象者では、「85歳以上」が54.1%で最も高く、次いで「80～84歳」が28.4%、「75～79歳」の割合が10.1%となっています。

要支援認定者では、「85歳以上」が57.0%で最も高く、次いで「80～84歳」が22.0%、「75～79歳」が11.6%となっています。

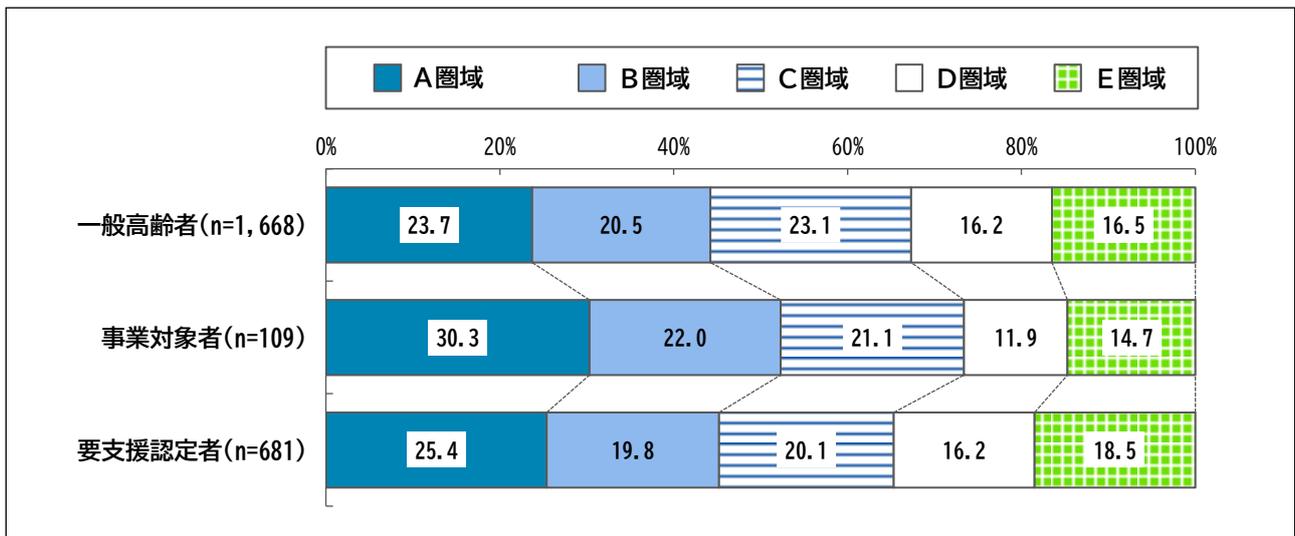


3 日常生活圏域

一般高齢者では、「A圏域」が23.7%で最も高く、次いで「C圏域」が23.1%、「B圏域」が20.5%となっています。

事業対象者では、「A圏域」が30.3%で最も高く、次いで「B圏域」が22.0%、「C圏域」が21.1%となっています。

要支援認定者では、「A圏域」が25.4%で最も高く、次いで「C圏域」が20.1%、「B圏域」が19.8%となっています。

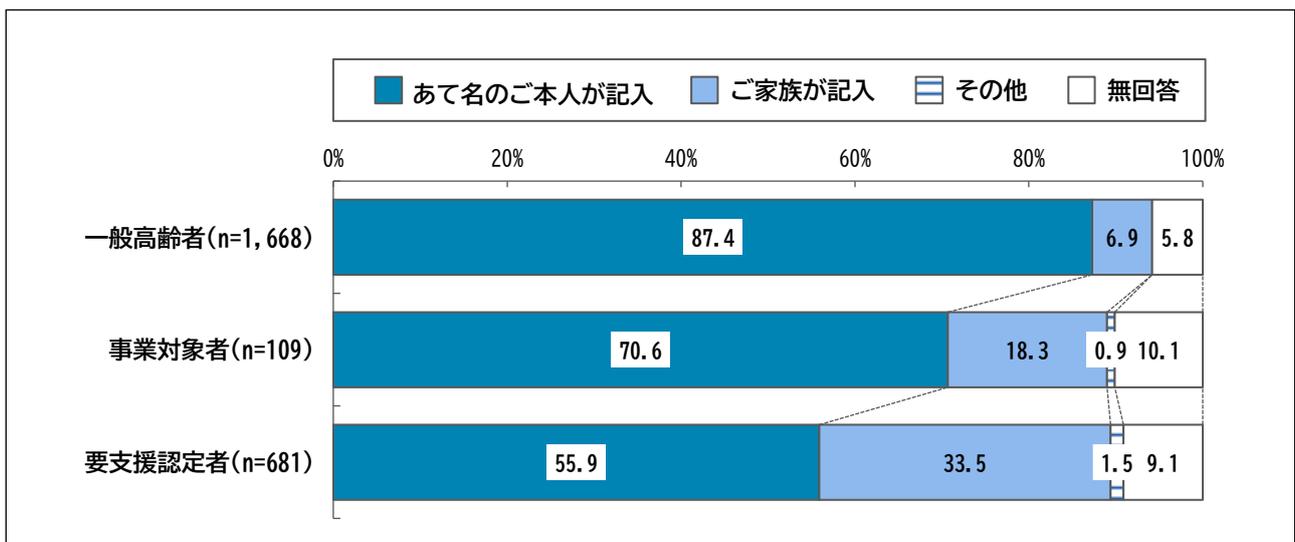


5 記入者

一般高齢者では、「あて名のご本人が記入」が87.4%、「ご家族が記入」が6.9%となっています。

事業対象者では、「あて名のご本人が記入」が70.6%、「ご家族が記入」が18.3%となっています。

要支援認定者では、「あて名のご本人が記入」が55.9%、「ご家族が記入」が33.5%となっています。



Ⅲ 調査結果

Ⅰ 家族や生活状況について

(1) 家族構成について

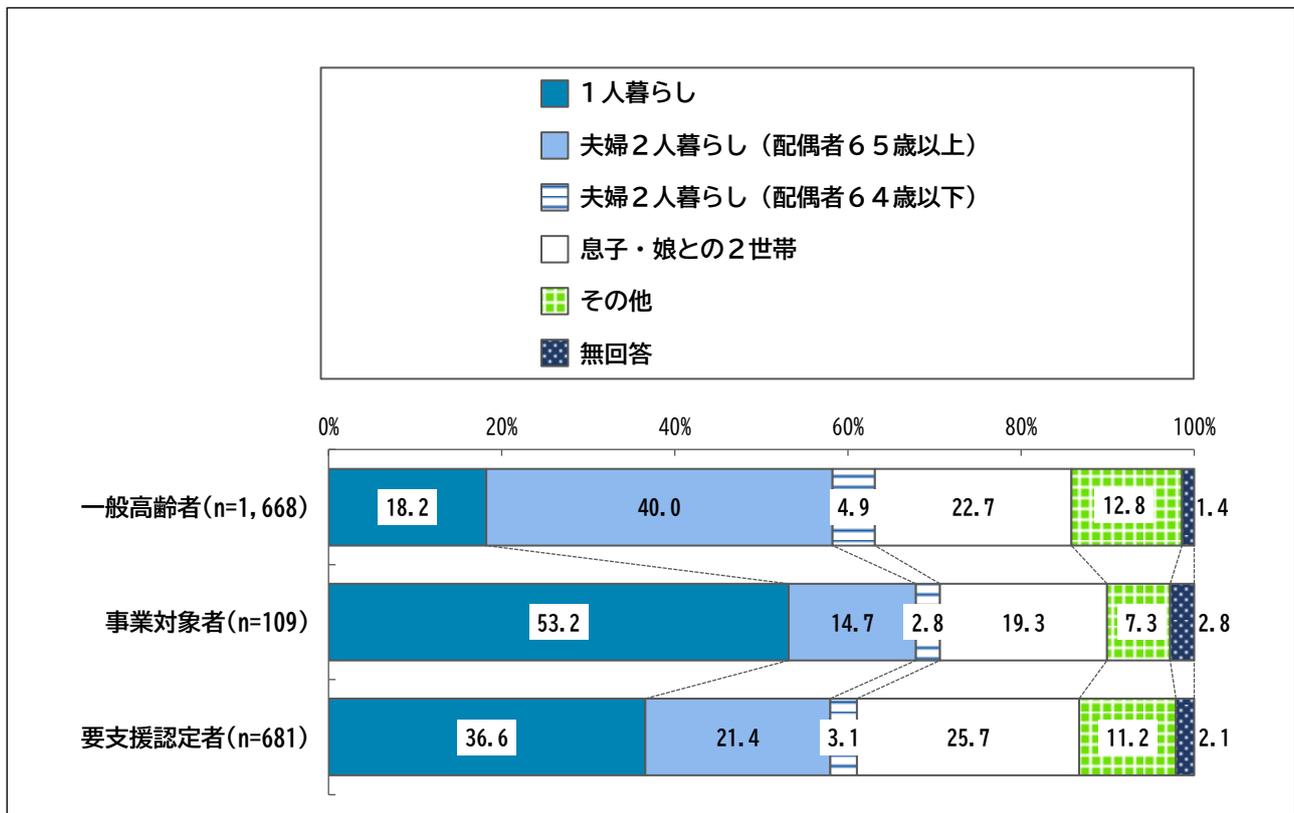
問1 (1) 家族構成をお教えてください。

家族構成をみると、一般高齢者では、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が40.0%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が22.7%、「1人暮らし」が18.2%となっています。

事業対象者では、「1人暮らし」が53.2%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が19.3%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が14.7%となっています。

要支援認定者では、「1人暮らし」が36.6%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が25.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が21.4%となっています。

図表 1 家族構成について

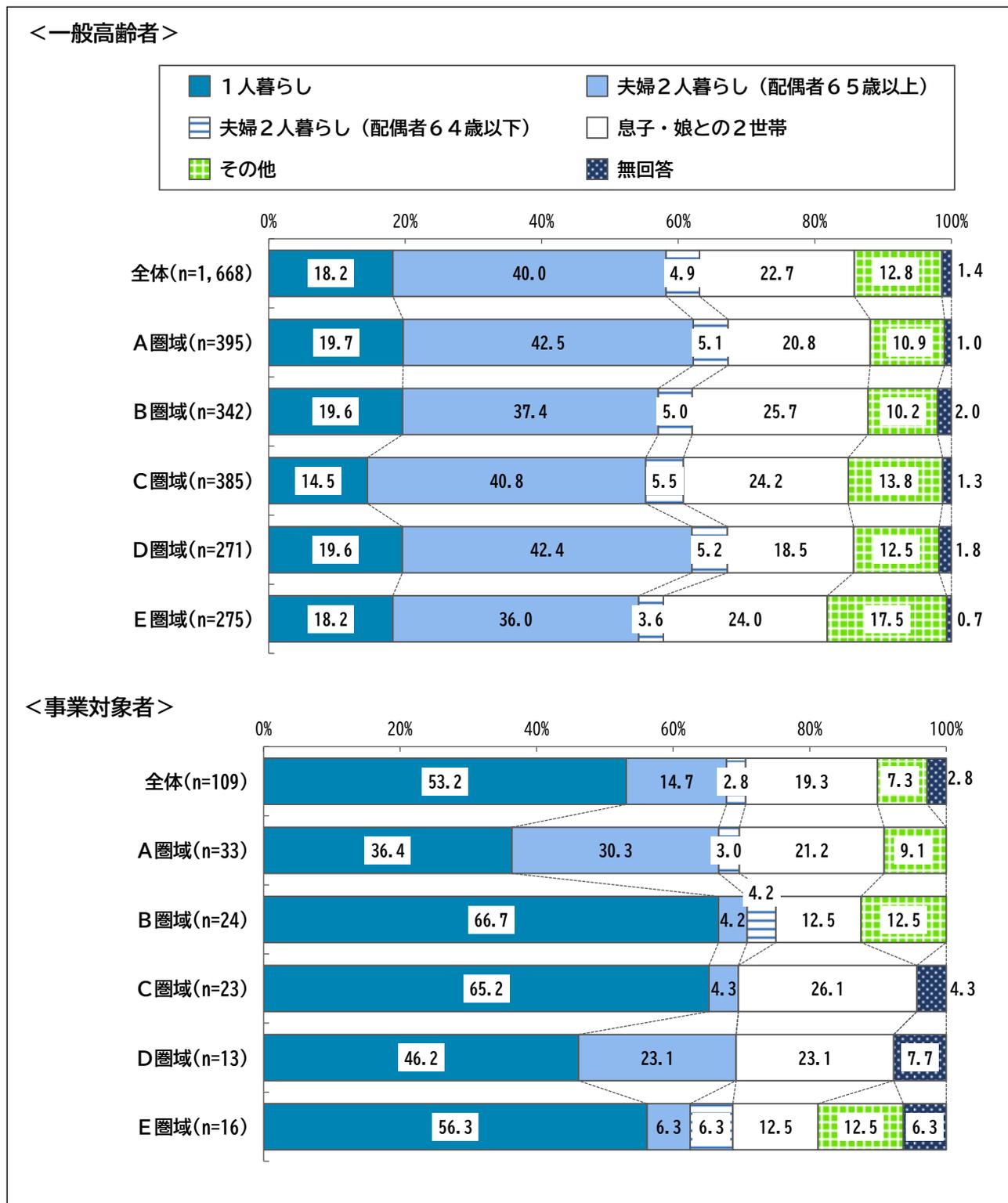


【日常生活圏域別】

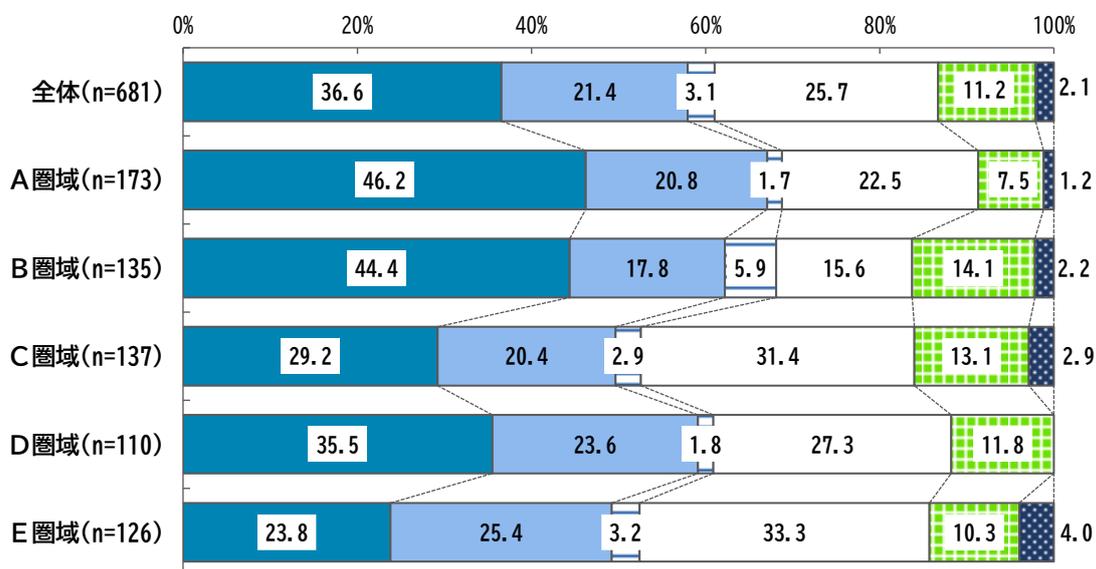
圏域別にみると、一般高齢者では、いずれの圏域も「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も高くなっています。一方、事業対象者では、いずれの圏域も「1人暮らし」が最も高くなっています。

要支援認定者では、C圏域とE圏域では「息子・娘との2世帯」、その他の地域では「1人暮らし」が最も高くなっています。

図表 2 家族構成について（日常生活圏域別）



<要支援認定者>



(2) 介護・介助の状況について

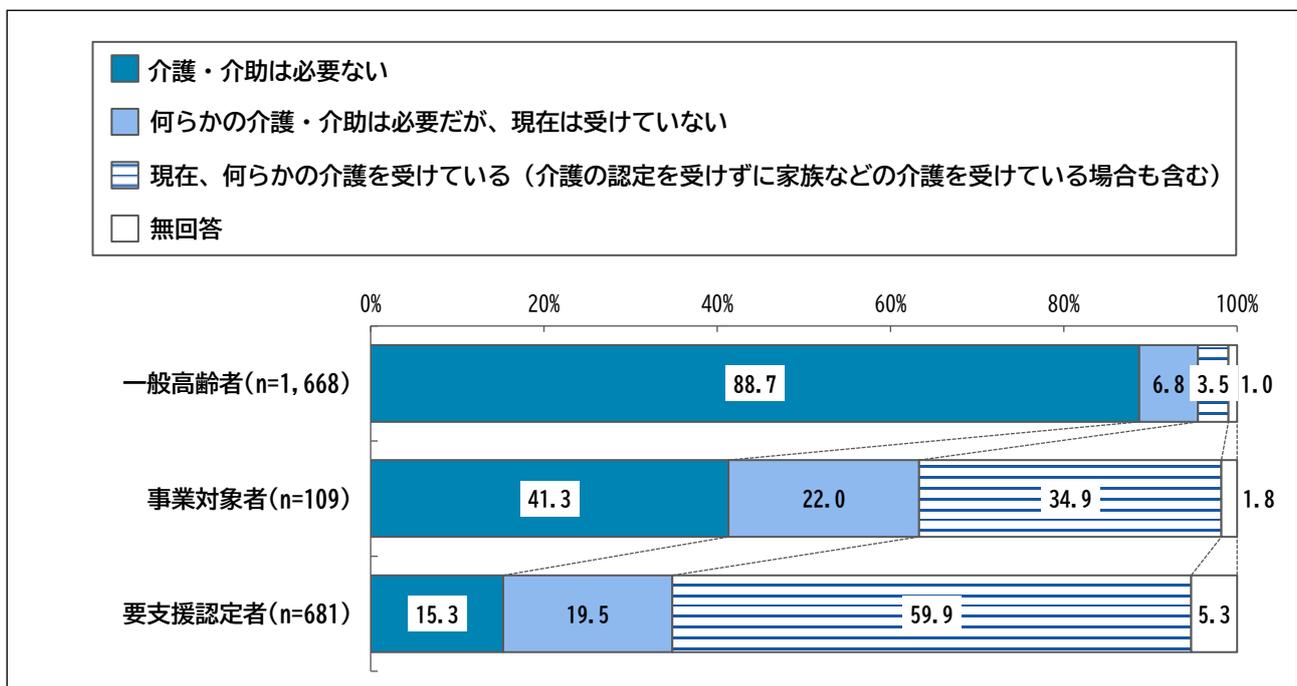
問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

介護・介助の必要性についてみると、一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が88.7%で最も高くなっています。

事業対象者では、「介護・介助は必要ない」が41.3%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が34.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が22.0%となっています。

要支援認定者では、「現在、何らかの介護を受けている」が59.9%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が19.5%、「介護・介助は必要ない」が15.3%となっています。

図表 3 介護・介助の必要性



※問1(2)で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

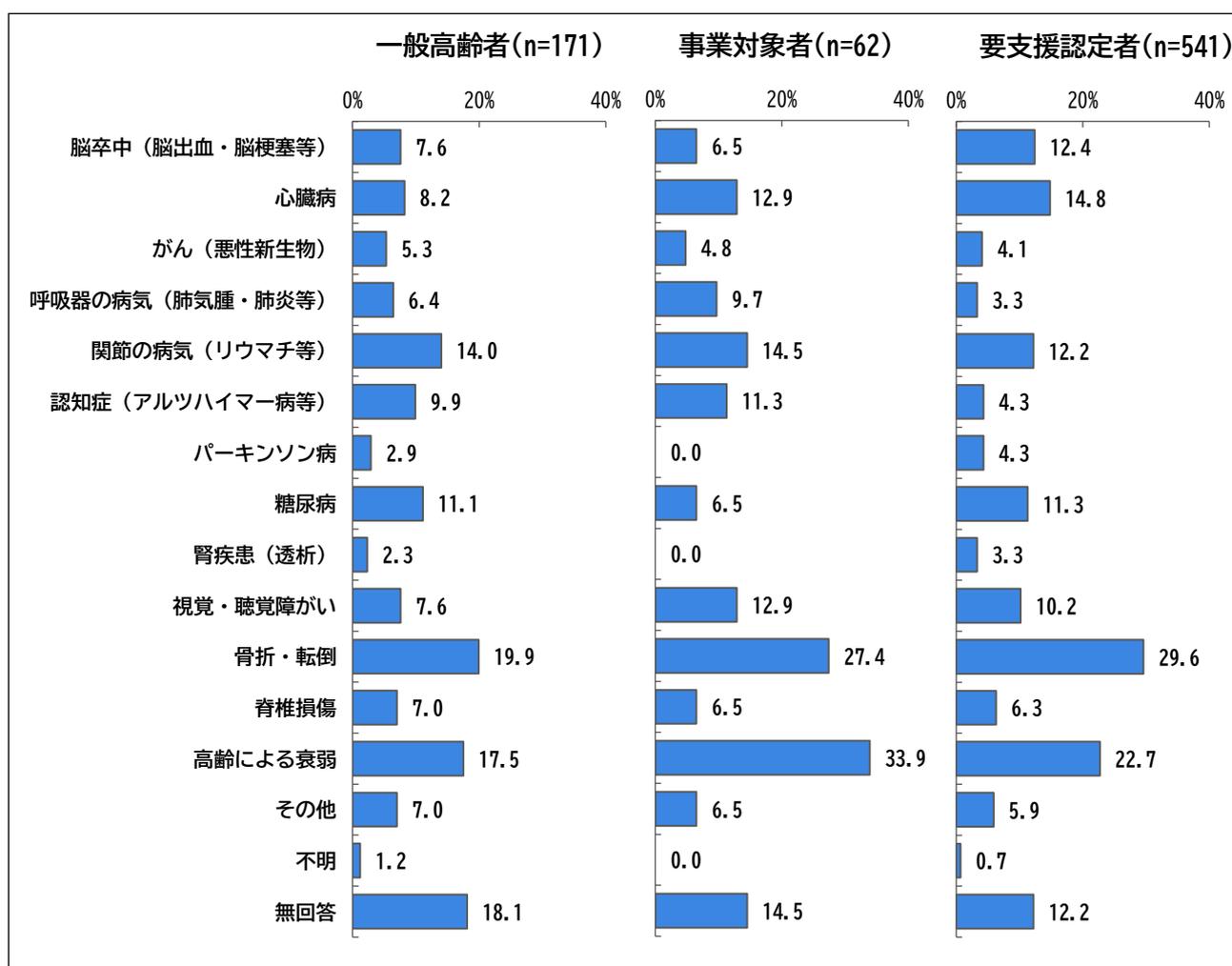
問1(2-1) 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(いくつでも)

介護・介助が必要になった主な原因についてみると、一般高齢者では、「骨折・転倒」(19.9%)が最も高く、次いで「高齢による衰弱」(17.5%)、「関節の病気(リウマチ等)」(14.0%)となっています。

事業対象者では、「高齢による衰弱」(33.9%)が最も高く、次いで「骨折・転倒」(27.4%)、「関節の病気(リウマチ等)」(14.5%)となっています。

要支援認定者では、「骨折・転倒」(29.6%)が最も高く、次いで「高齢による衰弱」(22.7%)、「心臓病」(14.8%)となっています。

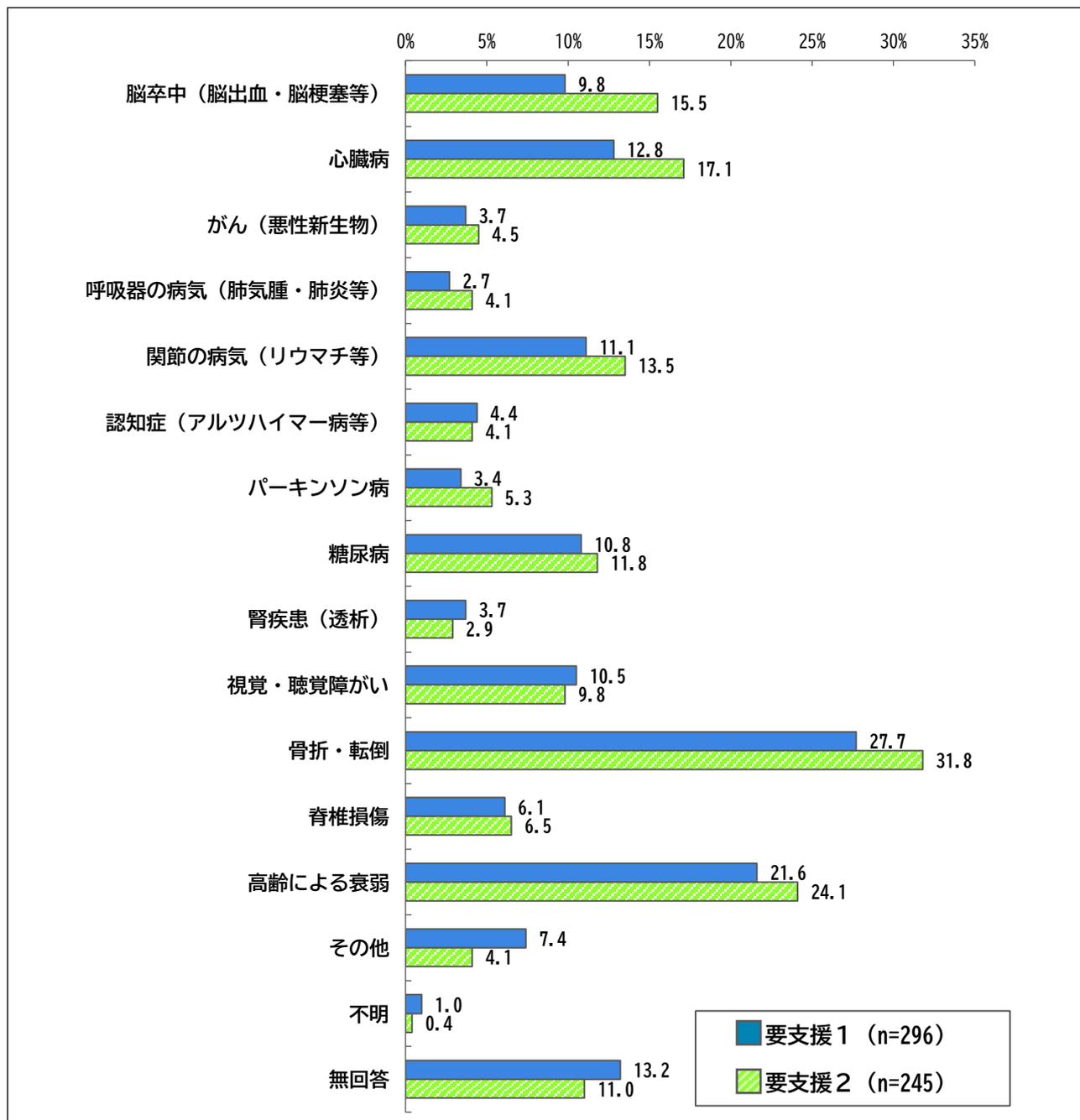
図表 4 介護・介助が必要になった主な原因(複数回答)



【介護度別】

介護・介助の主な原因を介護度別で見ると、要支援1、要支援2ともに「骨折・転倒」が最も高くなっています。

図表 5 介護・介助が必要になった主な原因（介護度別／複数回答）



※問1(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

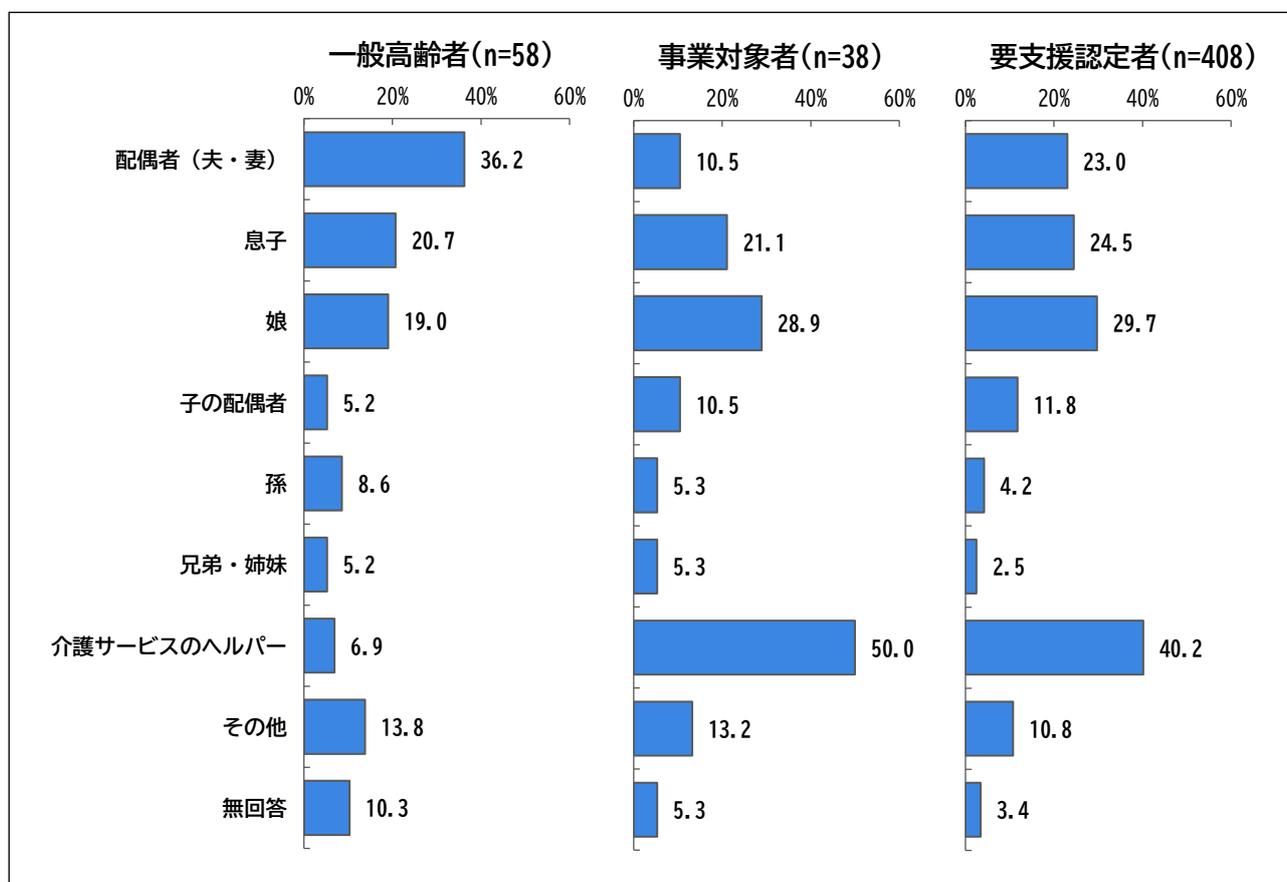
問1(2-2)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも)

主な介護者についてみると、一般高齢者では、「配偶者(夫・妻)」(36.2%)が最も高く、次いで「息子」(20.7%)、「娘」(19.0%)となっています。

事業対象者では、「介護サービスのヘルパー」(50.0%)が最も高く、次いで「娘」(28.9%)、「息子」(21.1%)となっています。

要支援認定者では、「介護サービスのヘルパー」(40.2%)が最も高く、次いで「娘」(29.7%)、「息子」(24.5%)となっています。

図表6 主な介護・介助者(複数回答)



(3) 現在の経済状況

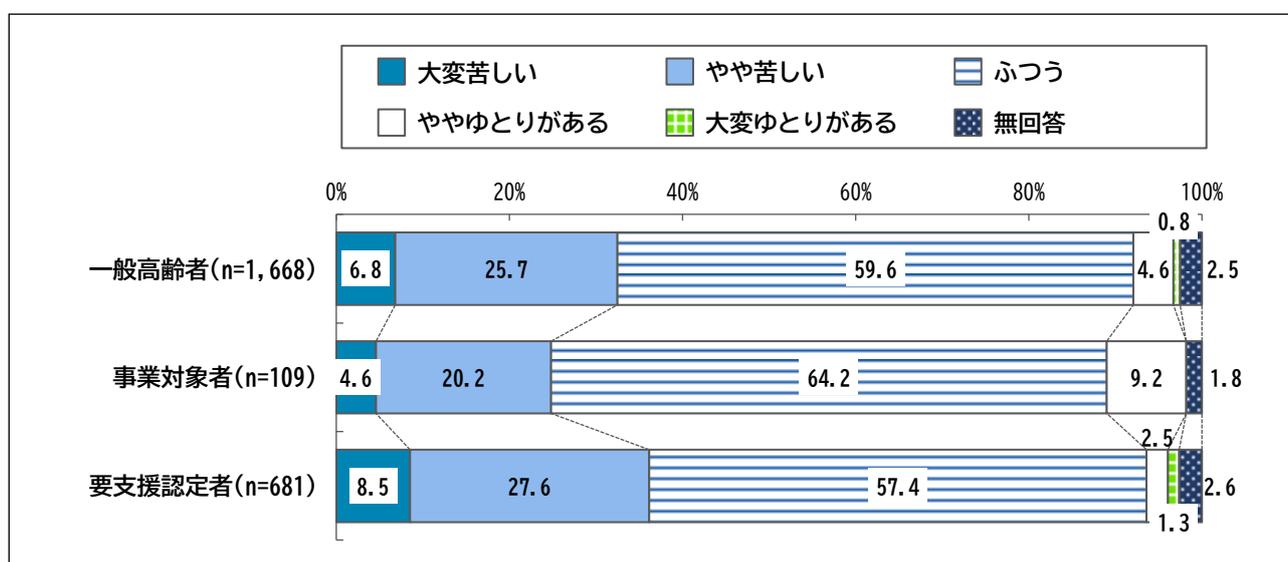
問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の経済状況についてみると、一般高齢者では、「大変苦しい」と「やや苦しい」をあわせた『苦しい』の割合が32.5%、「ふつう」が59.6%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」をあわせた『ゆとりがある』の割合が5.4%となっています。

事業対象者では、『苦しい』の割合が24.8%、「ふつう」が64.2%、『ゆとりがある』の割合が9.2%となっています。

要支援認定者では、『苦しい』の割合が36.1%、「ふつう」が57.4%、『ゆとりがある』の割合が3.8%となっています。

図表 7 現在の経済状況について

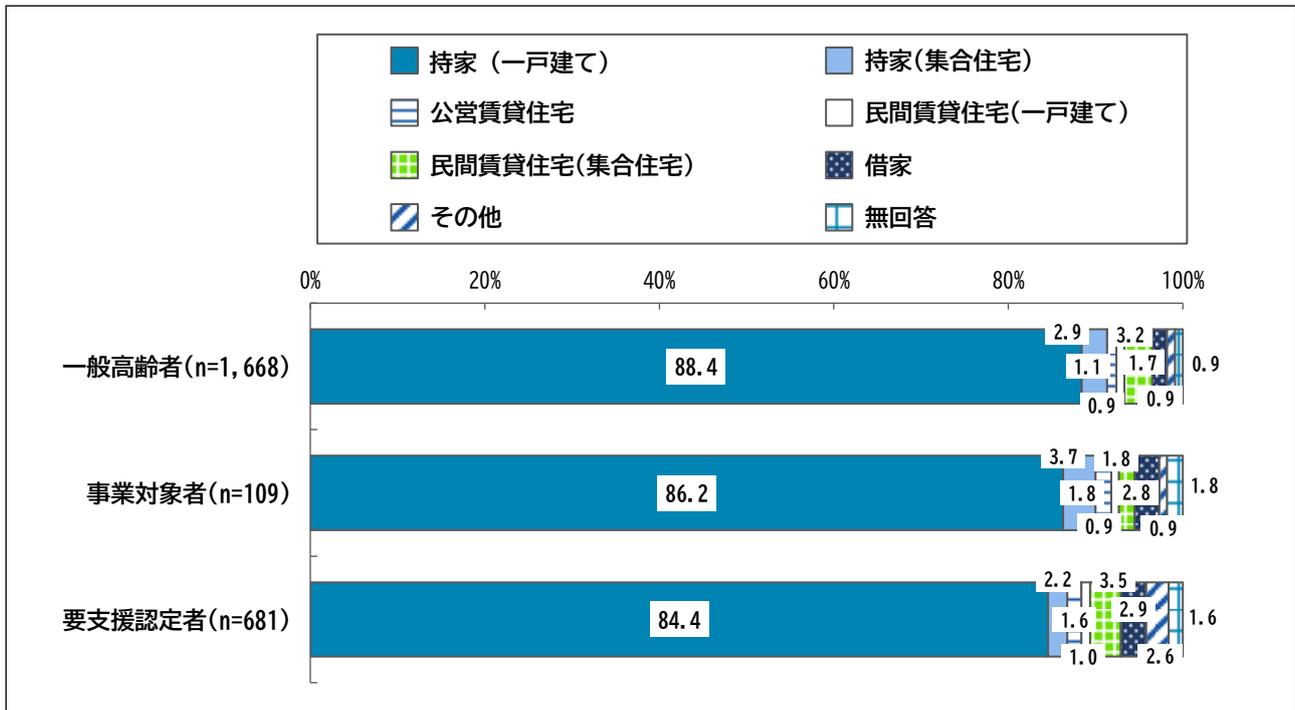


(4) 現在の住まいについて

問1 (4) お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか。

現在の住まいについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者において「持家（一人建て）」が8割以上を占めています。

図表 8 現在の住まいについて



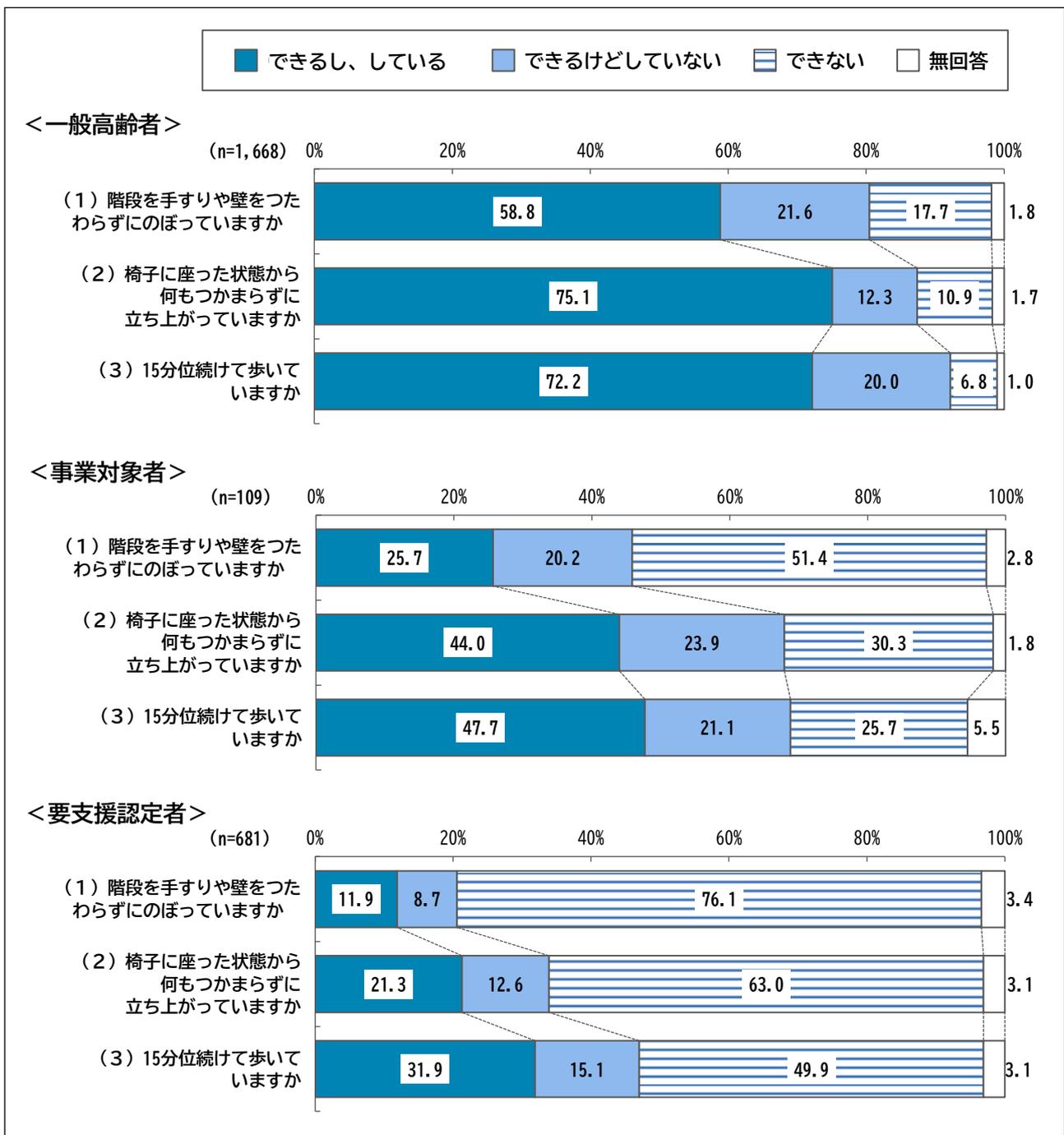
2 からだを動かすことについて

(1) 運動器の機能について

- 問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。
 問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。
 問2 (3) 15分位続けて歩いていますか。

運動器の機能についてみると、一般高齢者では「できるし、している」がいずれも5割以上を占めています。事業対象者、要支援認定者では、『(1) 階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか』について「できるし、している」の割合が低い傾向がみられます。

図表 9 運動器の機能について



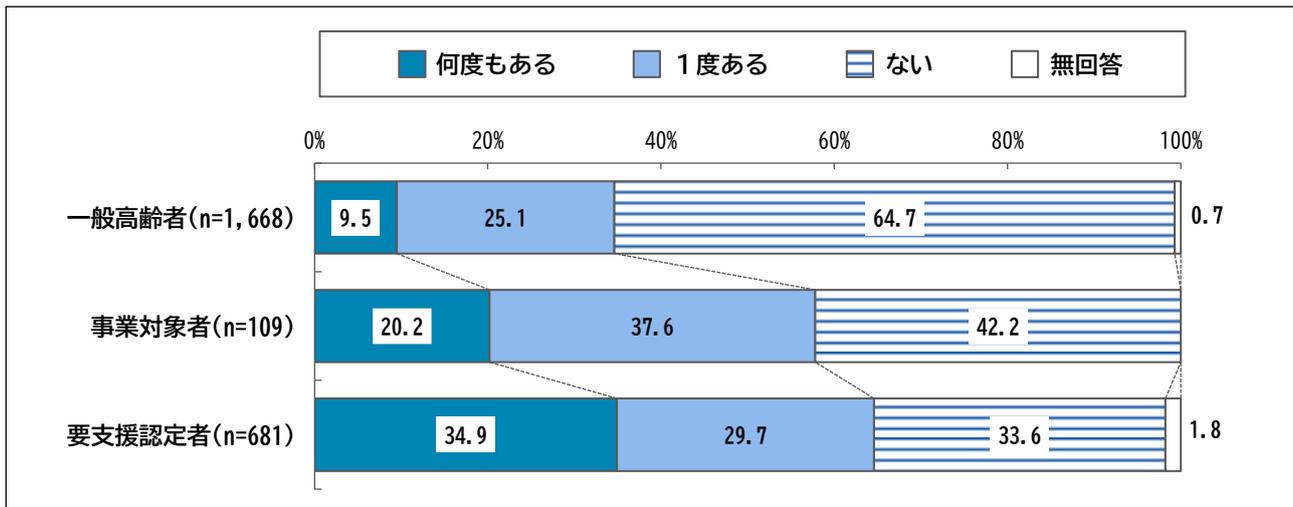
(2) 転倒について

問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。

転倒経験の有無についてみると、一般高齢者では「ない」が64.7%、事業対象者では42.2%と最も高くなっています。

一方、要支援認定者では「何度もある」が34.9%と最も高く、次いで「ない」が33.6%となっています。

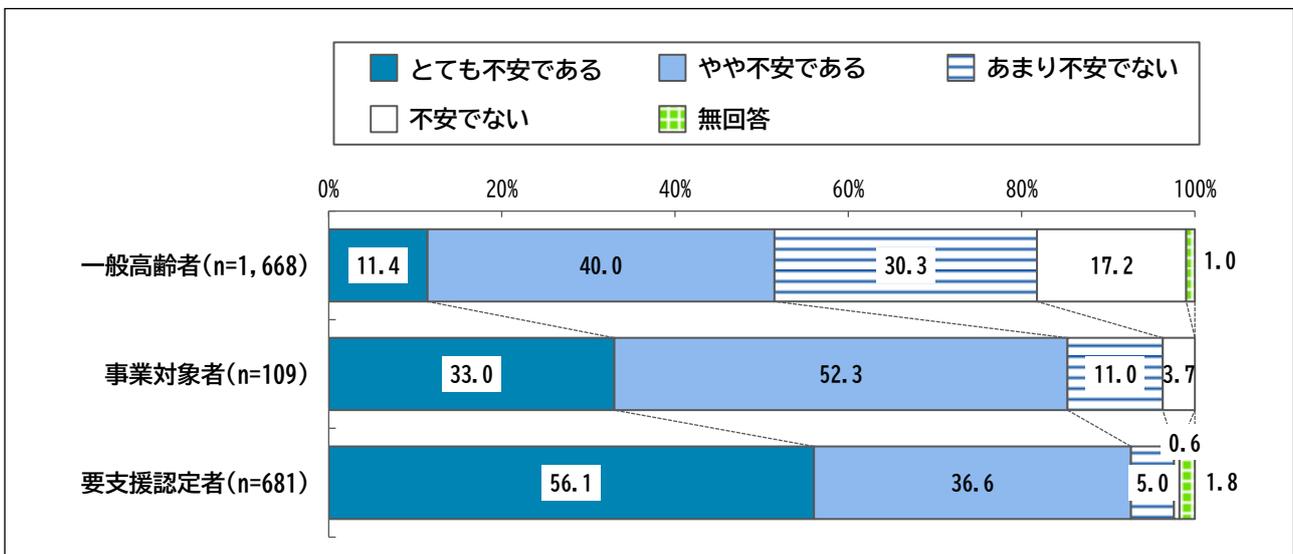
図表 10 転倒の経験



問2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安についてみると、一般高齢者では「やや不安である」が40.0%、事業対象者では52.3%で最も高くなっています。要支援認定者では「とても不安である」が56.1%で最も高くなっています。

図表 11 転倒に対する不安

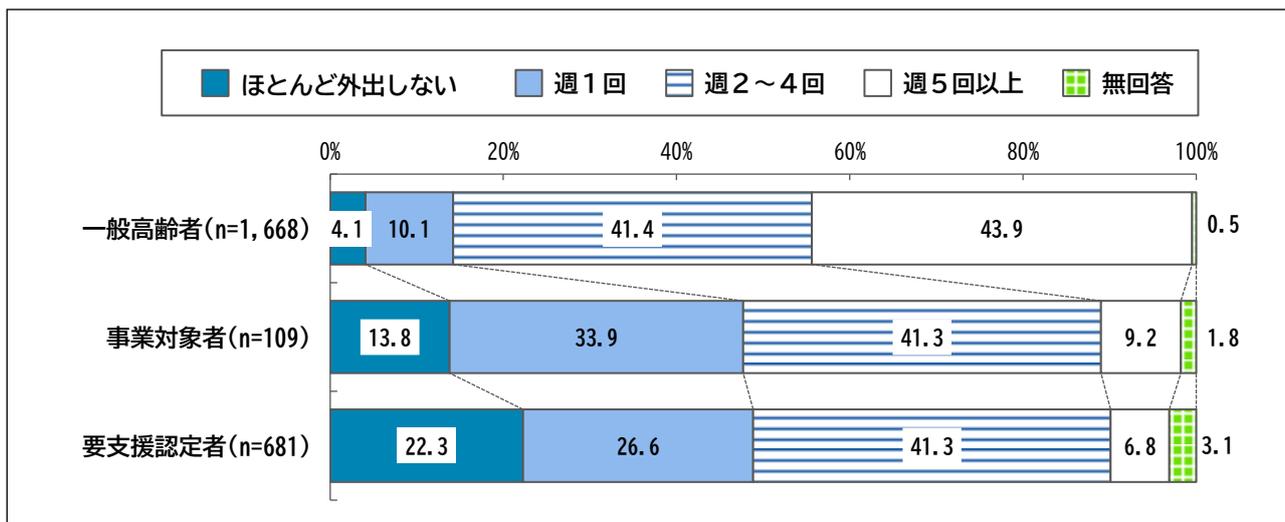


(3) 閉じこもり傾向について

問2 (6) 週に1回以上は外出していますか。

1週間当たりの外出回数についてみると、一般高齢者では「週5回以上」(43.9%)、事業対象者、要支援認定者では「週2～4回」(ともに41.3%)が最も高くなっています。また、「ほとんど外出しない」の割合は、一般高齢者(4.1%)、事業対象者(13.8%)、要支援認定者(22.3%)と順に高くなっています。

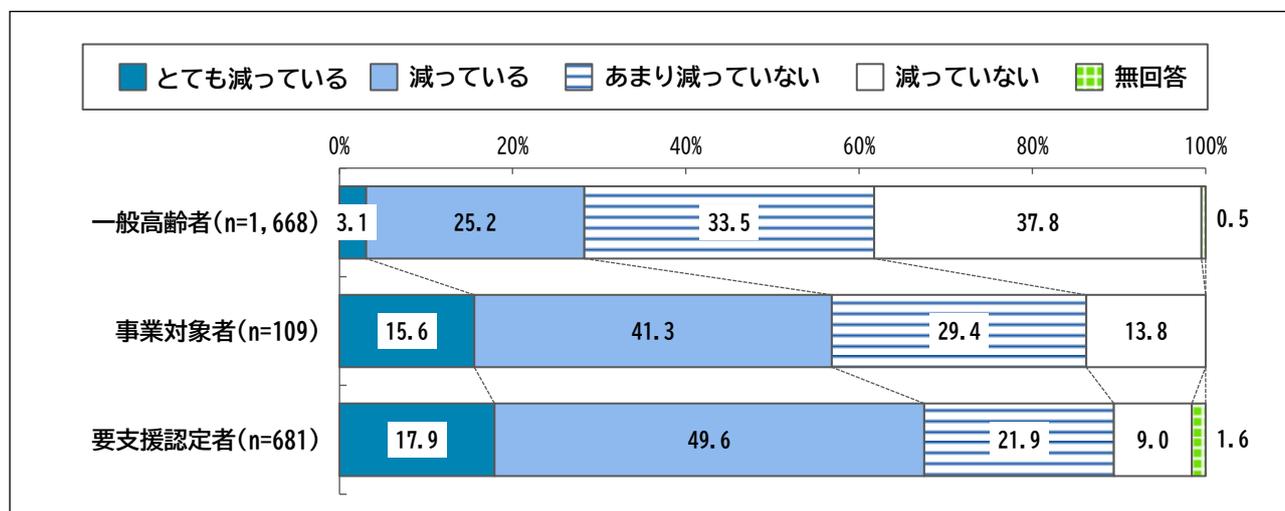
図表 12 1週間当たりの外出回数について



問2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

外出の回数が減っているかについてみると、一般高齢者では「減っていない」(37.8%)が最も高くなっています。事業対象者、要支援認定者では「減っている」が最も高く、その割合は要支援認定者(49.6%)が事業対象者(41.3%)を上回っています。

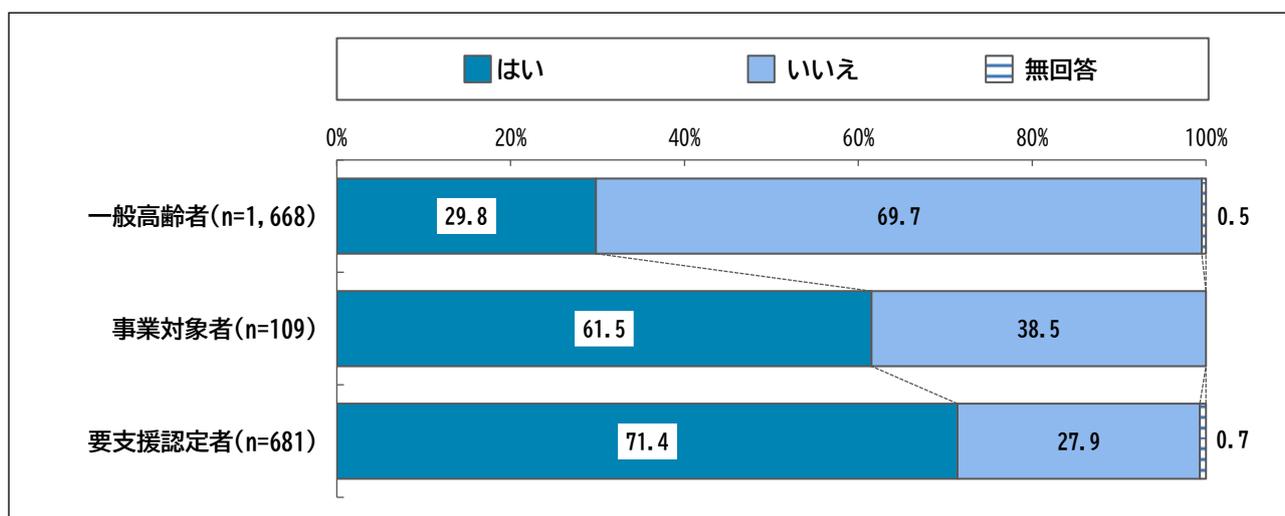
図表 13 昨年と比較した外出回数について



問2（8）外出を控えていますか。

外出を控えているかについてみると、一般高齢者では「いいえ」が69.7%となっており、外出を控えていない人が6割を超えています。一方、事業対象者では「はい」が61.5%、要支援認定者では「はい」が71.4%となっており、外出を控えている人が6割を超えています。

図表 14 外出を控えているか



※問2(8)で「はい(控えている)」と答えたかたのみ

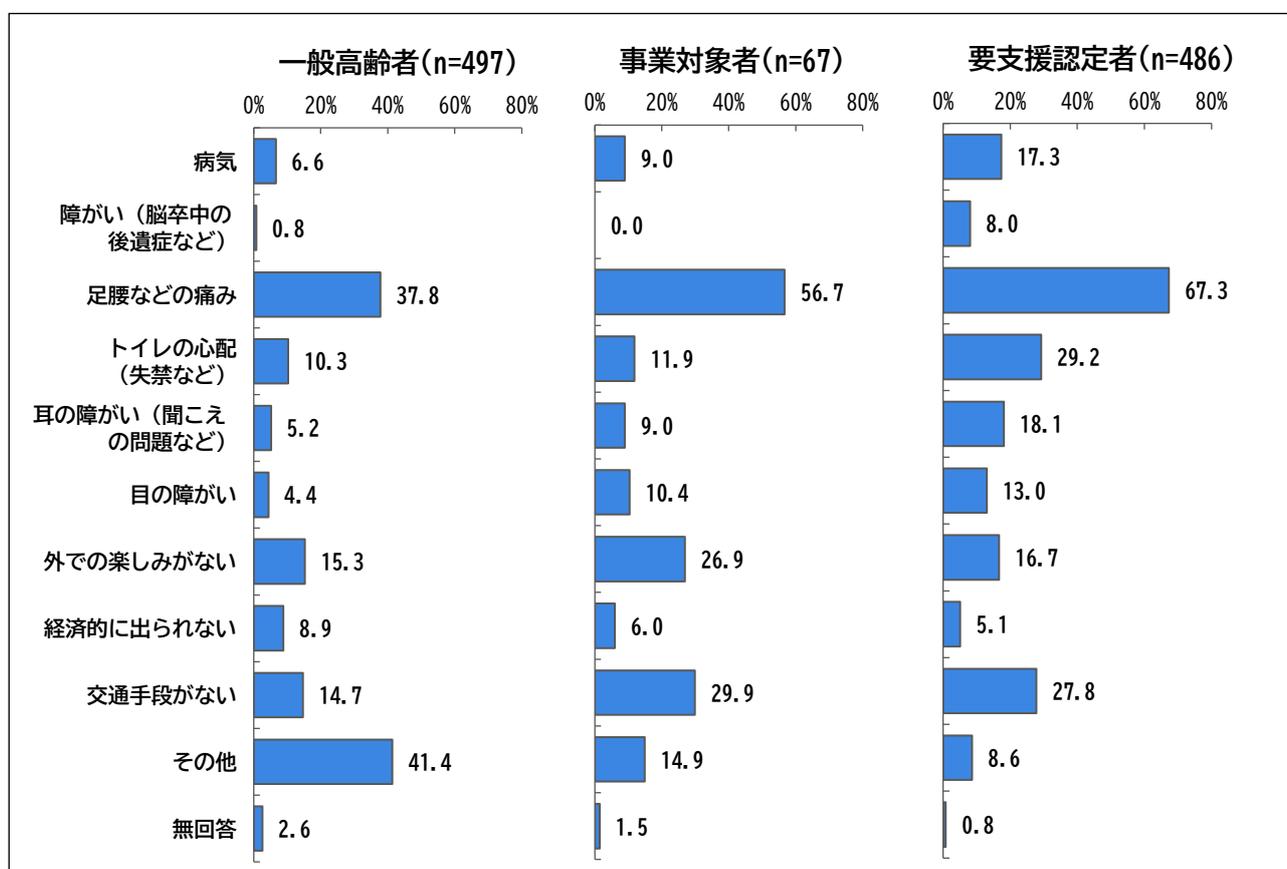
問2(8-1)外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

外出を控えている理由についてみると、一般高齢者では「その他」(41.4%)、「足腰などの痛み」(37.8%)などが高くなっています。また、その他の理由については、「コロナ感染予防のため」が多くあげられています。

事業対象者では「足腰などの痛み」(56.7%)が最も高く、次いで「交通手段がない」(29.9%)、「外での楽しみがない」(26.9%)などとなっています。

要支援認定者では「足腰などの痛み」(67.3%)が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(29.2%)、「交通手段がない」(27.8%)などとなっています。

図表 15 外出を控えている理由(複数回答)



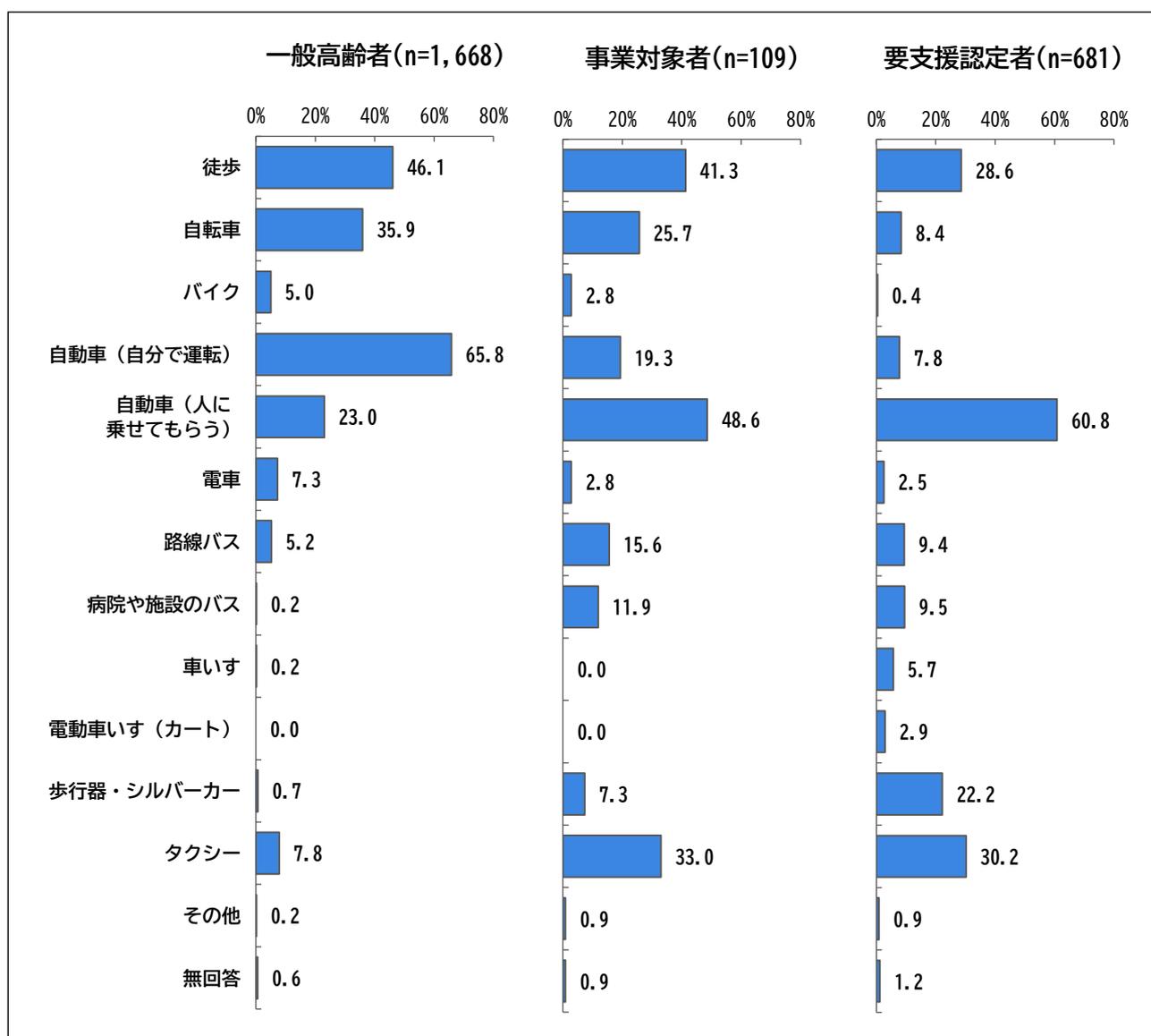
問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

外出する際の移動手段についてみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」（65.8%）が最も高く、次いで「徒歩」（46.1%）、「自転車」（35.9%）などとなっています。

事業対象者では「自動車（人に乗せてもらう）」（48.6%）が最も高く、次いで「徒歩」（41.3%）、「タクシー」（33.0%）などとなっています。

要支援認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」（60.8%）が最も高く、次いで「タクシー」（30.2%）、「徒歩」（28.6%）などとなっています。

図表 16 外出する際の移動手段（複数回答）



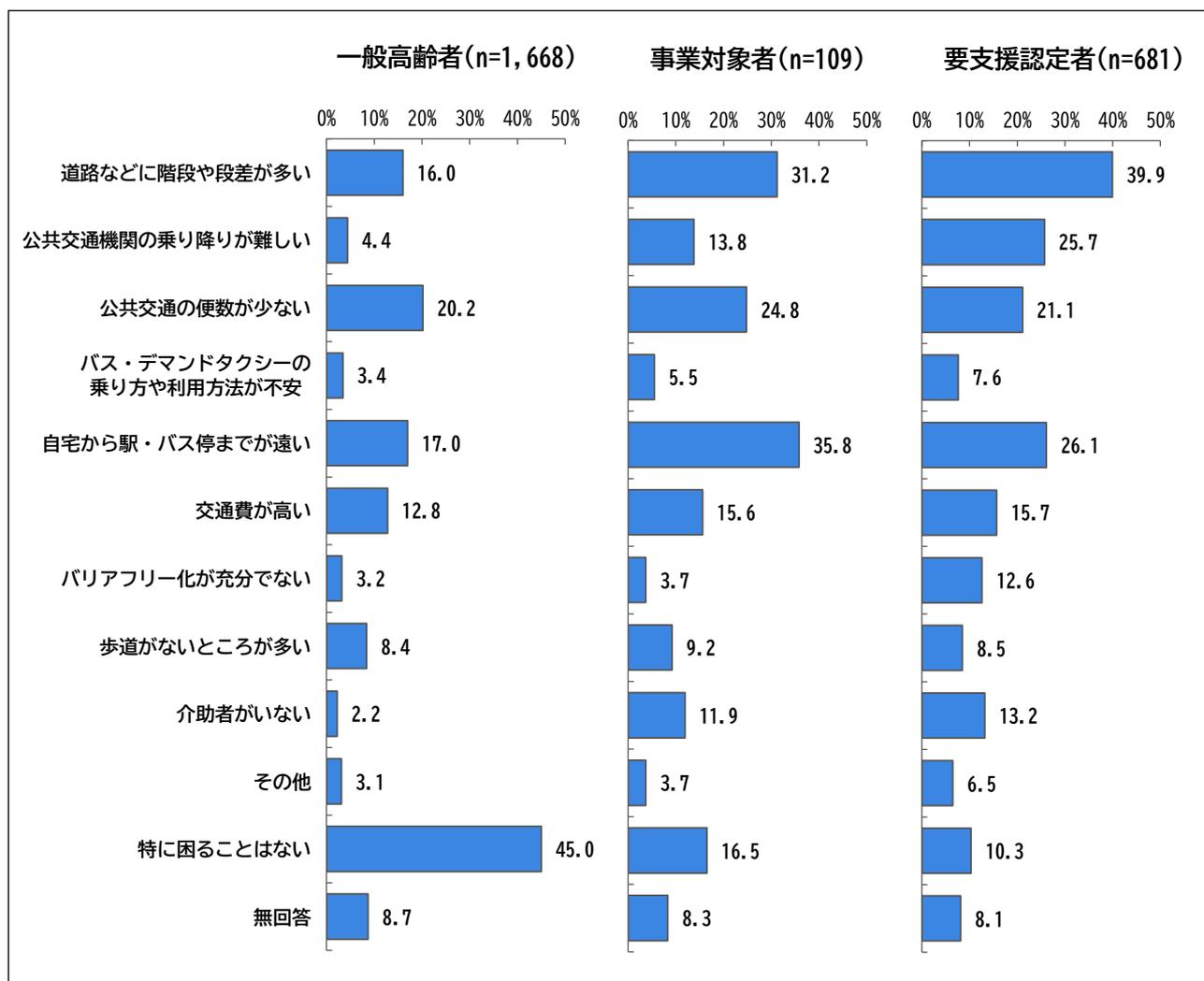
問2 (10) 外出する際、困ることや不安なことを3つまで選んでください。(3つまで)

外出する際困ることについてみると、一般高齢者では「特に困ることはない」(45.0%)が最も高く、次いで、「公共交通の便数が少ない」(20.2%)、「自宅から駅・バス停までが遠い」(17.0%)などとなっています。

事業対象者では「自宅から駅・バス停までが遠い」(35.8%)が最も高く、次いで「道路などに階段や段差が多い」(31.2%)、「公共交通の便数が少ない」(24.8%)などとなっています。

要支援認定者では「道路などに階段や段差が多い」(39.9%)が最も高く、次いで「自宅から駅・バス停までが遠い」(26.1%)、「公共交通機関の乗り降りが難しい」(25.7%)などとなっています。

図表 17 外出する際困ることや不安なこと（複数回答：3つまで）



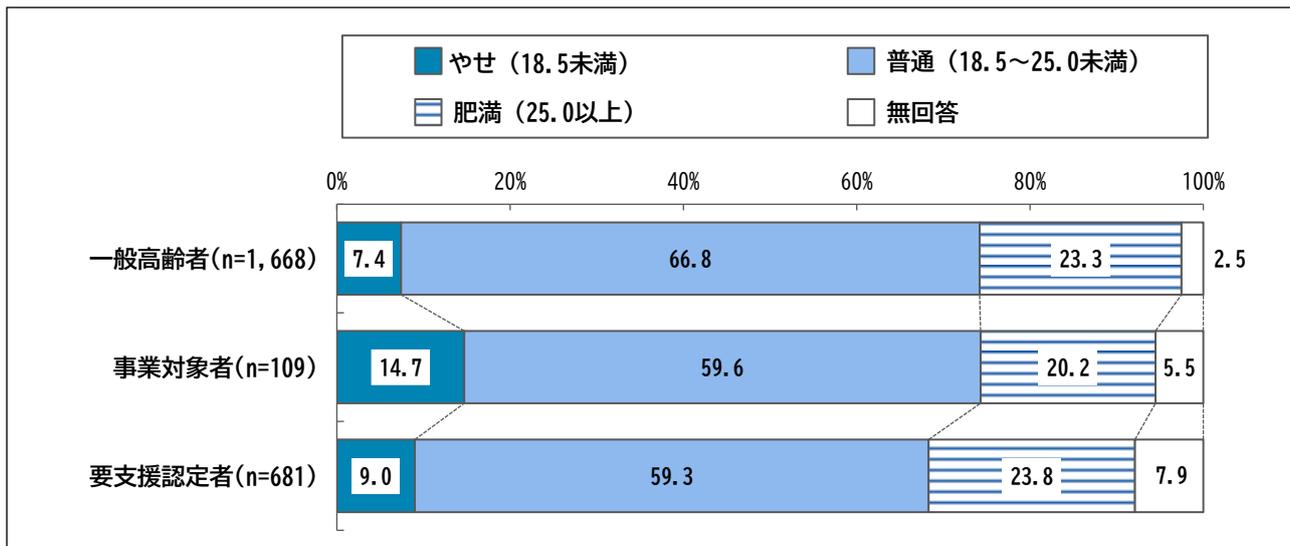
3 食べることについて

(1) BMI 算出

問3 (1) 身長・体重を教えてください。

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「普通(18.5~25.0未満)」が最も高くなっています。

図表 18 BMI 値



(2) 口腔機能について

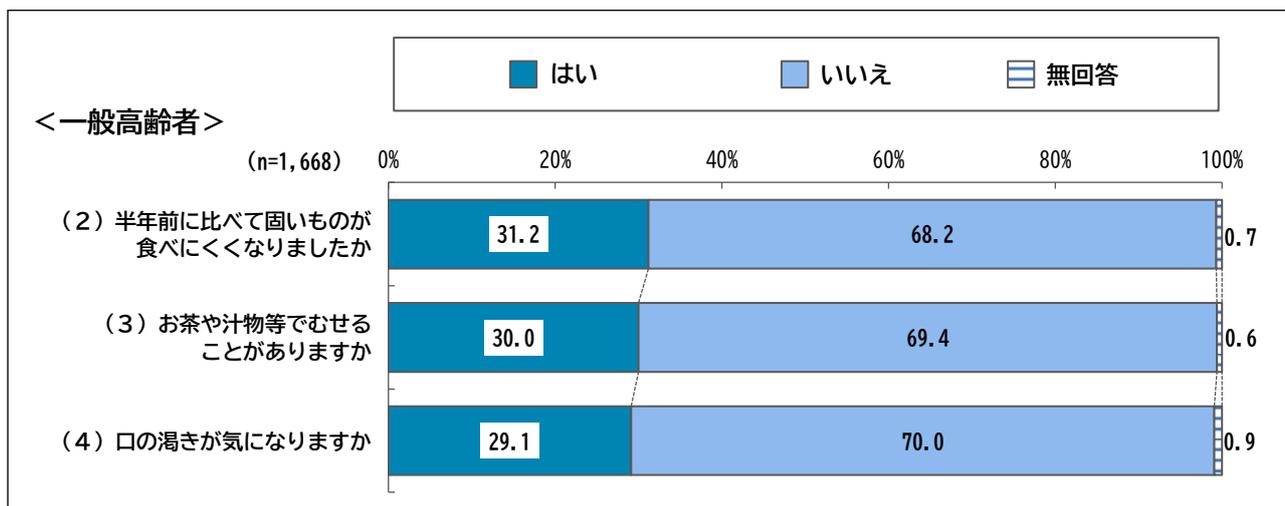
問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

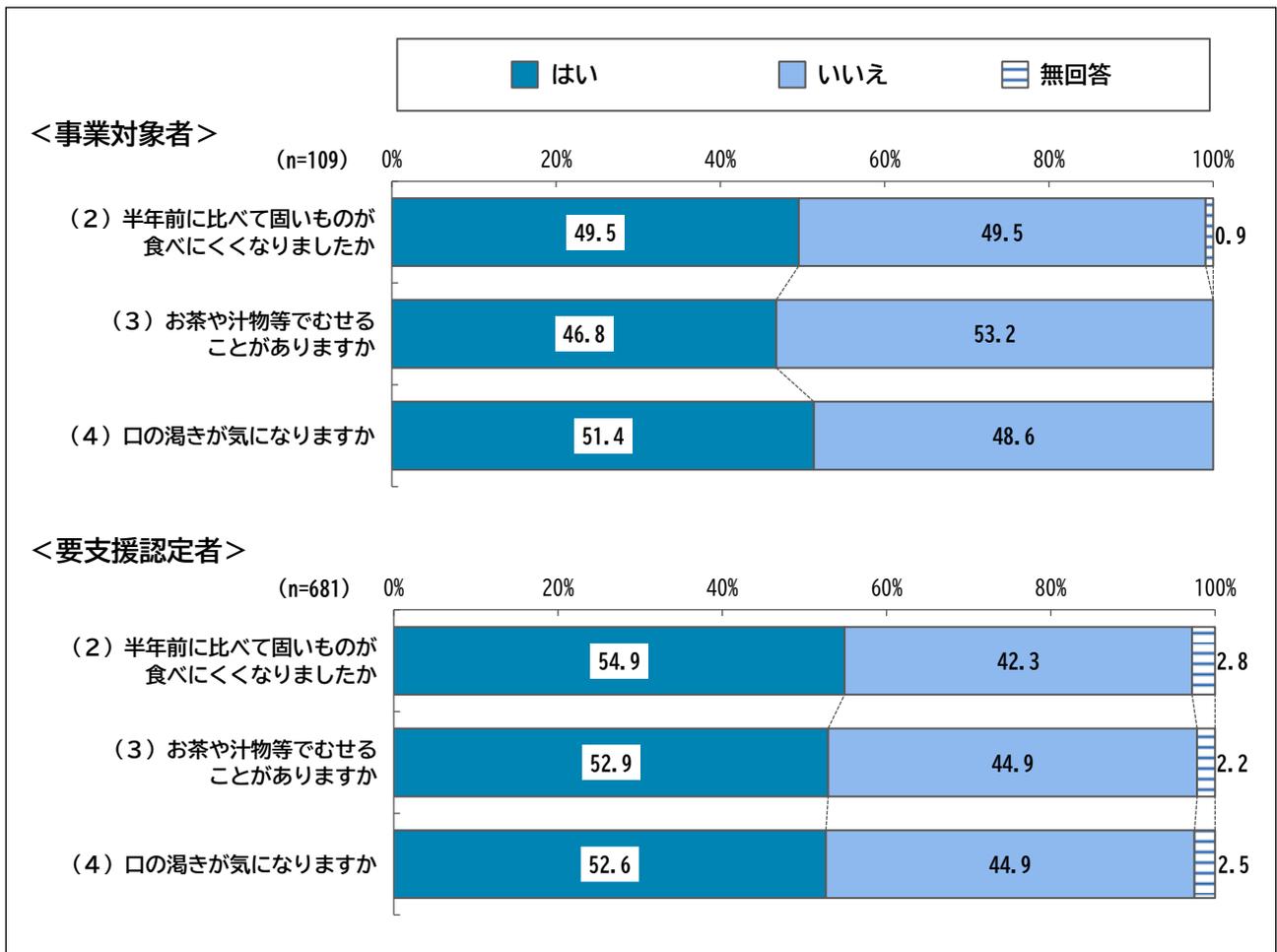
問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか。

問3 (4) 口の渇きが気になりますか。

口腔機能についてみると、一般高齢者では、いずれの機能についても「いいえ」の割合が6割を超えています。要支援認定者では「はい」の割合が5割を超えています。

図表 19 口腔機能について

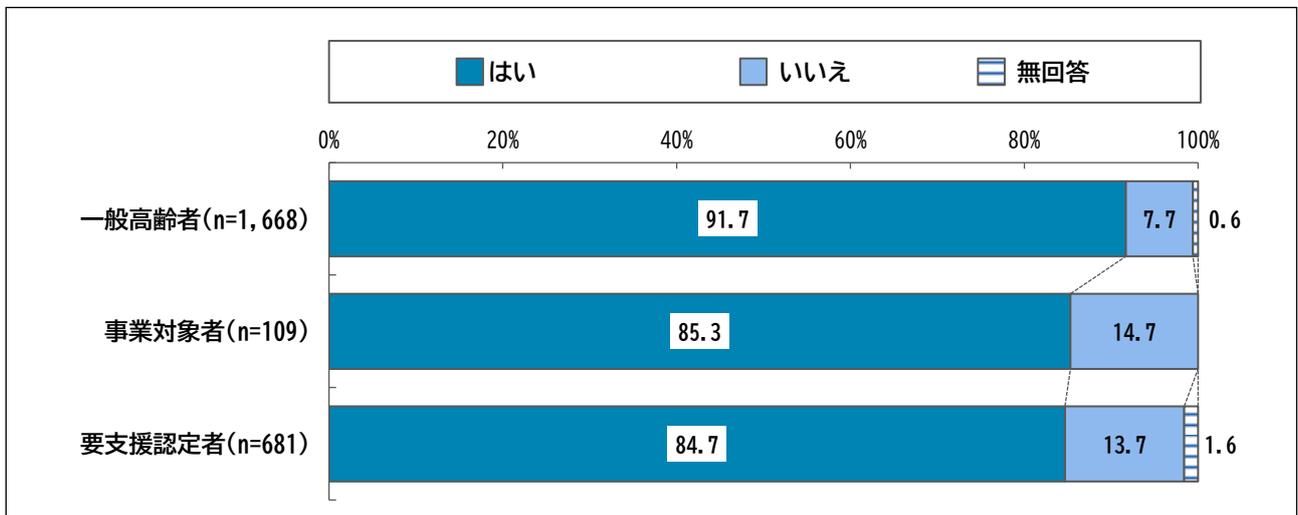




問3 (5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

歯磨きを毎日しているかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

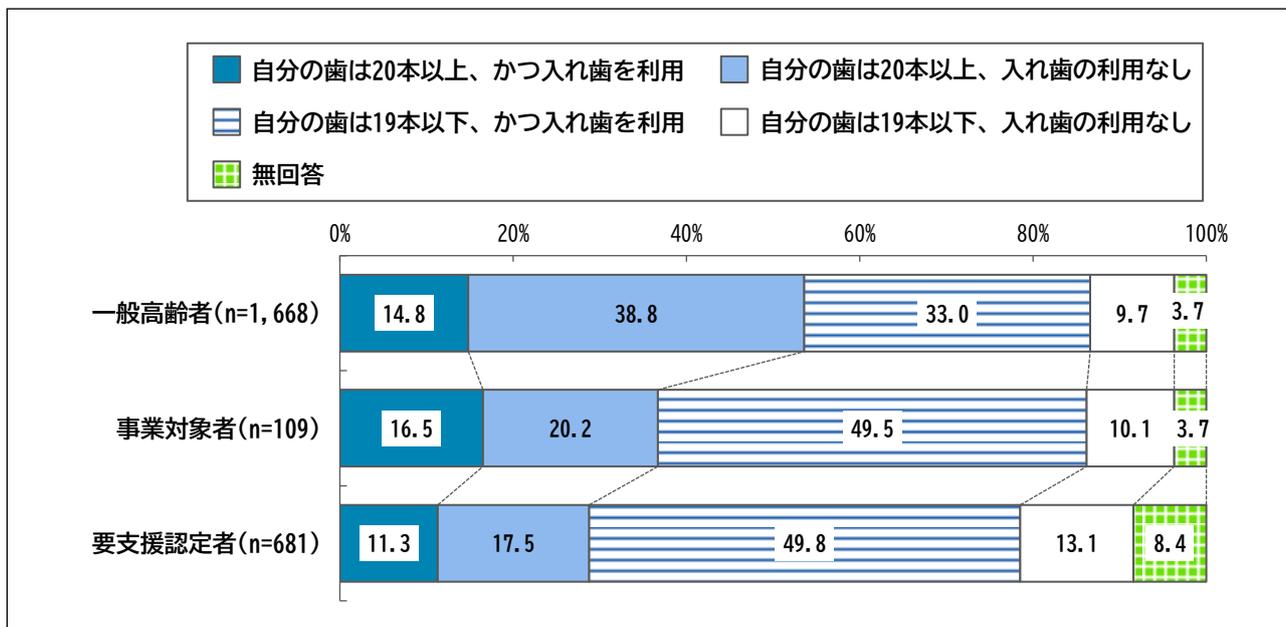
図表 20 歯磨きを毎日しているか



問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

歯の本数と、入れ歯の利用状況を見ると、一般高齢者では「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が38.8%と最も高くなっています。一方、事業対象者、要支援認定者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く、約5割を占めています。

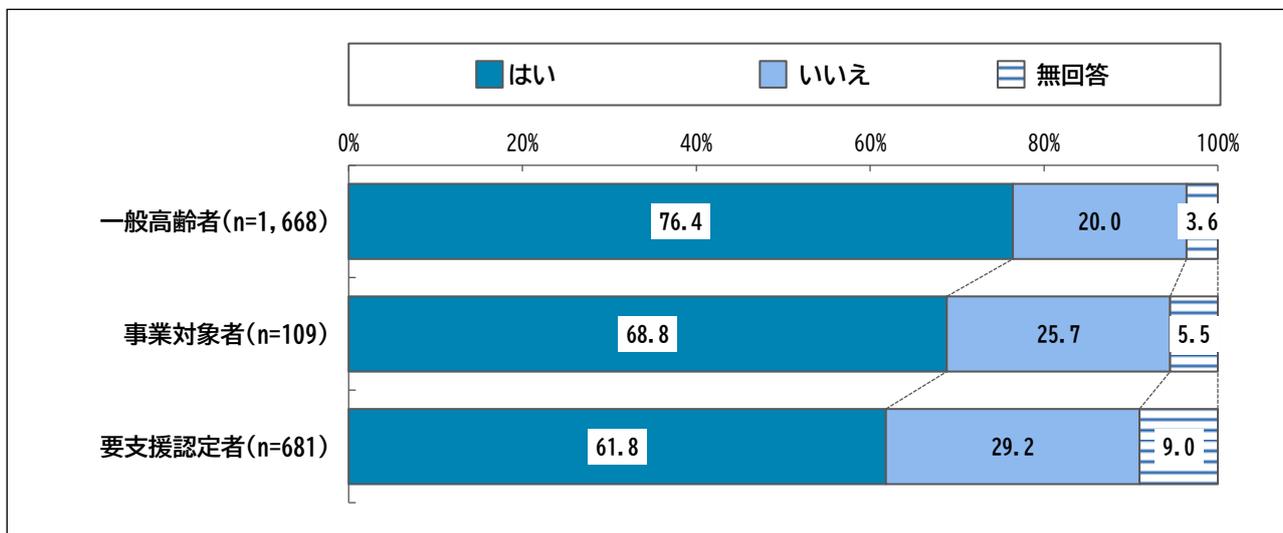
図表 21 歯の本数と入れ歯の利用状況



問3（6-1）噛み合わせは良いですか。

噛み合わせが良いかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 22 噛み合わせが良いか

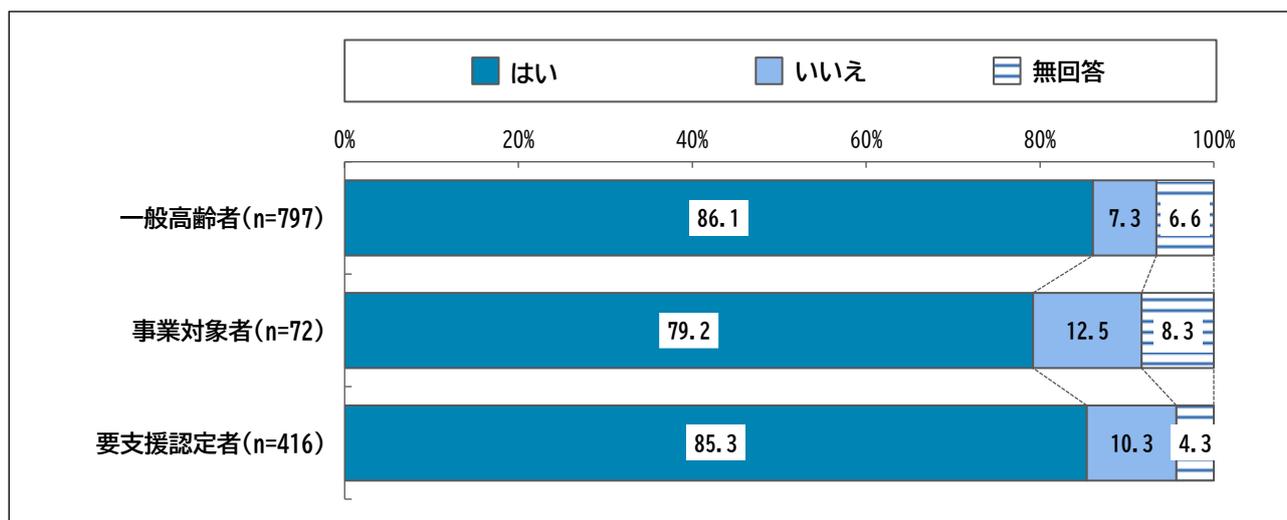


※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えたかたのみ

問3（6-2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。

毎日入れ歯の手入れをしているかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が最も高く、特に一般高齢者、要支援認定者では8割を超えています。

図表 23 毎日入れ歯の手入れをしているか

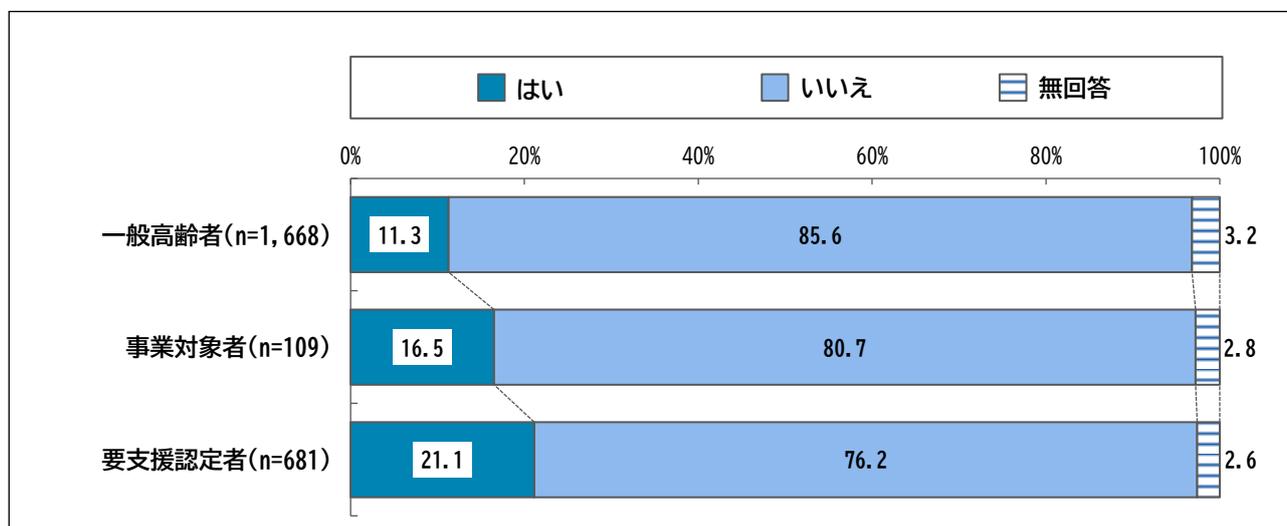


(3) 体重減少について

問3（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

6か月間で体重減少があったかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が高くなっています。一方、「はい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ高くなっています。

図表 24 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

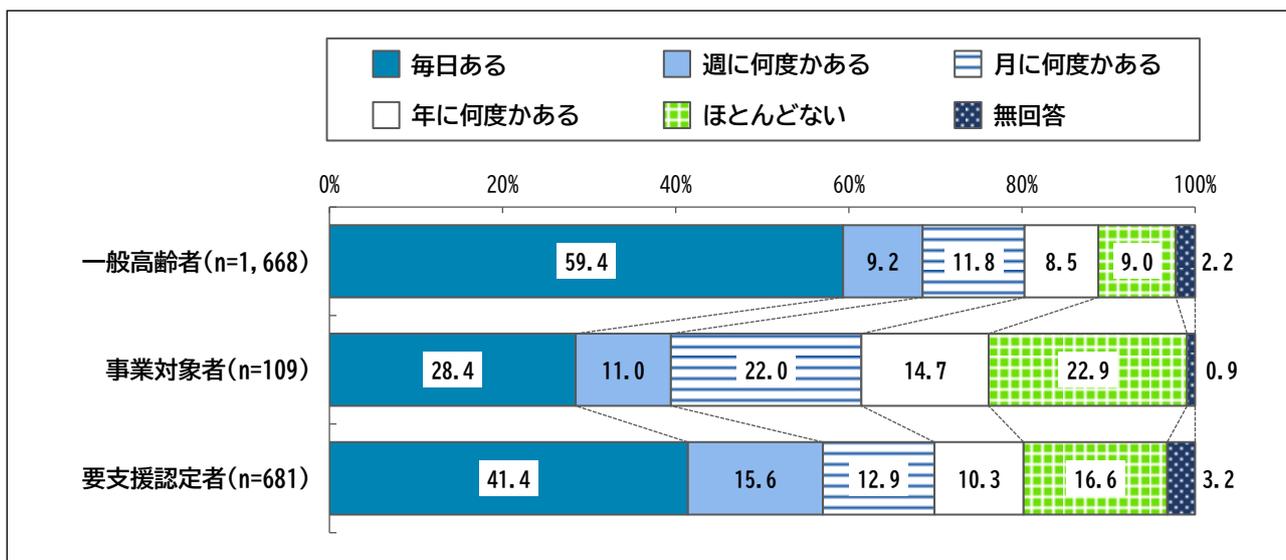


(4) 孤食の状況について

問3 (8) どなたかと食事をともにする機会がありますか。

誰かと食事をともにする機会の有無についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者のいずれも「毎日ある」が最も高くなっています。次いで一般高齢者では「月に何度かある」が11.8%、事業対象者では「ほとんどない」が22.9%、要支援認定者でも「ほとんどない」が16.6%となっています。

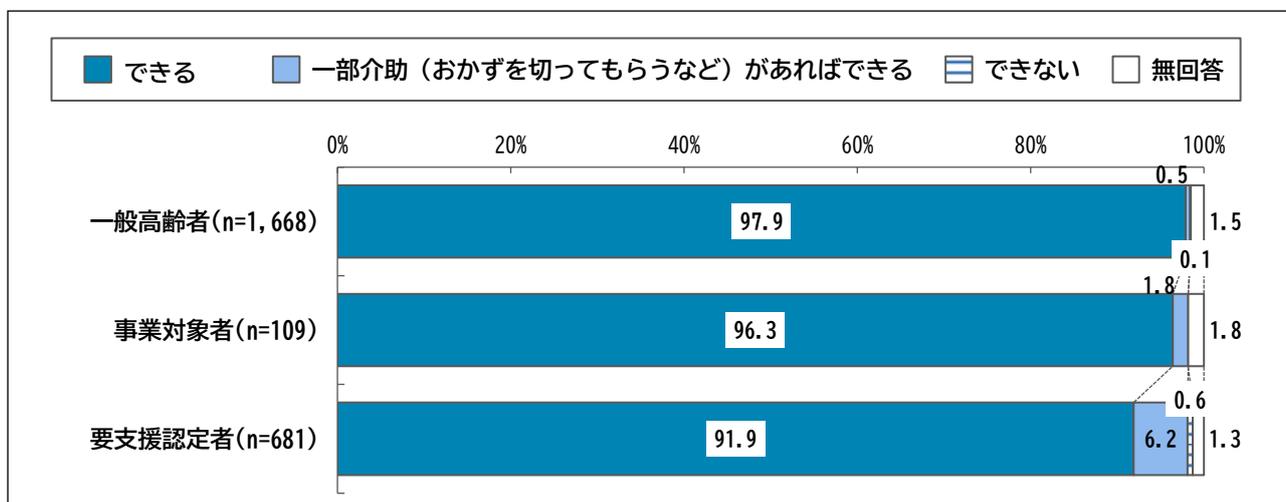
図表 25 誰かと食事をともにする機会の有無について



問3 (9) 食事は自分で食べられますか。

食事は自分で食べられるかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者のいずれも「できる」が最も高く、9割を超えています。また、「一部介助があればできる」の割合は、要支援認定者では6.2%となっています。

図表 26 食事は自分で食べられるか



4 毎日の生活について

(1) 認知機能について

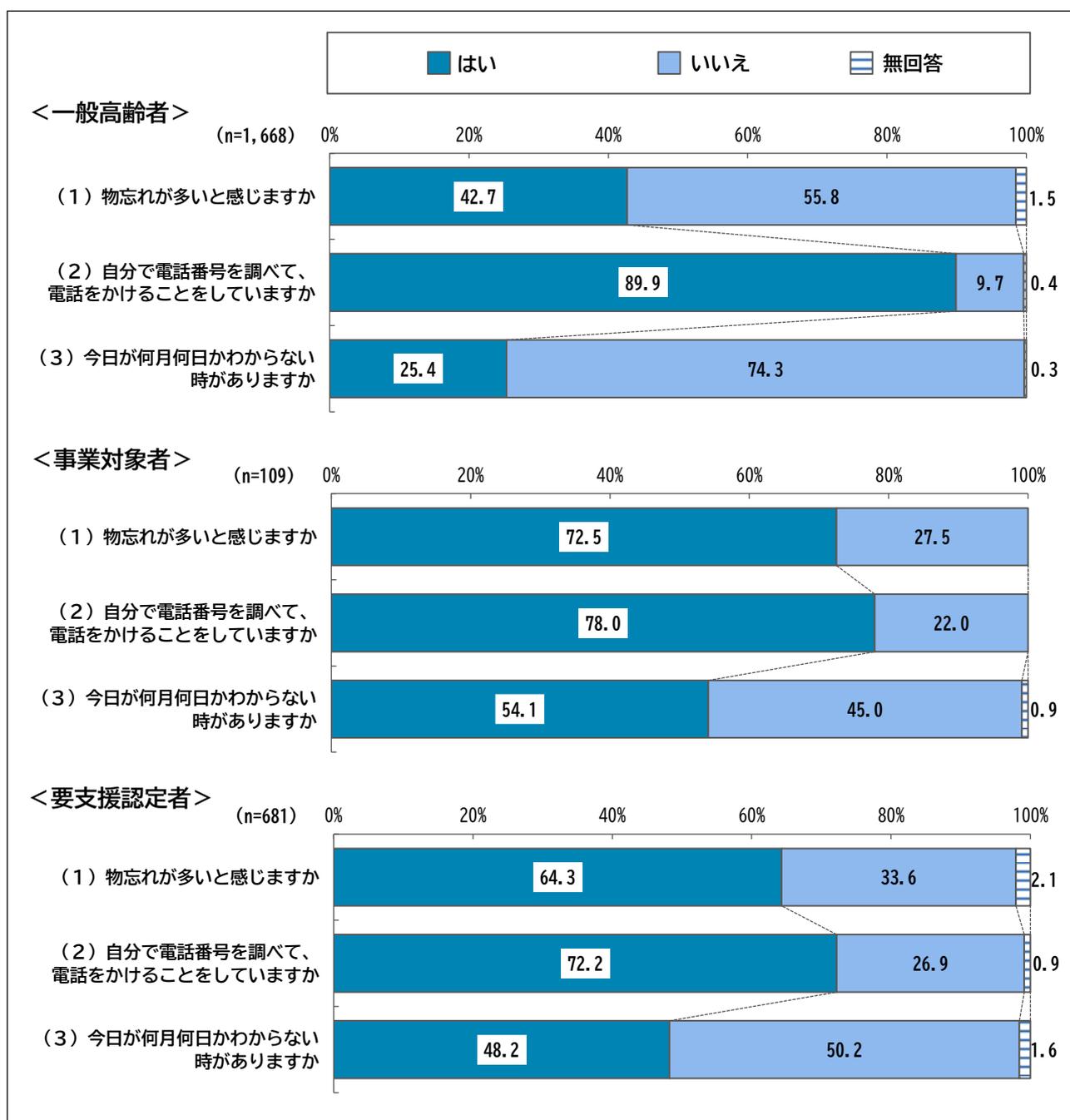
問4 (1) 物忘れが多いと感じますか。

問4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

問4 (3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。

認知機能についてみると、『(1) 物忘れが多いと感じますか』については、一般高齢者では「いいえ」、事業対象者、要支援認定者では「はい」が高くなっています。『(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか』については、一般高齢者、要支援認定者では「いいえ」、事業対象者では「はい」が高くなっています。

図表 27 認知機能について



(2) < IADL : 手段的日常生活動作 > について (老研式活動能力指標)

問4 (4) バスや電車を使って1人で外出していますか。【自家用車でも可】

問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

問4 (6) 自分で食事の用意をしていますか。

問4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか。

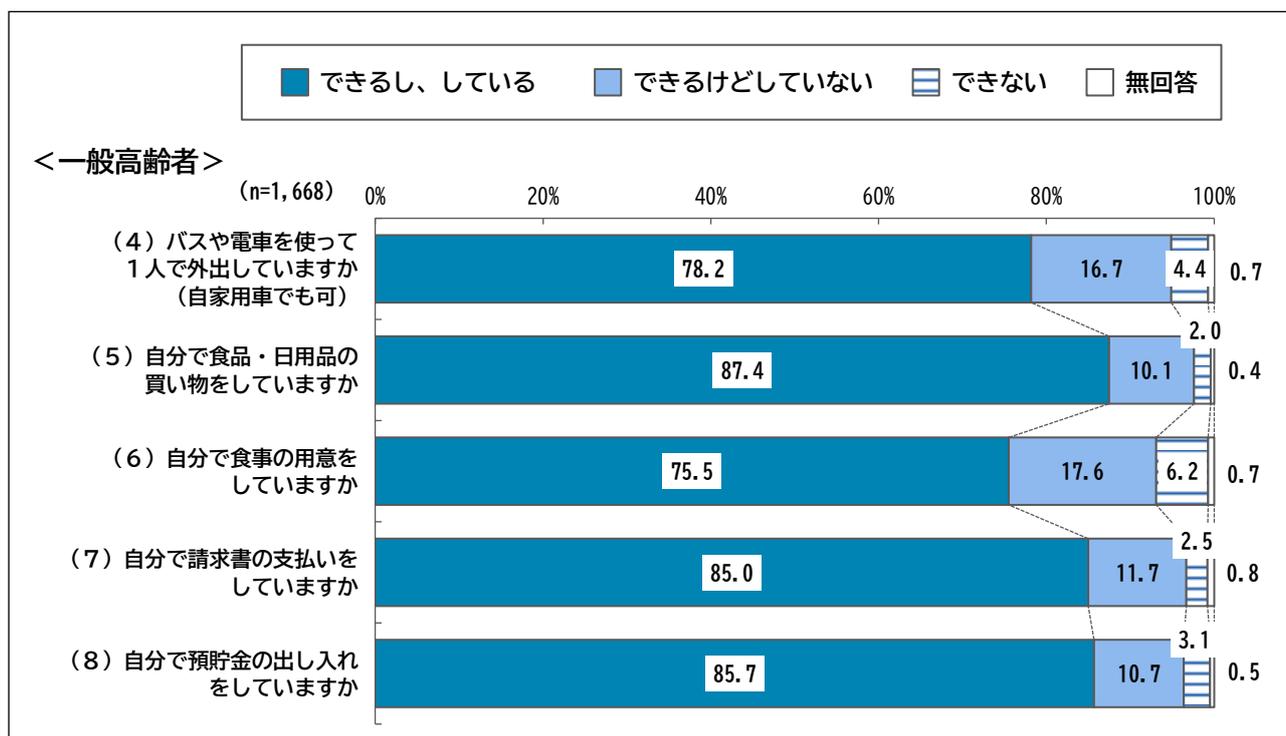
問4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

手段的日常生活動作についてみると、一般高齢者では、いずれの動作についても「できるし、している」が最も高く、7割を超えています。

事業対象者でも同様に、いずれの動作についても「できるし、している」が最も高くなっていますが、『(4) バスや電車を使って1人で外出していますか』については、「できるし、している」が45.9%と5割を下回り、他の動作に比べてできる人の割合は低くなっています。

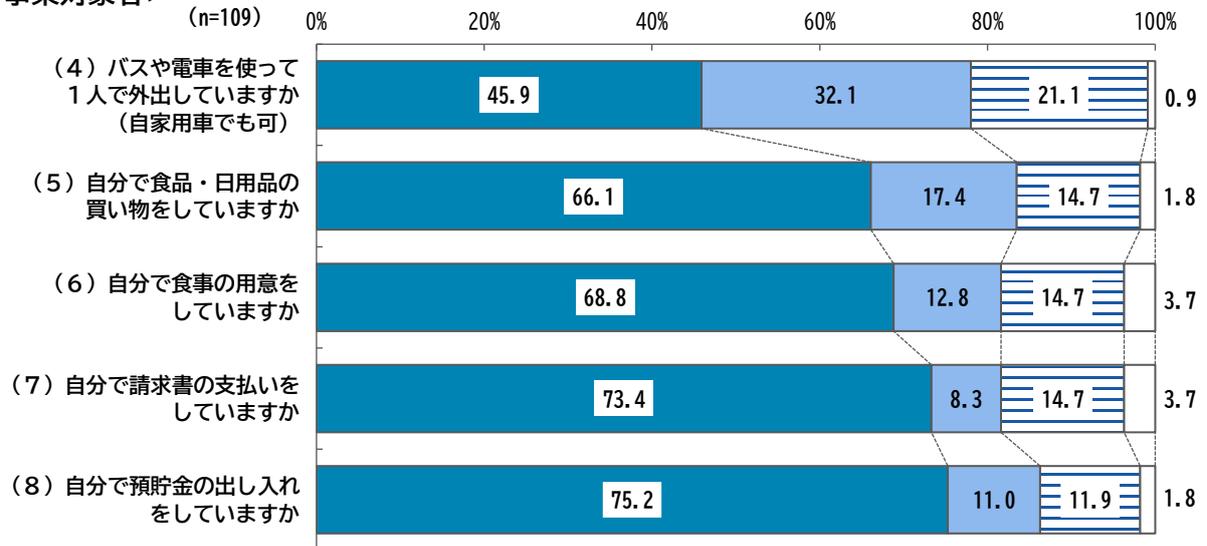
要支援認定者では、『(4) バスや電車を使って1人で外出していますか』については「できない」が53.6%と最も高くなっています。他の動作については、「できるし、している」の割合が最も高くなっていますが、その割合は、一般高齢者や事業対象者に比べて低くなっています。一方、いずれの動作についても、「できない」の割合は、一般高齢者や事業対象者に比べて高くなっています。

図表 28 IADL : 手段的日常生活動作

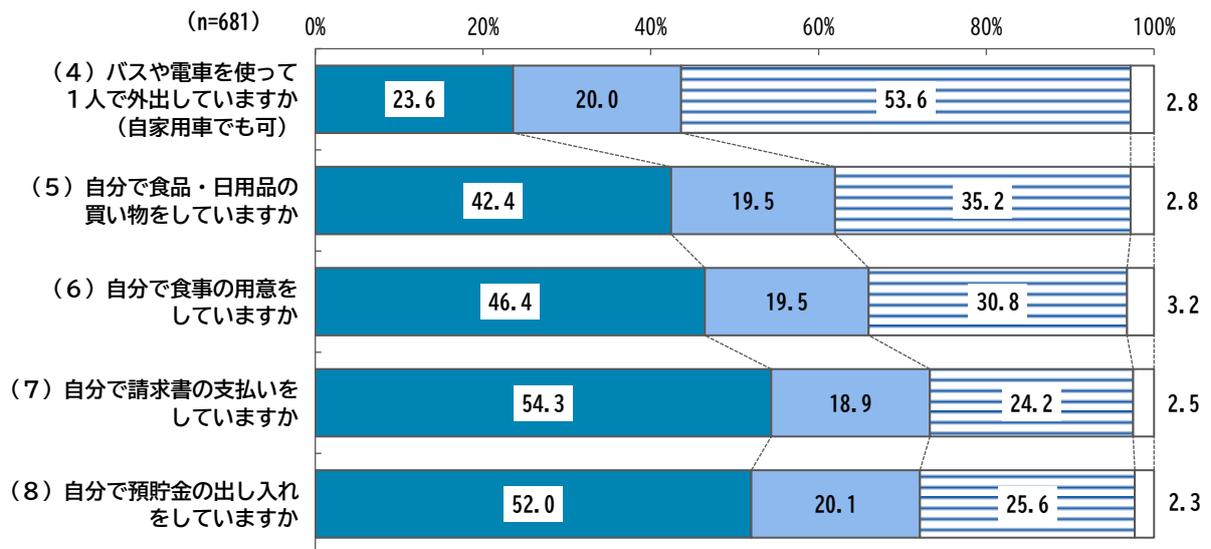


■ できるし、している ■ できるけどしていない ▨ できない □ 無回答

<事業対象者>



<要支援認定者>



(3) <知的能動性>について（老研式活動能力指標）

問4（9）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。

問4（10）新聞を読んでいますか。

問4（11）本や雑誌を読んでいますか。

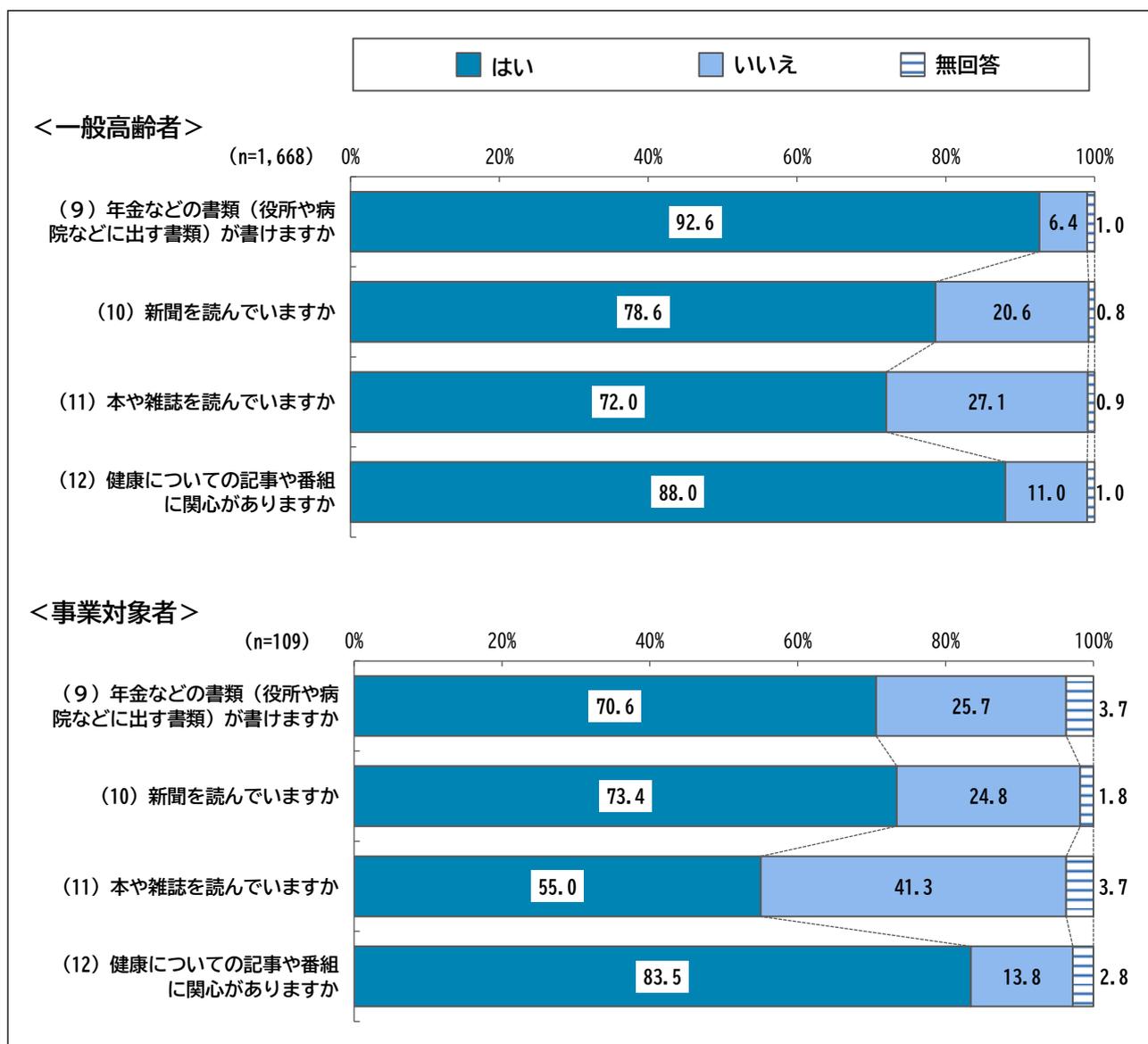
問4（12）健康についての記事や番組に関心がありますか。

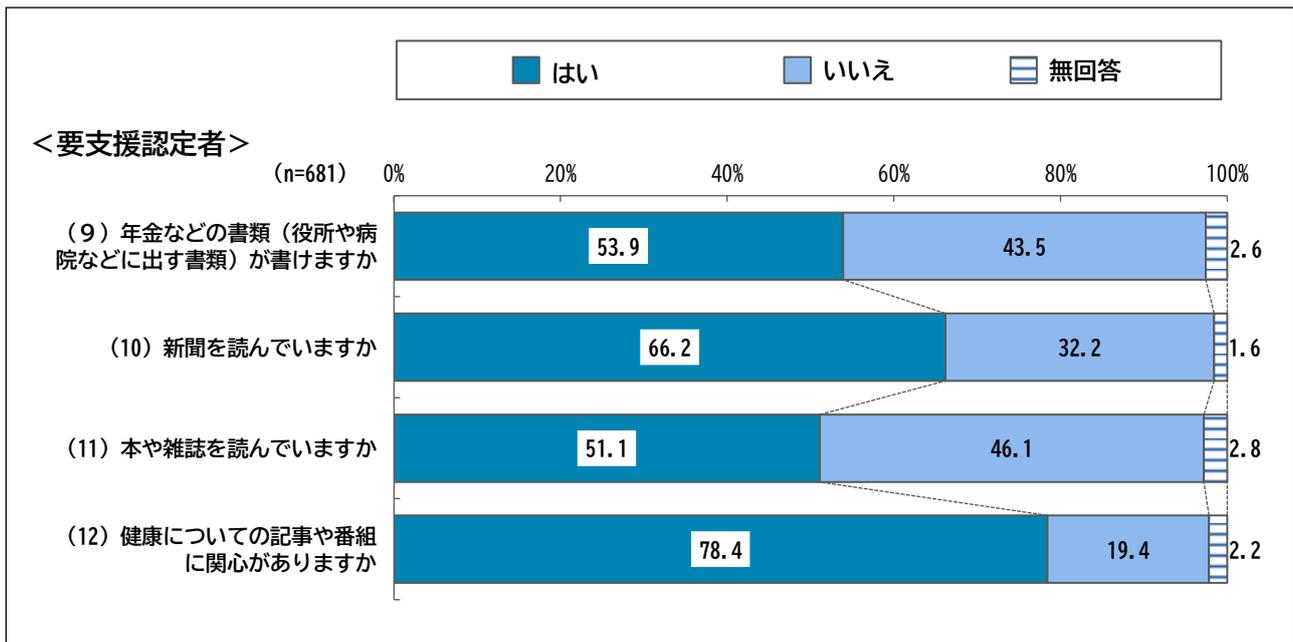
知的能動性についての活動能力をみると、一般高齢者ではいずれの活動についても「はい」が高く、7割を超えています。特に『(9) 年金などの書類が書けますか』については、「はい」が92.6%と大半を占めています。

事業対象者でも同様に、いずれの活動についても「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者に比べて低くなっています。

要支援認定者でも同様に、いずれの活動についても「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者に比べて低くなっています。また『(11) 本や雑誌を読んでいますか』については、「はい」が51.1%となっており、他の活動に比べて「はい」の割合は低くなっています。

図表 29 知的能動性





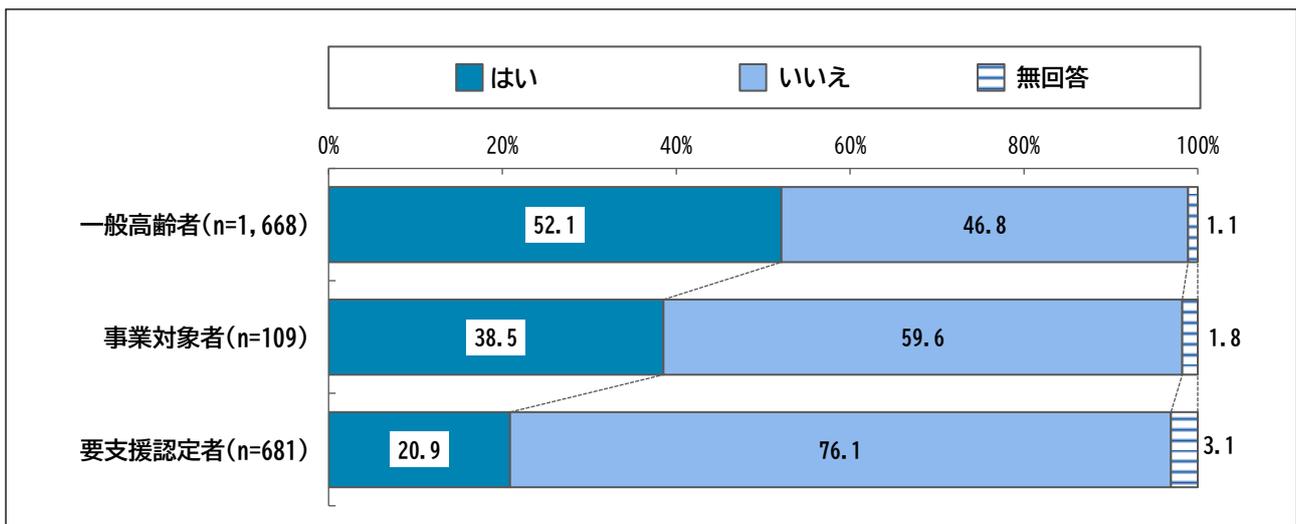
(4) 社会的活動について

問4 (13) 友人の家を訪ねていますか。

友人の家を訪ねているかどうかをみると、一般高齢者では「はい」が52.1%と高くなっているのに対し、事業対象者、要支援認定者では「いいえ」が高くなっています。

また、「はい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

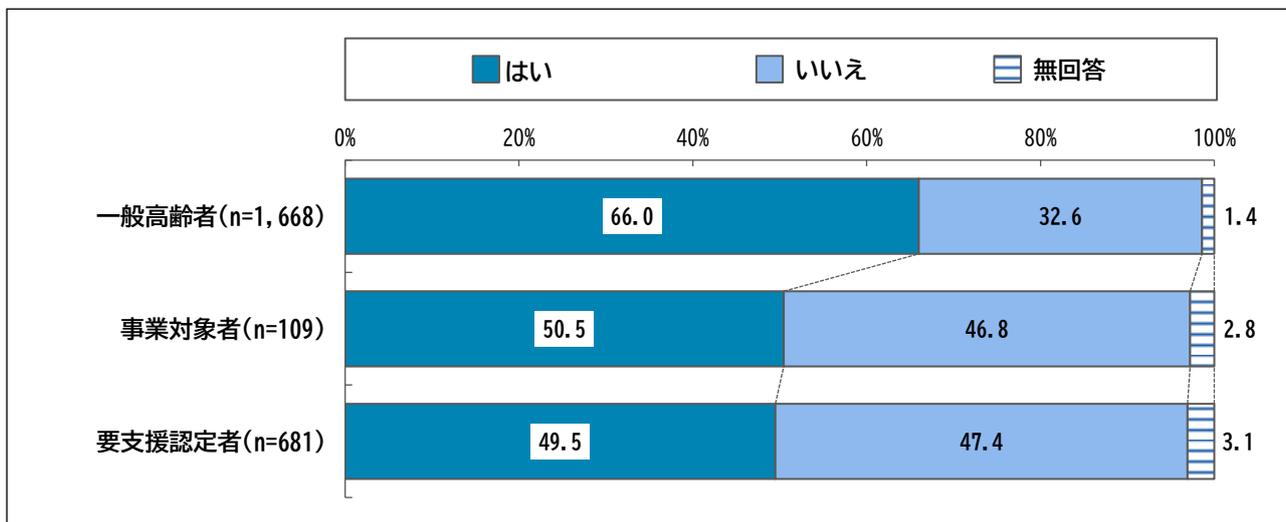
図表 30 友人の家を訪ねているか



問4 (14) 若い人に自分から話しかけることがありますか。

若い人に自分から話しかけることがあるかどうかをみると、一般高齢者、事業対象者では「はい」が5割以上を占めていますが、要支援認定者では49.5%となっています。

図表 31 若い人に自分から話しかけることがあるか



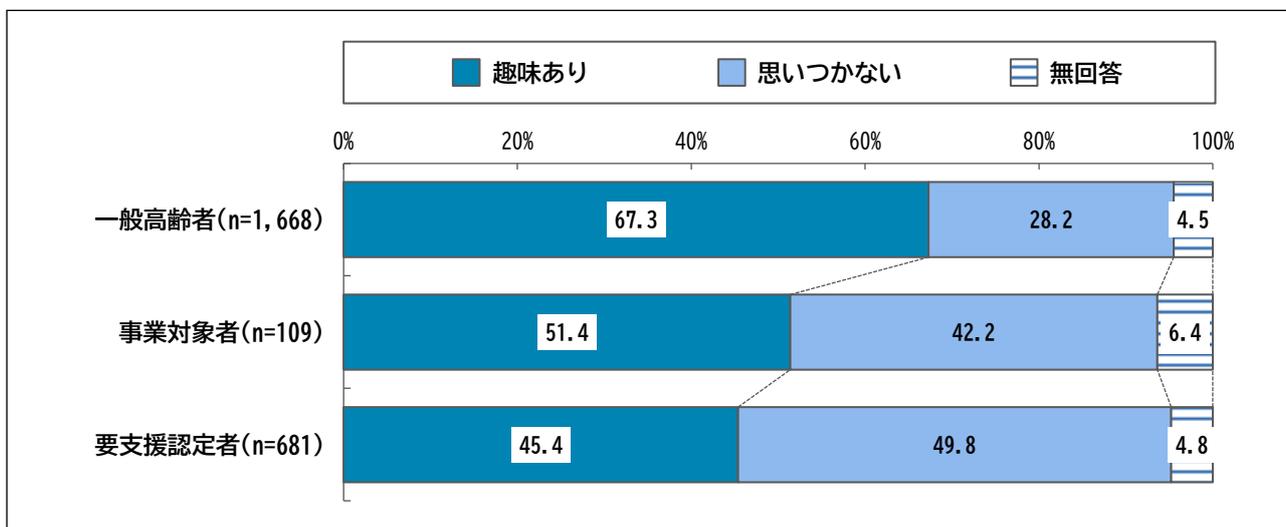
(5) 趣味・生きがいについて

問4 (15) 趣味はありますか。

趣味があるかどうかをみると「趣味あり」の割合は、一般高齢者が67.3%、事業対象者が51.4%、要支援認定者が45.4%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

また、要支援認定者では「思いつかない」が49.8%となっており、「趣味あり」の割合を上回っています。

図表 32 趣味の有無

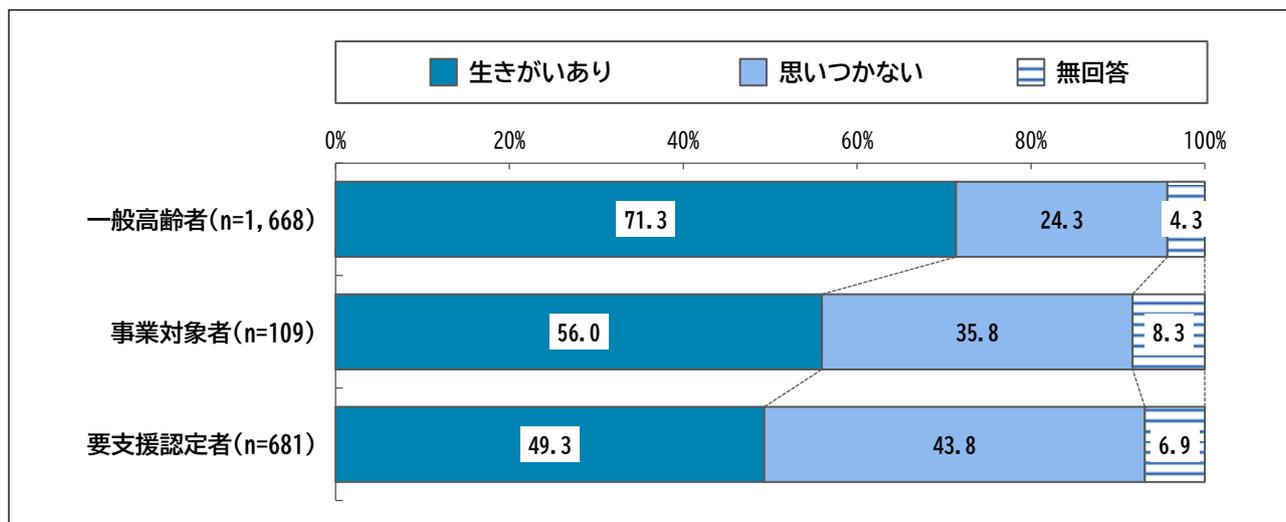


趣味の内容	件数
園芸、ガーデニング、草花の世話、家庭菜園、畑仕事	289
スポーツ(釣り、ゴルフ、テニス、ゲートボールなど)	266
手芸(折り紙、裁縫、編み物)	140
読書	106
音楽(演奏、鑑賞)	86
囲碁、将棋、パズル	67
外出、旅行、ドライブ	66
歌うこと、カラオケ	58
絵画、塗り絵、文字を書く	56
TV、ビデオ、DVD、映画鑑賞	49
ゲーム(スマホ・テレビ)、インターネット、パソコン	29
料理、食事	25
俳句、短歌、詩吟	20
ギャンブル	18
カメラ、写真	11
動物の世話	7
その他(買い物、睡眠、趣味が色々など)	31
したいが出来ない(時間が無い、体が不自由などの理由)	24
合計	1,348

問4 (16) 生きがいがありますか。

生きがいの有無をみると、「生きがいあり」の割合は、一般高齢者が71.3%、事業対象者が56.0%、要支援認定者が49.3%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 33 生きがいの有無



※問4（16）で「生きがいあり」と答えたかたのみ

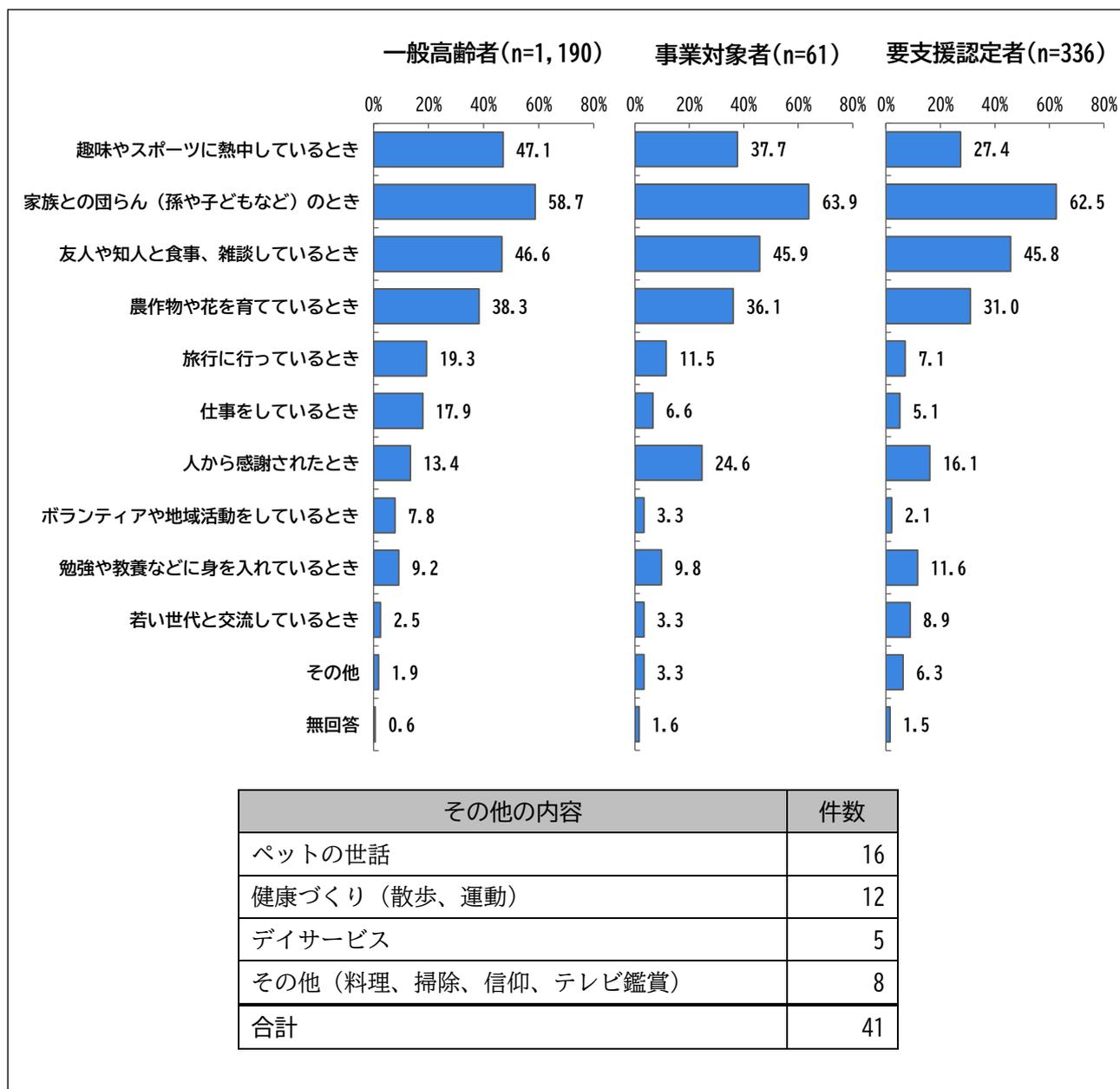
問4（16-1）日常の中で、生きがいや楽しみ、喜びを感じる時は、どんなときですか。（3つまで）

日常の中で、生きがいや楽しみ、喜びを感じる時はどんなときかをみると、一般高齢者では「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（58.7%）が最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中しているとき」（47.1%）、「友人や知人と食事、雑談しているとき」（46.6%）となっています。

事業対象者では、「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（63.9%）が最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談しているとき」（45.9%）、「趣味やスポーツに熱中しているとき」（37.7%）となっています。

要支援認定者では、「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（62.5%）が最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談しているとき」（45.8%）、「農作物や花を育てているとき」（31.0%）となっています。

図表 34 生きがいや楽しみ、喜びを感じる時（複数回答：3つまで）



(6) 記憶力・判断力・伝達力について

問4 (17) 5分前のことが思い出せますか。

5分前のことが思い出せるかどうかをみると、一般高齢者では9割以上が「はい」と回答しているのに対し、事業対象者、要支援認定者では8割未満となっています。

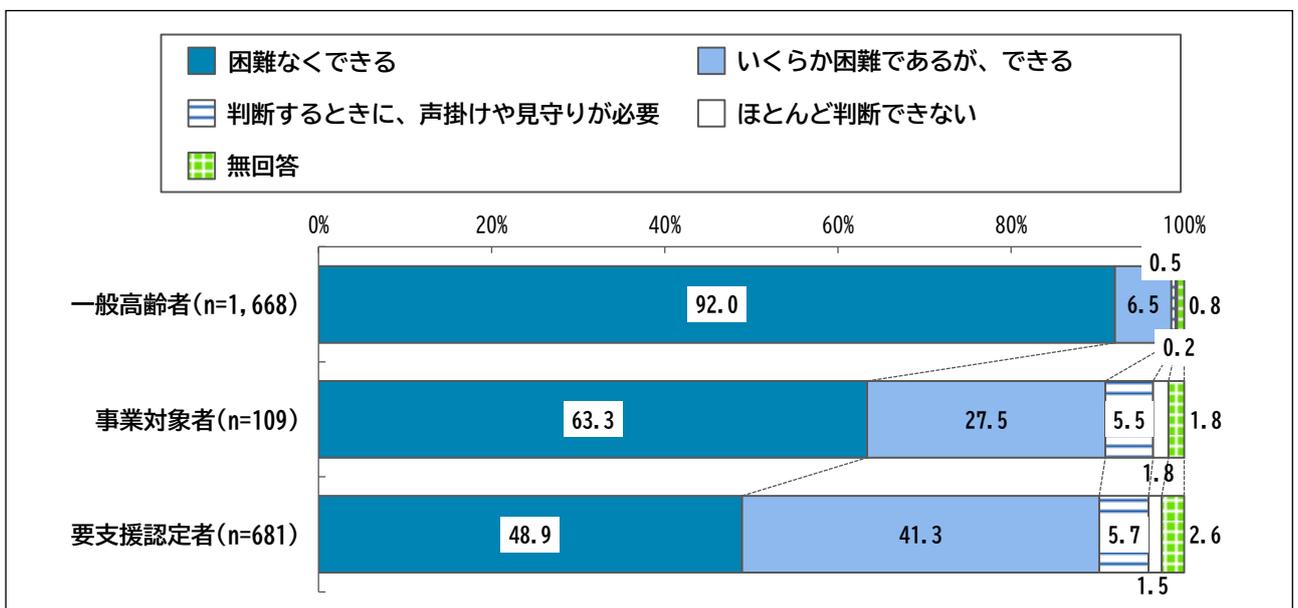
図表 35 5分前のことが思い出せるか



問4 (18) その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。

その日の活動を自分で判断できるかどうかをみると、「困難なくできる」は、一般高齢者が92.0%、事業対象者が63.3%、要支援認定者が48.9%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

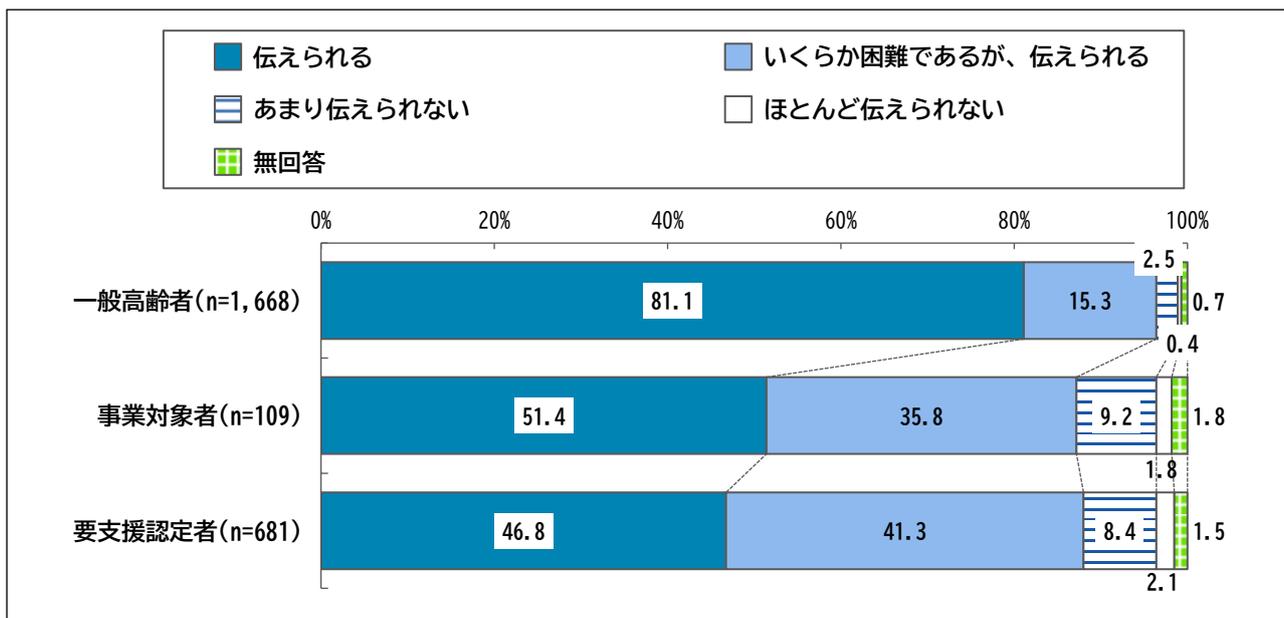
図表 36 その日の活動を自分で判断できるか



問4 (19) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。

人に自分の考えをうまく伝えられるかどうかをみると、「伝えられる」は、一般高齢者が81.1%、事業対象者が51.4%、要支援認定者が46.8%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。また、事業対象者では「いくらか困難であるが、伝えられる」が35.8%、要支援認定者では41.3%となっています。

図表 37 人に自分の考えをうまく伝えられるか



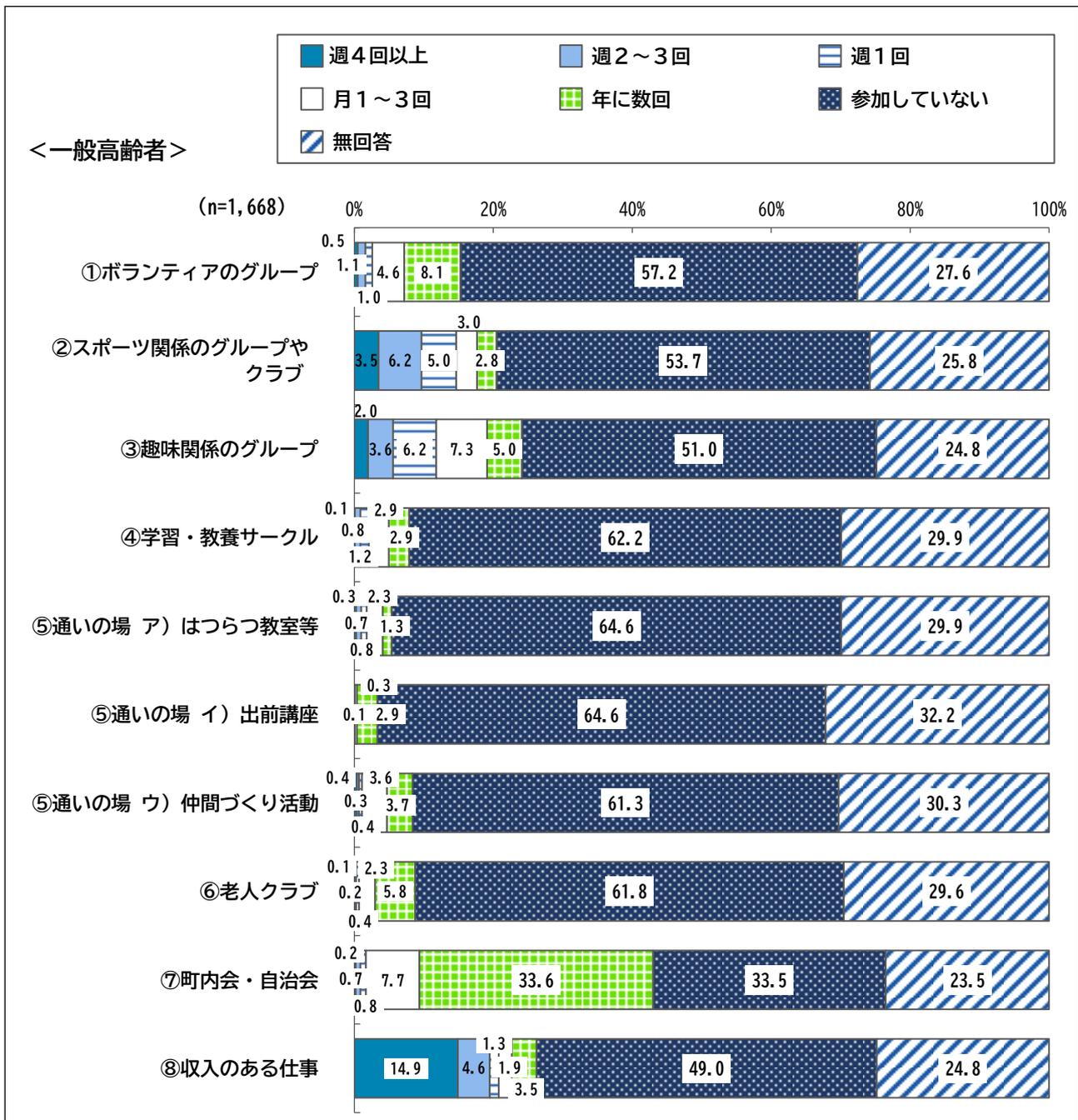
5 地域での活動について

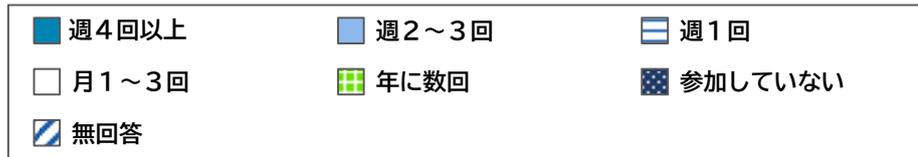
(1) 社会参加の状況

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

社会参加の頻度について、「週4回以上」から「年に数回」までを合計した『参加率』をみると、一般高齢者、事業対象者では⑦町内会・自治会、要支援認定者では③趣味関係のグループがそれぞれ最も高くなっています。

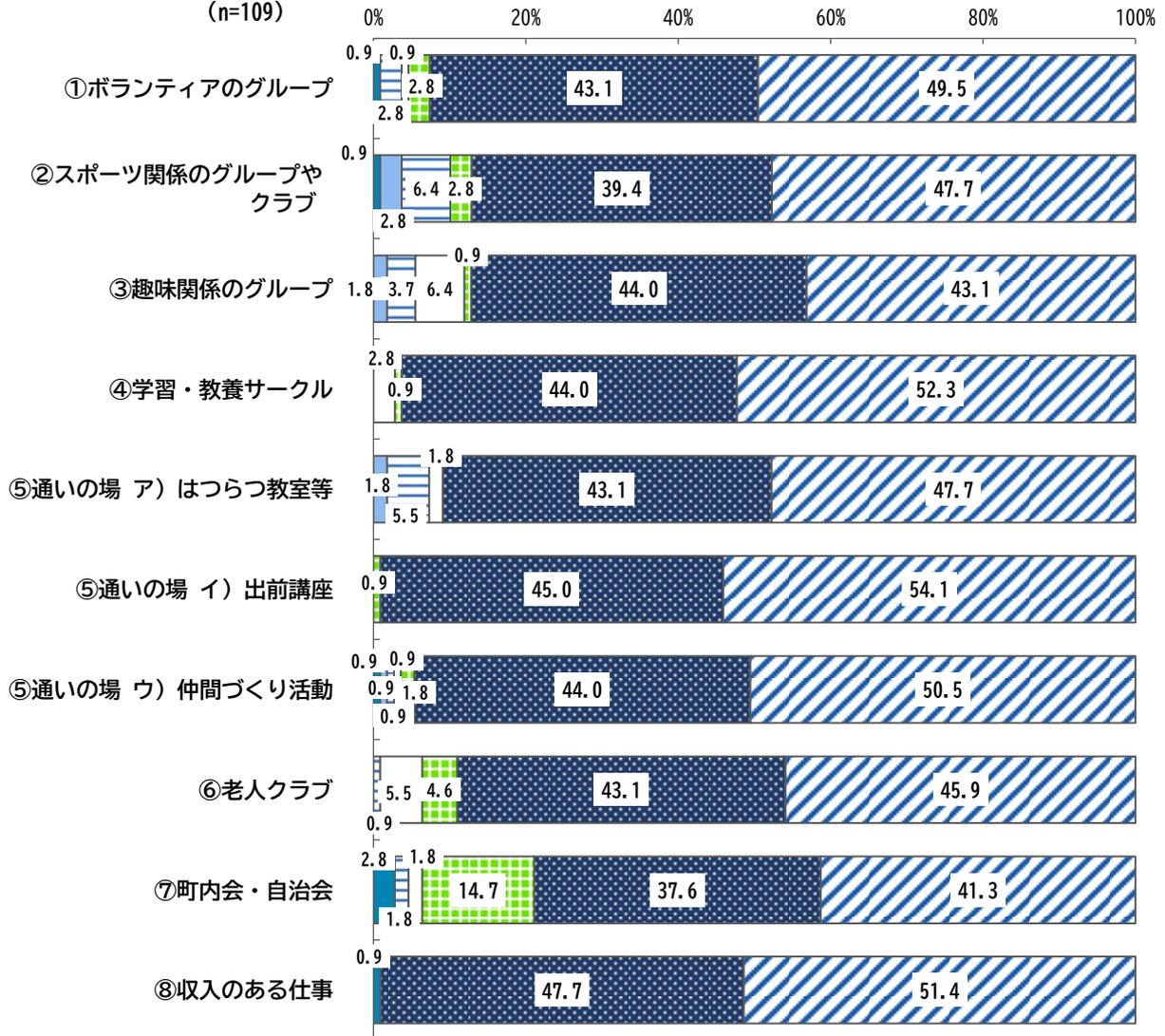
図表 38 社会参加の状況



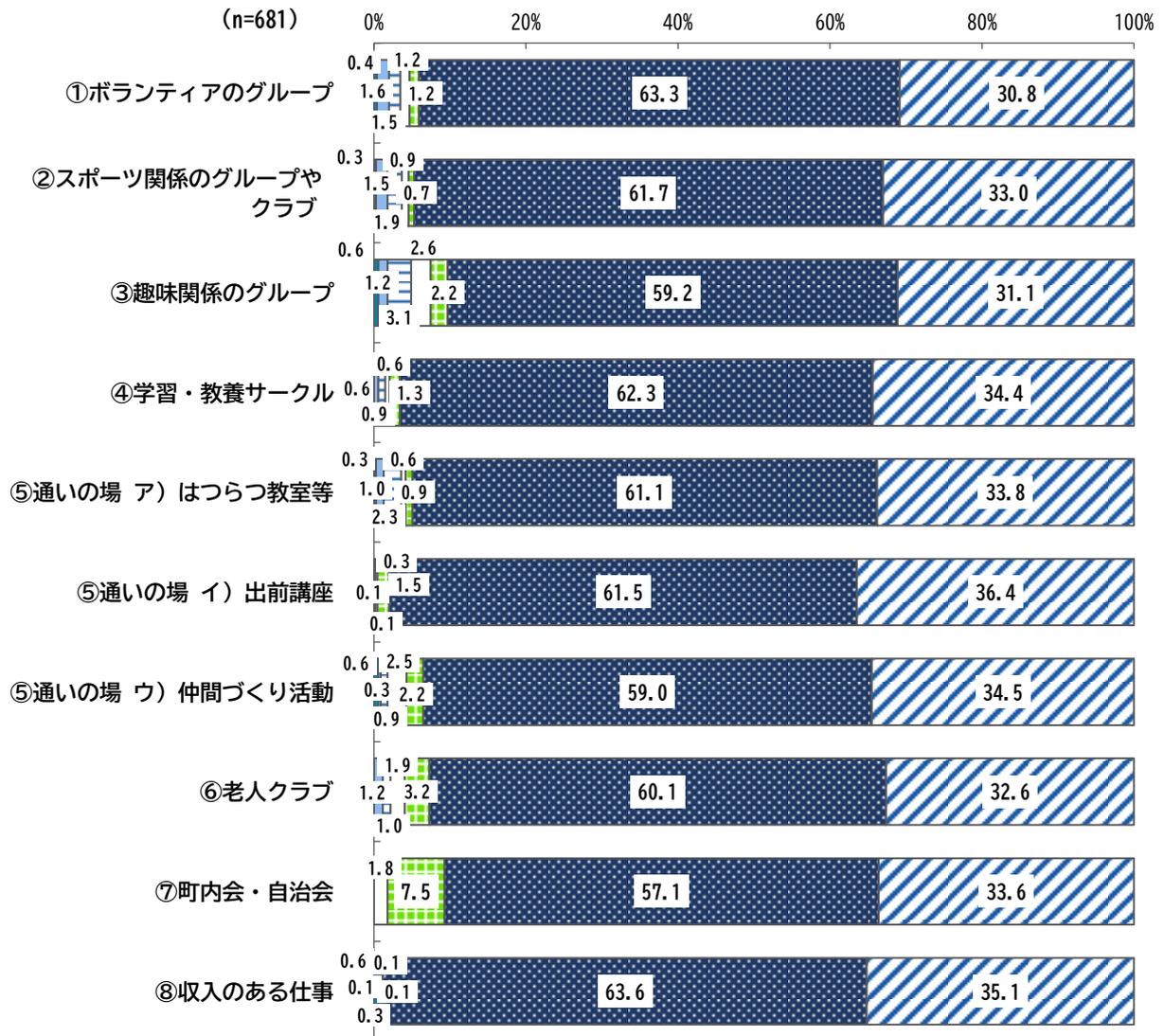
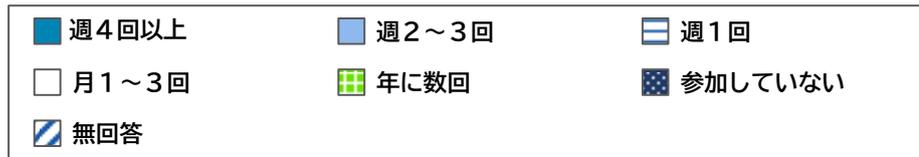


<事業対象者>

(n=109)



<要支援認定者>

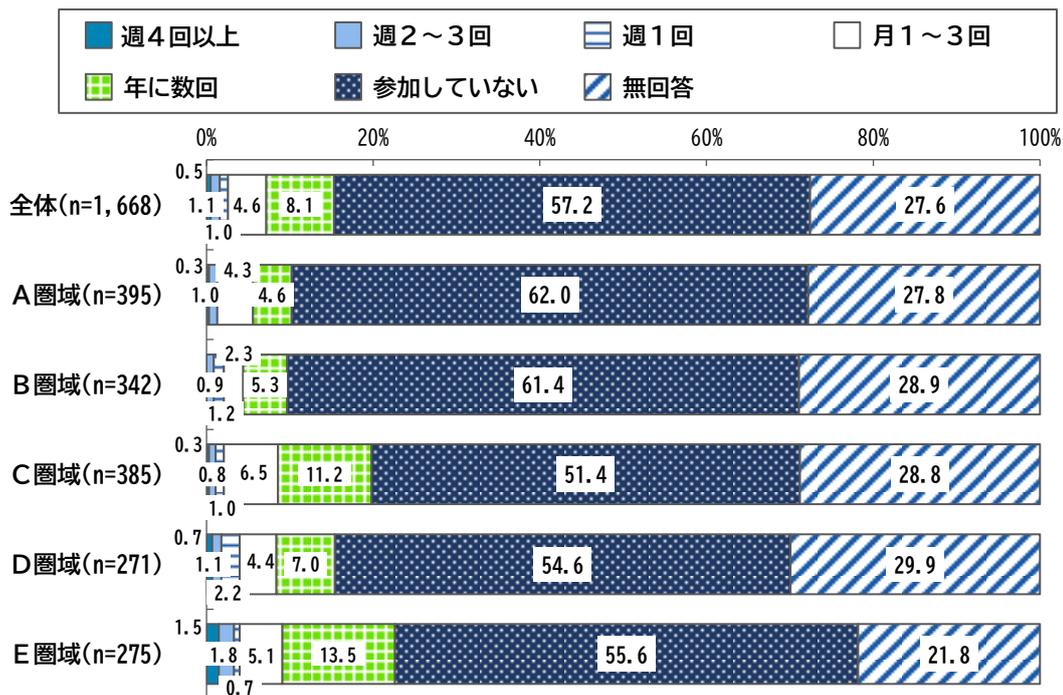


【日常生活圏域別：一般高齢者】

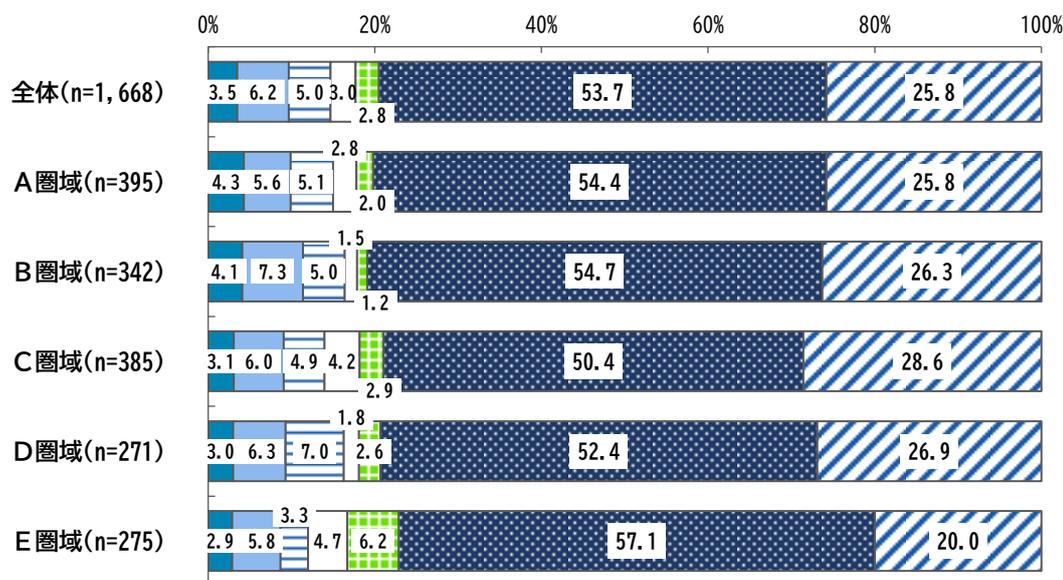
日常生活圏域別に一般高齢者の各活動への参加率をみると、①ボランティアのグループ、②スポーツ関係のグループやクラブ、③趣味関係のグループ、④学習・教養サークル、⑤通いの場（ア）はつつ教室等、⑤通いの場（ウ）仲間づくり活動、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事とほとんどの活動においてE圏域が最も高くなっています。一方、⑤通いの場（イ）出前講座ではC圏域の『参加率』が最も高く、⑧収入のある仕事についても、C圏域はE圏域と同率で最も高くなっています。

図表 39 社会参加の状況（日常生活圏域別：一般高齢者）

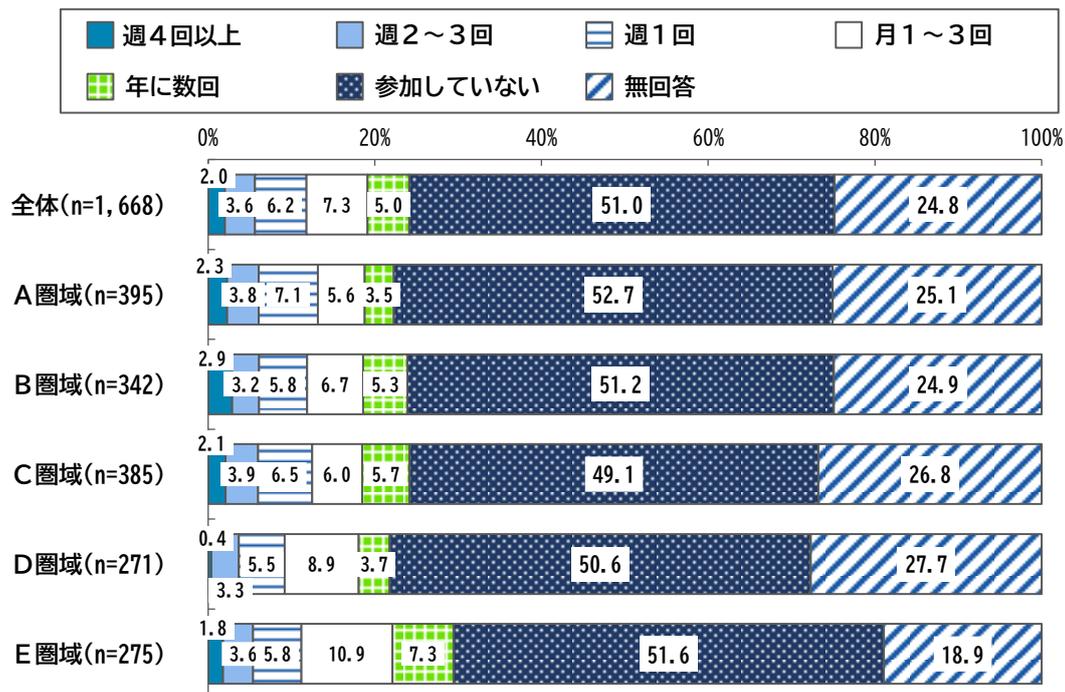
①ボランティアのグループ



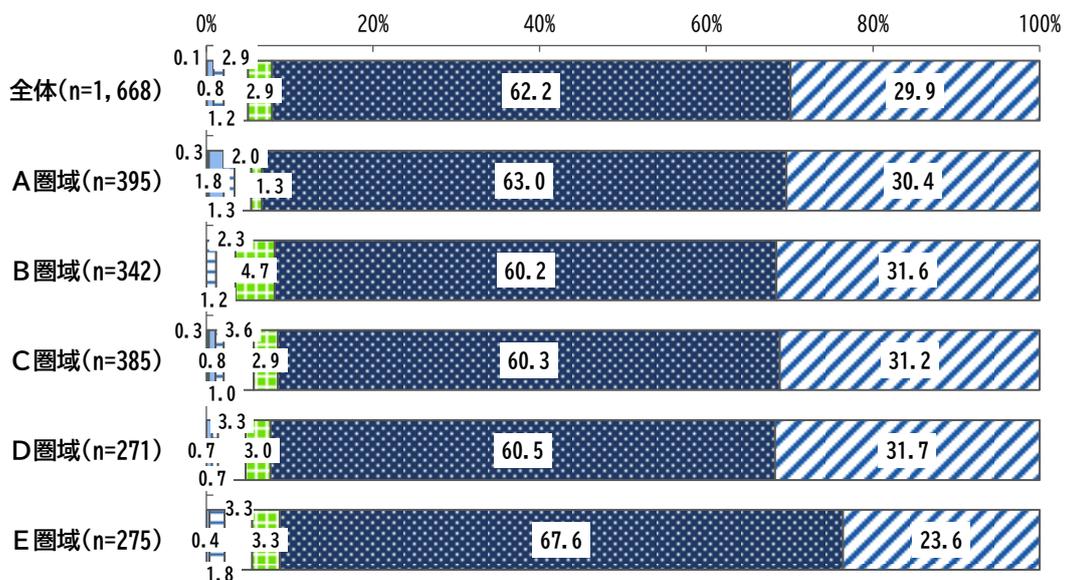
②スポーツ関係のグループやクラブ



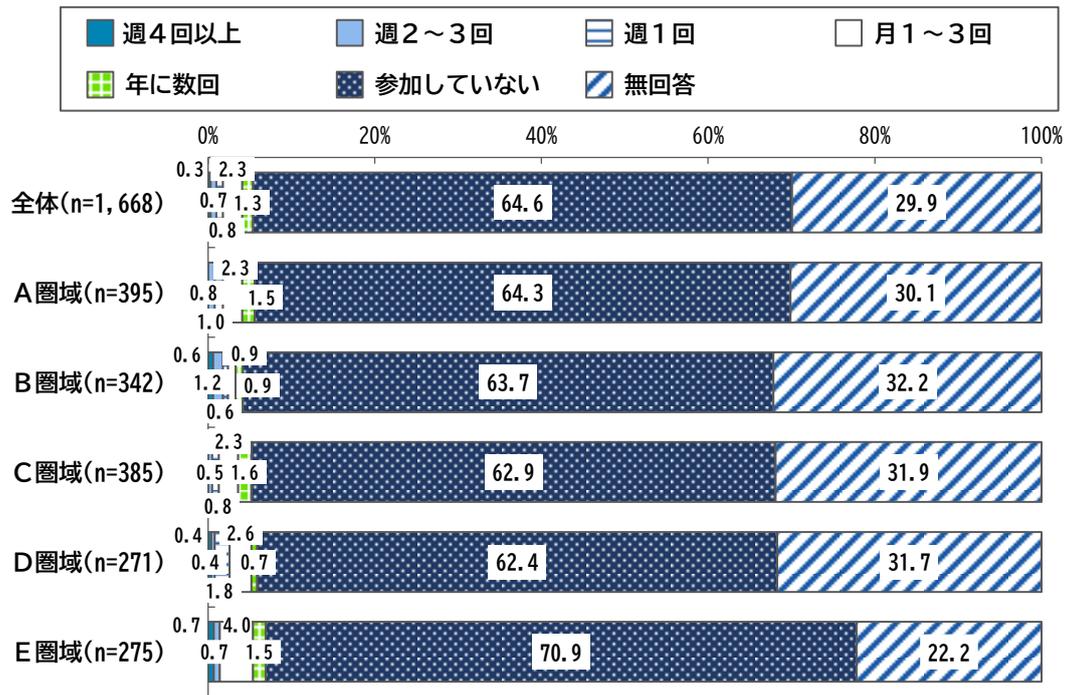
③趣味関係のグループ



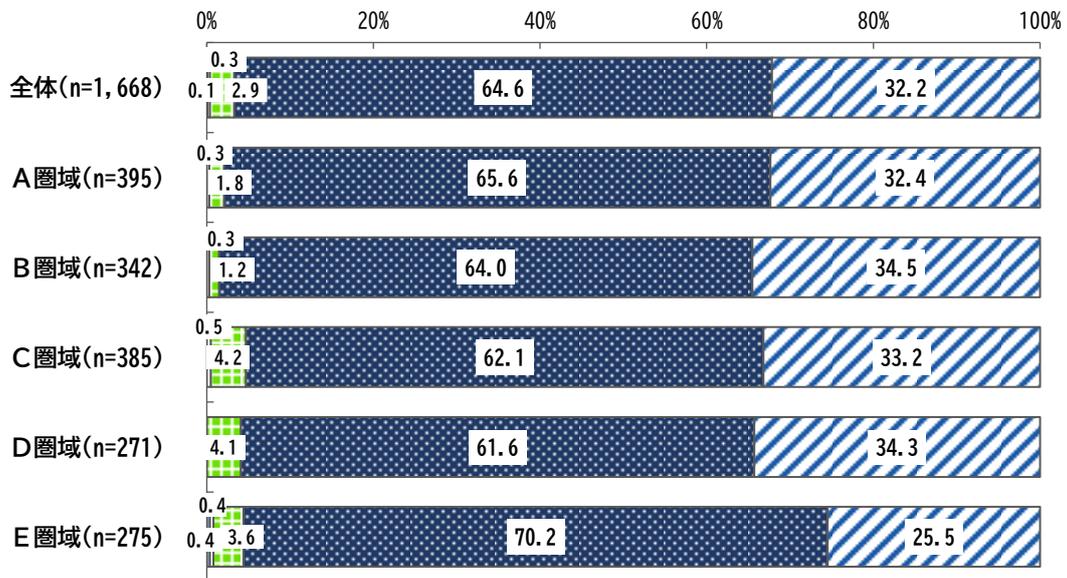
④学習・教養サークル



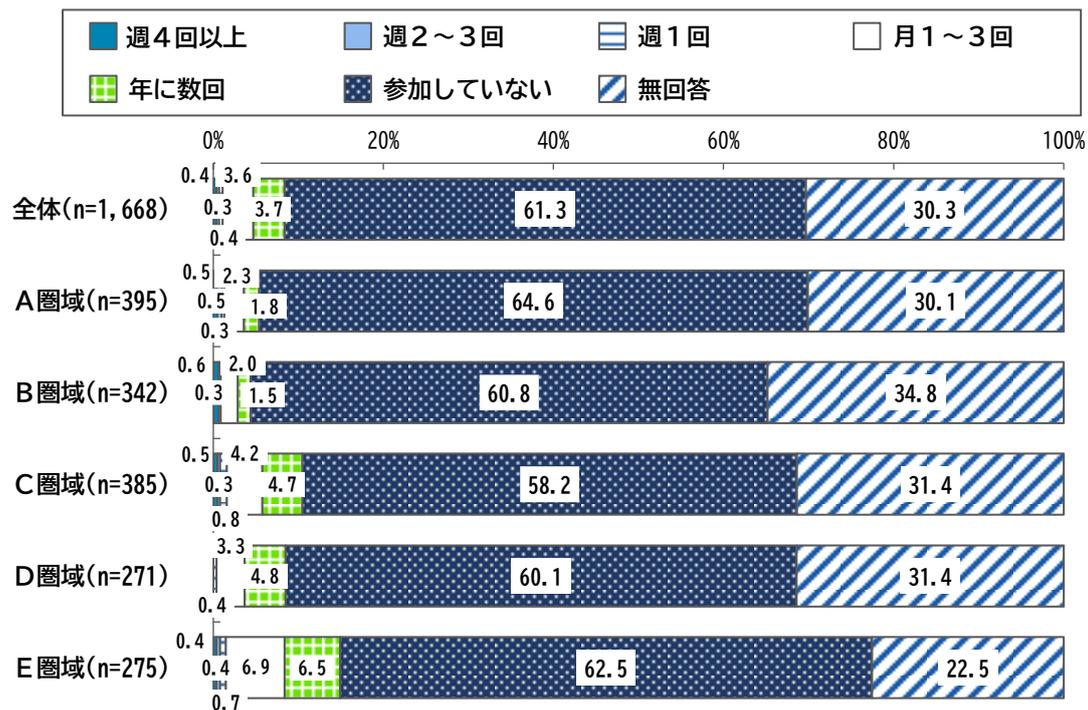
⑤通いの場 (ア) はつらつ教室等



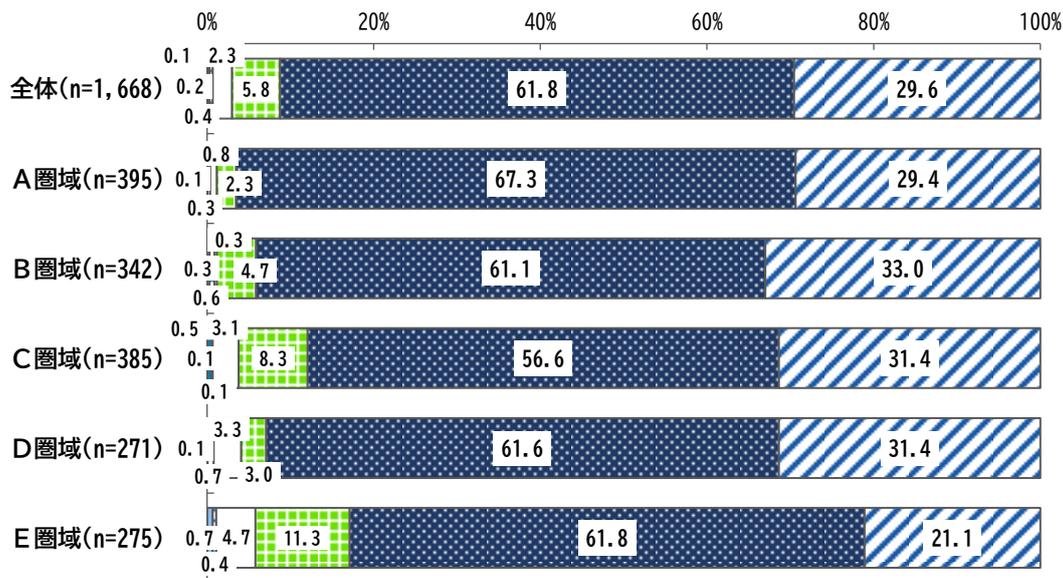
⑤通いの場 (イ) 出前講座



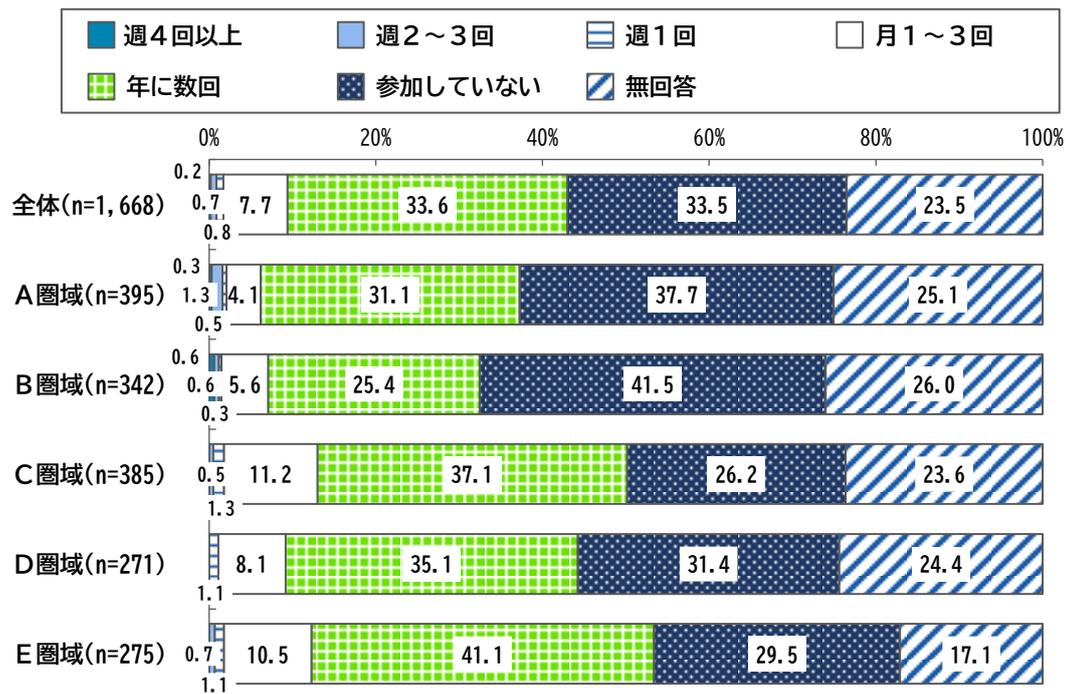
⑤通いの場 (ウ) 仲間づくり活動



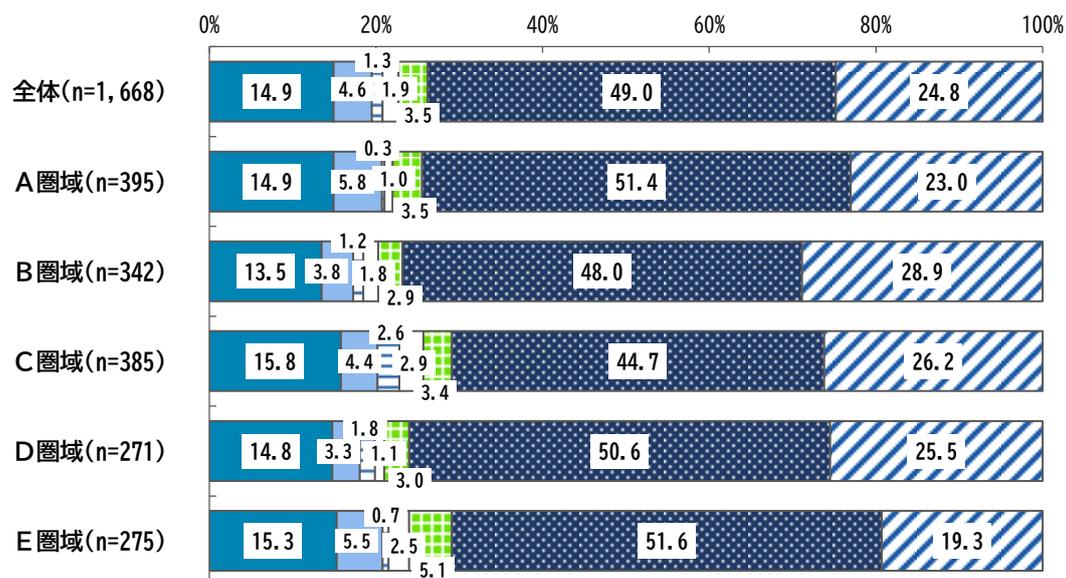
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事

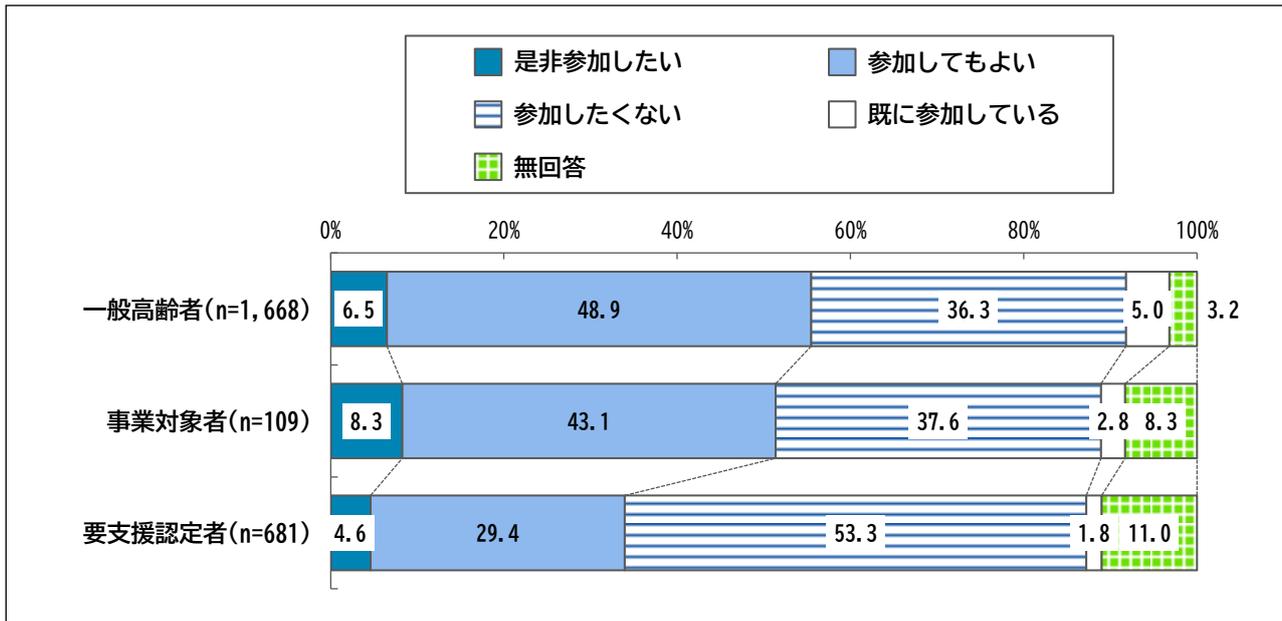


(2) 地域づくりへの参加意向

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域づくり活動に参加者として参加してみたいかどうかをみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』割合は、一般高齢者が55.4%、事業対象者が51.4%と5割以上を占めているのに対し、要支援認定者は34.0%と低くなっています。

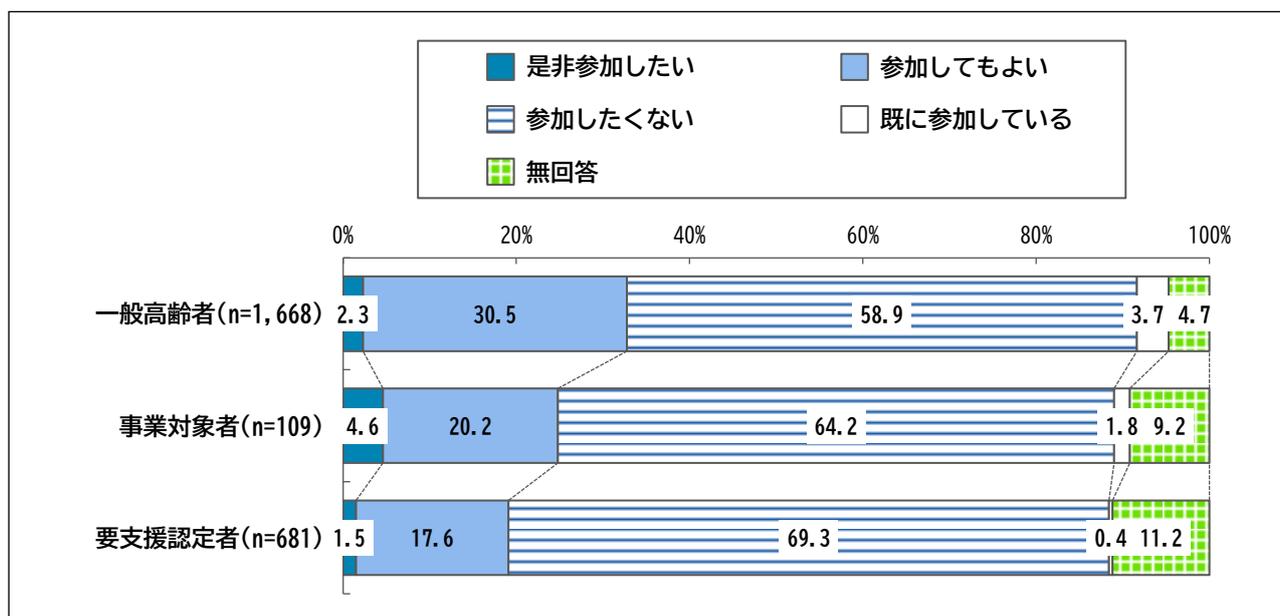
図表 40 地域づくりへの参加意向（参加者）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかどうかをみると、いずれも「参加したくない」が半数以上を占めています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』は、一般高齢者が32.8%、事業対象者が24.8%、要支援認定者が19.1%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 41 地域づくりへの参加意向（企画・運営）



6 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）について

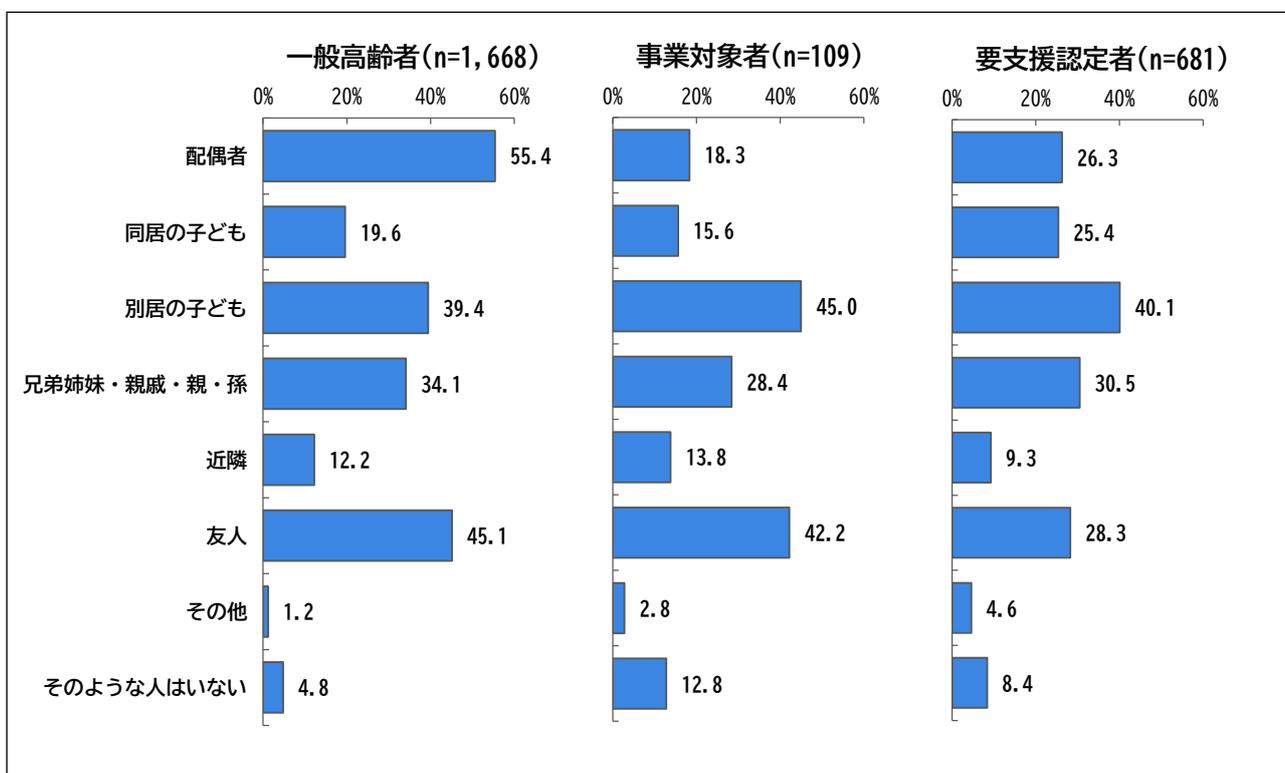
問6 (1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてみると、一般高齢者では「配偶者」（55.4%）が最も高く、次いで「友人」（45.1%）、「別居の子ども」（39.4%）となっています。

事業対象者では「別居の子ども」（45.0%）が最も高く、次いで「友人」（42.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.4%）となっています。

要支援認定者では「別居の子ども」（40.1%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（30.5%）、「友人」（28.3%）となっています。

図表 42 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）



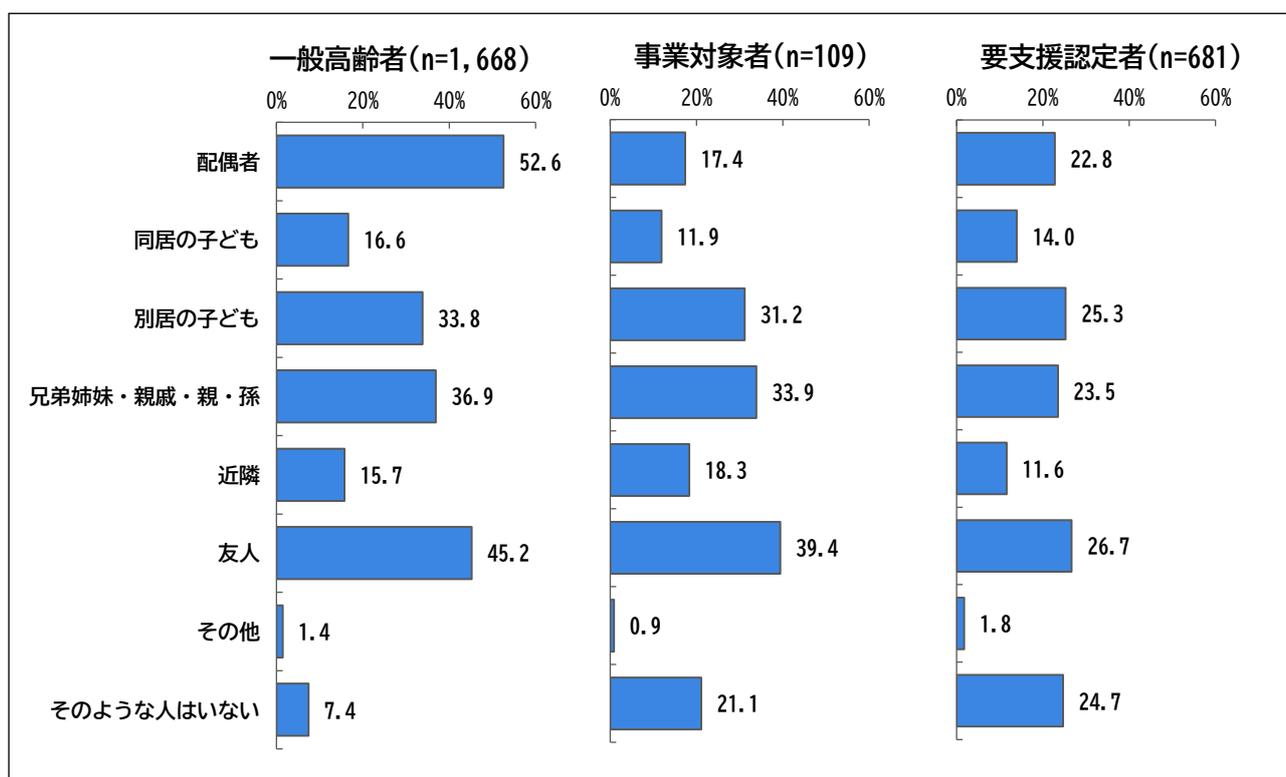
問6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」(52.6%)が最も高く、次いで「友人」(45.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(36.9%)となっています。

事業対象者では「友人」(39.4%)が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(33.9%)、「別居の子ども」(31.2%)、となっています。

要支援認定者では「友人」(26.7%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(25.3%)、「そのような人はいない」(24.7%)となっています。

図表 43 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）



(2) 看病や世話について

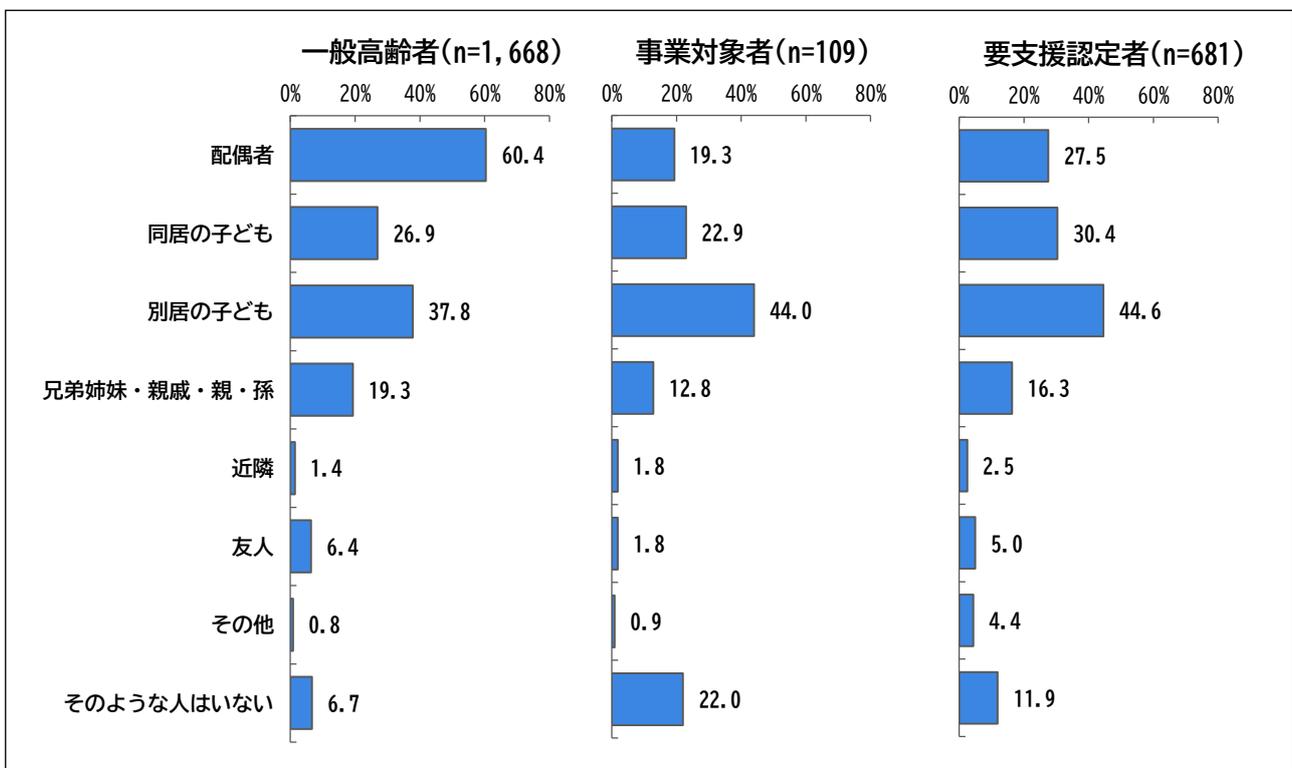
問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(いくつでも)

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」(60.4%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(37.8%)、「同居の子ども」(26.9%)となっています。

事業対象者では「別居の子ども」(44.0%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(22.9%)、「そのような人はいない」(22.0%)となっています。

要支援認定者では「別居の子ども」(44.6%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(30.4%)、「配偶者」(27.5%)となっています。

図表 44 看病や世話をしてくれる人 (複数回答)



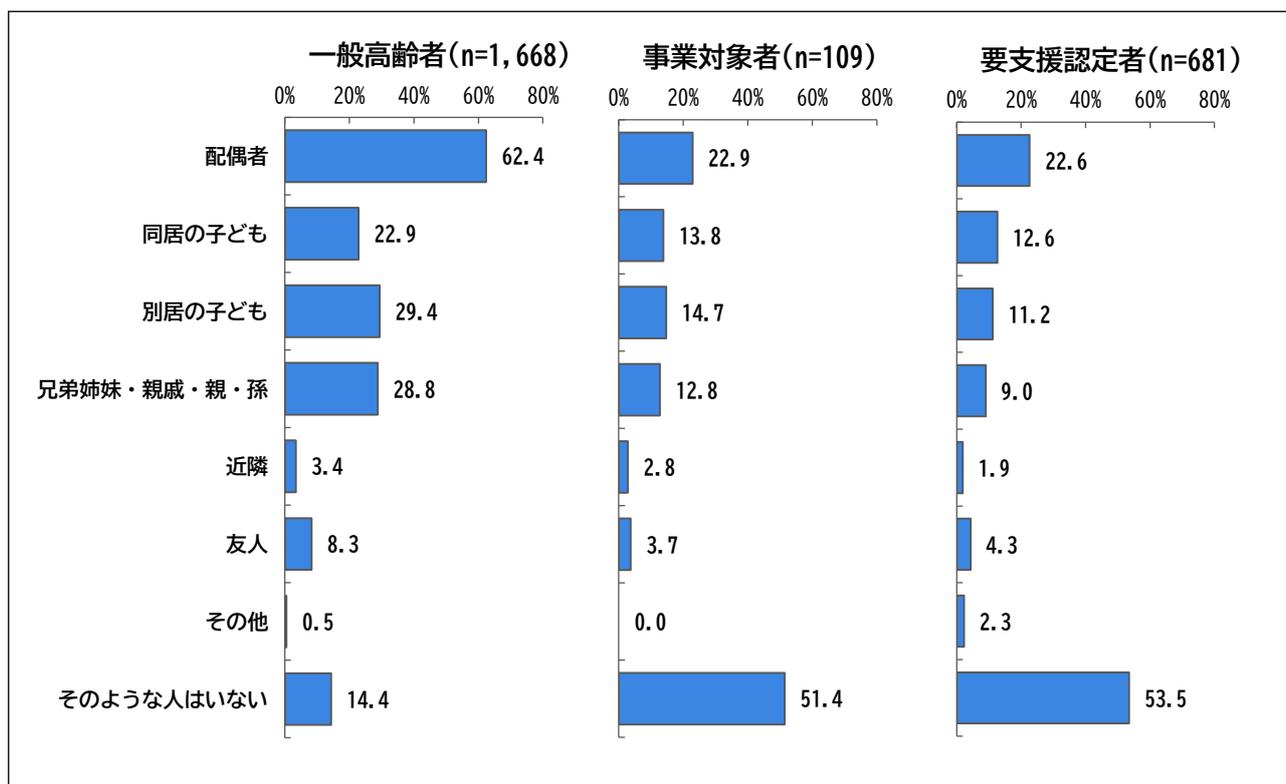
問6（4）反対に、看病や世話をしあける人。（いくつでも）

病気の際に看病や世話をしあける人についてみると、一般高齢者では「配偶者」（62.4%）が最も高く、次いで「別居の子ども」（29.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.8%）となっています。

事業対象者では「そのような人はいない」（51.4%）が最も高く、次いで「配偶者」（22.9%）、「別居の子ども」（14.7%）となっています。

要支援認定者では「そのような人はいない」（53.5%）が最も高く、次いで「配偶者」（22.6%）、「同居の子ども」（12.6%）となっています。

図表 45 看病や世話をしあける人（複数回答）



(3) 家族や友人・知人以外の相談相手

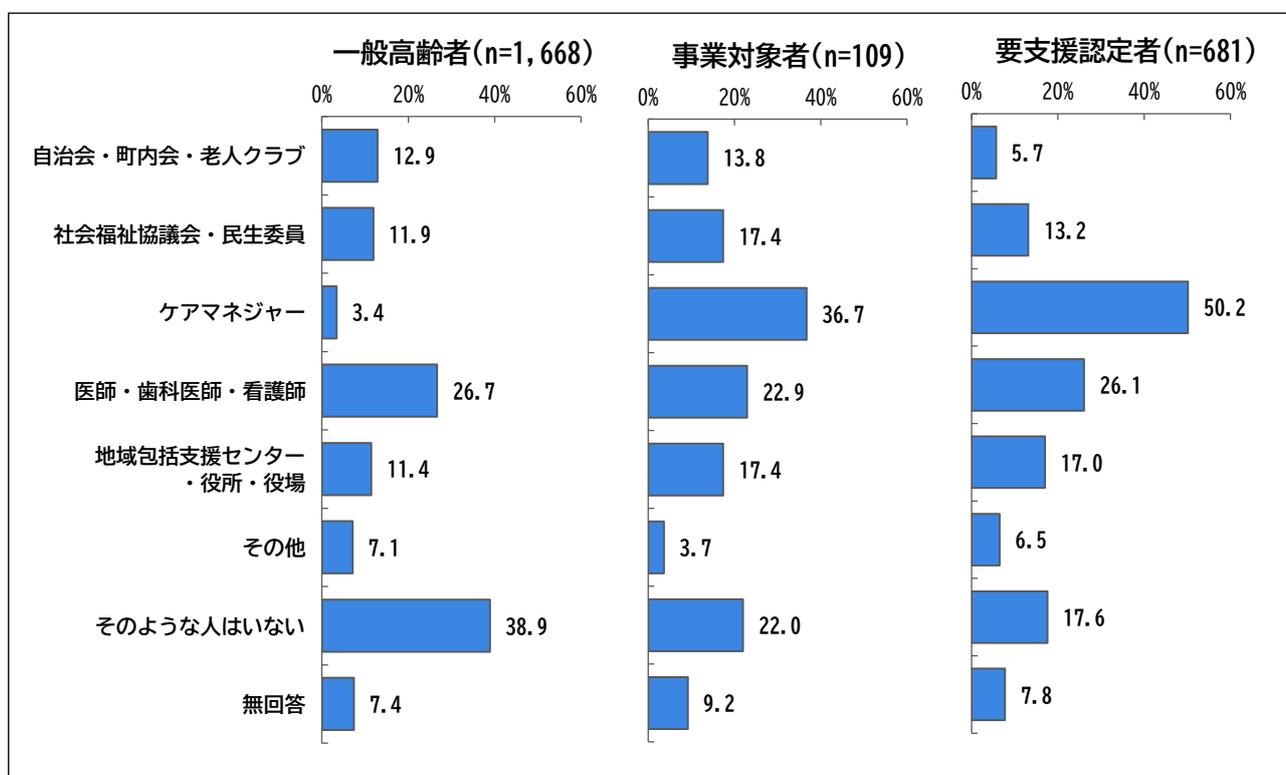
問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると一般高齢者では「そのような人はいない」(38.9%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(26.7%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(12.9%)となっています。

事業対象者では「ケアマネジャー」(36.7%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(22.9%)、「そのような人はいない」(22.0%)となっています。

要支援認定者では「ケアマネジャー」(50.2%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(26.1%)、「そのような人はいない」(17.6%)となっています。

図表 46 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）

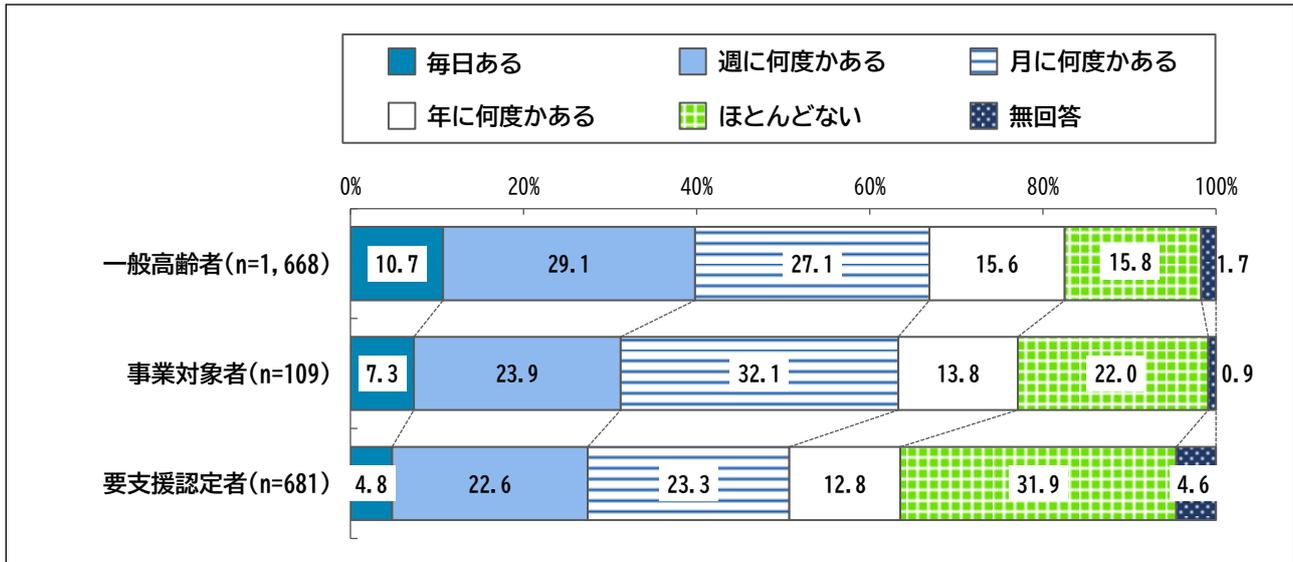


(4) 友人・知人との関係性

問6 (6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度をみると、一般高齢者では「週に何度かある」(29.1%)、事業対象者では「月に何度かある」(32.1%)、要支援認定者では「ほとんどない」(31.9%)がそれぞれ最も高くなっています。一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ、友人・知人と会う頻度が低くなっています。

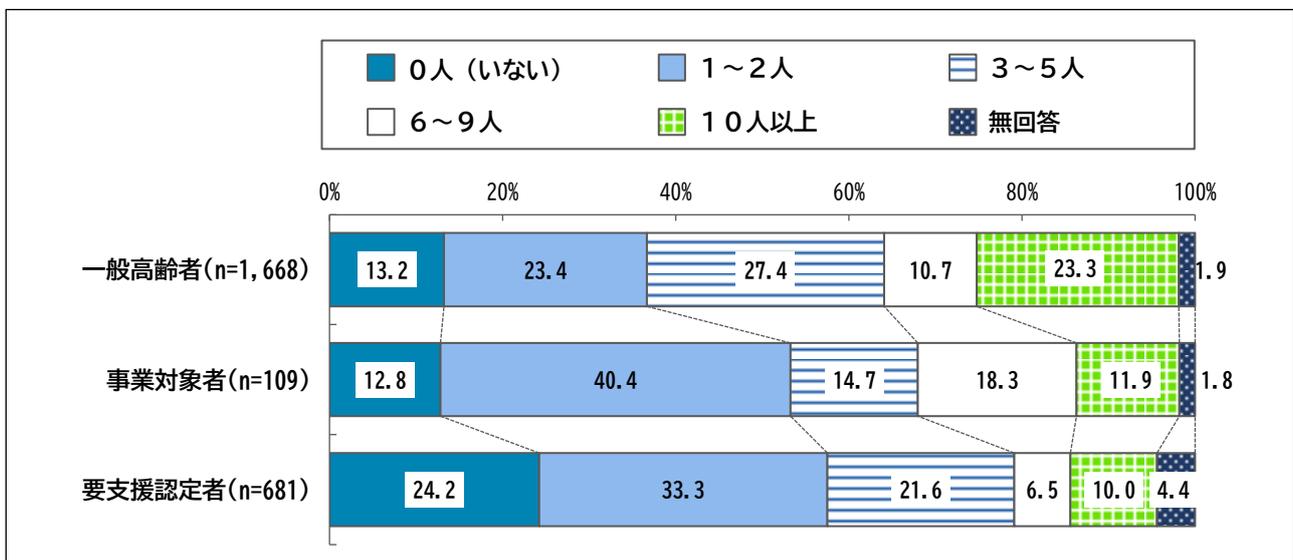
図表 47 友人・知人と会う頻度



問6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

1か月間で何人の友人・知人と会ったかをみると、一般高齢者では「3～5人」が27.4%と最も高くなっていますが、事業対象者、要支援認定者では「1～2人」が最も高くなっています。

図表 48 1か月間で何人の友人・知人と会ったか



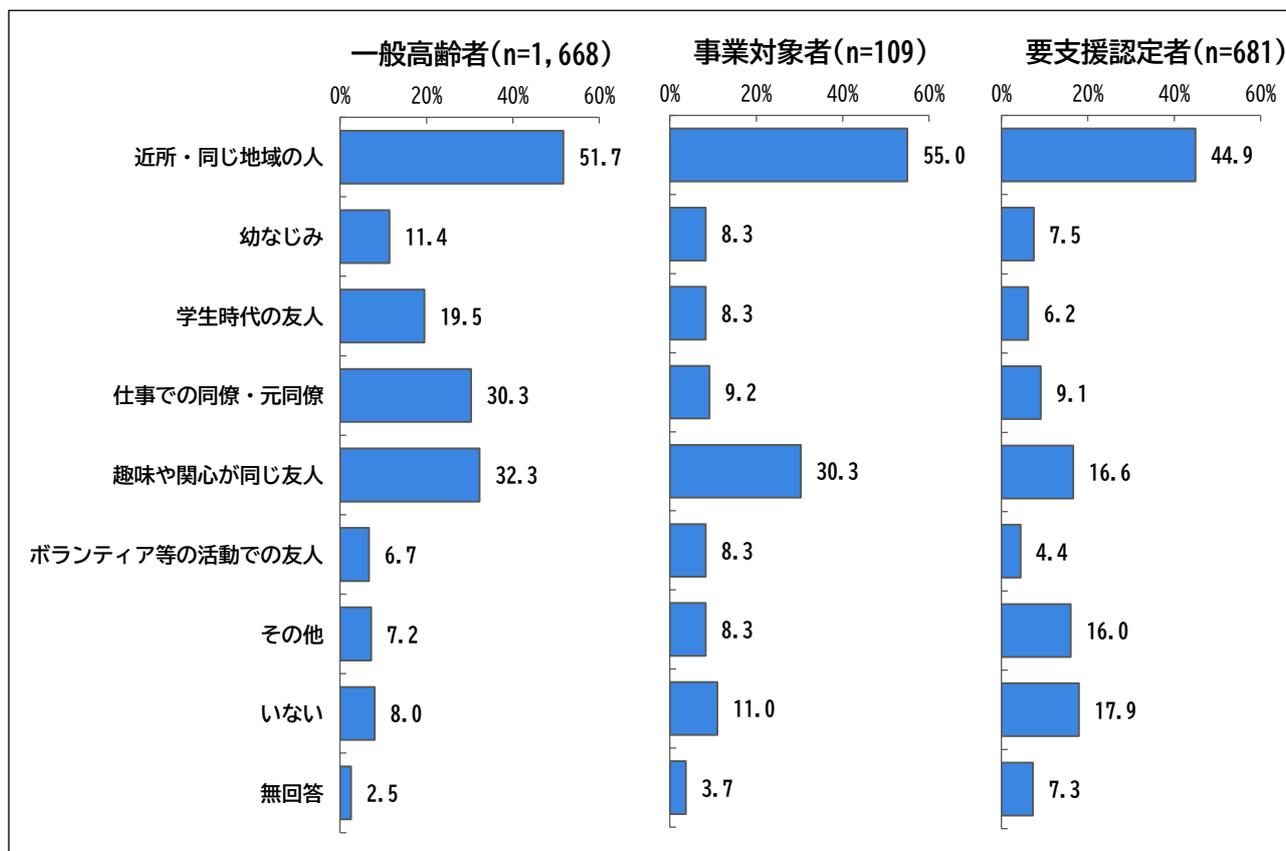
問6（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

よく会う友人・知人との関係についてみると、一般高齢者では「近所・同じ地域の人」（51.7%）が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（32.3%）、「仕事での同僚・元同僚」（30.3%）となっています。

事業対象者では「近所・同じ地域の人」（55.0%）が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（30.3%）、「いない」（11.0%）となっています。

要支援認定者では「近所・同じ地域の人」（44.9%）が最も高く、次いで「いない」（17.9%）、「趣味や関心が同じ友人」（16.6%）となっています。

図表 49 よく会う友人・知人との関係（複数回答）



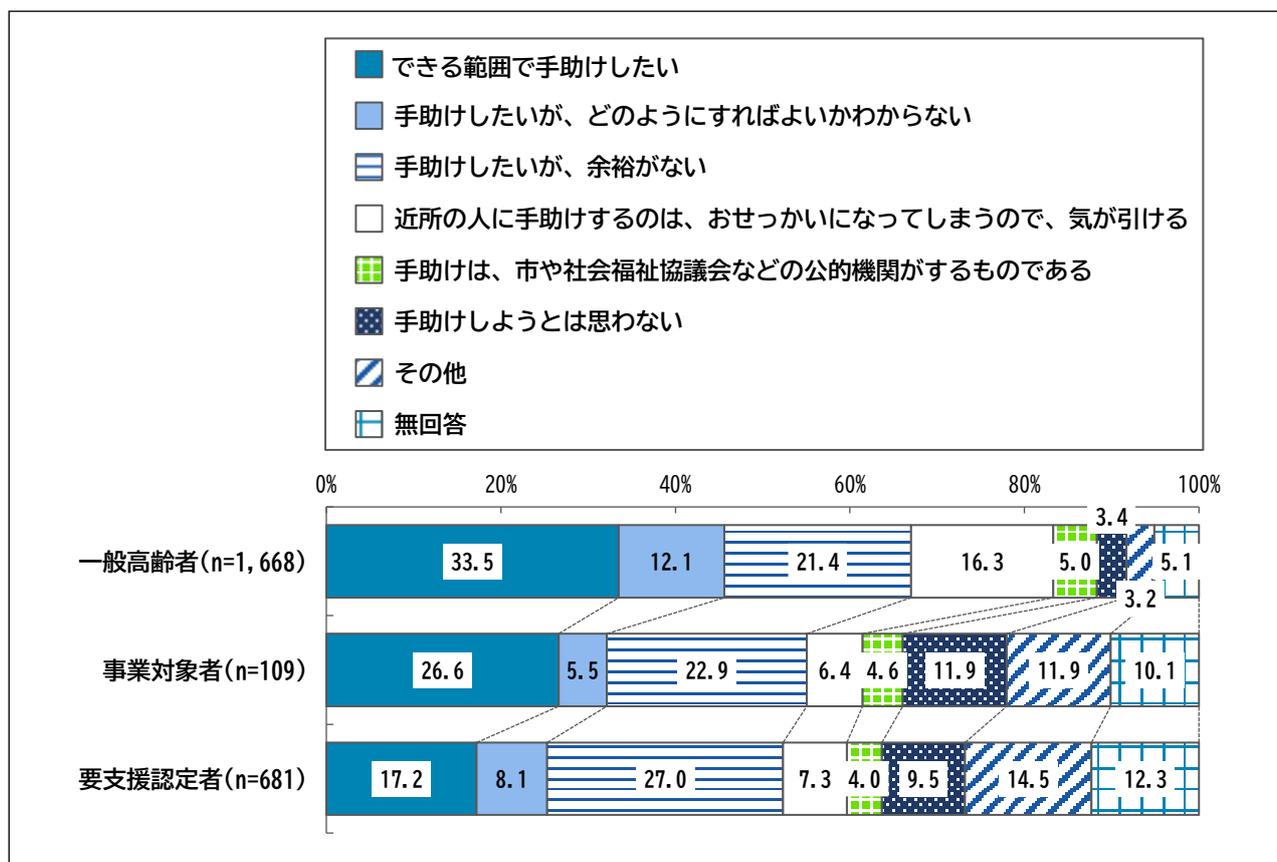
(5) 地域の高齢者への手助けについて

問6(9) 地域で何らかの日常生活の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについてあなたの考えに近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

地域で何らかの日常生活の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて自身の考えに近いものはどれかをみると、一般高齢者、事業対象者では「できる範囲で手助けしたい」が最も高く、次いで「手助けしたいが、余裕がない」となっています。

一方、要支援認定者では「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」なっています。

図表 50 地域の高齢者への手助けについて



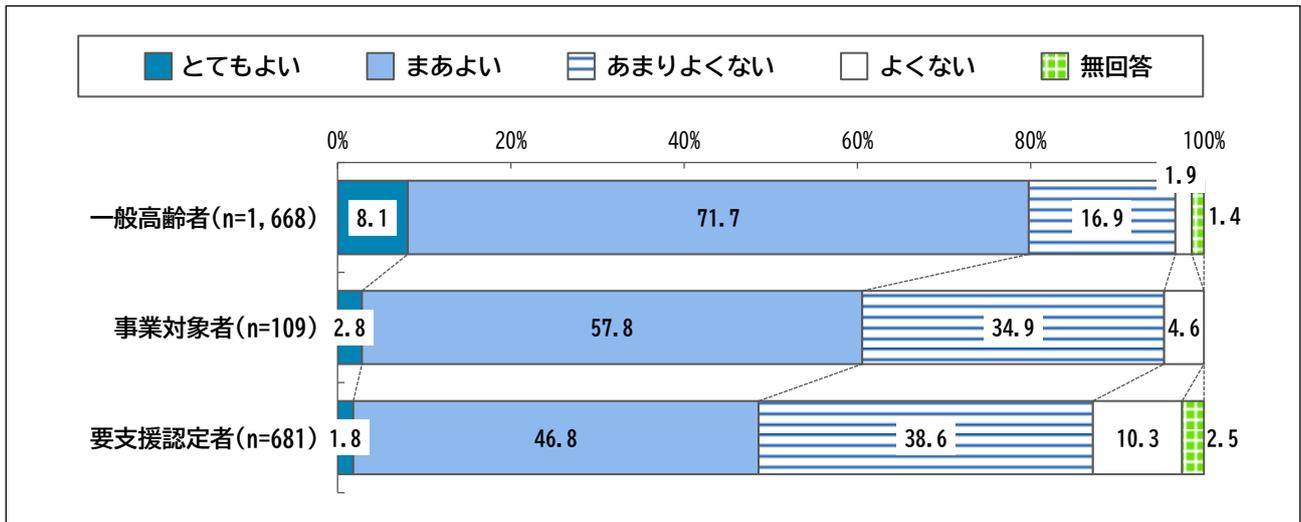
7 健康について

(1) 主観的健康感

問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態についてみると、「とてもよい」と「まあよい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 51 主観的健康感

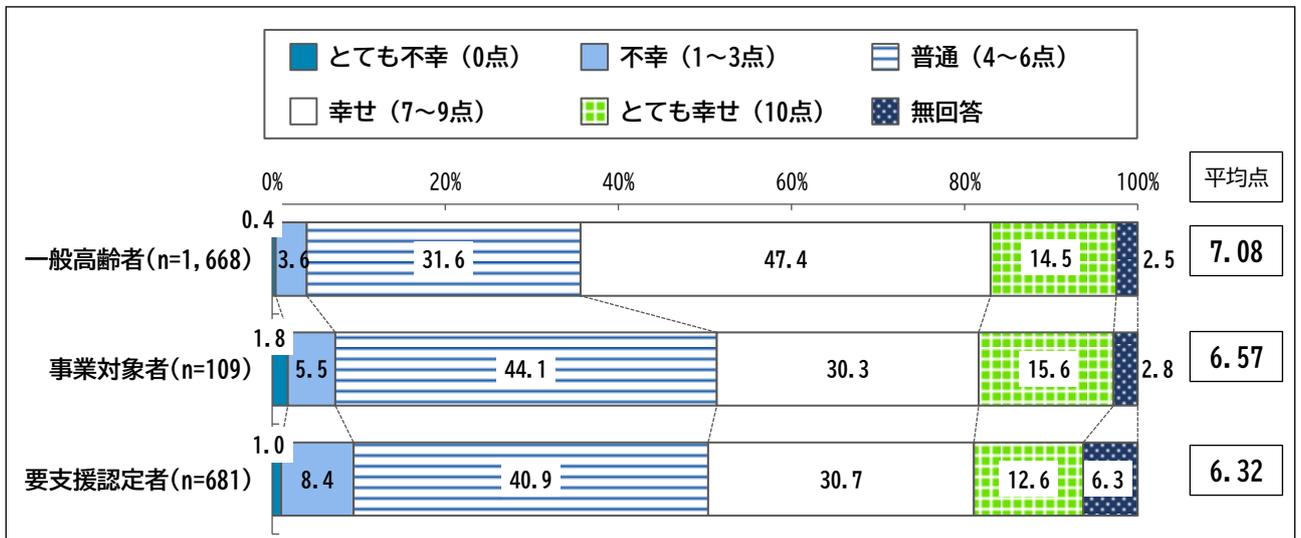


(2) 主観的幸福感

問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか。
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、一般高齢者では「幸せ(7~9点)」、事業対象者、要支援認定者では「普通(4~6点)」が最も高くなっています。

図表 52 主観的幸福感



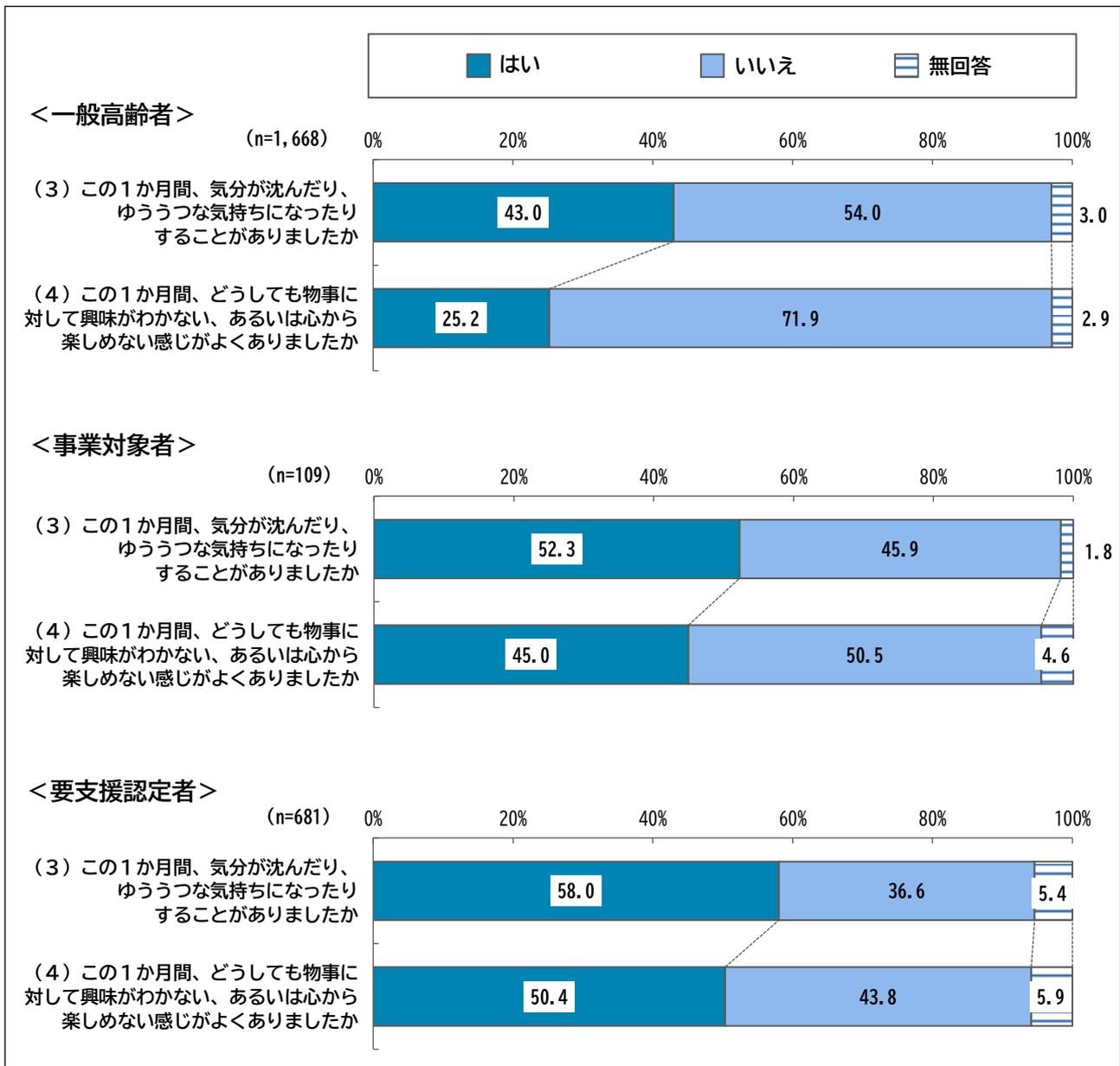
(3) うつ傾向について

問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
 問7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

『(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか』についてみると、「はい」の割合は、一般高齢者に比べて、事業対象者、要支援認定者では高くなっています。

また、『(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか』についても「はい」の割合は同様の傾向がみられ、その差は特に顕著となっています。

図表 53 うつ傾向について

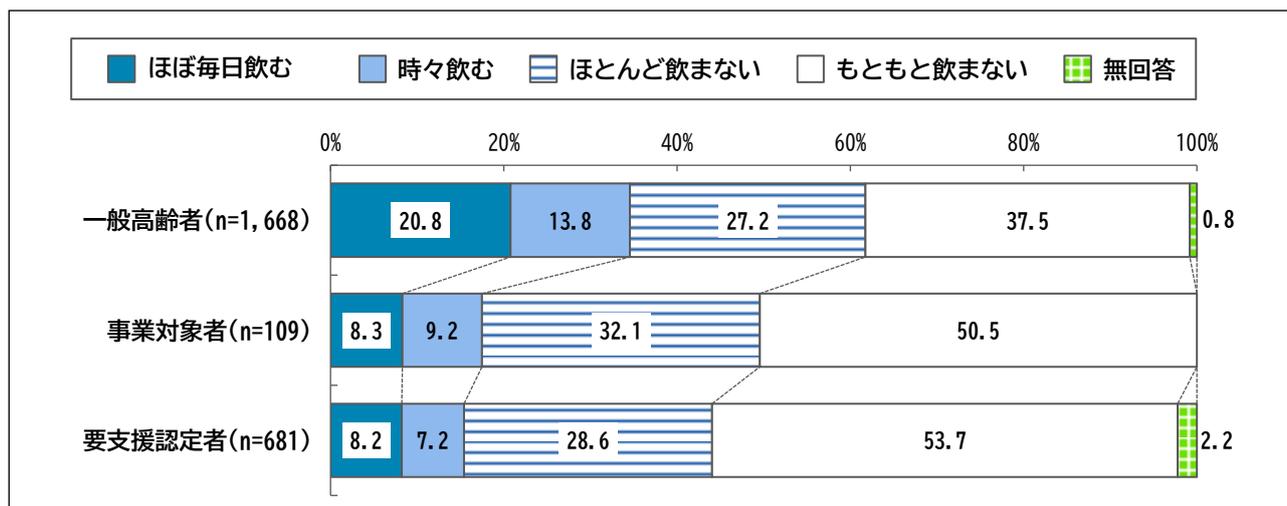


(4) 飲酒の習慣

問7(5) お酒は飲みますか。

飲酒の習慣についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「もともと飲まない」が最も高くなっています。一方、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合計した『飲酒の習慣がある』割合は、一般高齢者では34.6%、事業対象者では17.5%、要支援認定者では15.4%となっています。

図表 54 飲酒の習慣

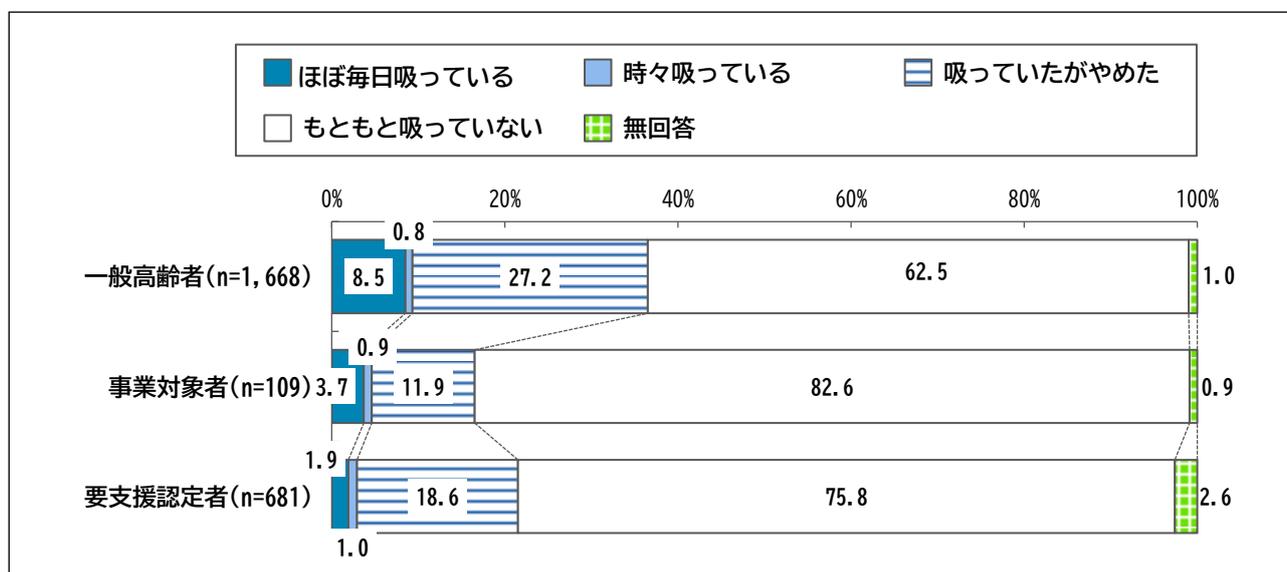


(5) 喫煙の習慣

問7(6) タバコは吸っていますか。

喫煙の習慣についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「もともと吸っていない」が最も高くなっています。一方、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合計した『喫煙の習慣がある』割合は、一般高齢者では9.3%、事業対象者では4.6%、要支援認定者では2.9%となっています。

図表 55 喫煙の習慣



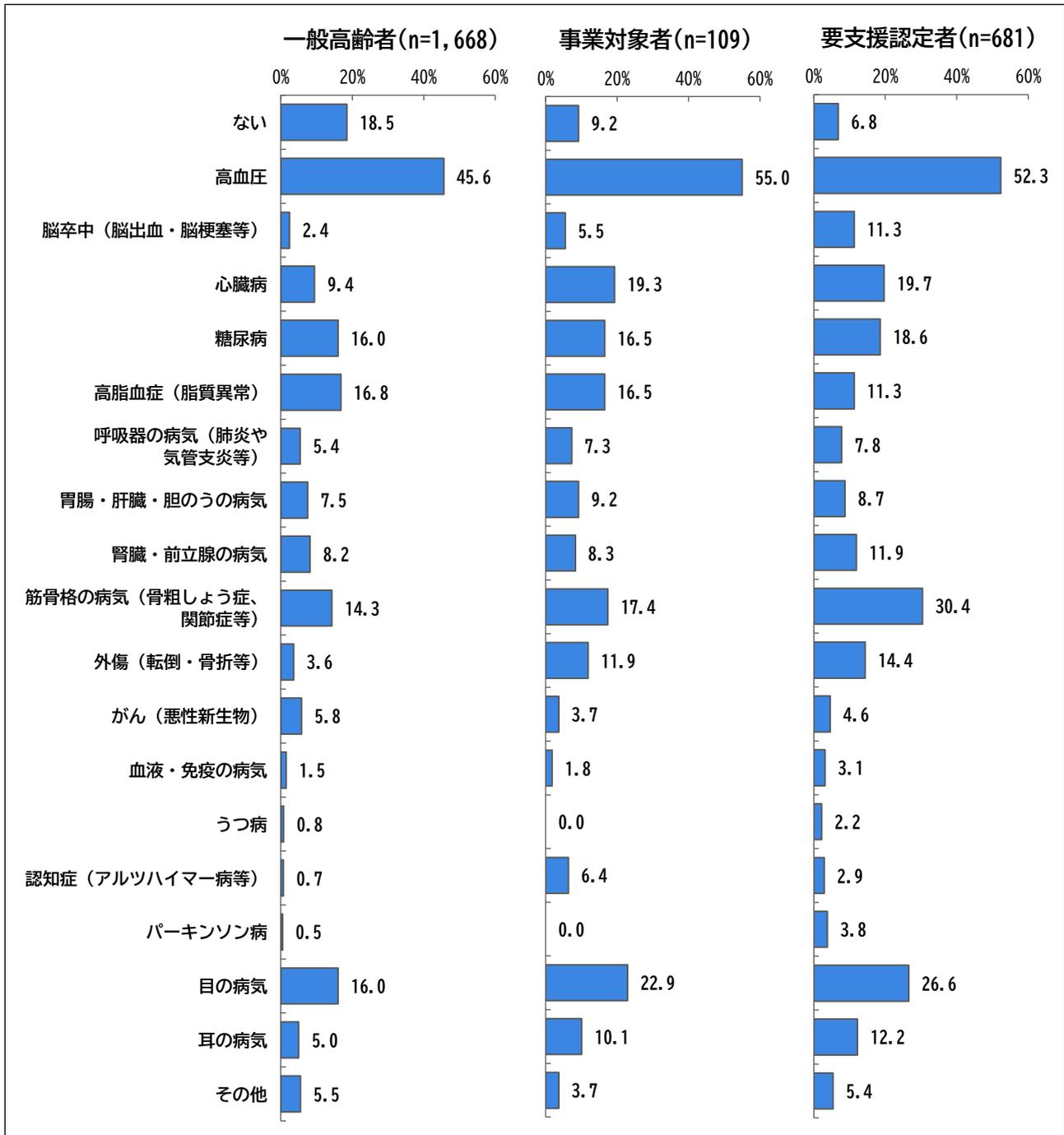
(6) 現在治療中、後遺症のある病気について

問7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「高血圧」が最も高くなっています。また、高血圧以外の病気では、一般高齢者では「高脂血症（脂質異常）」、「糖尿病」、「目の病気」、事業対象者では「目の病気」、「心臓病」、要支援認定者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」などの割合が高くなっています。

また、一般高齢者では「ない」が全体の第2位となっています。

図表 56 現在治療中、後遺症のある病気（複数回答）



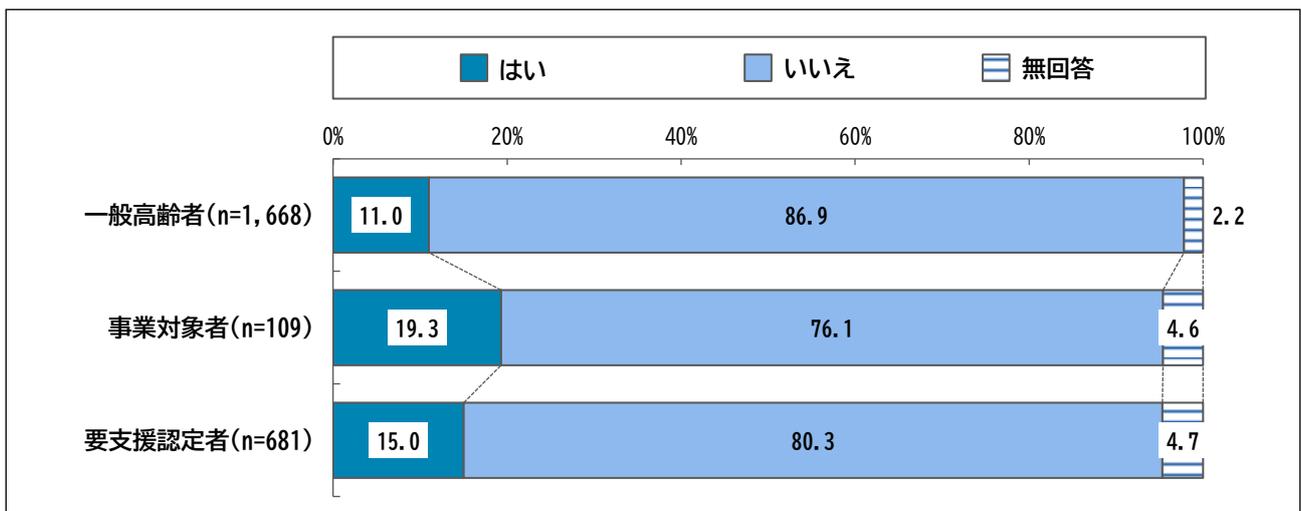
8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状の有無について

問8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをみると、「はい」の割合は、一般高齢者では11.0%、事業対象者では19.3%、要支援認定者では15.0%となっています。

図表 57 本人または家族の認知症の症状の有無について

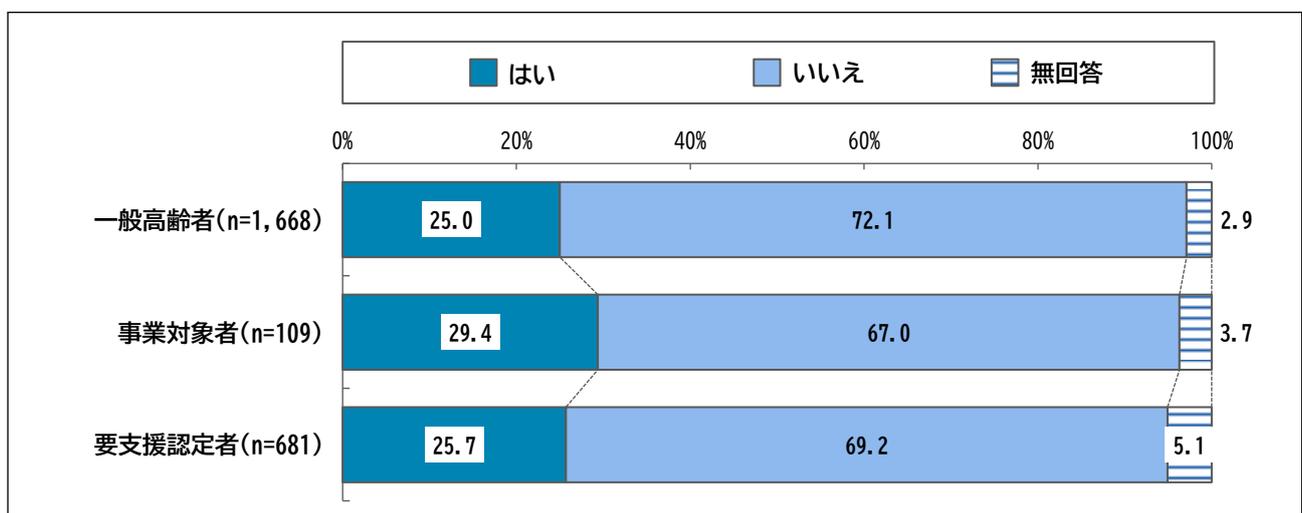


(2) 認知症に関する相談窓口について

問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかについてみると、「はい」の割合は、一般高齢者では25.0%、事業対象者では29.4%、要支援認定者では25.7%となっており、いずれも認知度は3割未満となっています。

図表 58 認知症に関する相談窓口の認知度

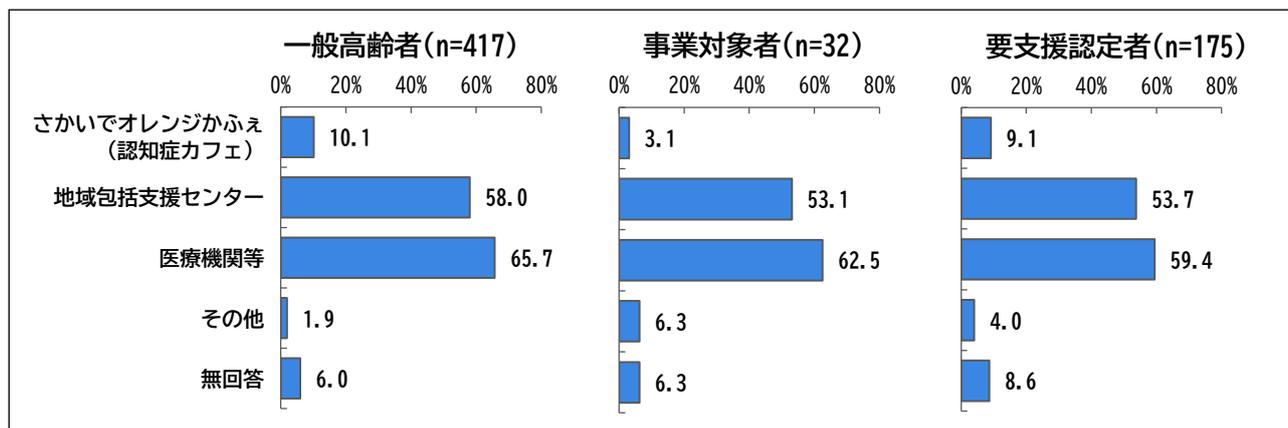


※問8（2）で「はい」と答えたかたのみ

問8（3）相談窓口で知っているところはどこですか。（いくつでも）

知っている認知症の相談窓口については、「医療機関等」が最も高く、次いで「地域包括支援センター」となっています。

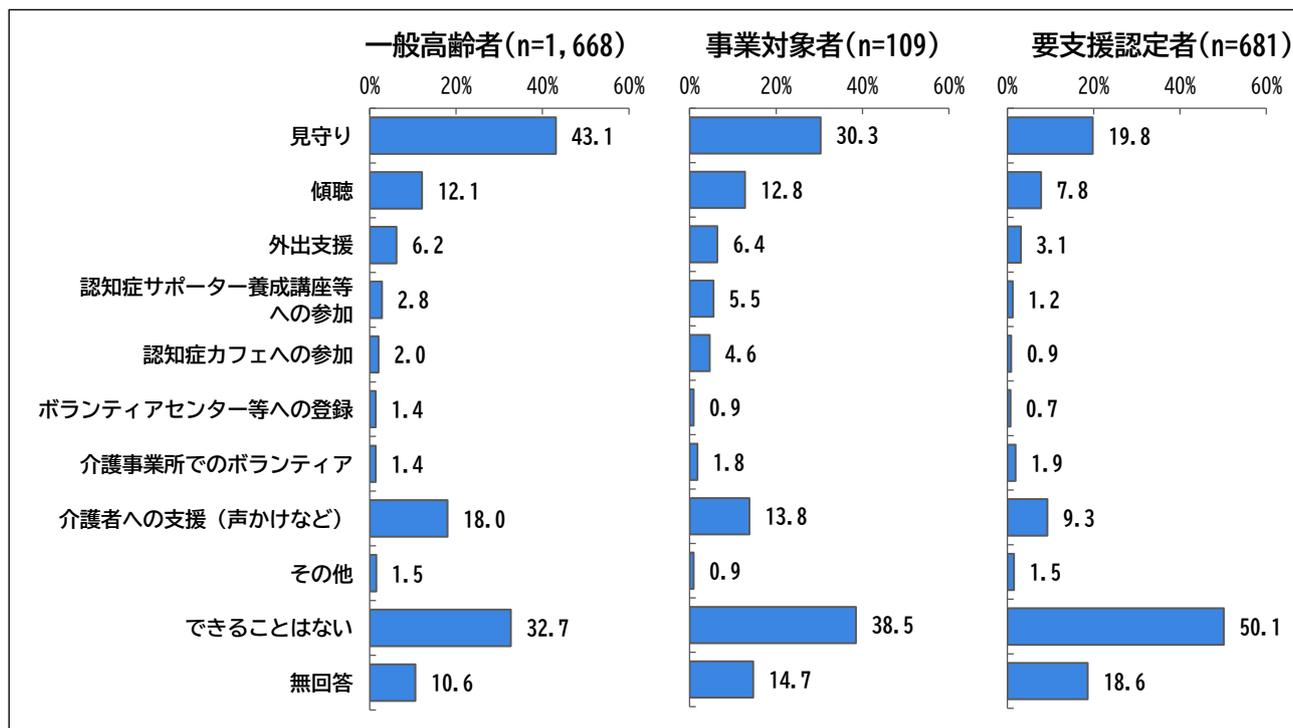
図表 59 知っている認知症の相談窓口（複数回答）



問8（4）認知症のかたへの支援として、あなたにできることはありますか。（いくつでも）

認知症のかたへの支援としてできることについては、「見守り」、「介護者への支援（声かけなど）」、「傾聴」などの割合が高くなっています。また、「できることはない」が一般高齢者、事業対象者、要支援認定者のいずれも3割を超えています。

図表 60 認知症のかたにできる支援（複数回答）



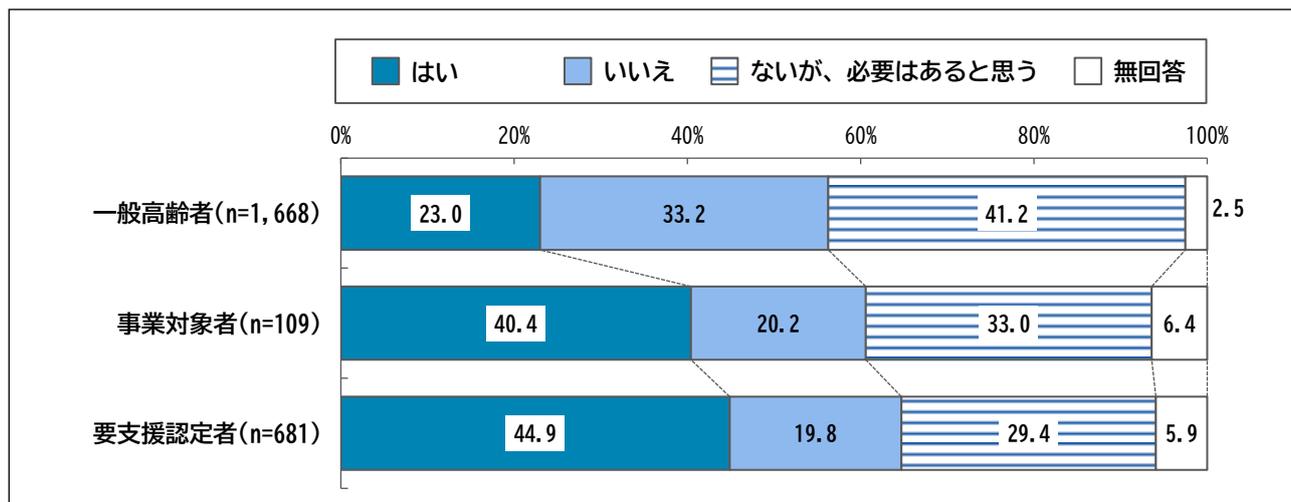
9 在宅医療・介護について

(1) 治療・ケアに関することについて

問9 (1) あなたは、自分の希望する治療やケアについて、家族等と話し合ったことがありますか。

治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無についてみると、一般高齢者では「ないが、必要はあると思う」が最も高く、事業対象者、要支援認定者では「はい」が最も高くなっています。

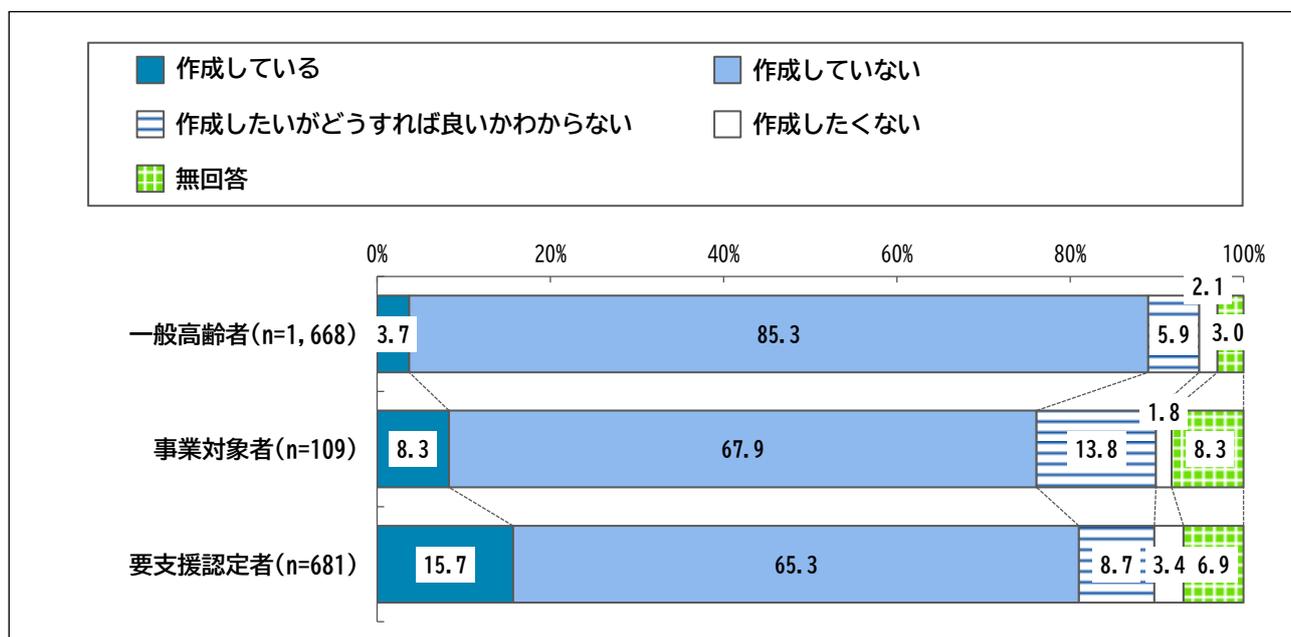
図表 61 治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無



問9 (2) あなたは、自分の希望する治療やケアについて、書面を作成していますか。

治療・ケアに関する書面作成の状況については、「作成している」の割合は、一般高齢者では3.7%、事業対象者では8.3%、要支援認定者では15.7%となっており、いずれも低い割合となっています。

図表 62 治療・ケアに関する書面作成の状況



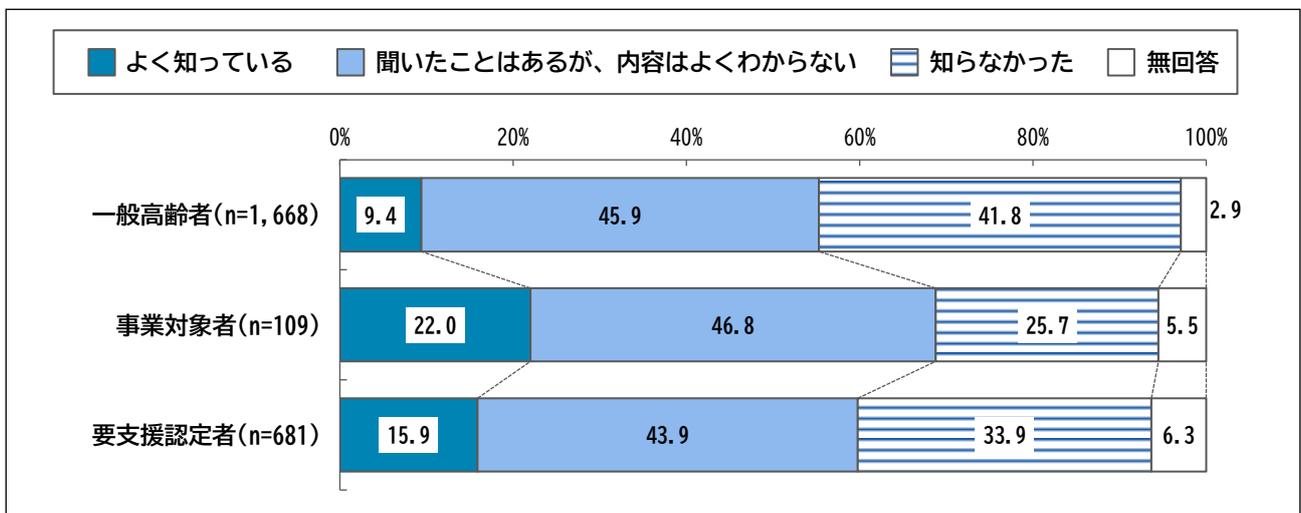
10 介護・福祉サービスについて

(1) 介護予防について

問 10 (1) 平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命を伸ばすことが大事です。本市では、高齢者の皆さん自ら介護予防を行う手助けとして「はつらつ教室」等、様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う「介護予防事業」について当てはまるものを1つだけ選んでください。

介護予防事業の認知度についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が最も高くなっています。また、「よく知っている」は事業対象者で22.0%となっており、一般高齢者、要支援認定者よりも認知度は高くなっています。

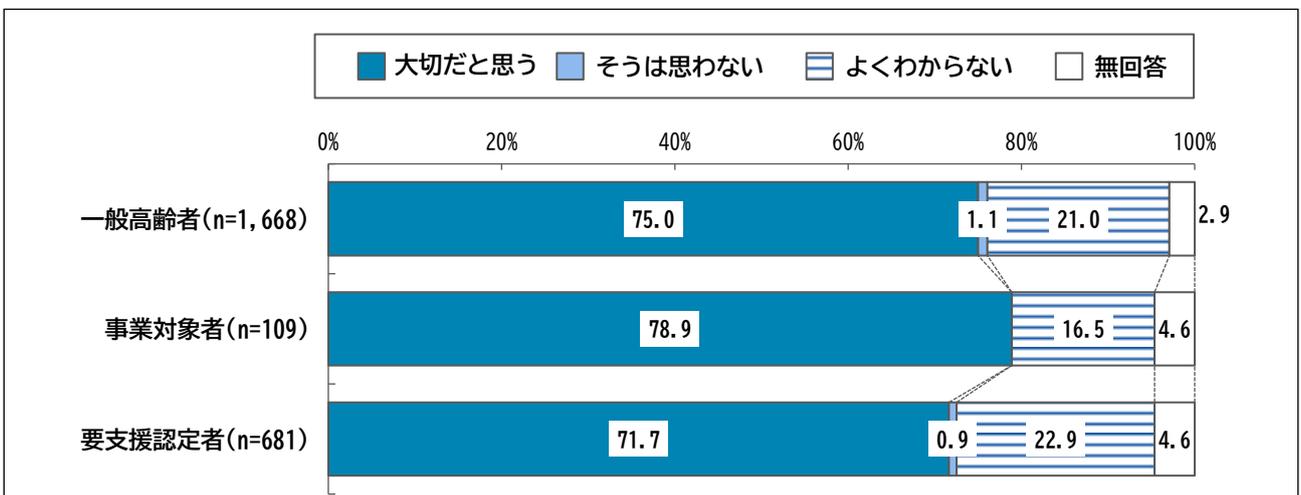
図表 63 介護予防事業の認知度



問 10 (2) 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組み推進は大切だと思うかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「大切だと思う」が最も高くなっており、事業対象者で78.9%と特に高くなっています。

図表 64 介護予防の取り組み推進は大切だと思うか



※問10(2)で「大切だと思う」と答えたかたのみ

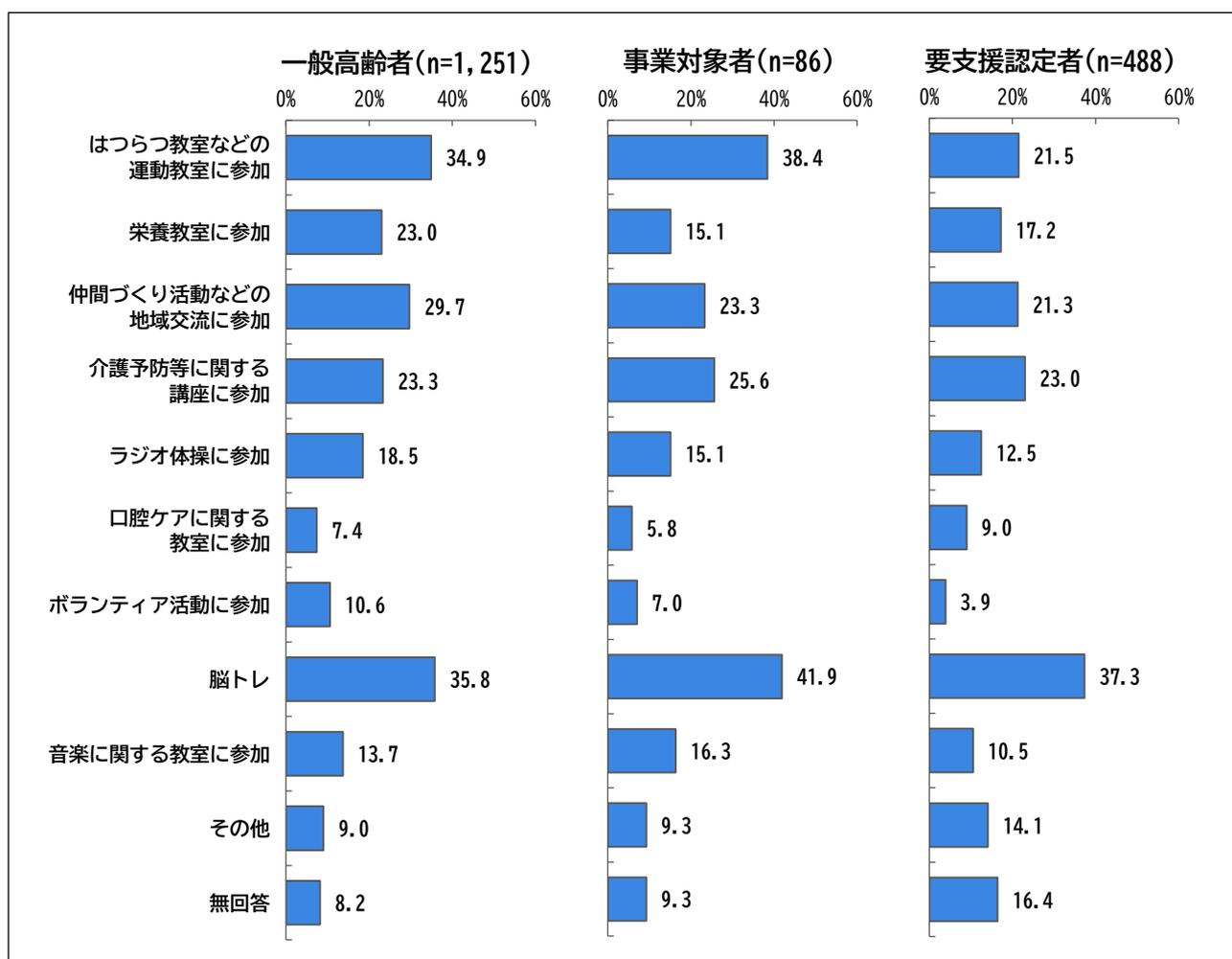
問10(2-1)あなたが、健康維持のために取り組んでいること、または、取り組んでみたいことを3つまで選んでください。

健康維持のために取り組んでいる（取り組んでみたい）ことについてみると、一般高齢者では「脳トレ」（35.8%）が最も高く、次いで「はつらつ教室などの運動教室に参加」（34.9%）、「仲間づくり活動などの地域交流に参加」（29.7%）となっています。

事業対象者では、「脳トレ」（41.9%）が最も高く、次いで「はつらつ教室などの運動教室に参加」（38.4%）、「介護予防等に関する講座に参加」（25.6%）となっています。

要支援認定者では「脳トレ」（37.3%）が最も高く、次いで「介護予防等に関する講座に参加」（23.0%）、「はつらつ教室などの運動教室に参加」（21.5%）となっています。

図表 65 健康維持のために取り組んでいる（取り組んでみたい）こと（複数回答：3つまで）



(2) 介護保険について

問 10 (3) 現在の介護保険に対するあなたの評価として一番近いものを1つだけ選んでください。

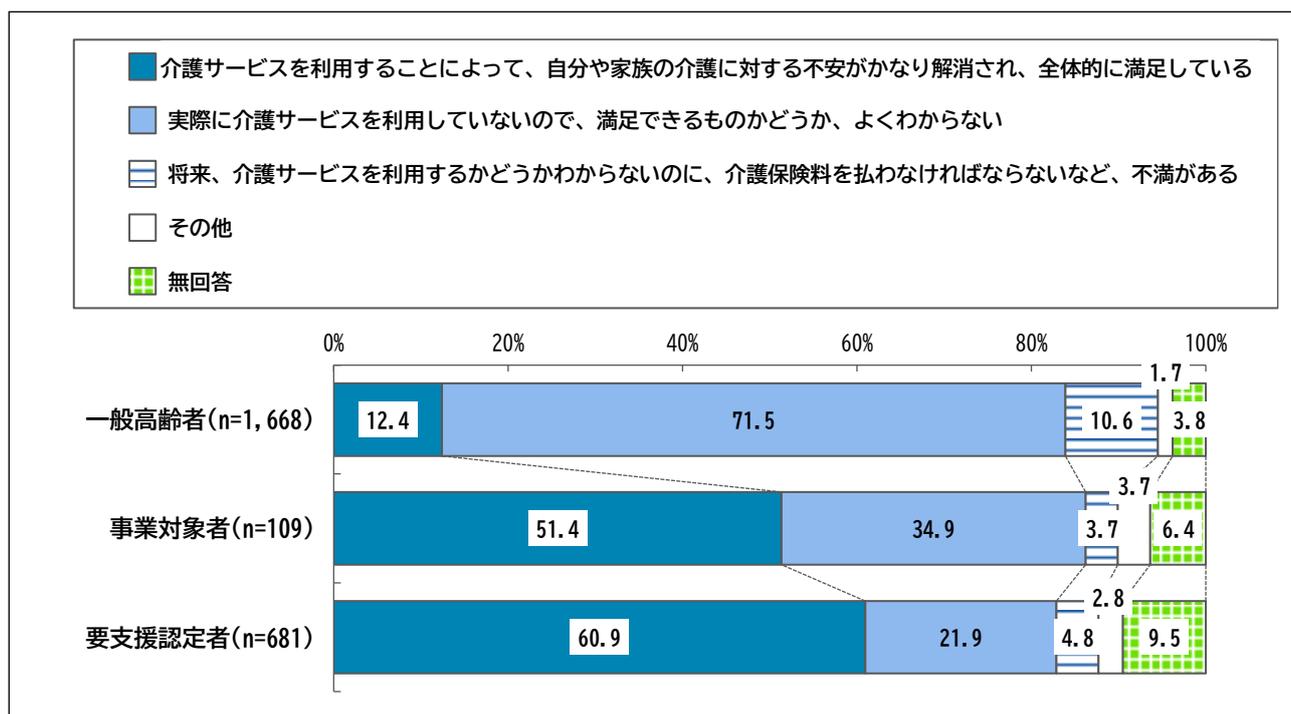
現在の介護保険に対する評価をみると、一般高齢者では「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」が71.5%と最も高く、次いで「介護サービスを利用することによって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」が12.4%となっています。

事業対象者では、「介護サービスを利用することによって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」が51.4%と最も高く、次いで「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」が34.9%となっています。

要支援認定者でも同様に、「介護サービスを利用することによって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」が60.9%と最も高く、事業対象者よりも高い割合となっています。

次いで「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」が21.9%となっています。

図表 66 現在の介護保険に対する評価



(3) 将来の住まいと介護サービスの利用について

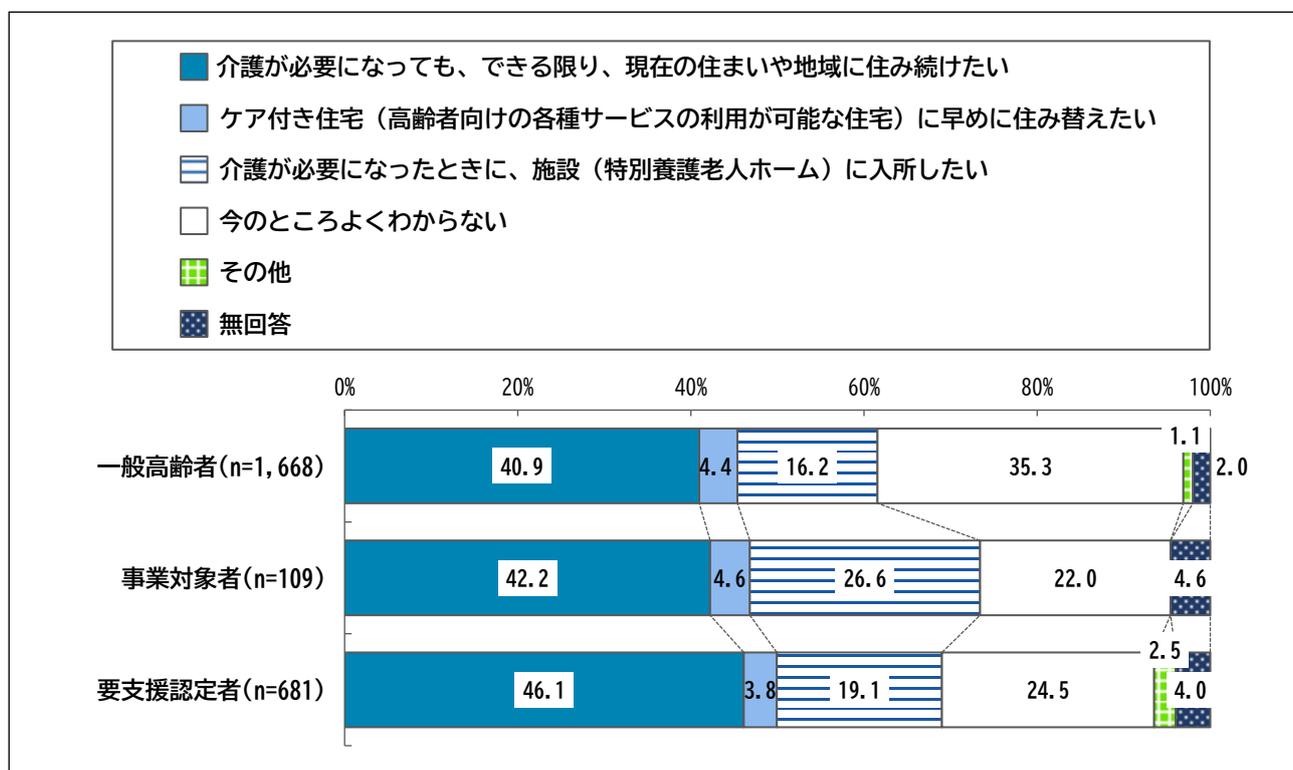
問10(4) 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。一番近いものを1つだけ選んでください。

将来の住まいと介護サービスの利用についてみると、一般高齢者では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が40.9%と最も高く、次いで「今のところよくわからない」が35.3%となっています。

事業対象者では、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が42.2%と最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム）に入所したい」が26.6%となっています。

要支援認定者では、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が46.1%と最も高く、次いで「今のところよくわからない」が24.5%となっています。

図表 67 将来の住まいと介護サービスの利用について



(4) 高齢化社会において重要な方策

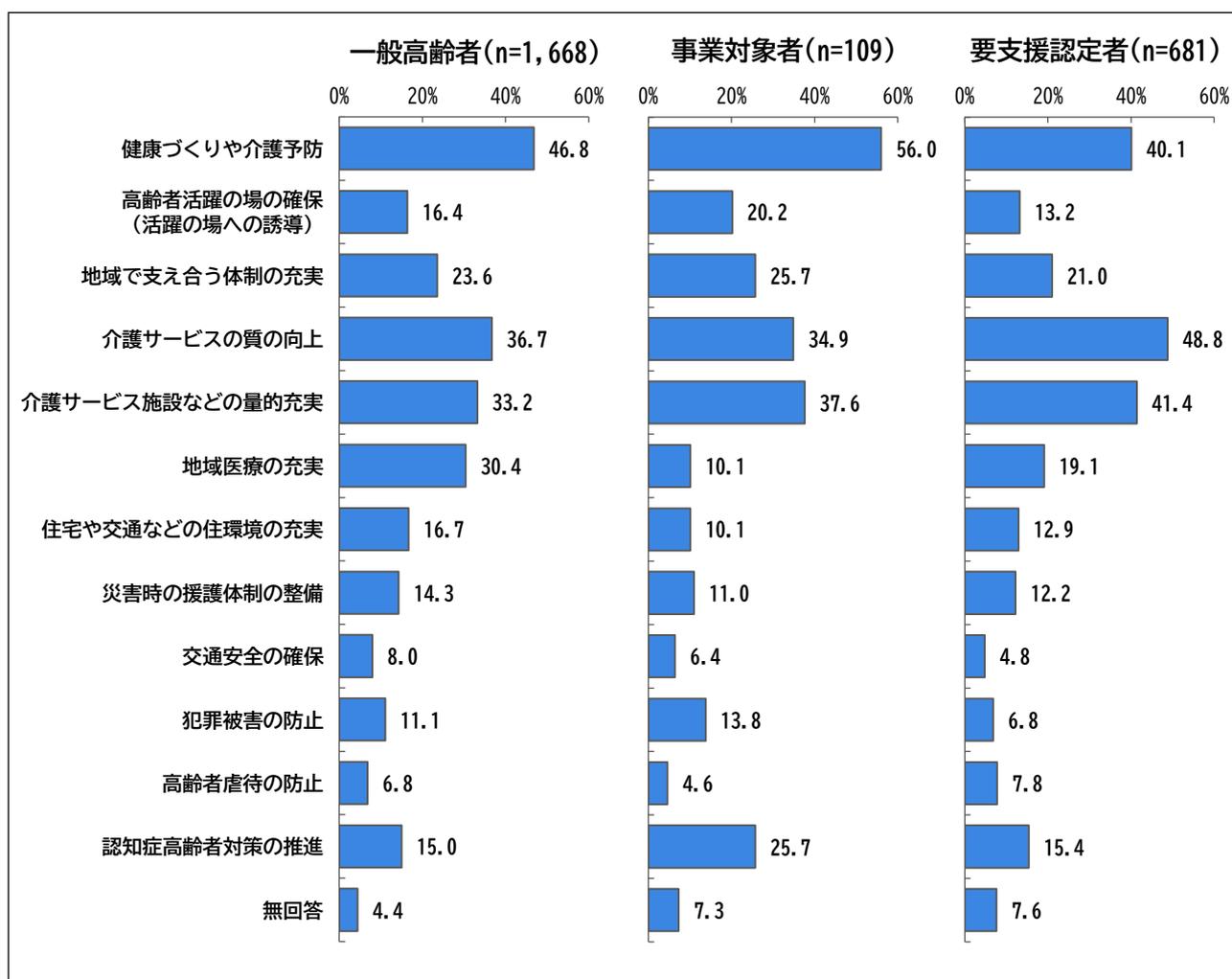
問10 (5) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

高齢化社会において重要な方策についてみると、一般高齢者では「健康づくりや介護予防」(46.8%)が最も高く、次いで「介護サービスの質の向上」(36.7%)、「介護サービス施設などの量的充実」(33.2%)などとなっています。

事業対象者では「健康づくりや介護予防」(56.0%)が最も高く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」(37.6%)、「介護サービスの質の向上」(34.9%)となっています。

要支援認定者では「介護サービスの質の向上」(48.8%)が最も高く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」(41.4%)、「健康づくりや介護予防」(40.1%)となっています。

図表 68 高齢化社会において重要な方策（複数回答）



Ⅳ 前回調査との比較

Ⅰ 家族や生活状況について

問1（1）家族構成をお教えてください。

【一般高齢者】

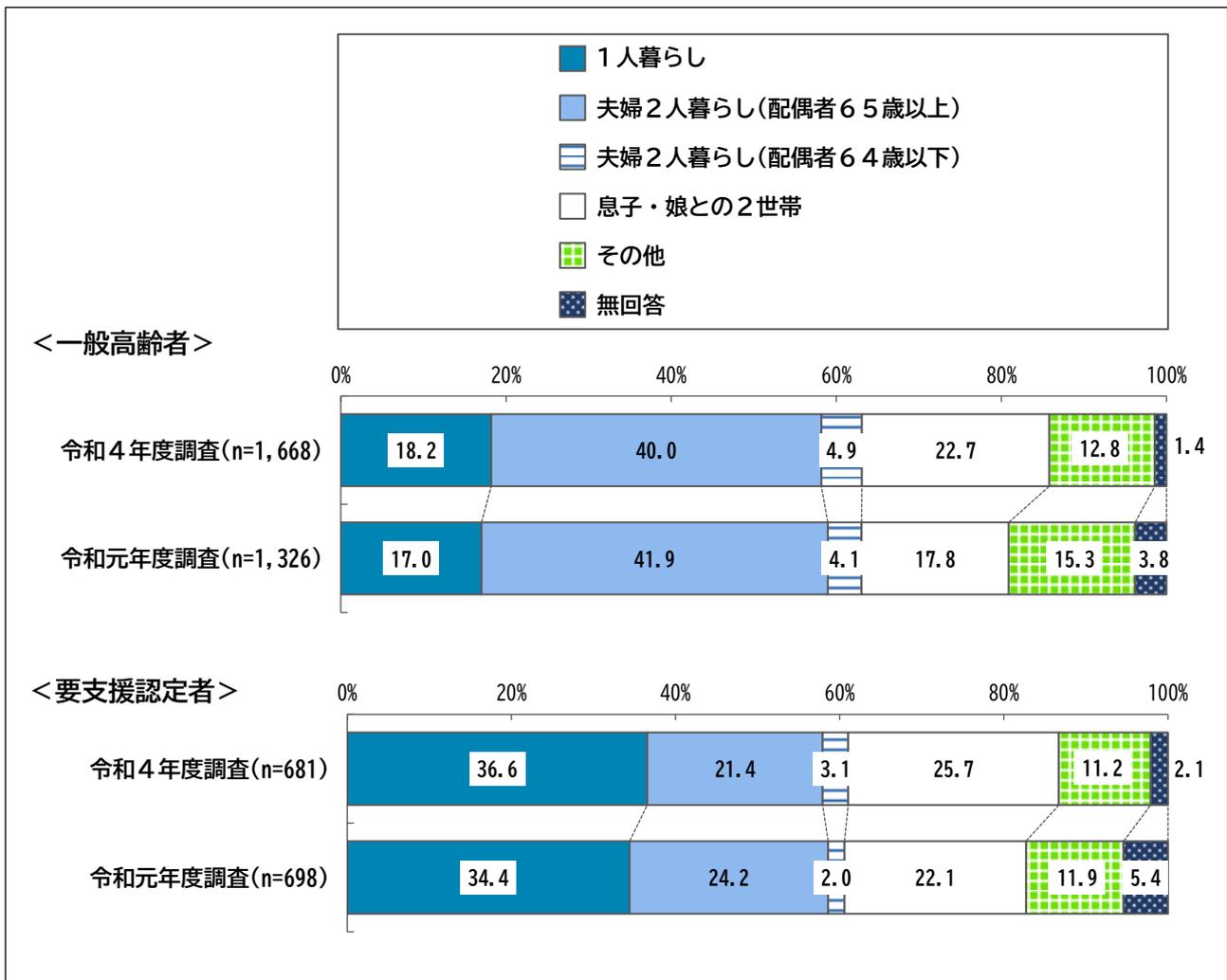
令和元年度調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が4.9ポイント増加しており、「1人暮らし」、「その他」を除いた『家族との同居』をしている割合は3.8ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が3.6ポイント増加しており、『家族との同居』をしている割合は1.9ポイント増加しています。

一方、「1人暮らし」も2.2ポイント増加しています。

図表 69 家族構成について（前回比較）



問1（2）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

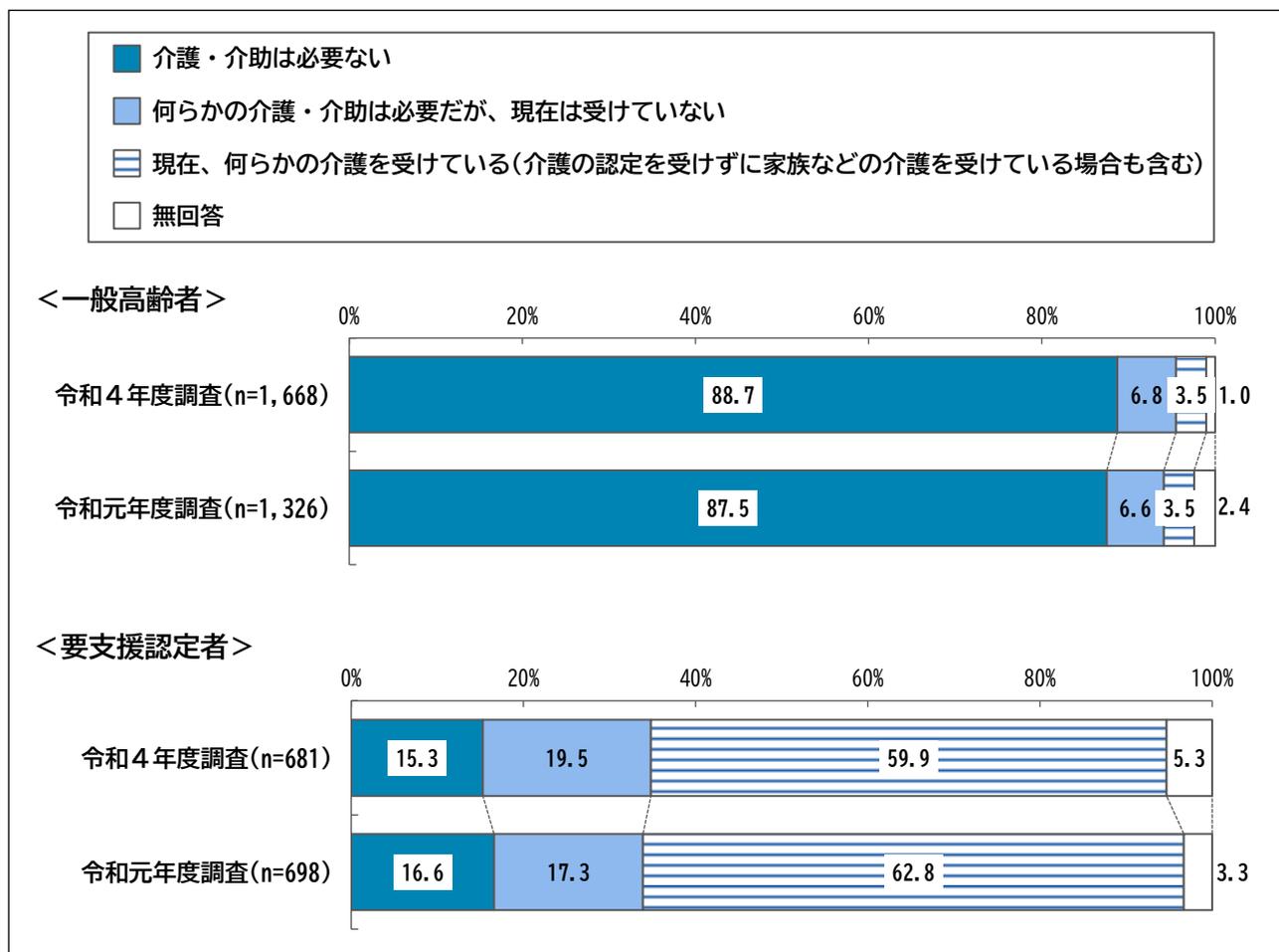
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が1.2ポイントわずかに増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が2.2ポイント増加しています。一方、「介護・介助は必要ない」が1.3ポイント、「現在、何らかの介護を受けている（介護の認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が2.9ポイント減少しています。

図表 70 介護・介助の必要性（前回比較）



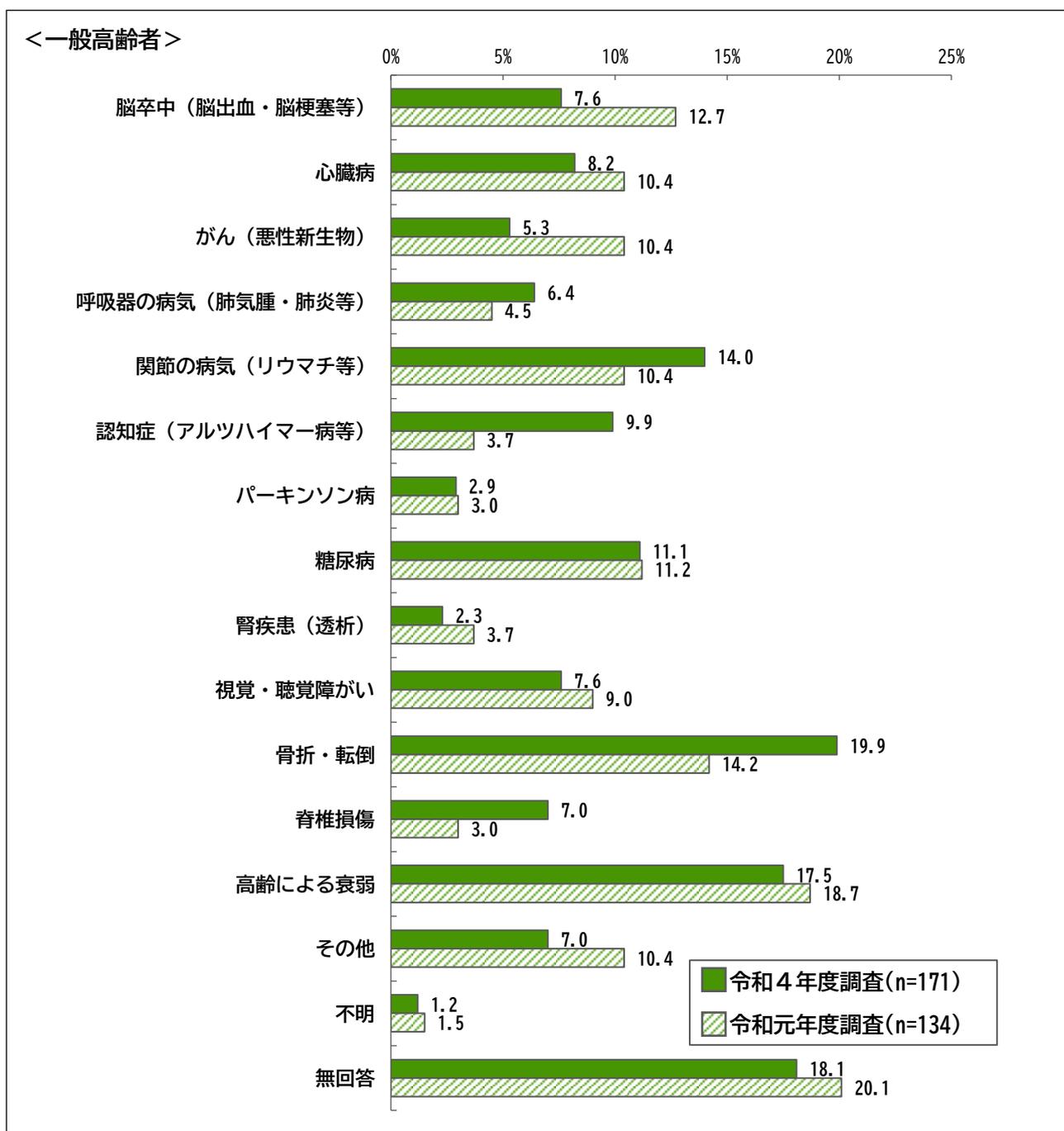
※問1(2)で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

問1(2-1)介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(いくつでも)

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「がん（悪性新生物）」が5.1ポイント減少しています。一方、「認知症（アルツハイマー病等）」は6.2ポイント、「骨折・転倒」は5.7ポイント増加しています。

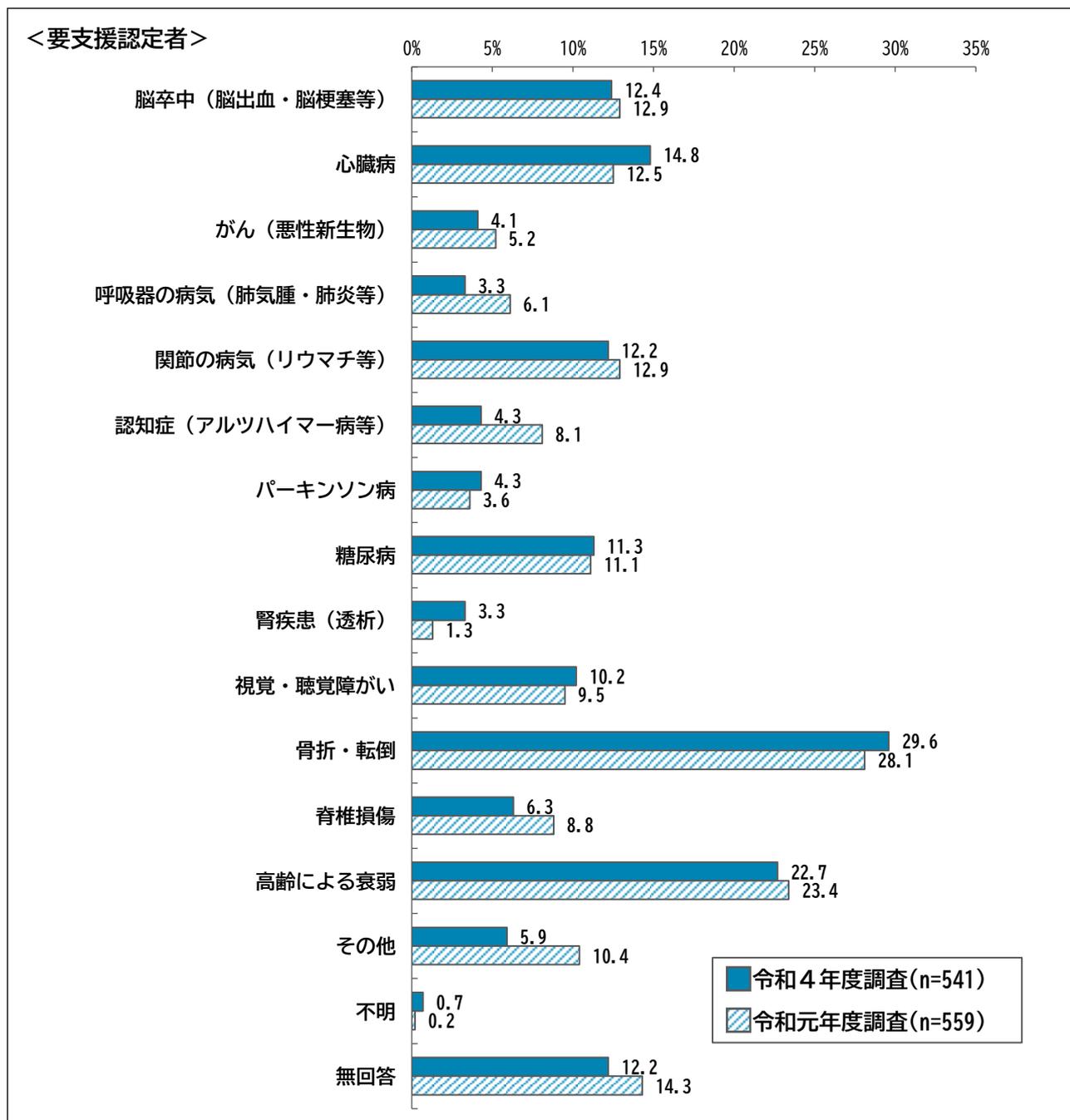
図表 71 介護・介助が必要になった主な原因（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「心臓病」は 2.3 ポイント増加しています。一方、「呼吸器系の病気（肺気腫・肺炎等）」は 2.8 ポイント、「認知症（アルツハイマー病等）」3.8 ポイント、「脊椎損傷」は 2.5 ポイント減少しています。

図表 72 介護・介助が必要になった主な原因（前回比較／複数回答）



※問1(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

問1(2-2)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも)

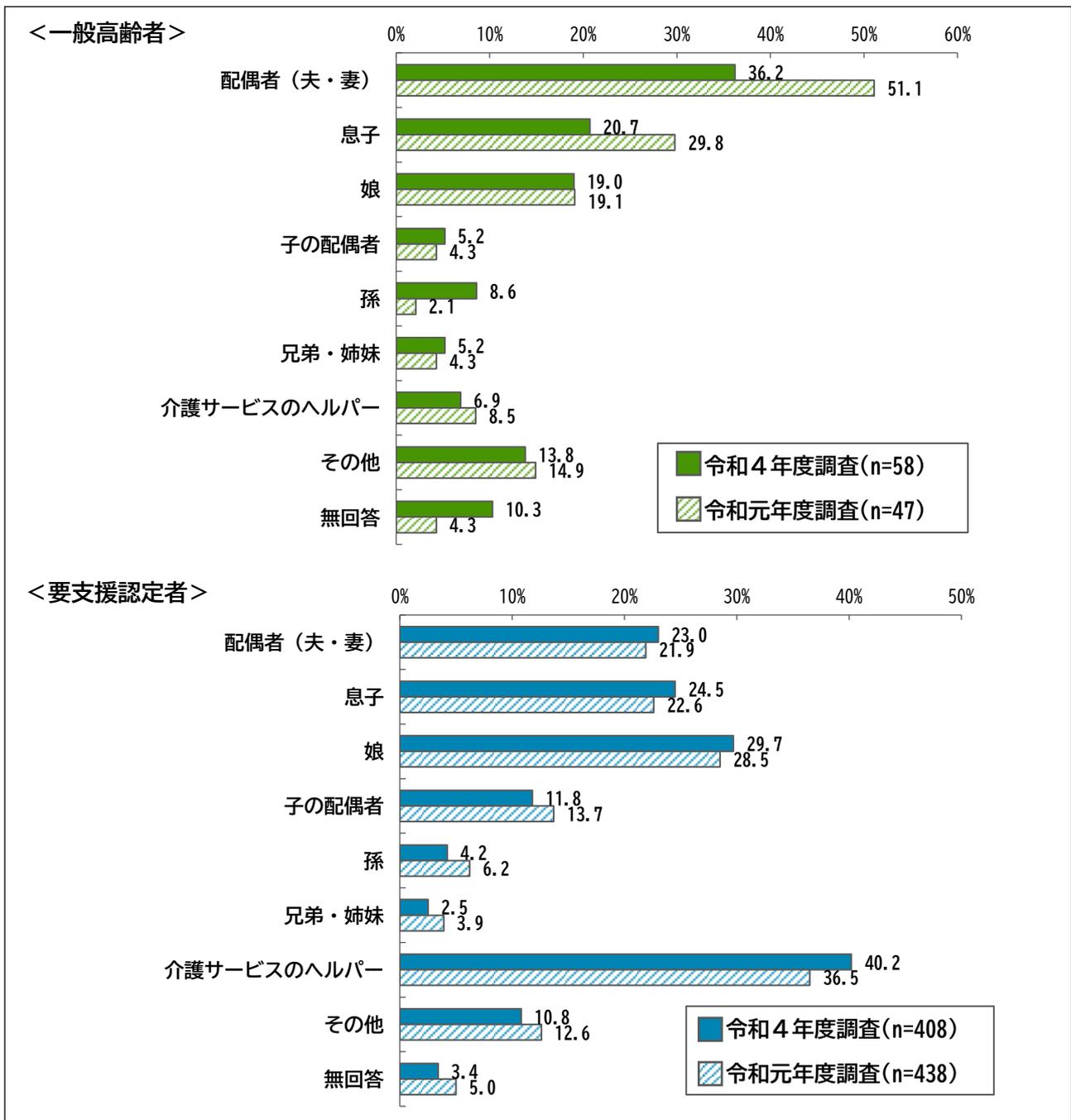
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」が14.9ポイント、「息子」の割合が9.1ポイント減少し、「孫」が6.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」、「息子」、「娘」などの割合が増加していますが、特に「介護サービスのヘルパー」は3.7ポイント増加しています。

図表 73 主な介護・介助者(前回比較/複数回答)



問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

【一般高齢者】

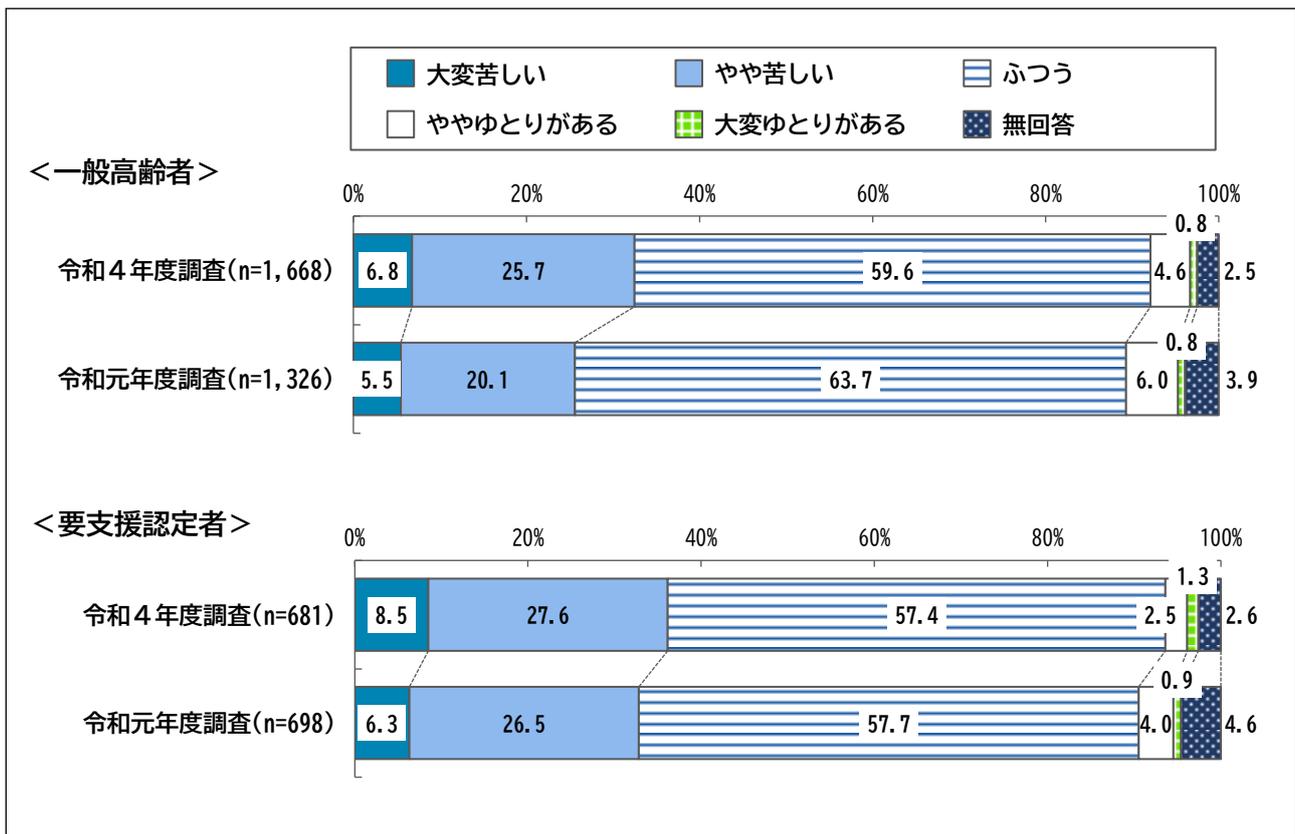
令和元年度調査と比較すると、「やや苦しい」が5.6ポイント増加しています。

また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した『苦しい』の割合は、令和元年度の25.6%に対し、令和4年度では32.5%と6.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「大変苦しい」は2.2ポイント、「やや苦しい」は1.1ポイント増加しており、『苦しい』の割合は、令和元年度の32.8%に対し、令和4年度で36.1%と3.3ポイント増加しています。

図表 74 現在の経済状況について（前回比較）



問1（4）お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか。

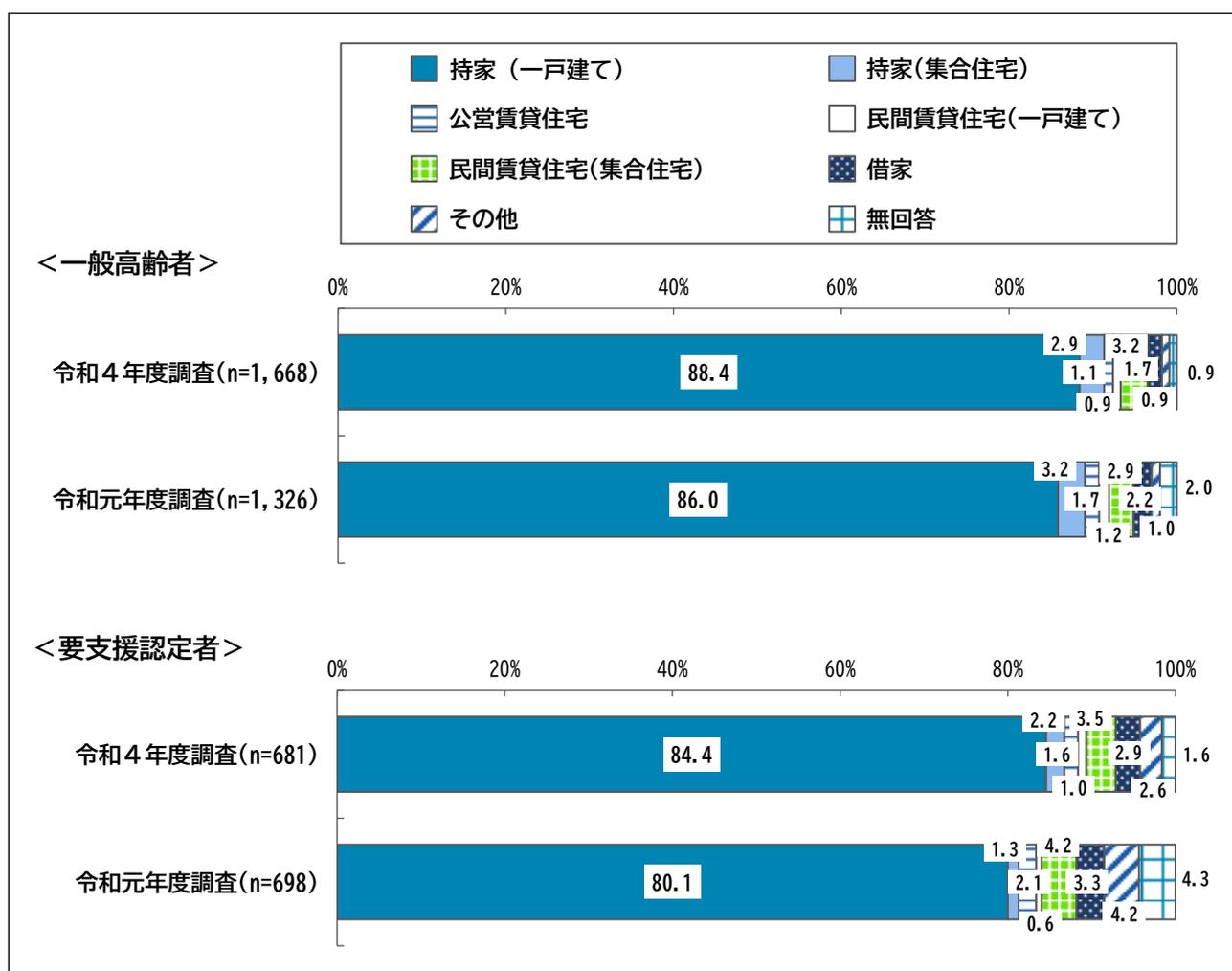
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「持家（一人建て）」が2.4ポイント増加しており、令和元年度同様「持家（一人建て）」が8割以上を占めています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「持家（一人建て）」が4.3ポイント増加しており、令和元年度同様「持家（一人建て）」が8割以上を占めています。

図表 75 現在の住まいについて（前回比較）



2 からだを動かすことについて

問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

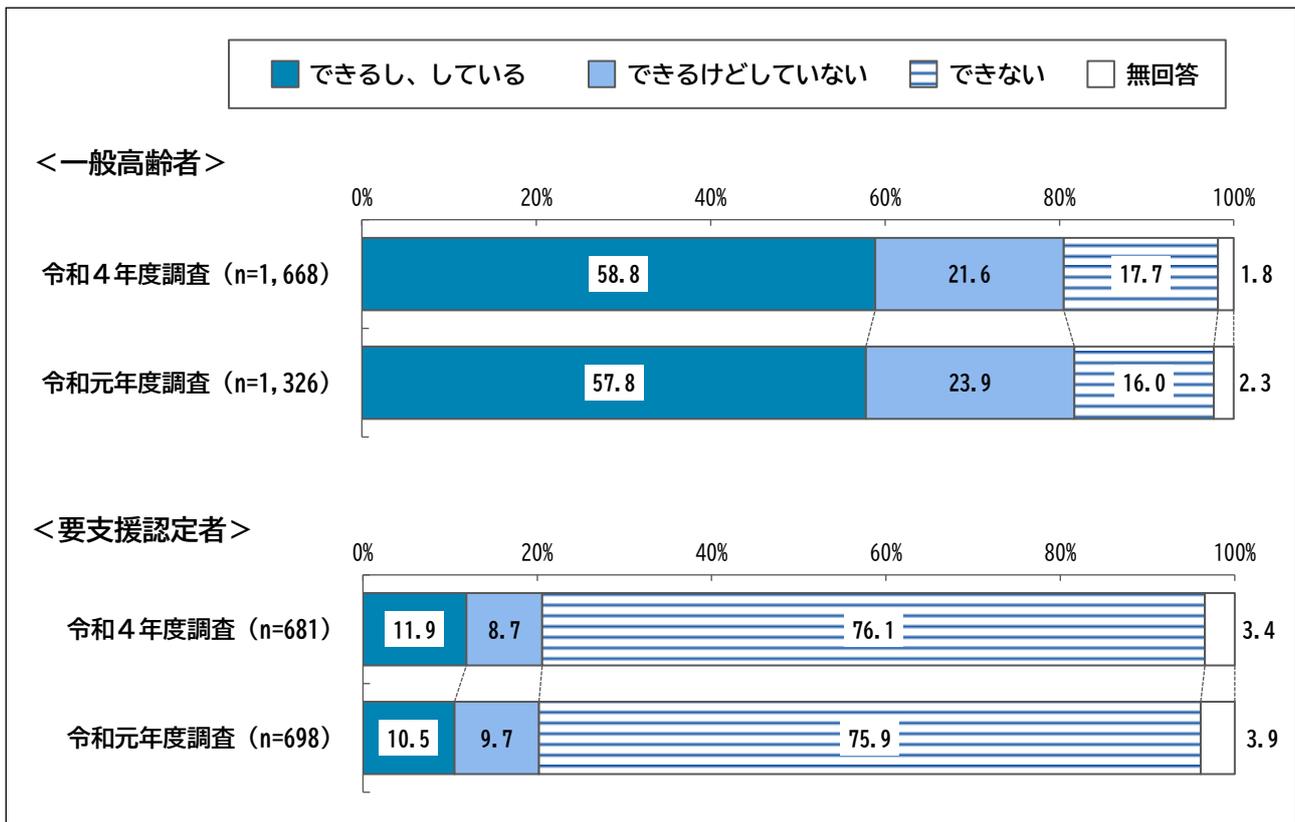
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では81.7%、令和4年度では80.4%となっており、1.3ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では20.2%、令和4年度では20.6%となっており、0.4ポイント増加しています。

図表 76 階段を手すり等を使用せずに昇れるか（前回比較）



問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

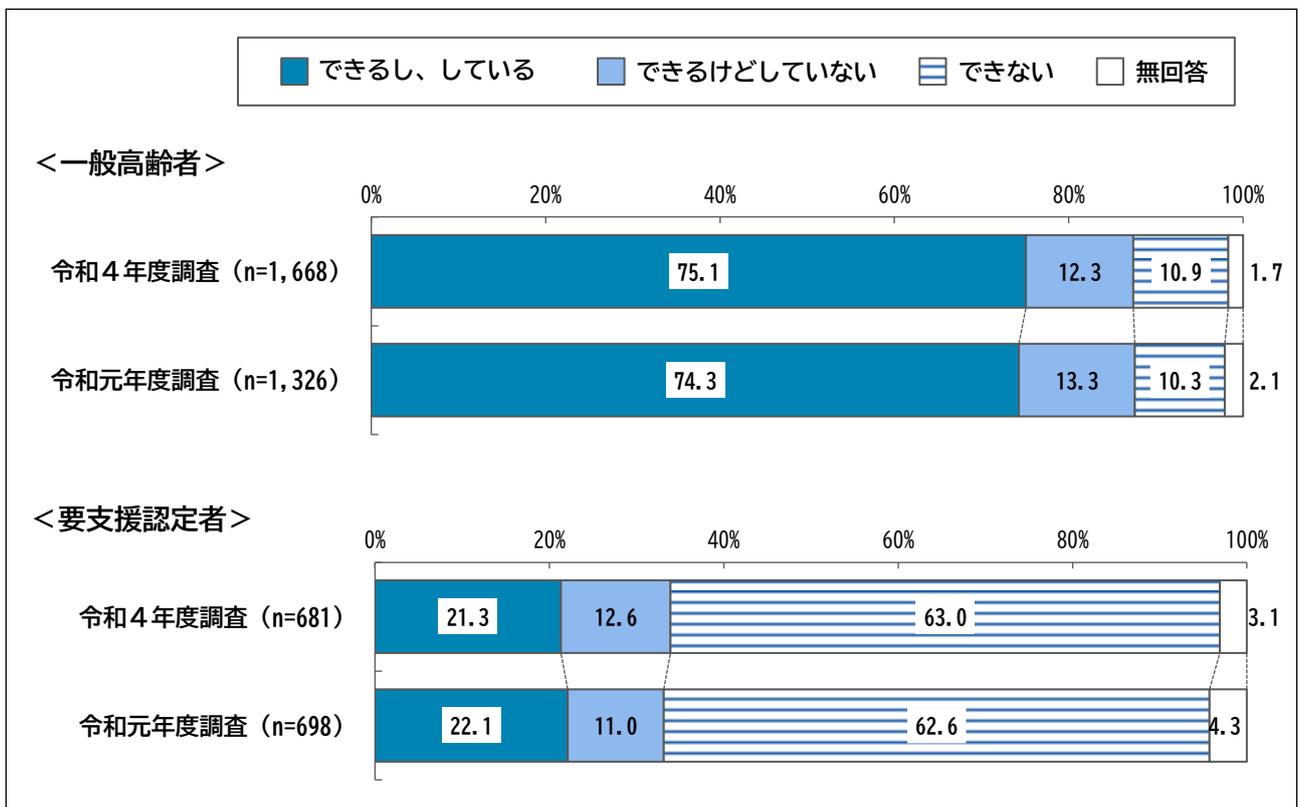
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では87.6%、令和4年度では87.4%となっており、0.2ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では33.1%、令和4年度では33.9%となっており、0.8ポイント増加しています。

図表 77 椅子に座った状態から立ち上がれるか（前回比較）



問2（3）15分位続けて歩いていますか。

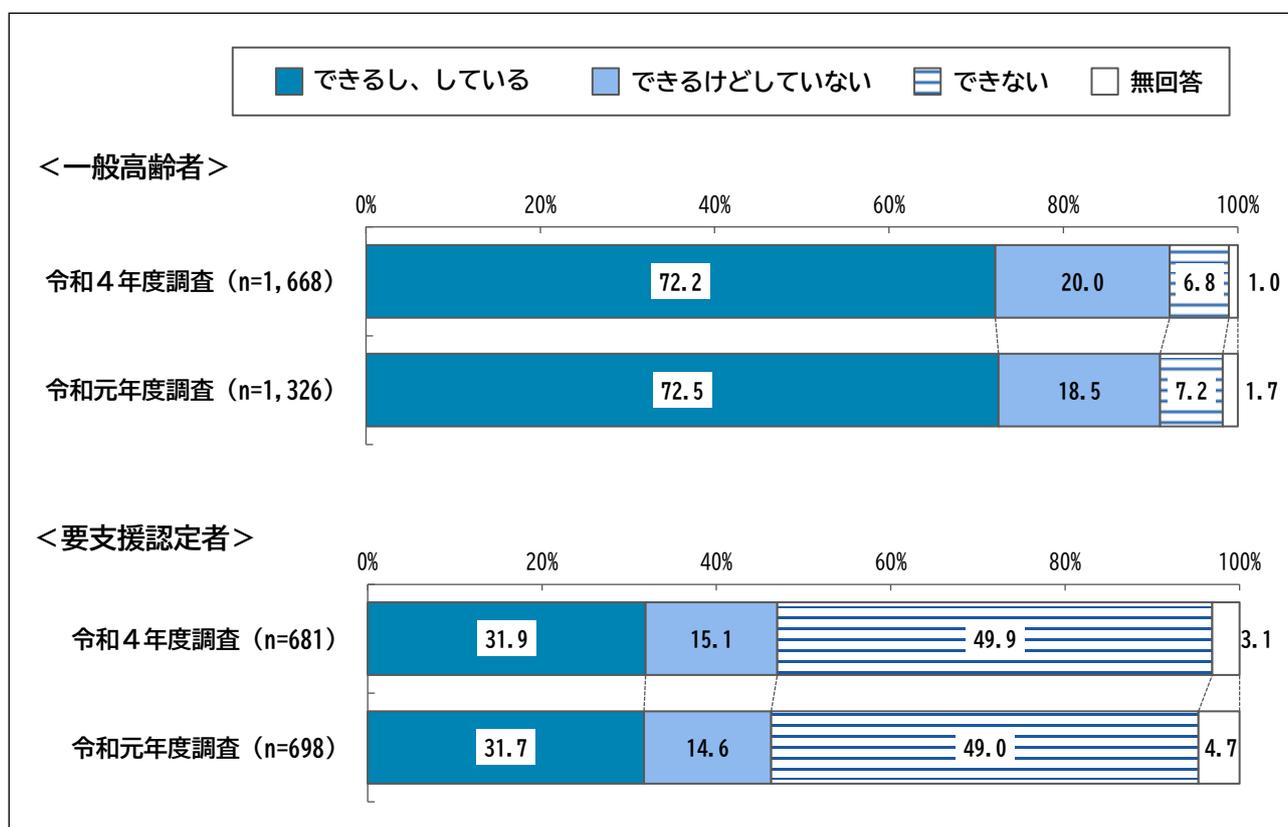
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では91.0%、令和4年度では92.2%となっており、1.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度では46.3%、令和4年度では47.0%となっており、0.7ポイント増加しています。

図表 78 15分位続けて歩いているか（前回比較）



問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか。

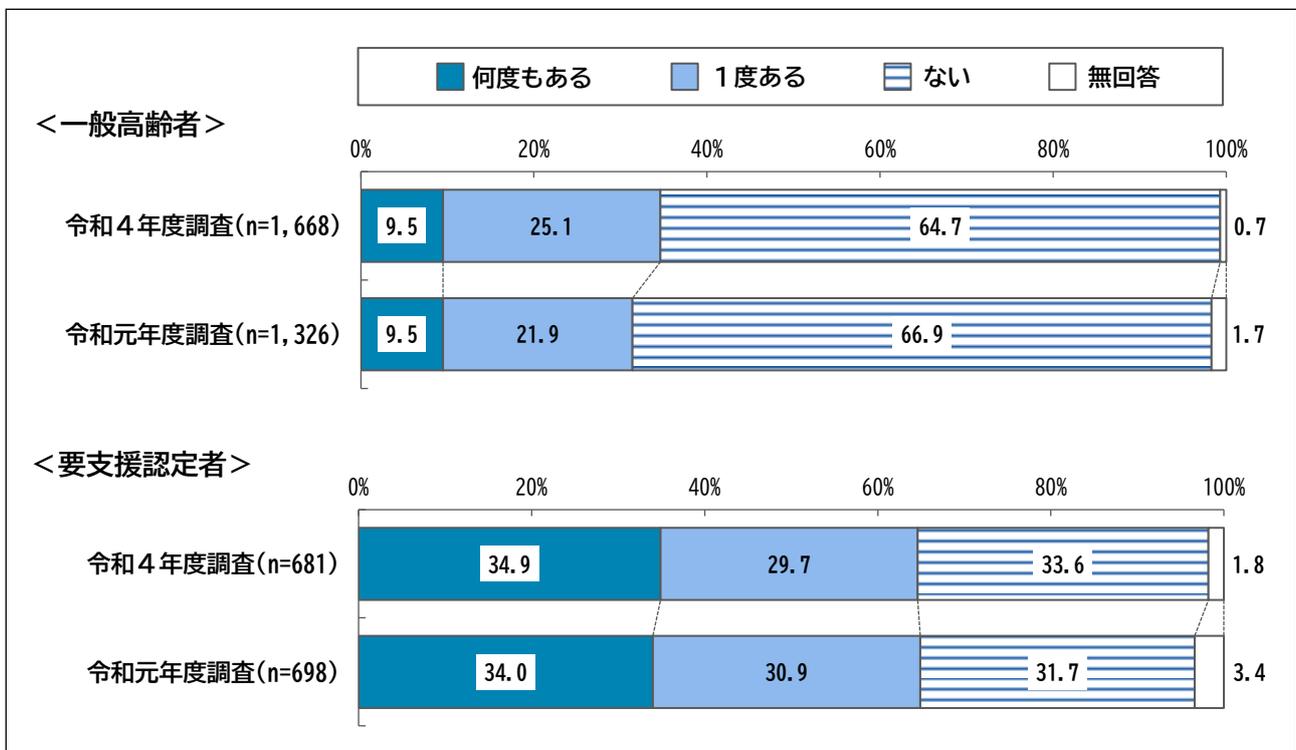
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「1度ある」は3.2ポイント増加しており、「何度もある」を合計した『転倒経験がある』の割合は、令和元年度の31.4%に対し、令和4年度では34.6%となっており、3.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「ない」が1.9ポイント増加しています。また、『転倒経験がある』の割合は、令和元年度の64.9%に対し、令和4年度では64.6%となっており、0.3ポイント減少しています。

図表 79 転倒の経験（前回比較）



問2（5）転倒に対する不安は大きいですか。

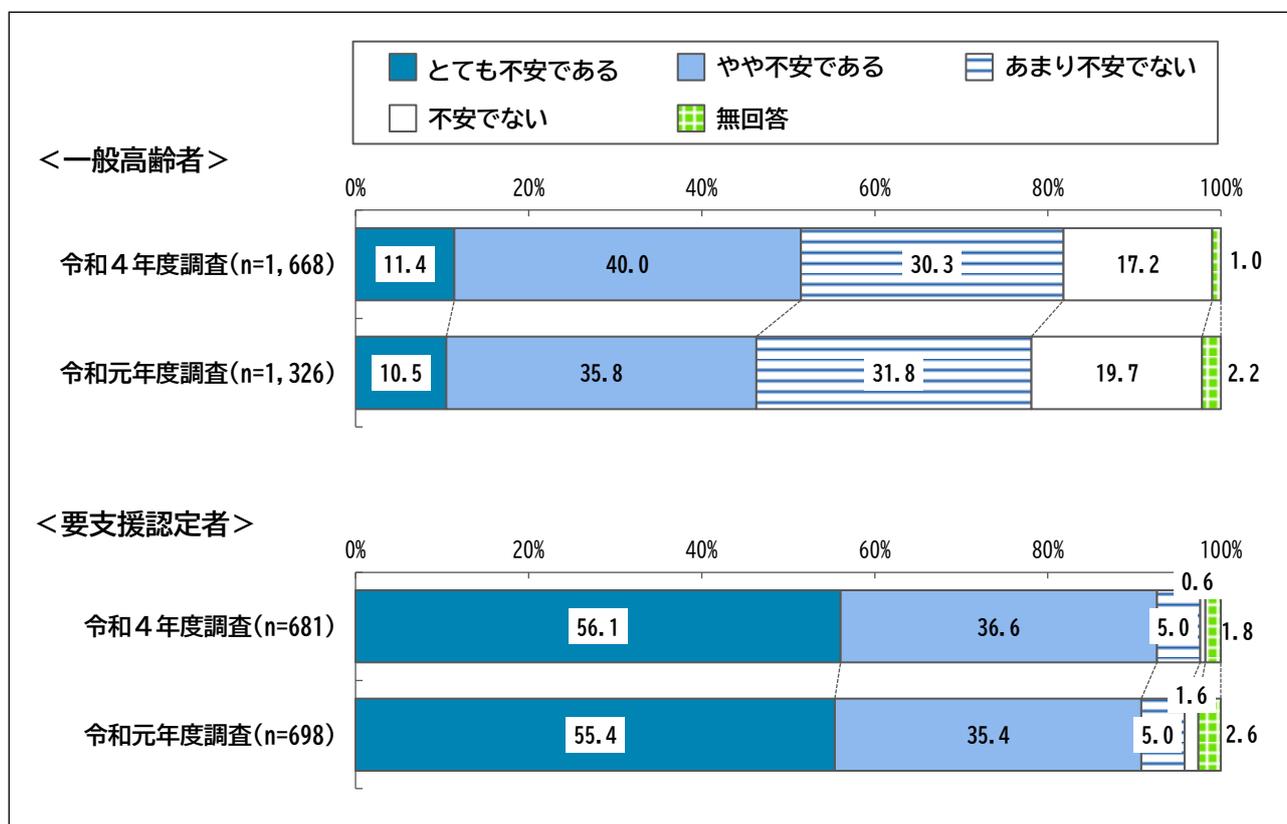
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「やや不安である」が4.2ポイント増加しています。また、「とても不安である」を合計した『不安である』の割合は、令和元年度の46.3%に対し、令和4年度では51.4%と5.1ポイント増加しており、半数以上の人々が、転倒に対する不安があると回答しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「やや不安である」が1.2ポイント増加しています。また、『不安である』の割合は、令和元年度の90.8%に対し、令和4年度では92.7%と1.9ポイント増加しており、前回同様9割以上の人々が、転倒に対する不安があると回答しています。

図表 80 転倒に対する不安（前回比較）



問2（6）週に1回以上は外出していますか。

【一般高齢者】

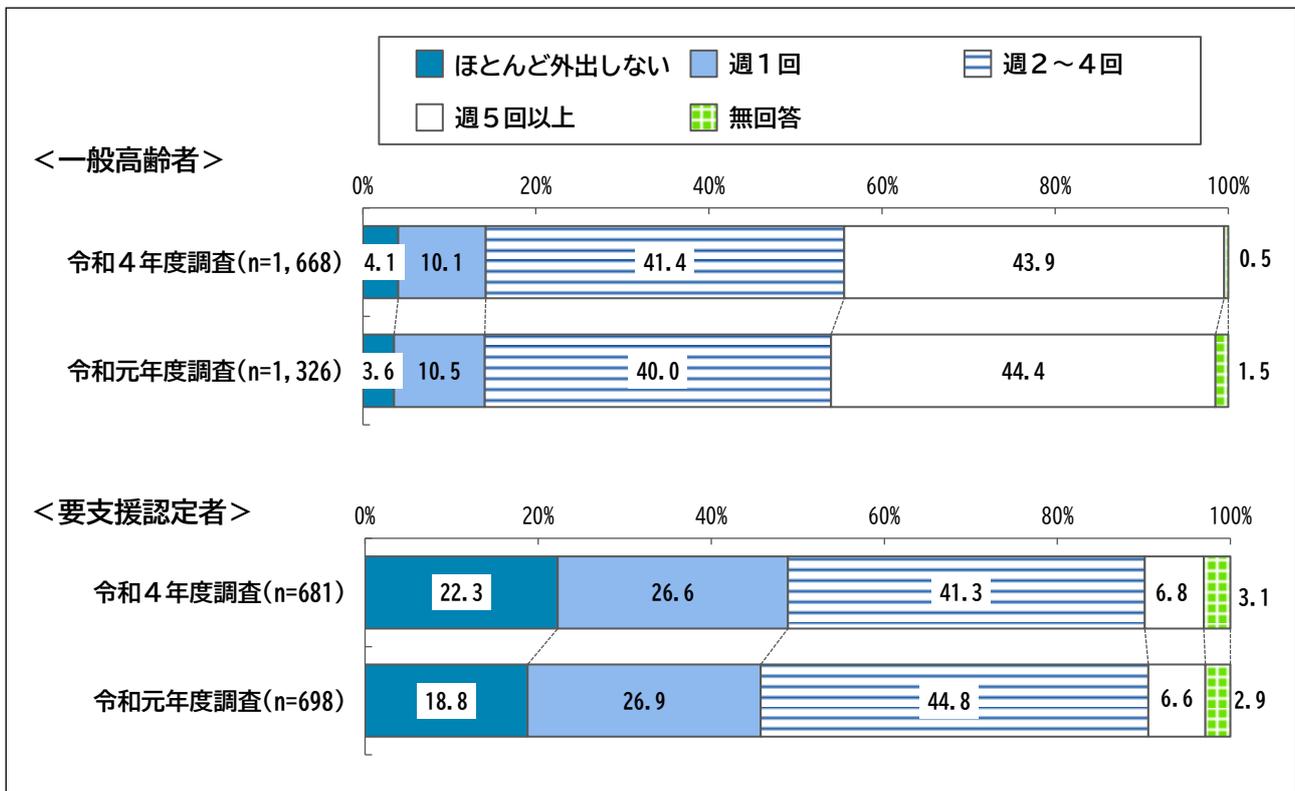
令和元年度調査と比較すると、「週2～4回」が1.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「ほとんど外出しない」が3.5ポイント増加し、「週2～4回」が3.5ポイント減少しています。週1回以上外出している人の割合を合計すると、令和元年度の78.3%に対し、令和4年度では74.7%となっており3.6ポイント減少しています。

「ほとんど外出しない」人の割合が増加し、外出している人の割合は減少していることから、令和元年度に比べて1週間当たりの外出が減っていることがうかがえます。

図表 81 1週間当たりの外出回数について（前回比較）



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「減っている」が4.6ポイント増加し、「減っていない」が3.2ポイント減少しています。「とても減っている」と「減っている」を合計した『減っている』の割合は、令和元年度の23.0%に対し、令和4年度では28.3%と5.3ポイント増加しています。

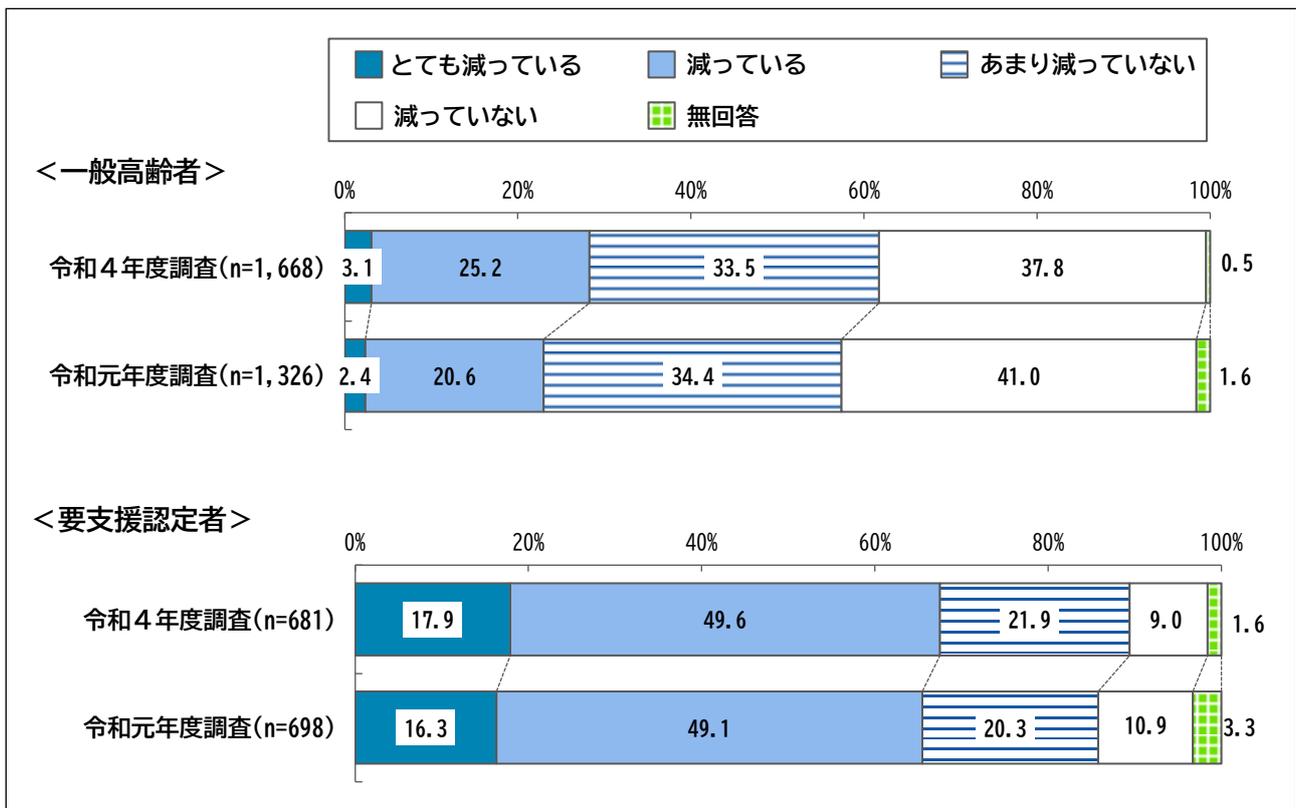
前問の1週間当たりの外出回数の変化と同様に、昨年と比較した外出回数に関しても、減っていることがうかがえます。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、割合に大差はみられないものの、「とても減っている」、「減っている」は増加しています。外出回数が『減っている』の割合は、令和元年度の65.4%に対し、令和4年度では67.5%と2.1ポイント増加しています。

一般高齢者ほどの増減はありませんが、要支援認定者においても、外出の回数が減っていることがうかがえます。

図表 82 昨年と比較した外出回数について（前回比較）



問2（8）外出を控えていますか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」（外出を控えている）が8.3ポイント増加しています。

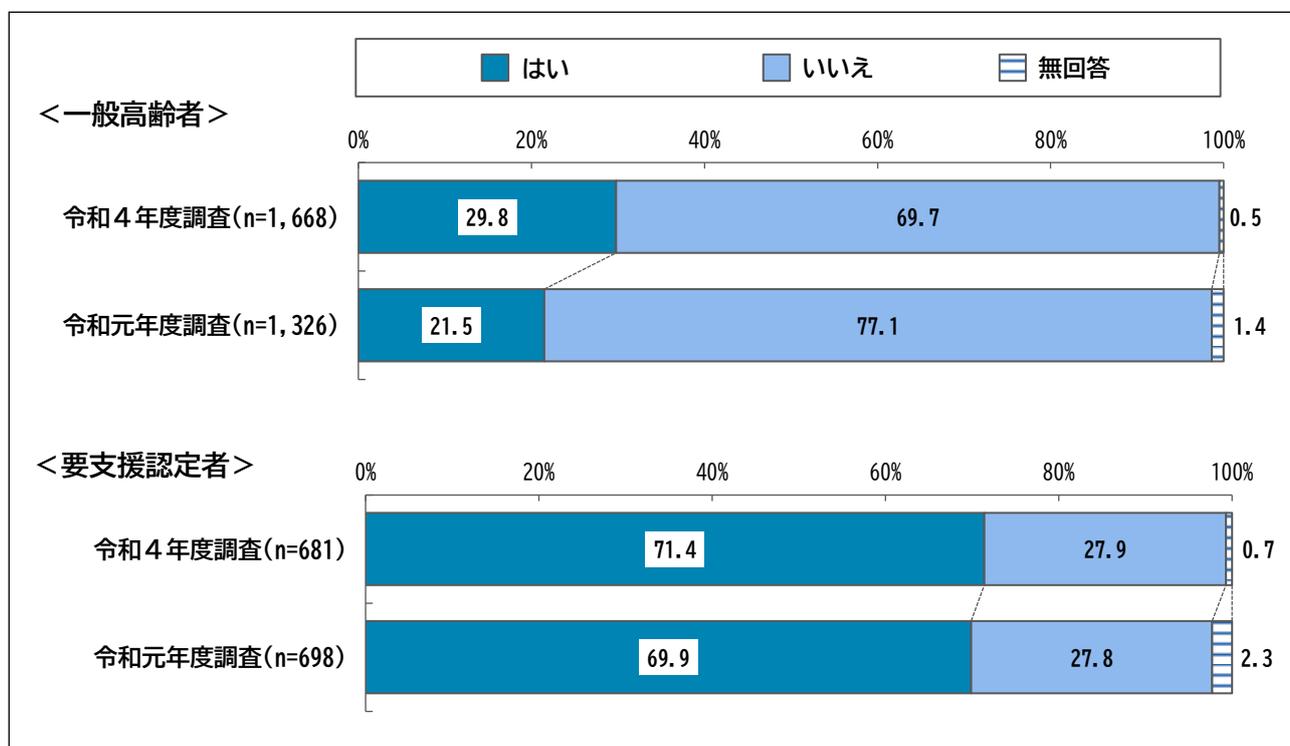
1週間当たりの外出回数や、昨年と比較した外出回数と同様に、外出を控えている割合が増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」（外出を控えている）が1.5ポイント増加しています。

一般高齢者ほどの割合差はありませんが、要支援認定者においても、外出を控えている割合が増加しています。

図表 83 外出を控えているか（前回比較）



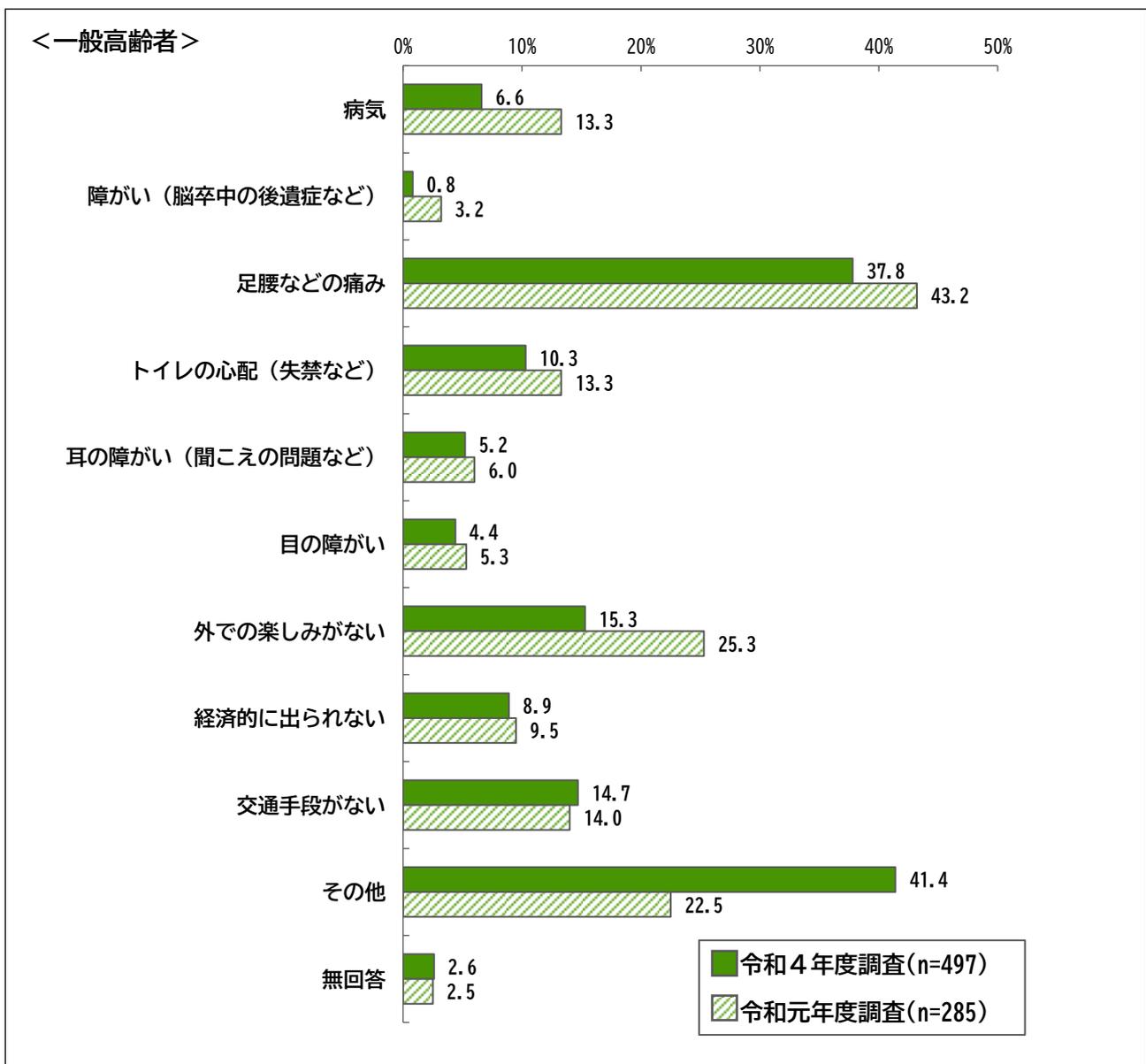
※問2(8)で「はい(控えている)」と答えたかたのみ

問2(8-1)外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「病気」は6.7ポイント、「足腰などの痛み」が5.4ポイント、「外での楽しみがない」が10.0ポイント減少し、「その他」が18.9ポイント増加しています。なお、「その他」の理由には「コロナウイルス感染予防のため」が大半を占めているため、前回調査との割合に大差がみられています。このことから、前問からの外出の回数の変化や、外出を控えている割合の増加についても、コロナウイルス感染予防のために関わっていると思われます。

図表 84 外出を控えている理由(前回比較/複数回答)

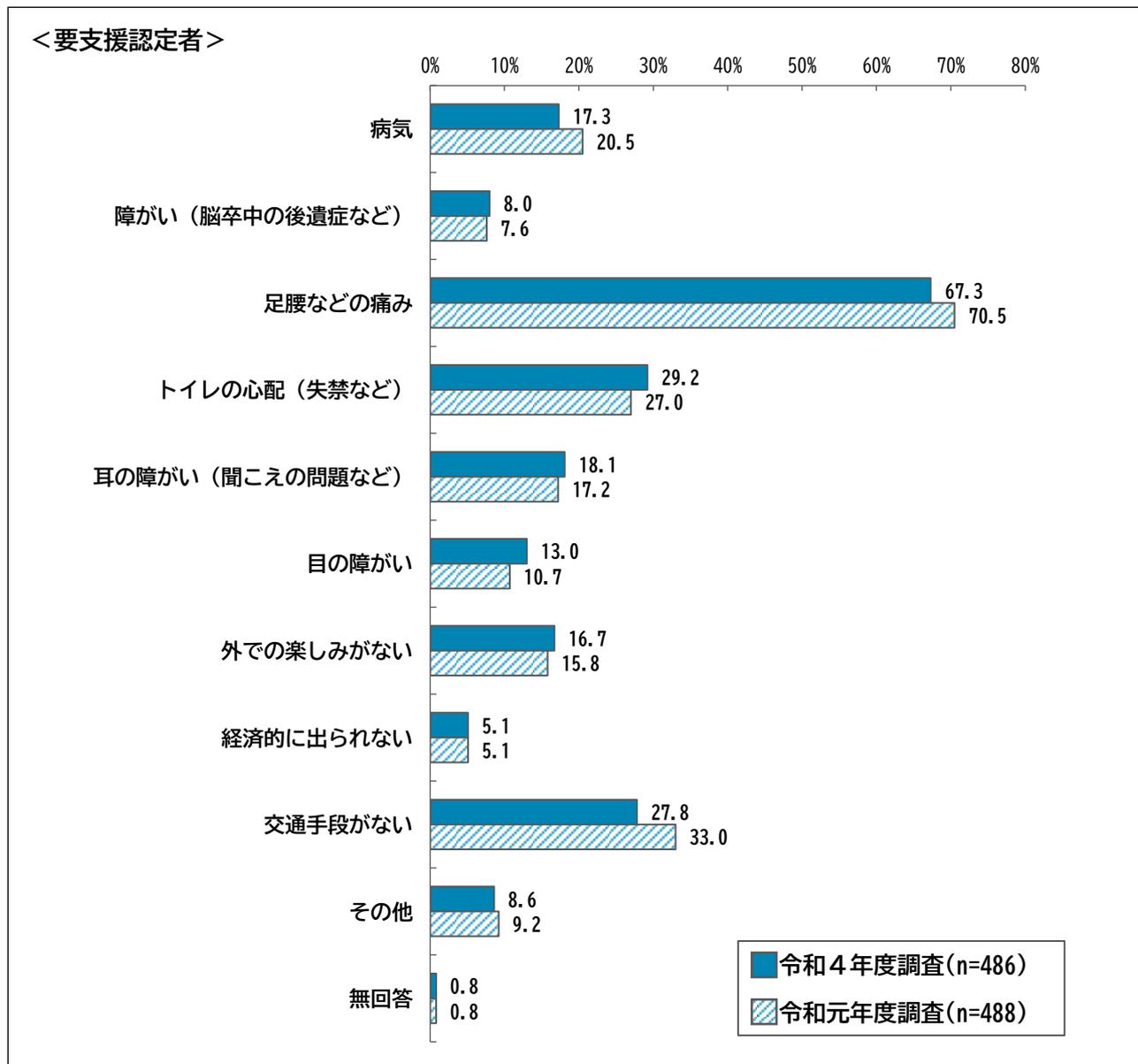


【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「交通手段がない」が5.2ポイント、「病気」、「足腰などの痛み」がともに3.2ポイント減少しています。

一方、「トイレの心配（失禁など）」が2.2ポイント、「目の障がい」が2.3ポイント増加しています。

図表 85 外出を控えている理由（前回比較／複数回答）

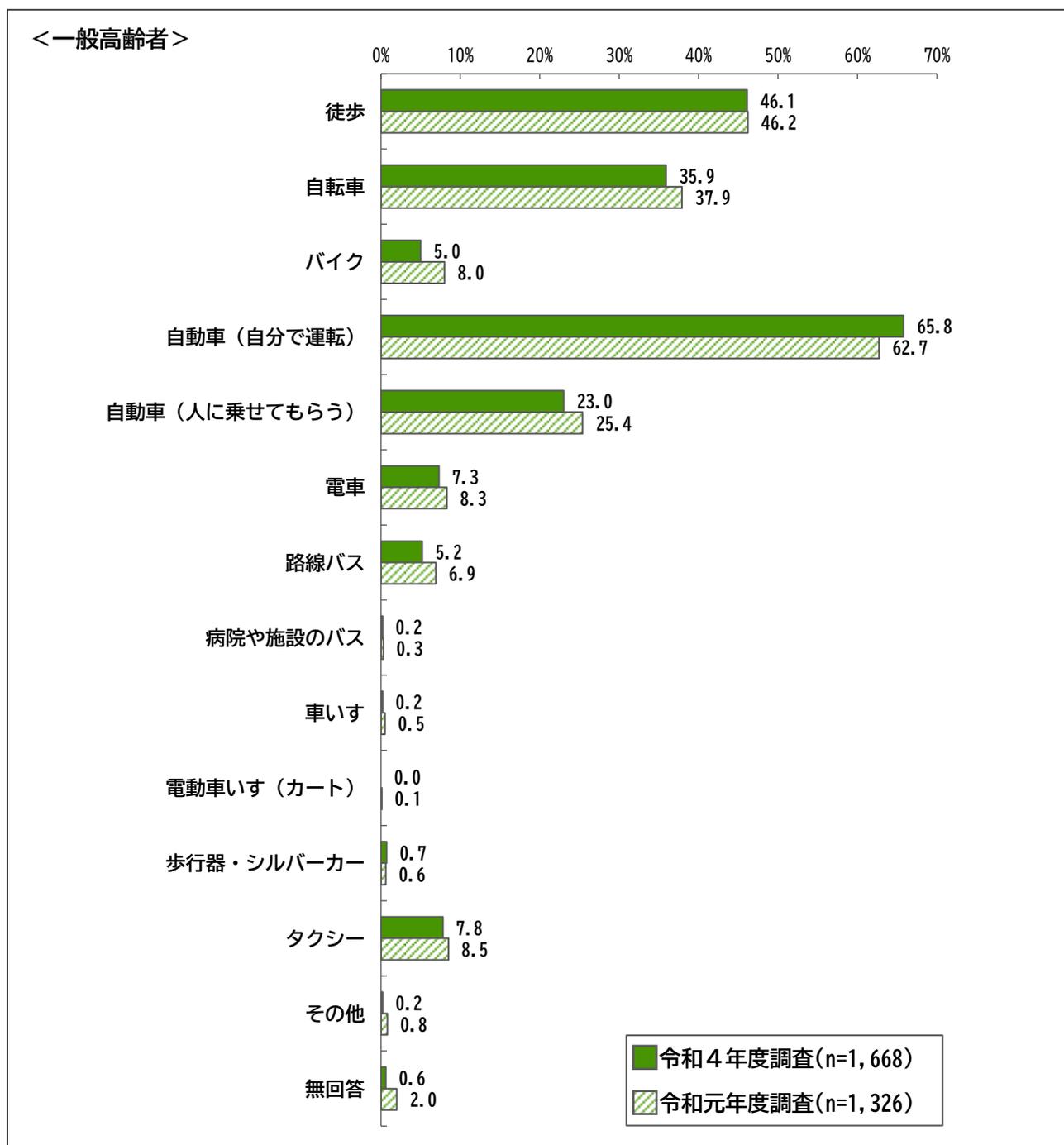


問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、ほとんどの移動手段の割合が減少していますが、「自動車（自分で運転）」は、3.1ポイント増加しています。

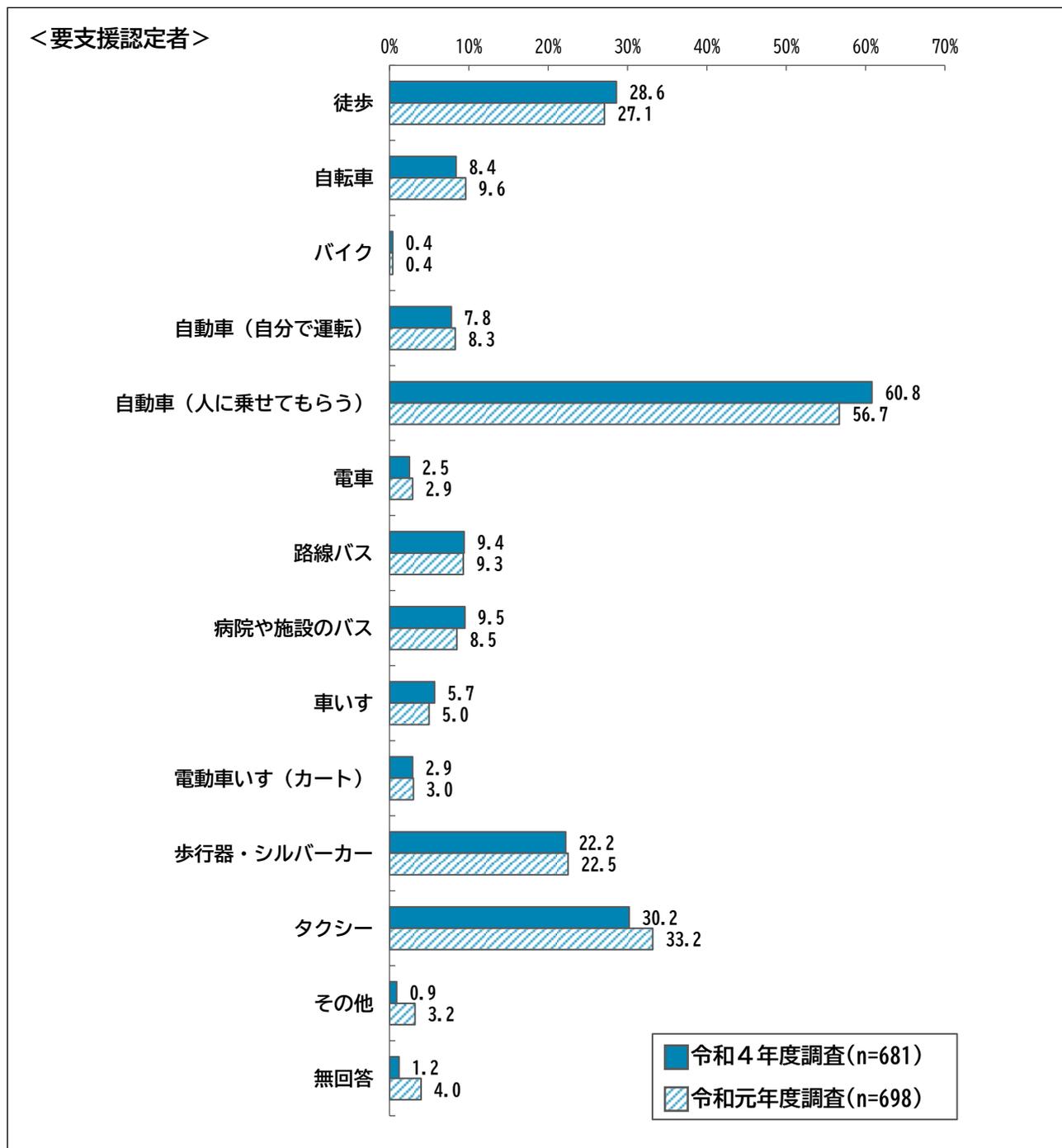
図表 86 外出する際の移動手段（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「自動車（人に乗せてもらう）」は4.1ポイント増加しています。一方、「タクシー」は3.0ポイント減少しています。

図表 87 外出する際の移動手段（前回比較／複数回答）

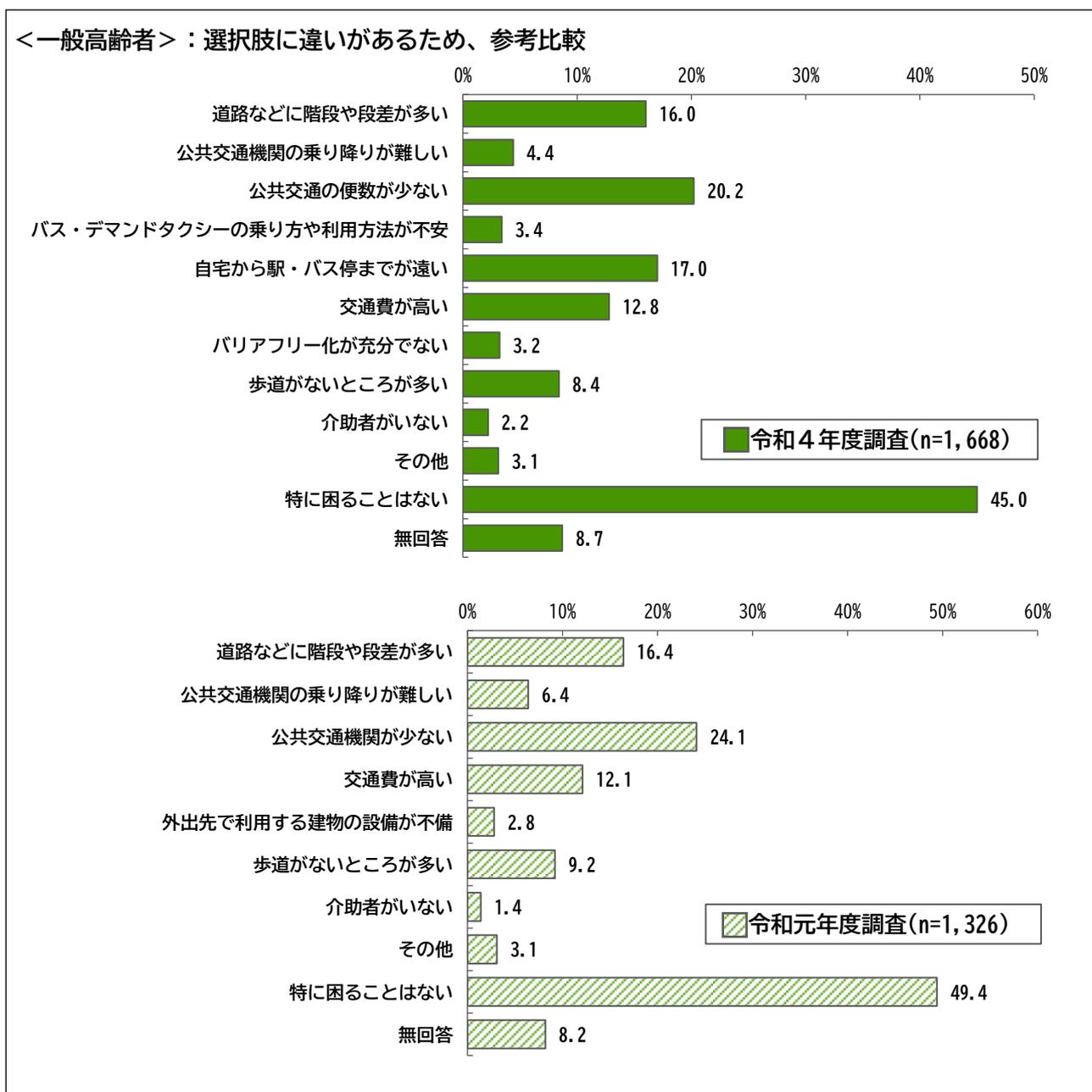


問2 (10) 外出する際、困ることや不安なことを3つまで選んでください。(3つまで)

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、選択肢の違いがみられますが、「公共交通機関の乗り降りが難しい」が2.0ポイント、「特に困ることはない」が4.4ポイント減少しています。

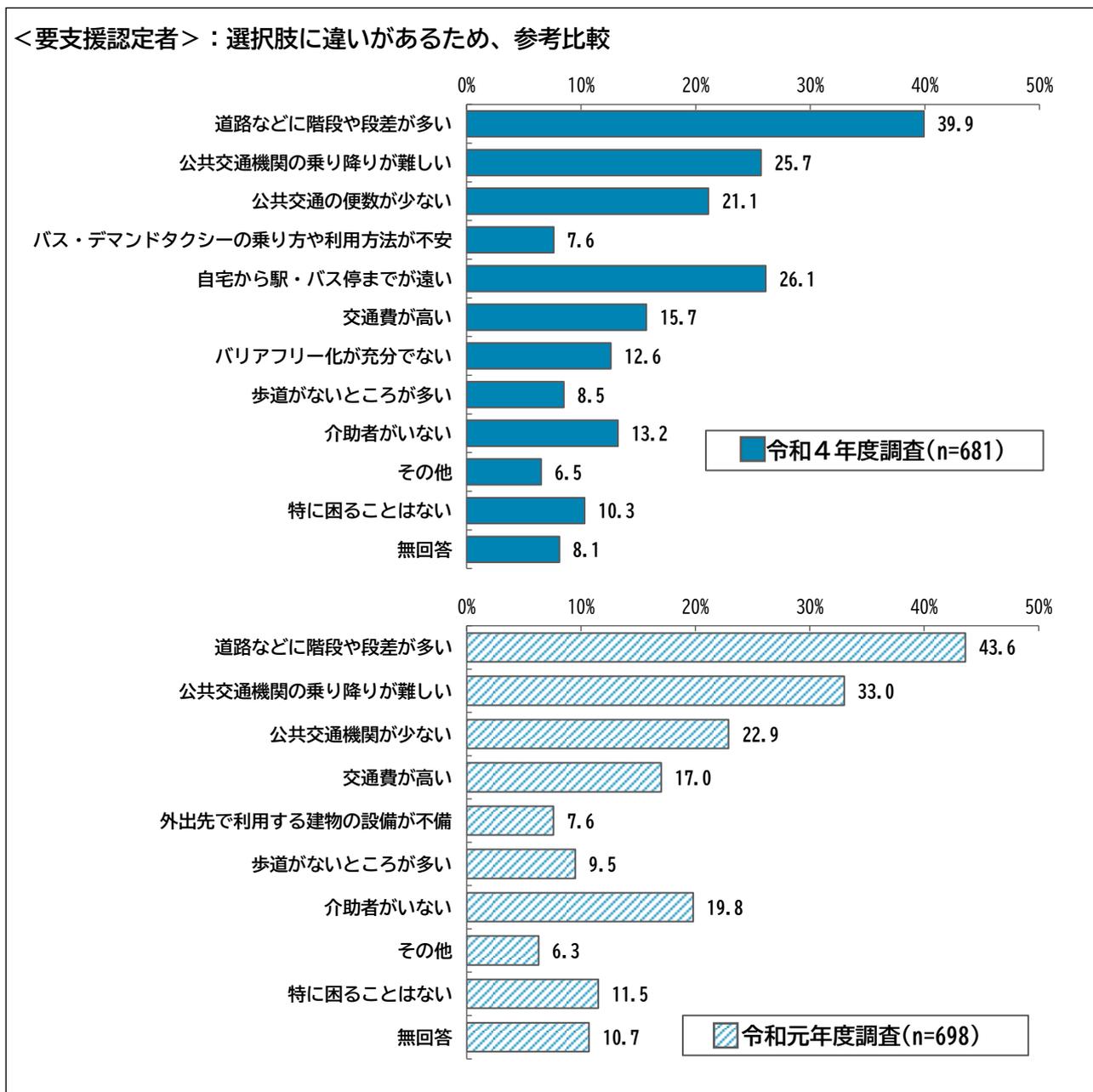
図表 88 外出する際困ることや不安なこと（前回比較／複数回答：3つまで）



【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「公共交通機関の乗り降りが難しい」が7.3ポイント、「介助者がいない」は6.6ポイント減少しています。

図表 89 外出する際困ることや不安なこと（前回比較／複数回答：3つまで）



3 食べることについて

問3 (1) 身長・体重を教えてください。

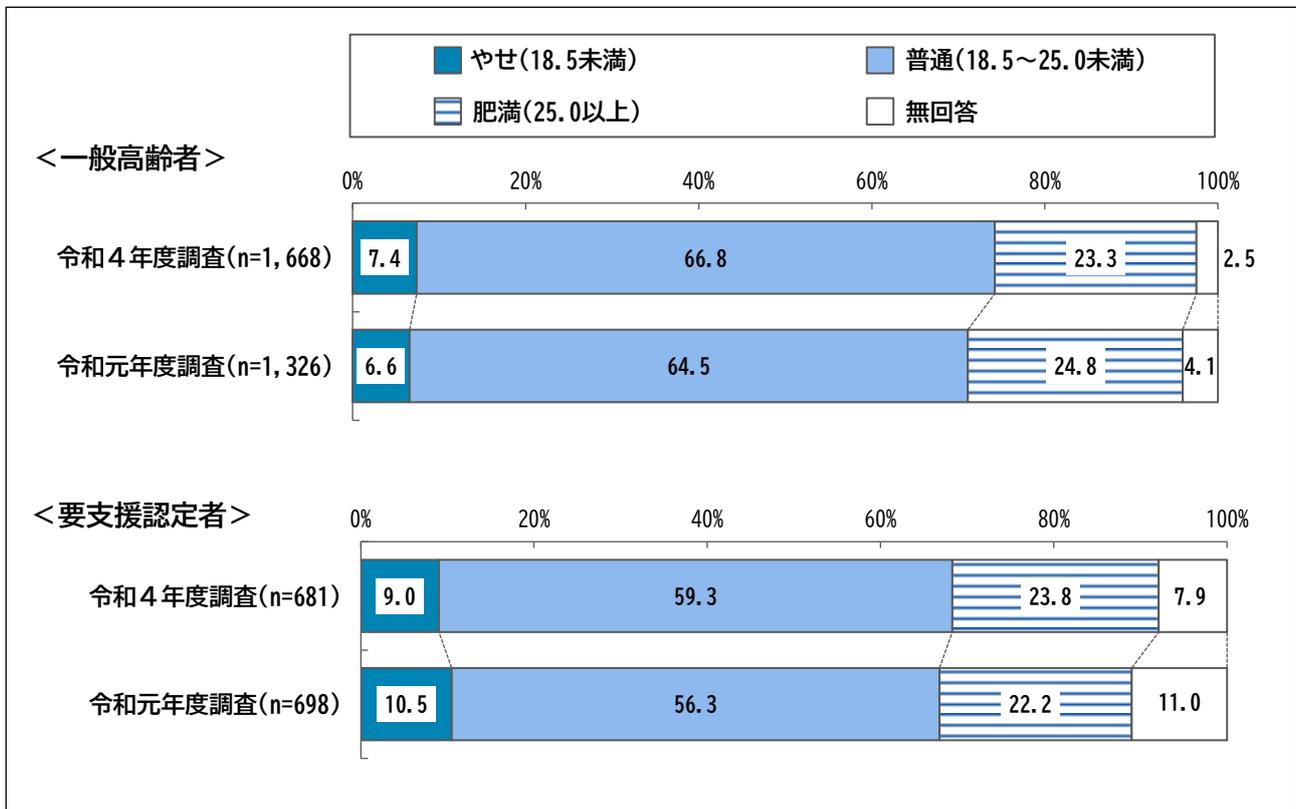
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「普通（18.5～25.0未満）」が2.3ポイント増加し、「肥満（25.0以上）」は1.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「やせ（18.5未満）」は1.5ポイント減少していますが、「普通（18.5～25.0未満）」が3.0ポイント、「肥満（25.0以上）」は1.6ポイント増加しています。

図表 90 BMI値（前回比較）



問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

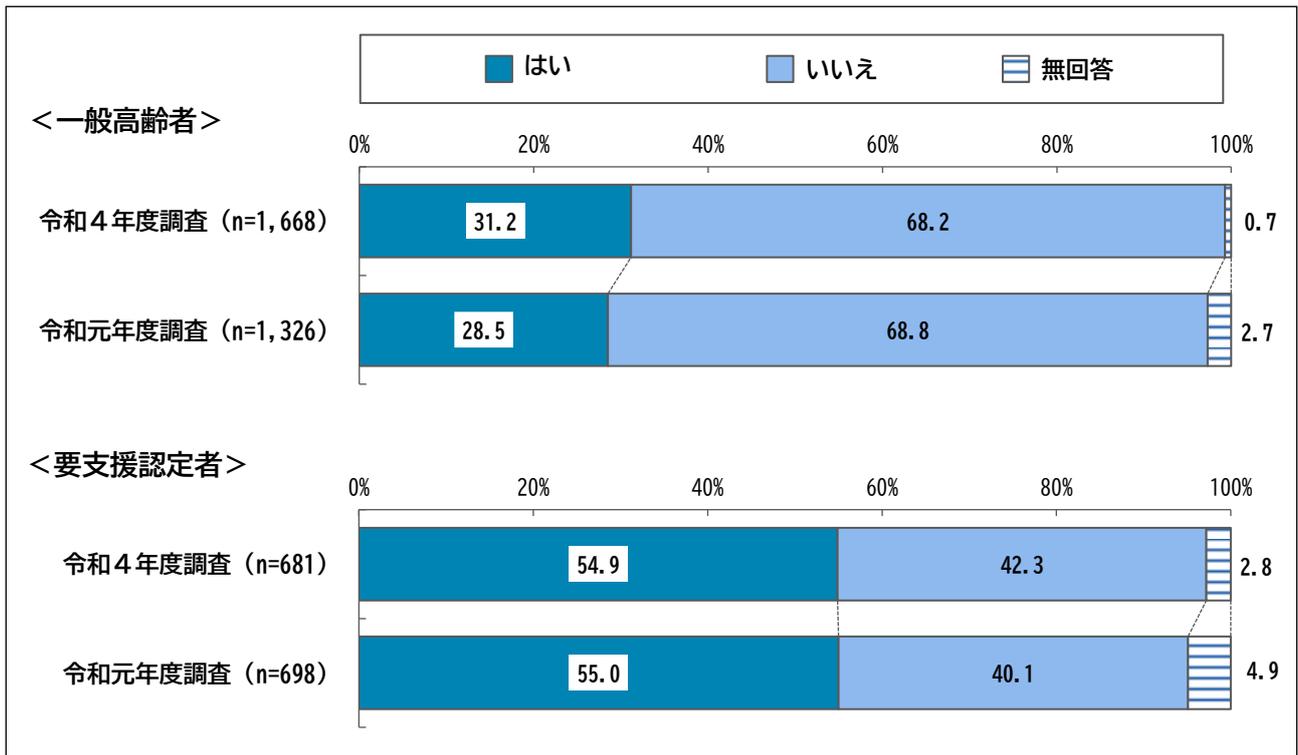
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.7ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が2.2ポイント増加しています。

図表 91 固いものが食べにくくなったか（前回比較）



問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか。

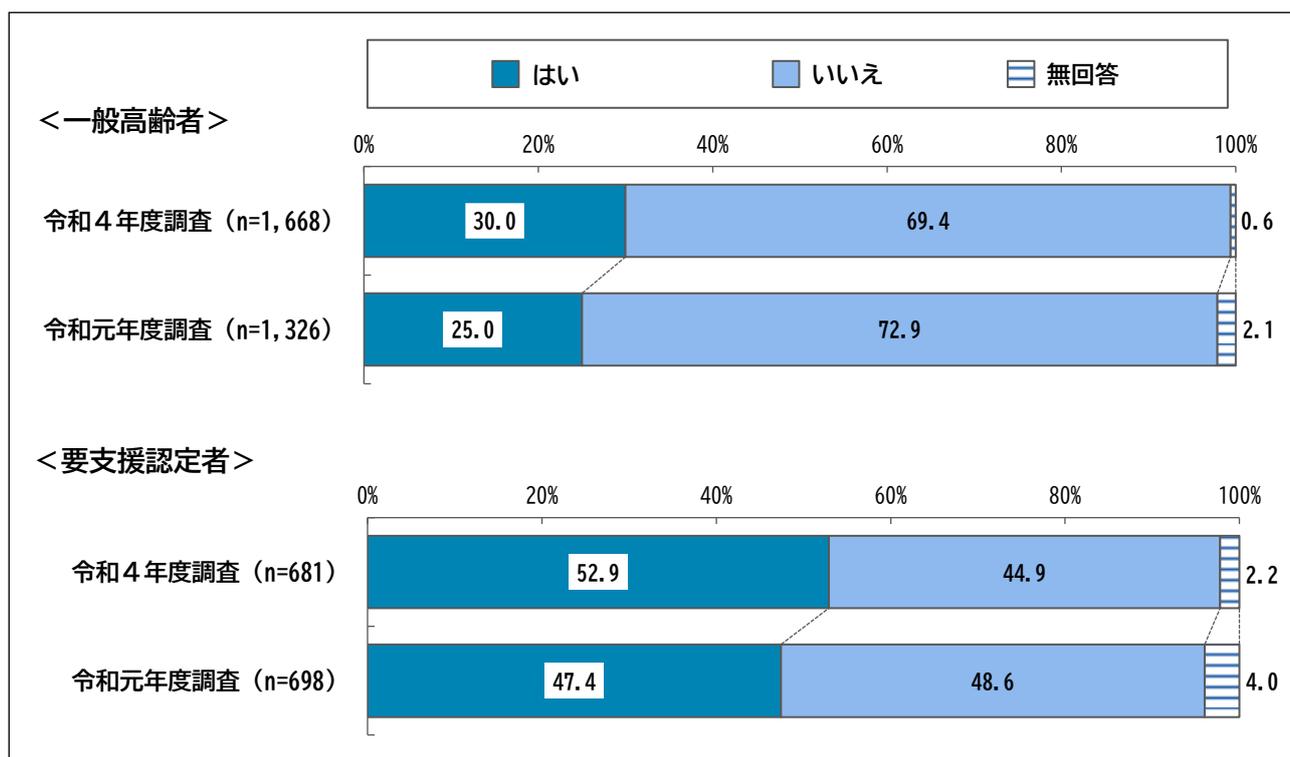
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が5.0ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が5.5ポイント増加しています。

図表 92 お茶や汁物等でむせることがあるか（前回比較）



問3（4）口の渇きが気になりますか。

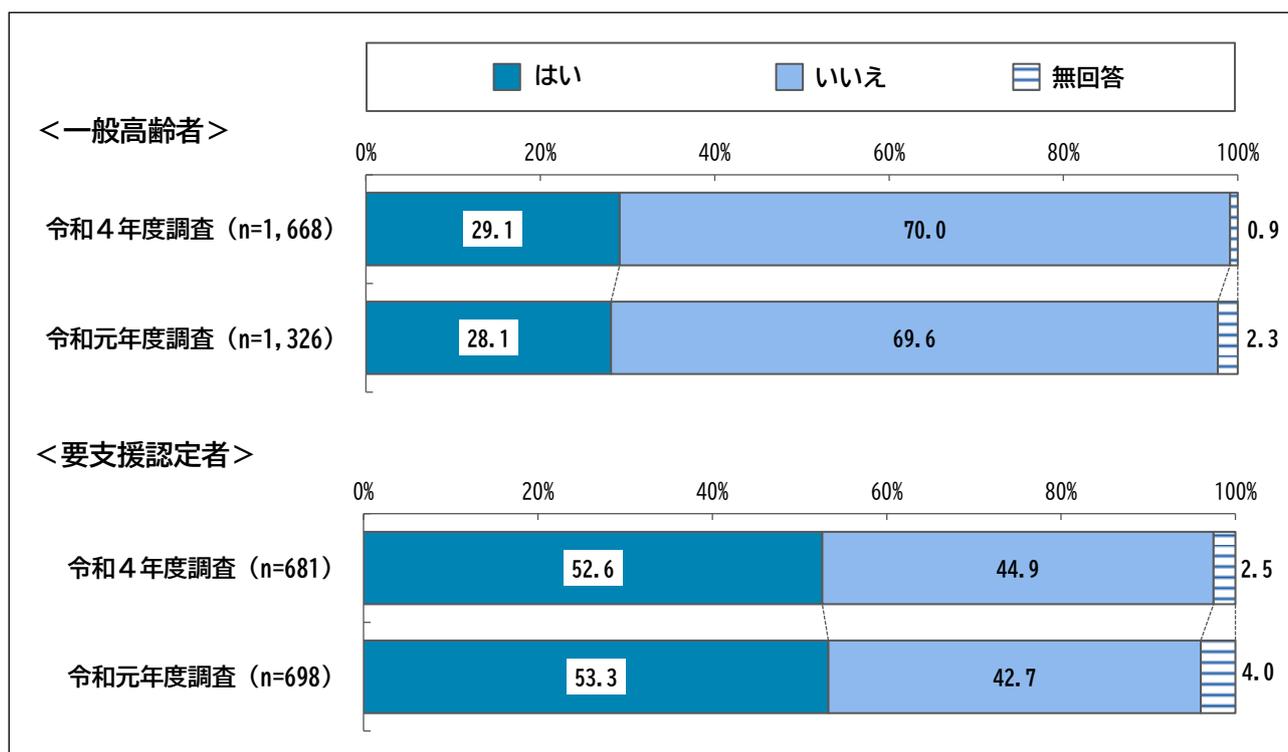
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.0ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が2.2ポイント増加しています。

図表 93 口の渇きが気になるか（前回比較）



問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

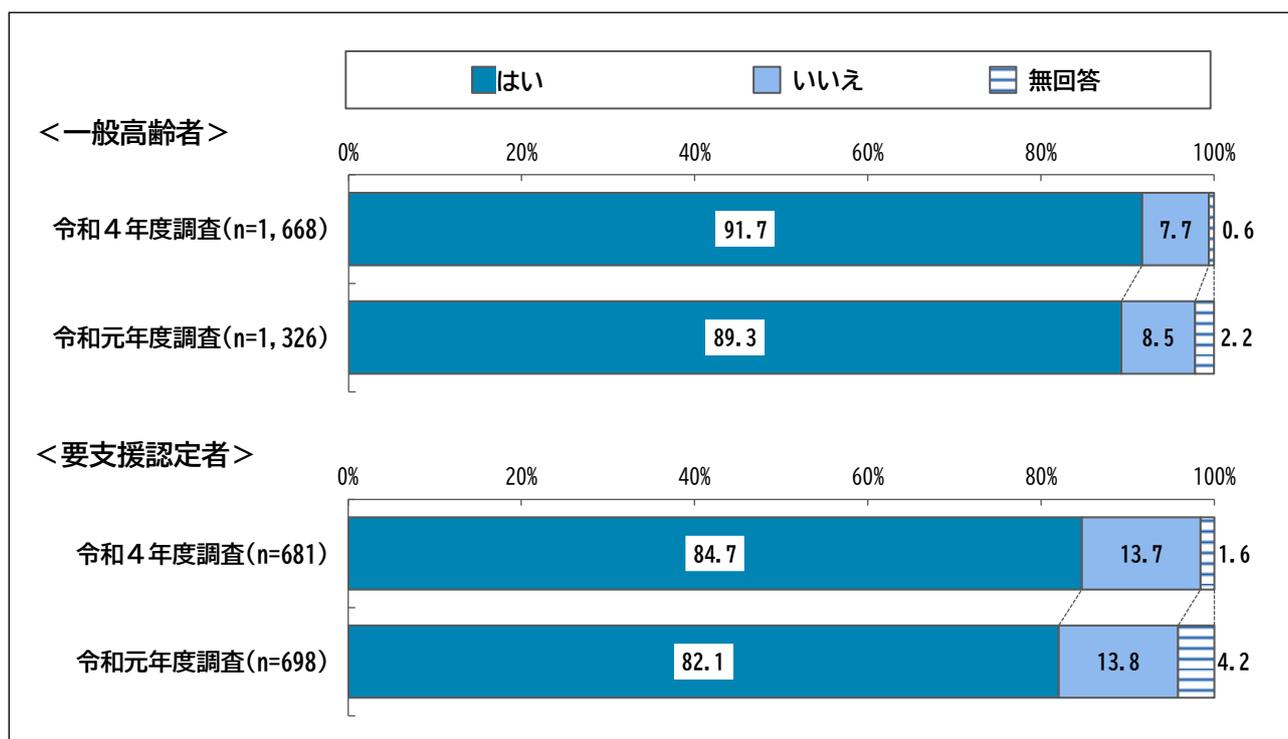
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.6ポイント増加しています。

図表 94 歯磨きを毎日しているか（前回比較）



問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が4.9ポイント増加し、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が4.2ポイント減少しています。

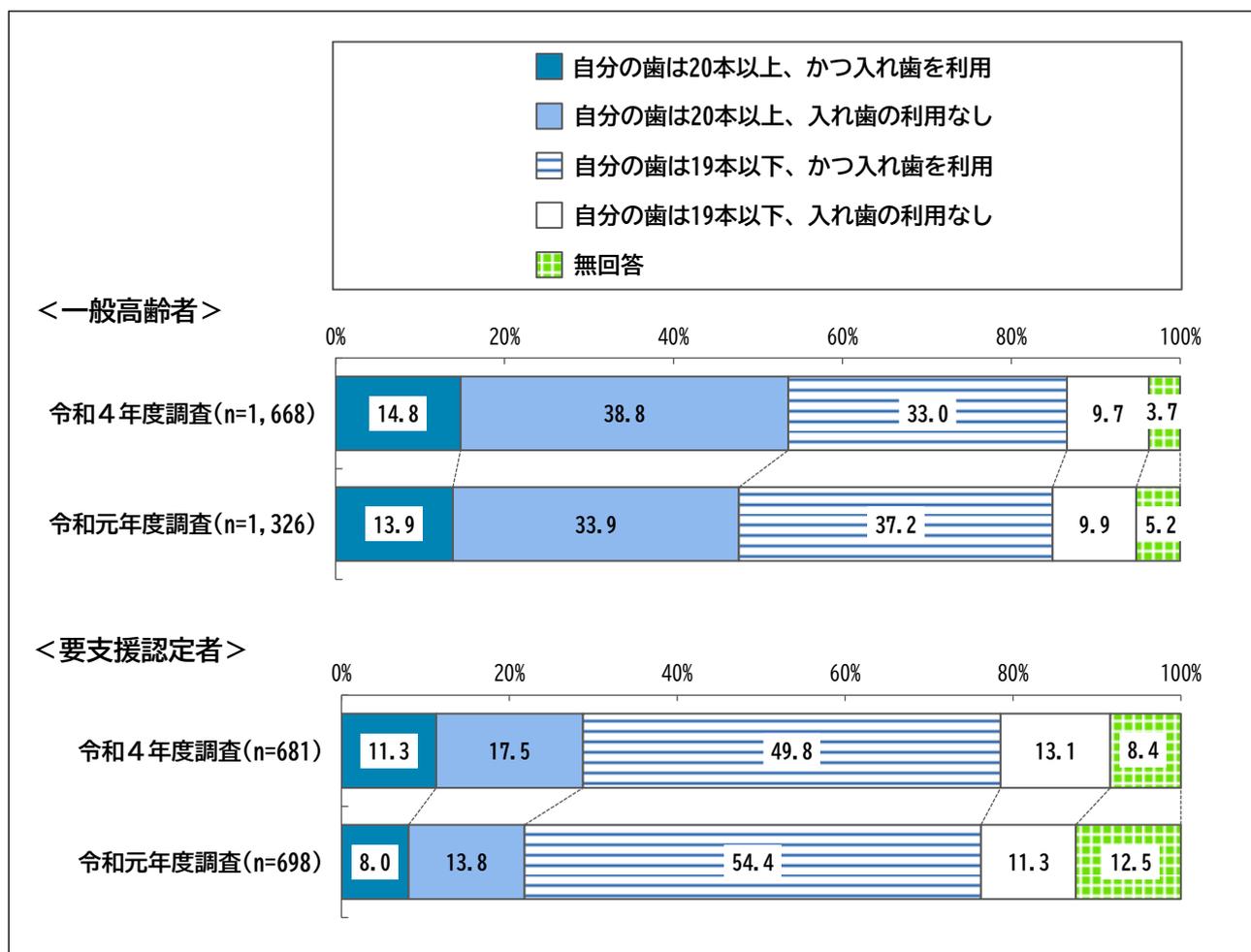
歯の本数が20本以上ある人の割合は、5.8ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」は3.3ポイント、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」も3.7ポイント増加しています。歯の本数が20本以上ある人の割合は、7.0ポイント増加しています。

一方、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」は4.6ポイント減少しています。

図表 95 歯の本数と入れ歯の利用状況（前回比較）



問3（6-1）噛み合わせは良いですか。

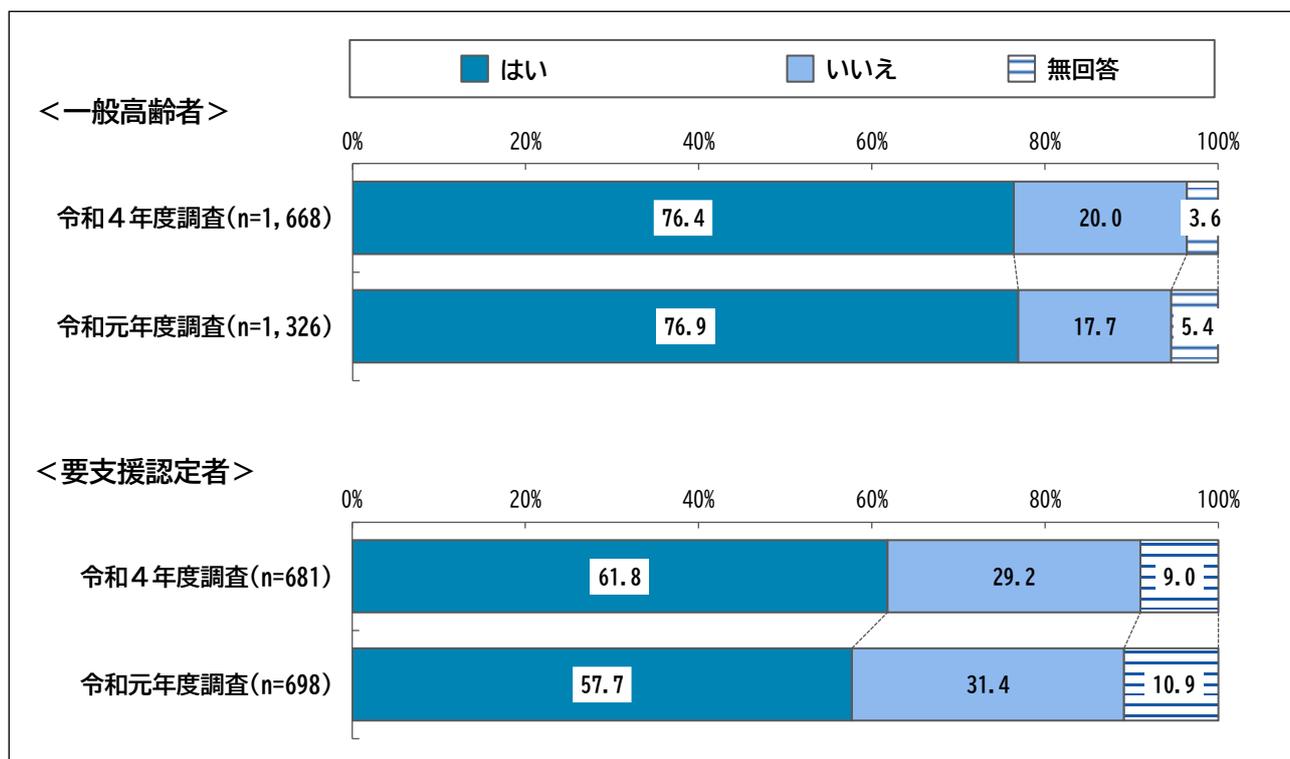
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が2.3ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が4.1ポイント増加しており、噛み合わせが良い人が6割を超えています。

図表 96 噛み合わせが良いか（前回比較）



※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答え
たかたのみ

問3（6-2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。（1つだけ）

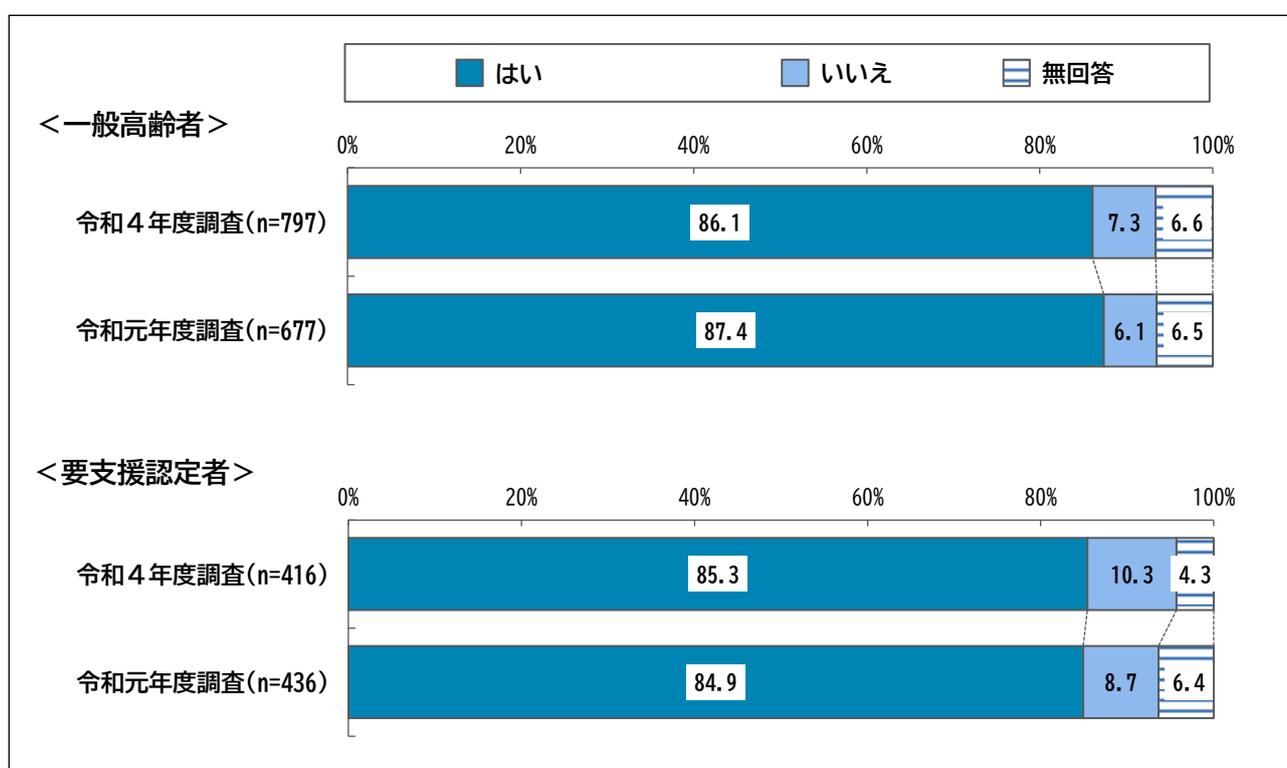
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.3ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると「いいえ」が1.6ポイント増加しています。

図表 97 毎日入れ歯の手入れをしているか（前回比較）



問3（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

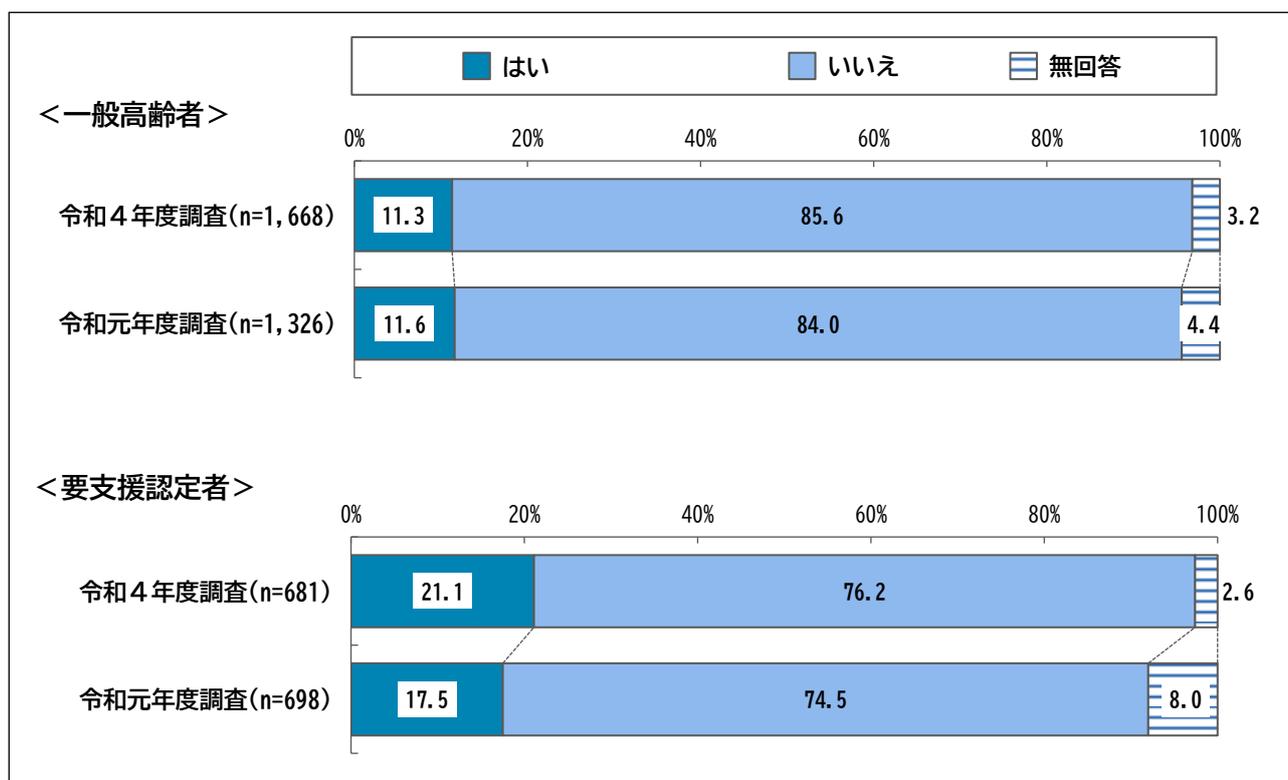
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が1.6ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると「はい」が3.6ポイント増加しています。要支援認定者全体では、体重減少があった人の割合が2割を超える結果となっています。

図表 98 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか（前回比較）



問3（8）どなたかと食事をとる機会がありますか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「毎日ある」が5.1ポイント増加し、「月に何度かある」が3.9ポイント減少しています。

また、共食の機会がある人の割合を合計すると、令和元年度の89.9%に対し、令和4年度では88.9%となっており、1.0ポイント減少しています。

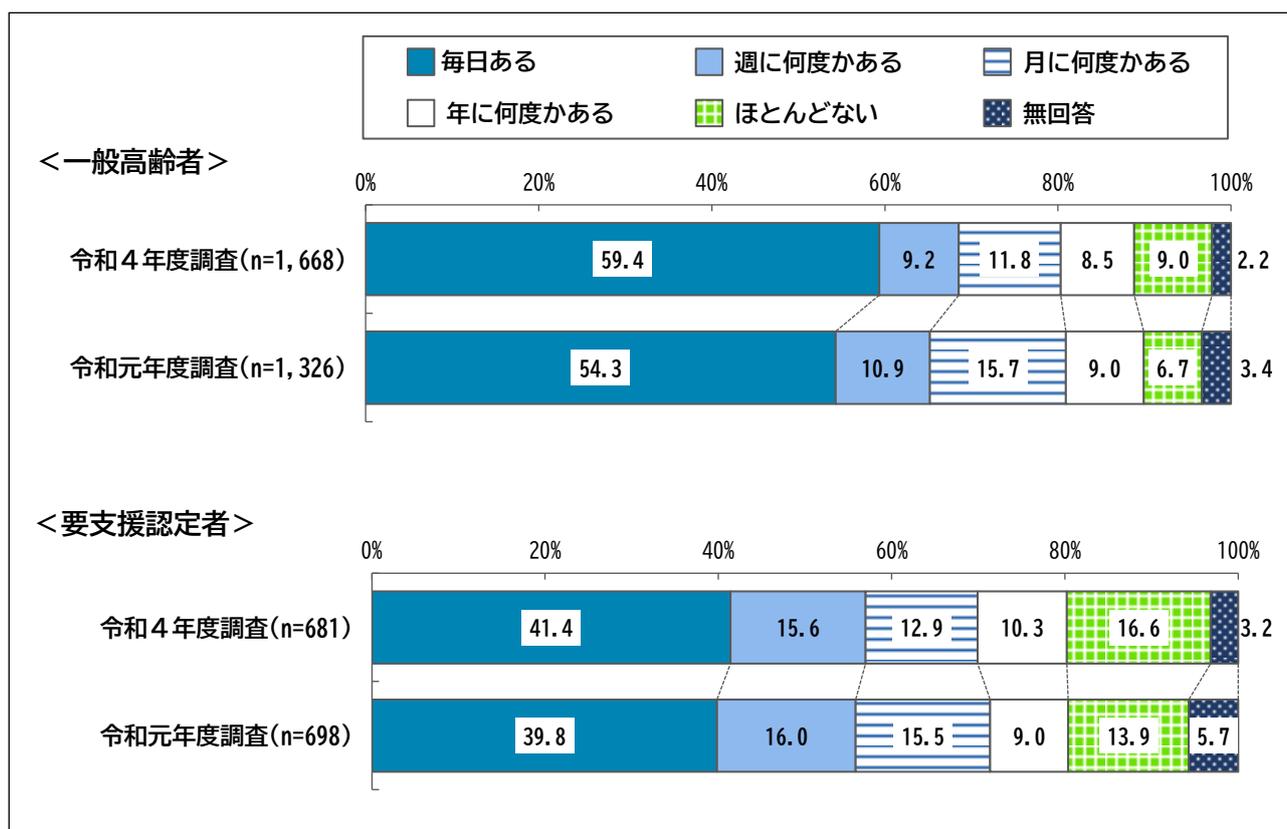
一方、共食の機会が「ほとんどない」孤食状況の人の割合は、2.3ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「月に何度かある」が2.6ポイント減少しています。また、共食の機会がある人の割合を合計すると、令和元年度の80.3%に対し、令和4年度では80.2%となっており、概ね同様の結果となっています。

一方、共食の機会が「ほとんどない」孤食状況の人の割合は、2.7ポイント増加しています。

図表 99 誰かと食事をとる機会の有無について（前回比較）



問3（9）食事は自分で食べられますか。

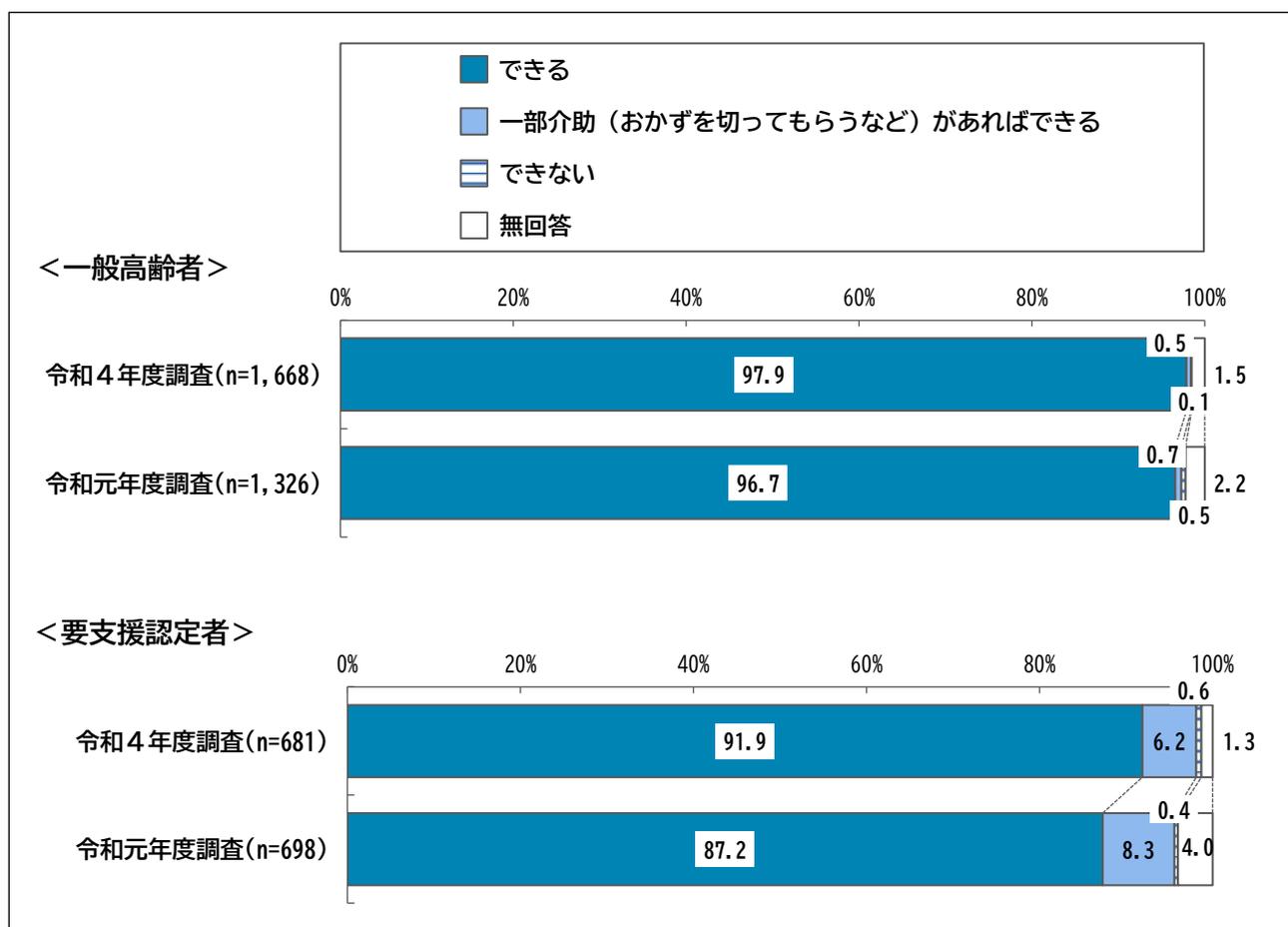
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できる」が1.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できる」が4.7ポイント増加し、「一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」は2.1ポイント減少しています。

図表 100 食事は自分で食べられるか（前回比較）



4 毎日の生活について

問4（1）物忘れが多いと感じますか。

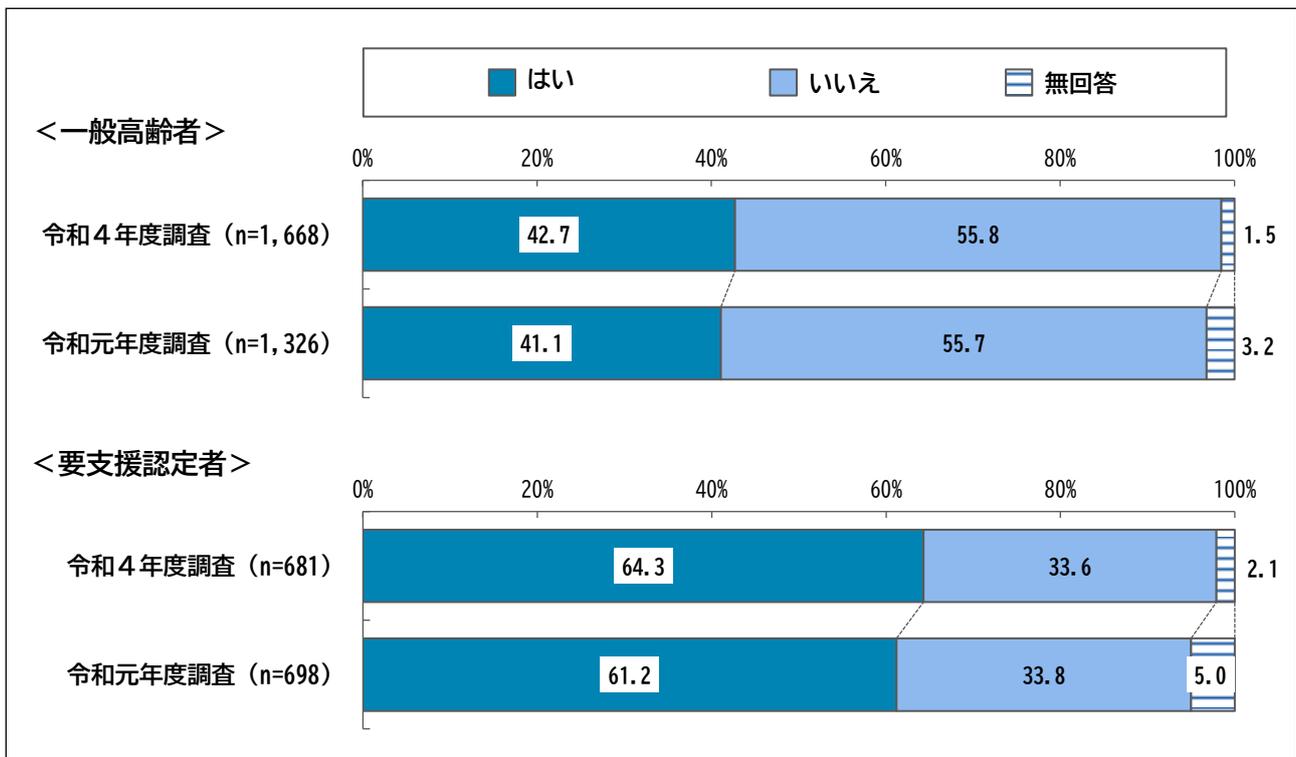
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」は1.6ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が3.1ポイント増加しています。

図表 101 物忘れが多いと感じるか（前回比較）



問4（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

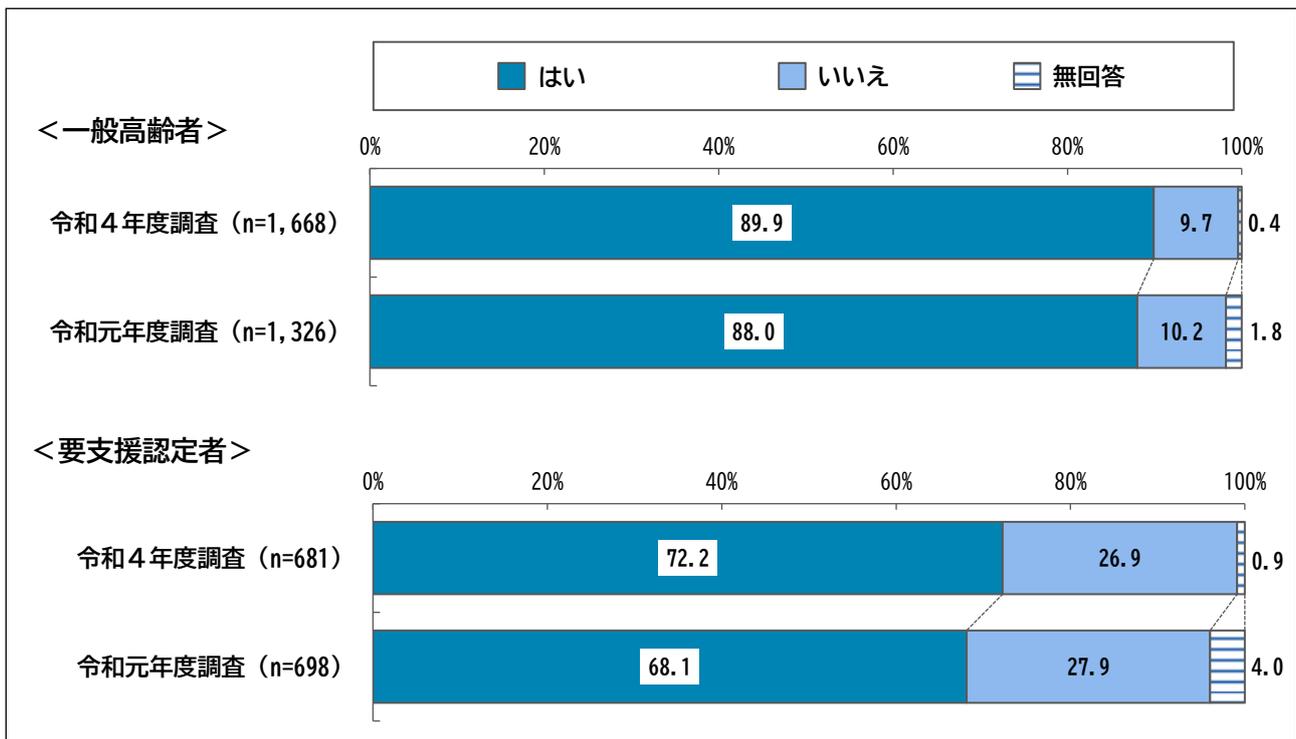
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が4.1ポイント増加しています。

図表 102 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか（前回比較）



問4（3）今日が何月何日かわからない時がありますか。

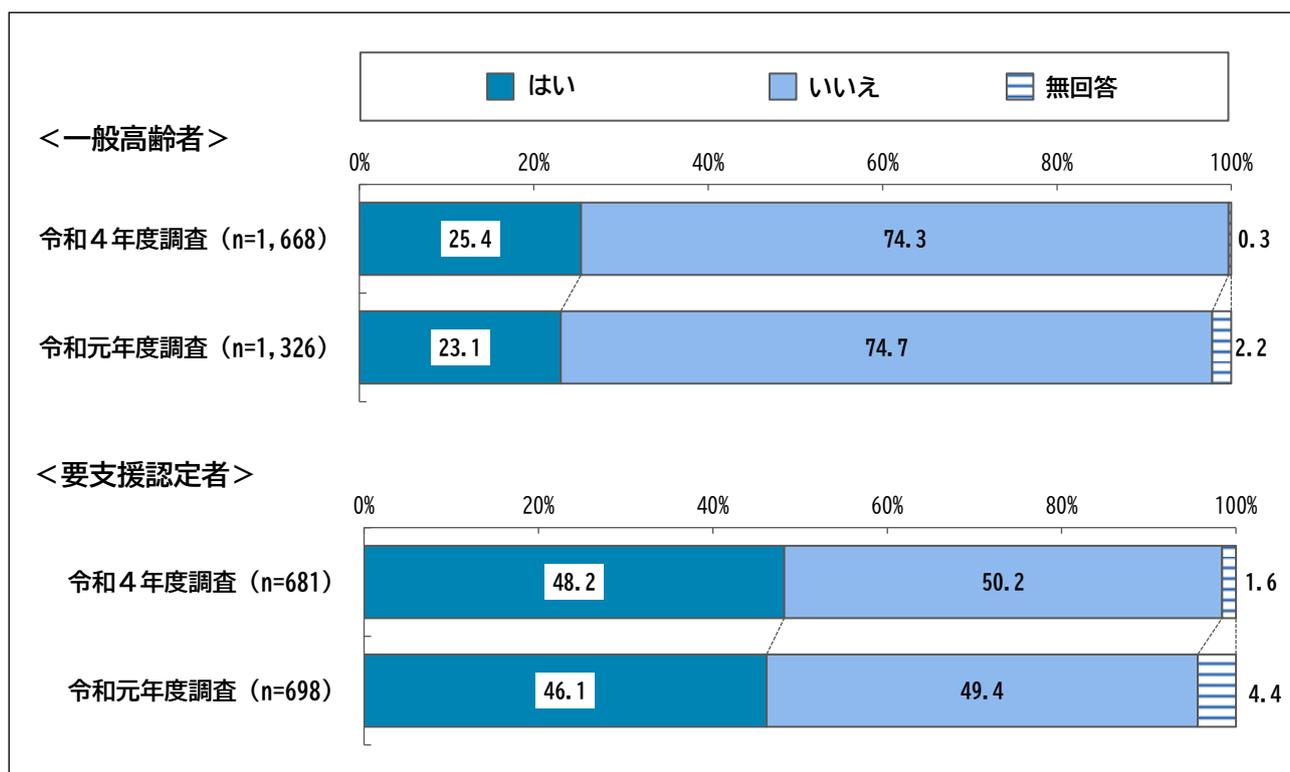
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.3ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.1ポイント増加しています。

図表 103 今日が何月何日かわからない時があるか（前回比較）



問4（4）バスや電車を使って1人で外出していますか。【自家用車でも可】

【一般高齢者】

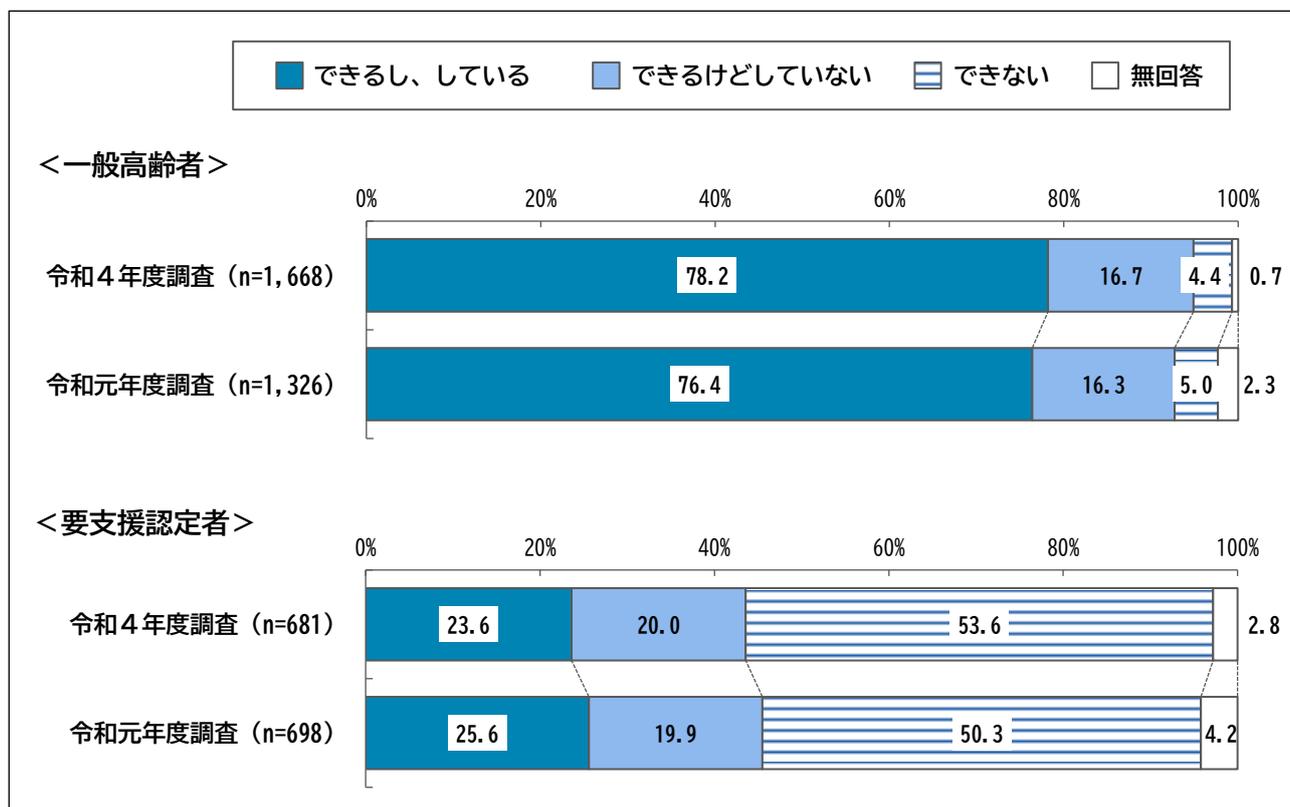
令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の92.7%に対し、令和4年度では94.9%となっており、2.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の45.5%に対し、令和4年度では43.6%となっており、1.9ポイント減少しています。

また、「できない」が3.3ポイント増加しています。

図表 104 1人で外出をしているか（前回比較）



問4（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか。

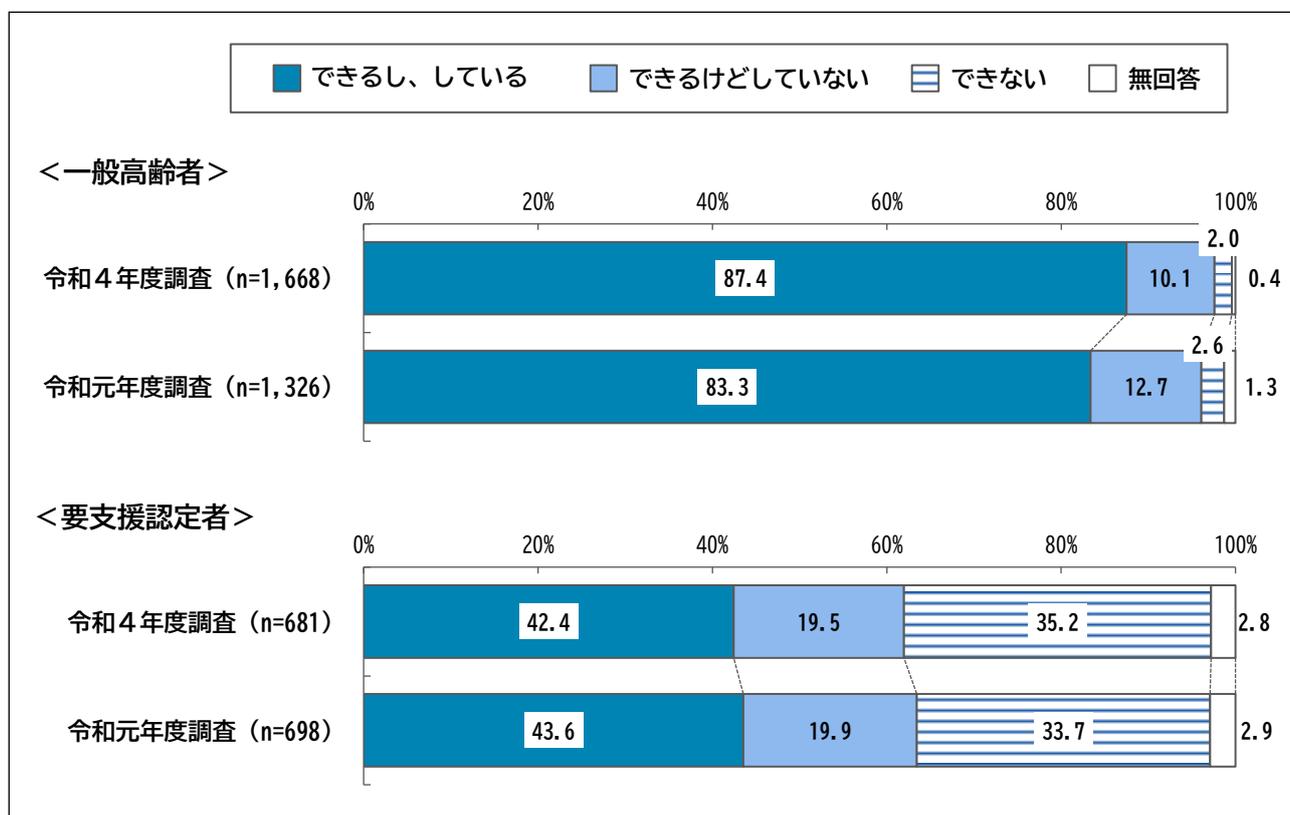
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」が減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の96.0%に対し、令和4年度では97.5%となっており、1.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の63.5%に対し、令和4年度では61.9%となっており、1.6ポイント減少しています。

図表 105 自分で食品・日用品の買物をしているか（前回比較）



問4（6）自分で食事の用意をしていますか。

【一般高齢者】

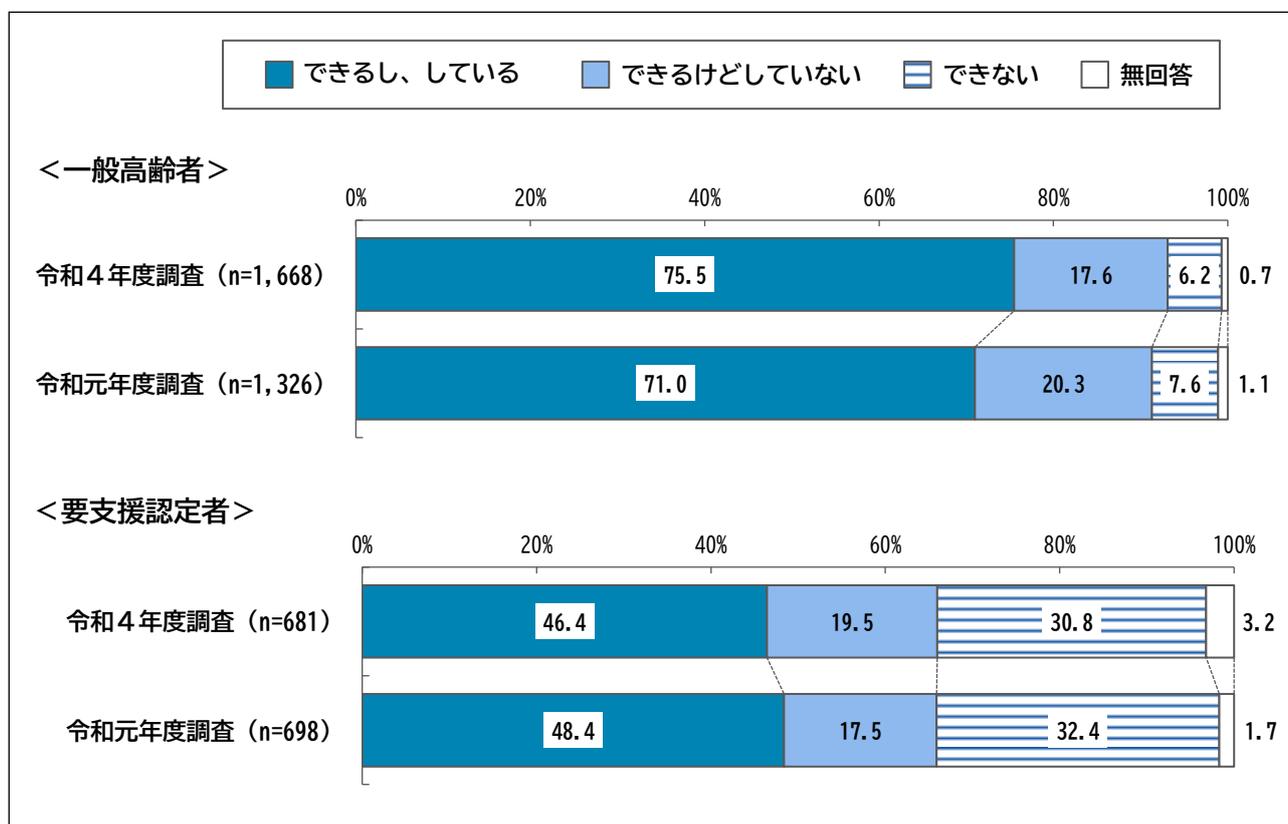
令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の91.3%に対し、令和4年度では93.1%となっており、1.8ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度、令和4年度ともに65.9%と同率となっています。

一方、「できない」は1.6ポイント減少しています。

図表 106 自分で食事の用意をしているか（前回比較）



問4（7）自分で請求書の支払いをしていますか。

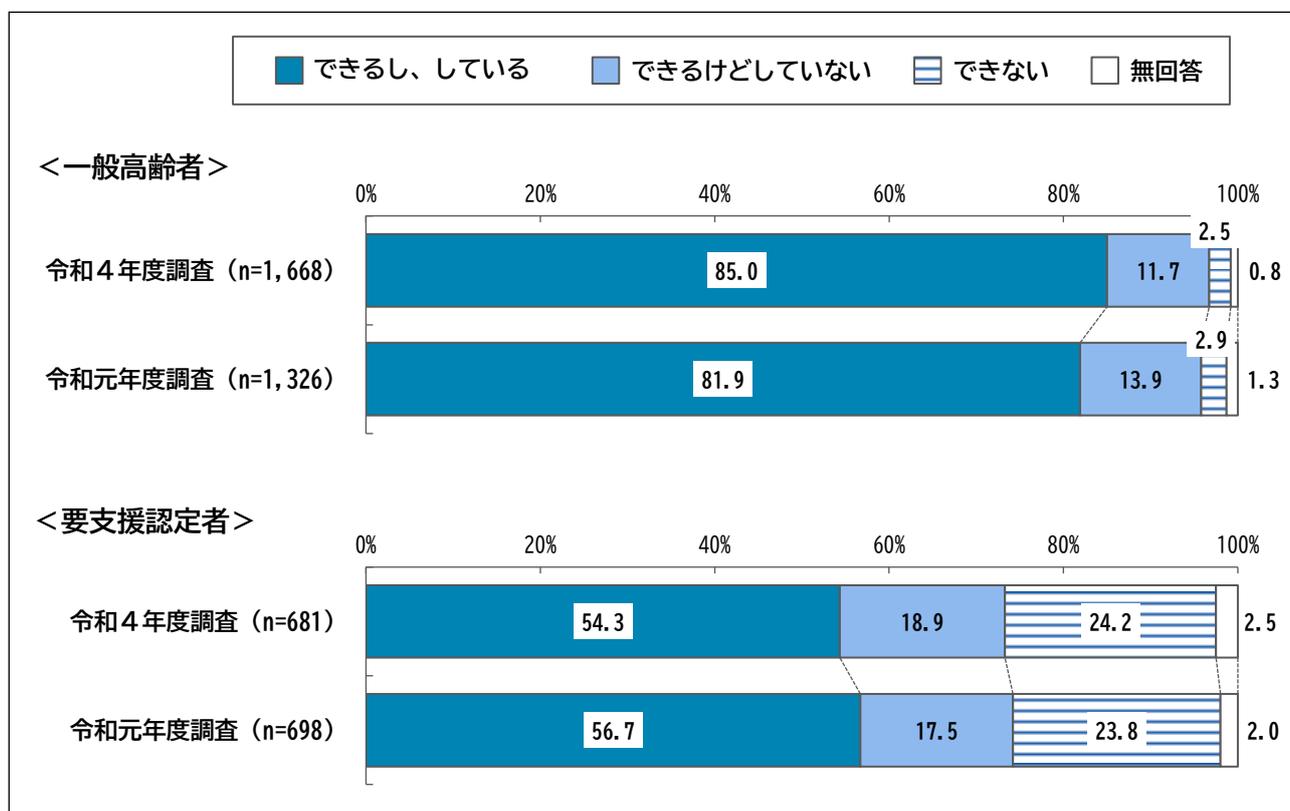
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の95.8%に対し、令和4年度では96.7%となっており、0.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の74.2%に対し、令和4年度では73.2%となっており、1.0ポイント減少しています。

図表 107 自分で請求書の支払いをしているか（前回比較）



問4（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか。

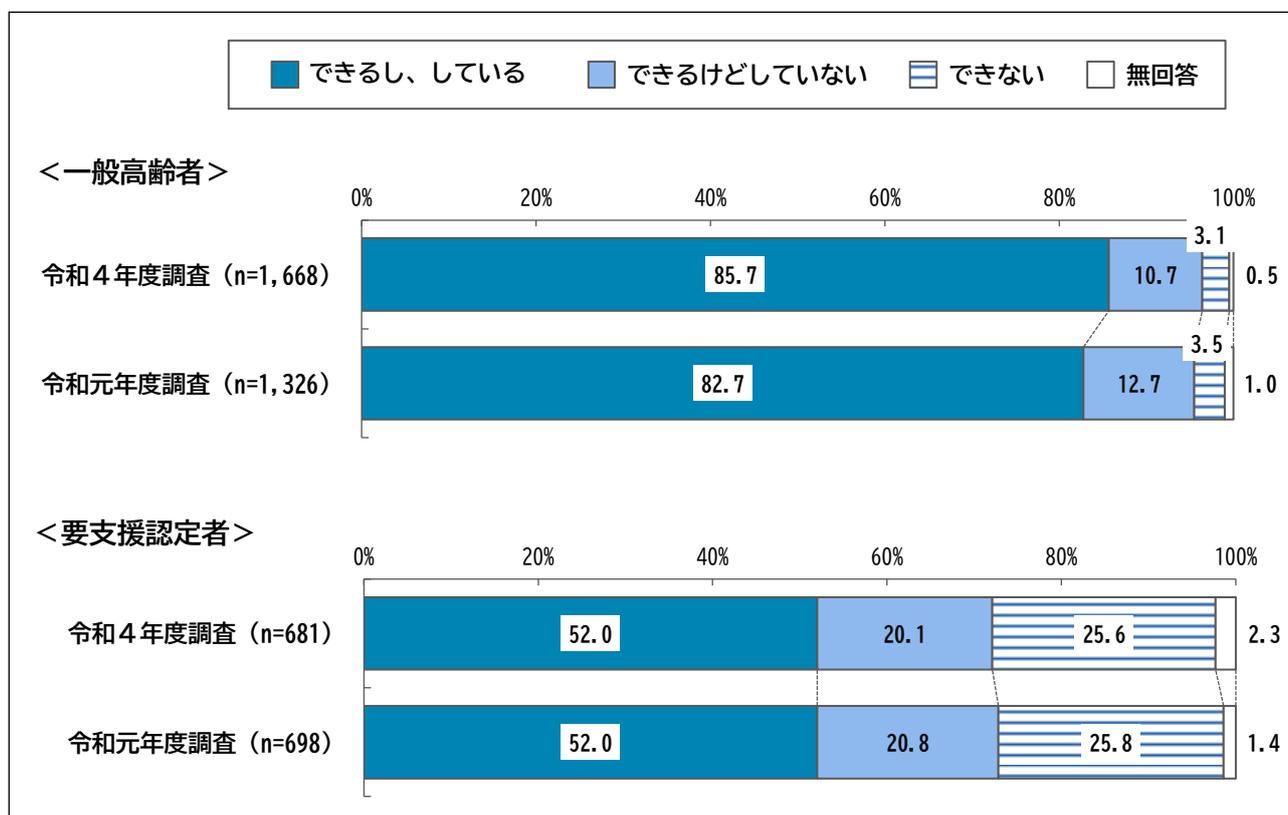
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の95.4%に対し、令和4年度では96.4%となっており、1.0ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」は変化がみられず、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和元年度の72.8%に対し、令和4年度では72.1%となっており、0.7ポイント減少しています。

図表 108 自分で預貯金の出し入れをしているか（前回比較）



問4（9）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。

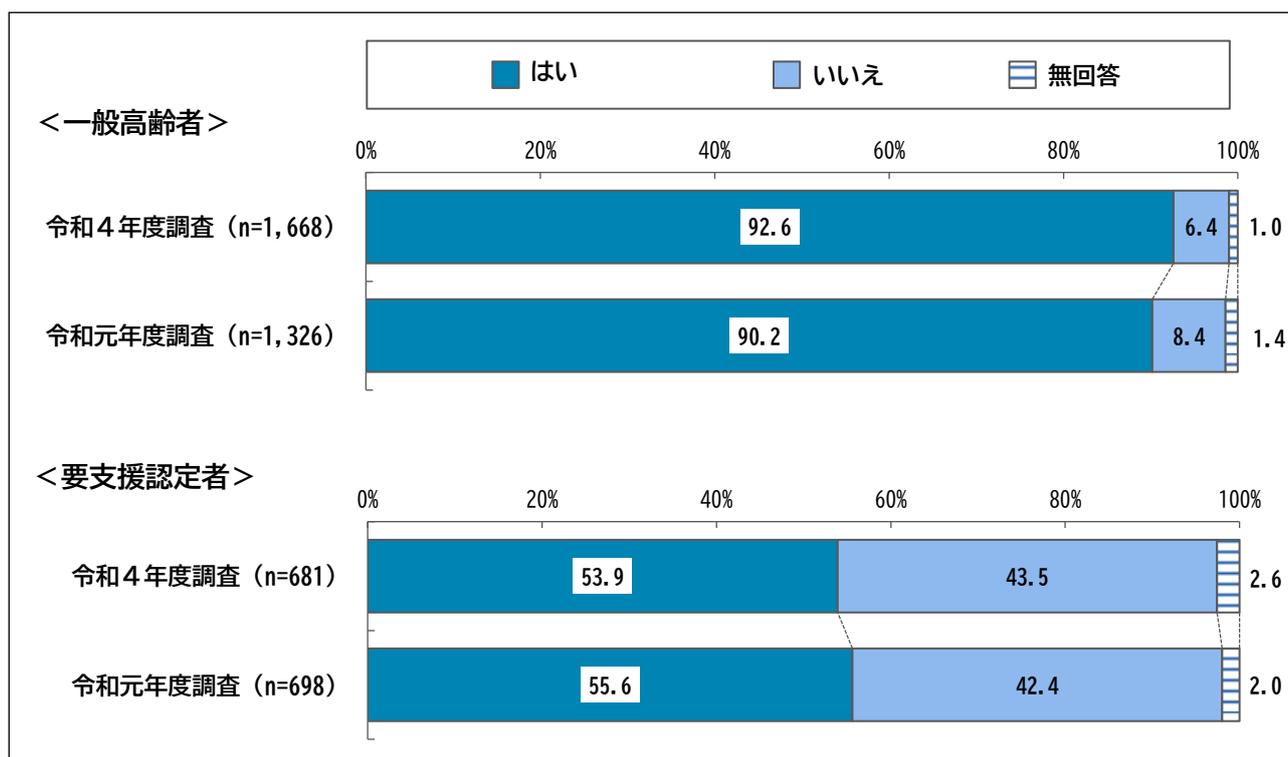
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.7ポイント減少しています。

図表 109 年金などの書類が書けるか（前回比較）



問4 (10) 新聞を読んでいますか。

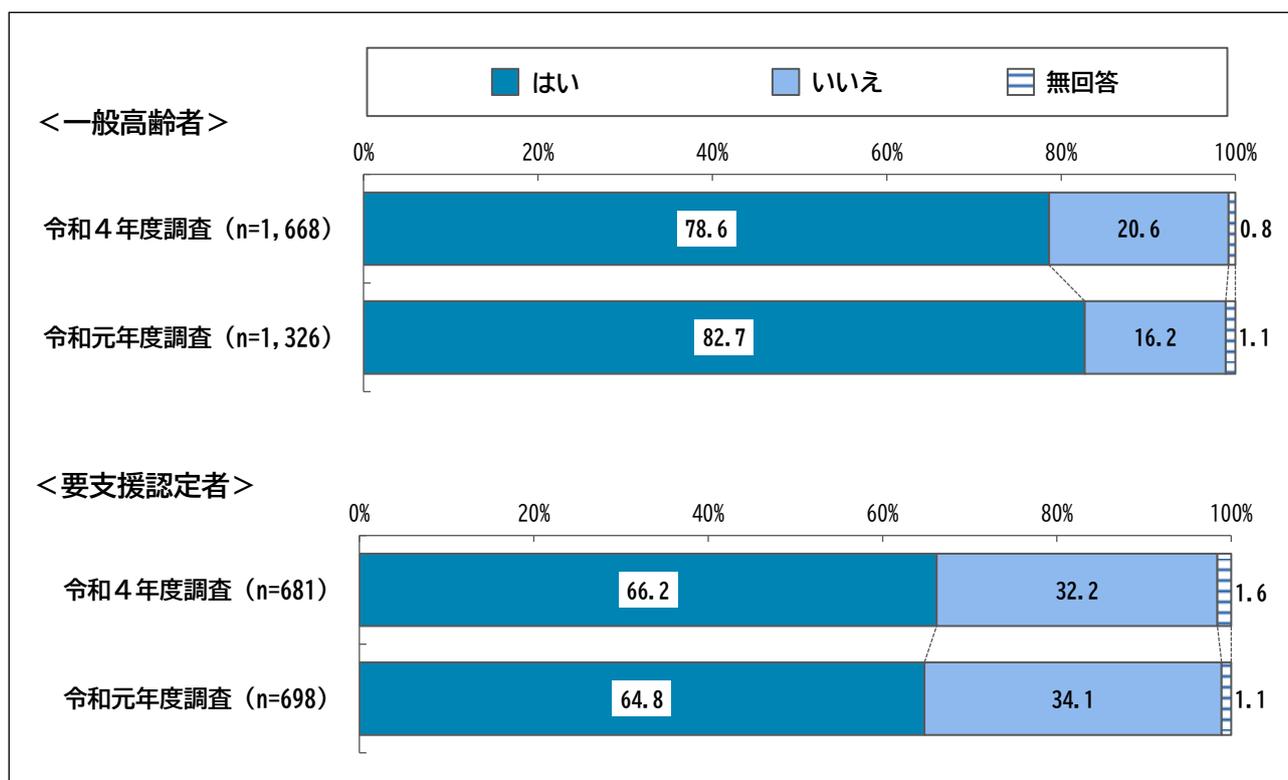
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が4.1ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント増加しています。

図表 110 新聞を読んでいるか（前回比較）



問4 (11) 本や雑誌を読んでいますか。

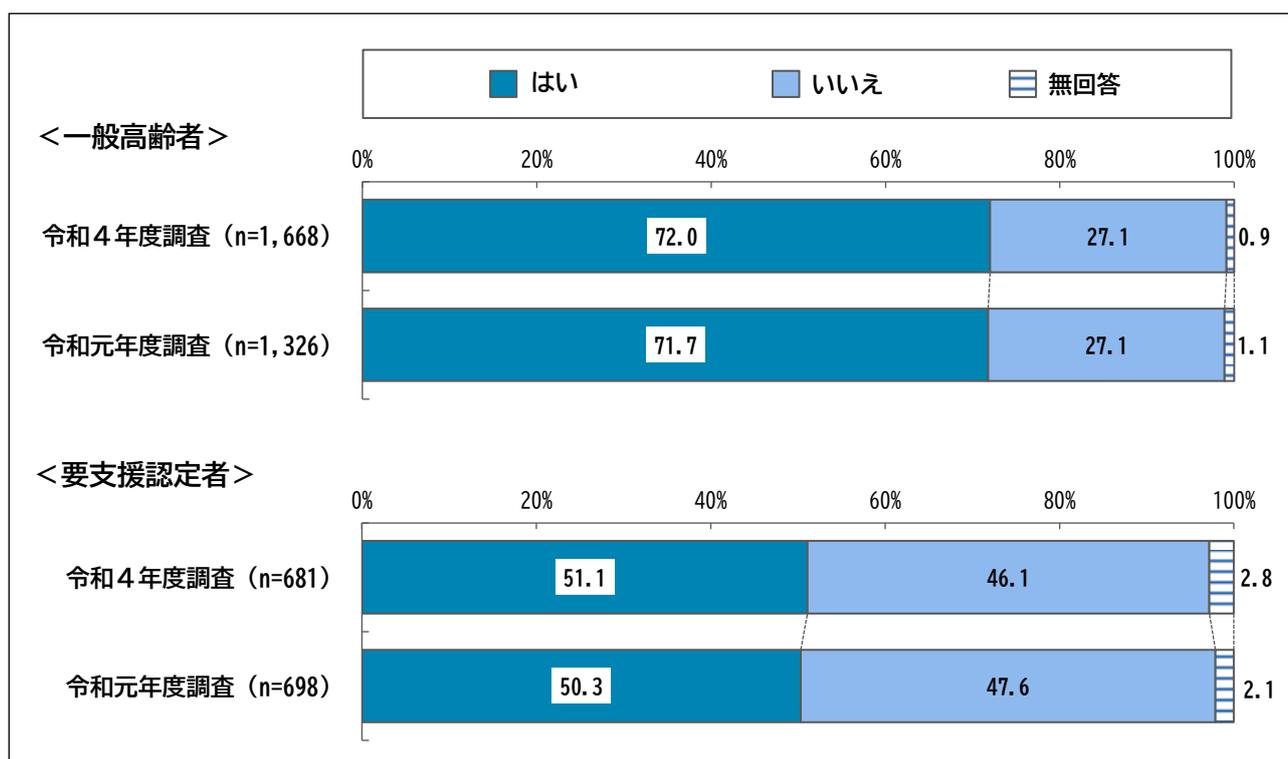
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が0.3ポイント増加していますが概ね同様の結果となっています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が1.5ポイント減少しています。

図表 111 本や雑誌を読んでいるか（前回比較）



問4（12）健康についての記事や番組に関心がありますか。

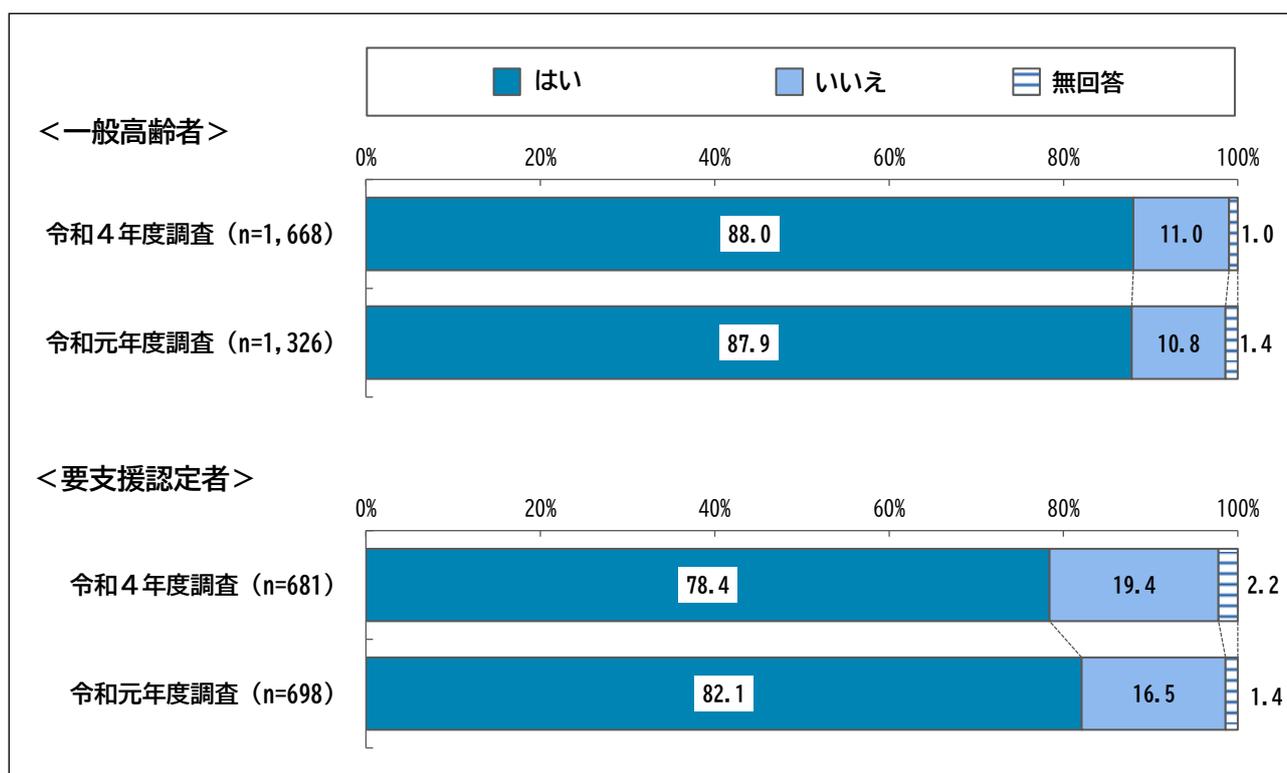
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が0.1ポイント増加していますが概ね同様の結果となっています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が3.7ポイント減少しています。

図表 112 健康についての記事や番組に関心があるか（前回比較）



問4 (13) 友人の家を訪ねていますか。

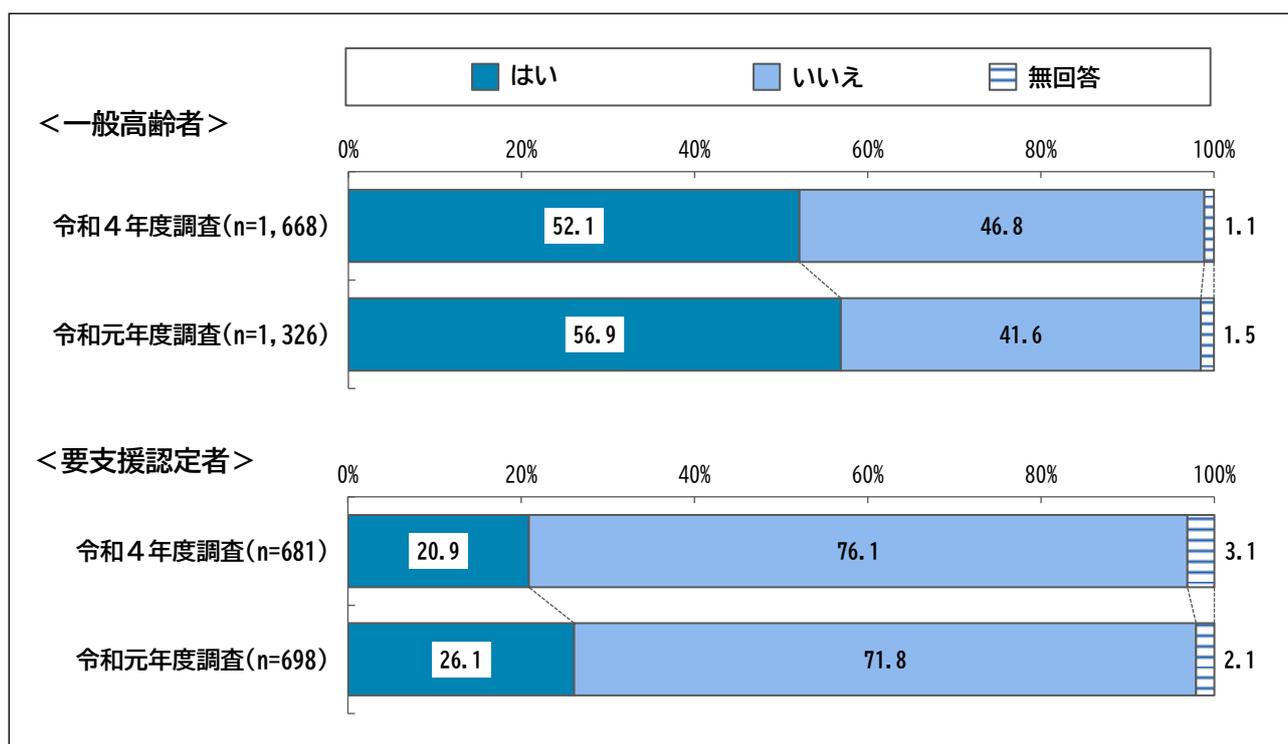
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が4.8ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が5.2ポイント減少しています。

図表 113 友人の家を訪ねているか（前回比較）



問4（14）若い人に自分から話しかけることがありますか。

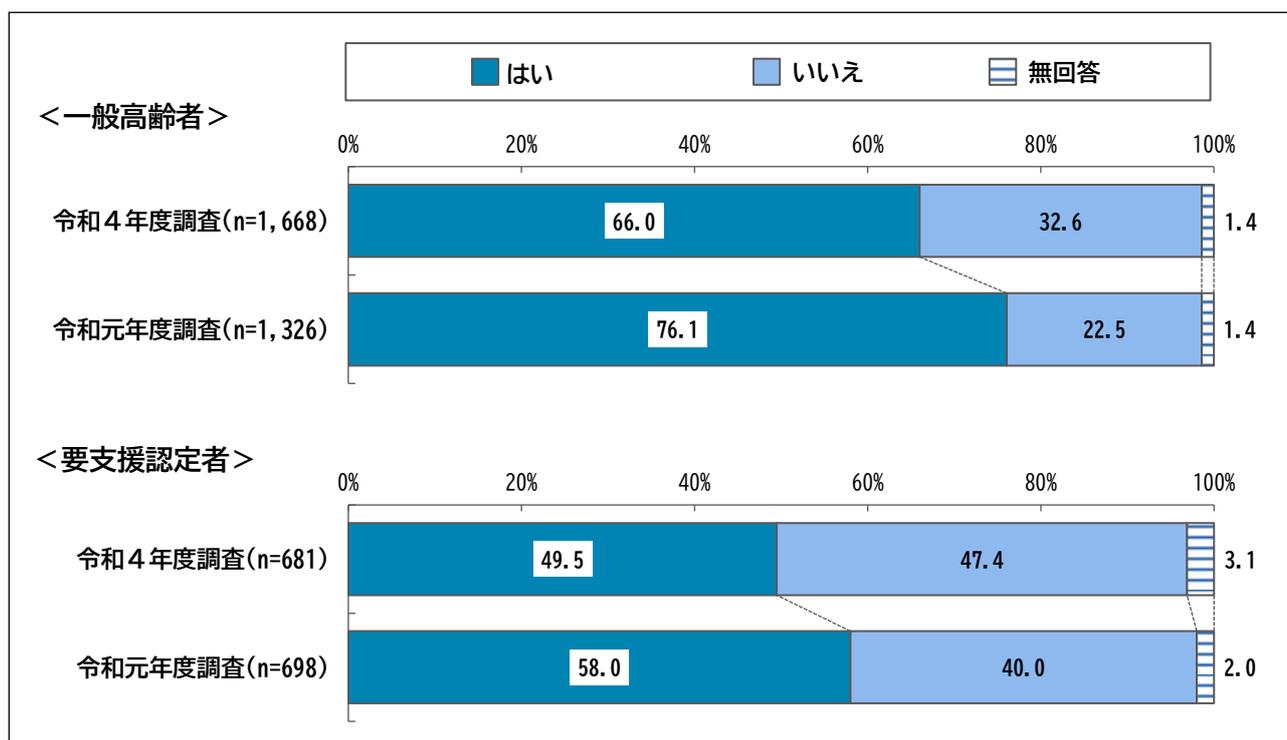
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が10.1ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が8.5ポイント減少しています。

図表 114 若い人に自分から話しかけることがあるか（前回比較）



問4 (15) 趣味はありますか。

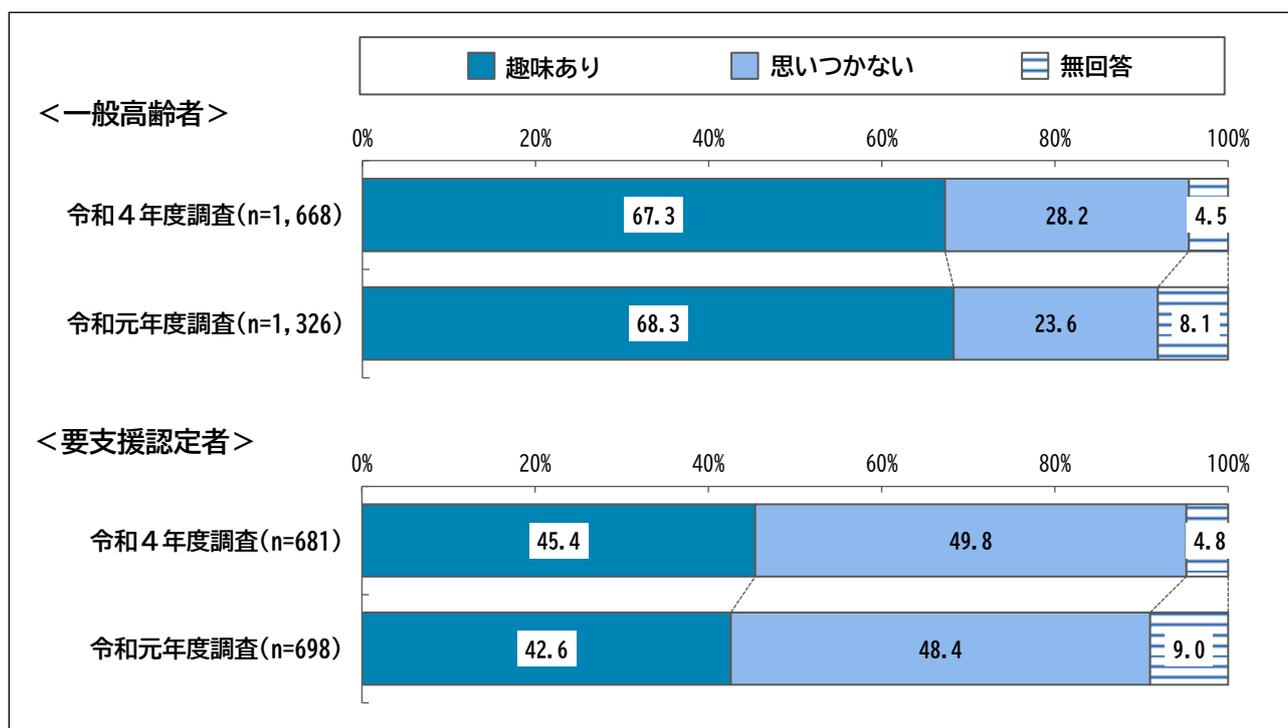
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「趣味あり」は 1.0 ポイントの減少にとどまっていますが、「思いつかない」は 4.6 ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「趣味あり」が 2.8 ポイント増加しています。

図表 115 趣味の有無（前回比較）



問4 (16) 生きがいがありますか。

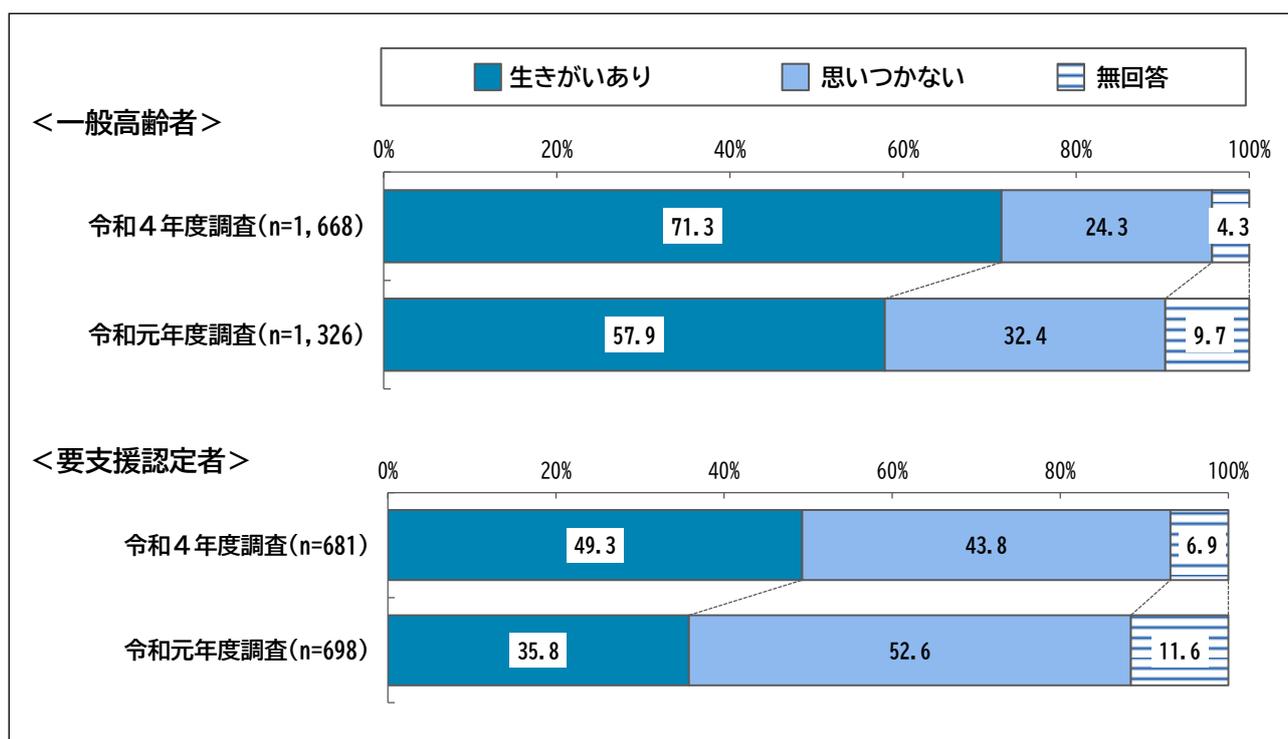
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「生きがいあり」が13.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「生きがいあり」が13.5ポイント増加しています。

図表 116 生きがいの有無（前回比較）



問4 (17) 5分前のことが思い出せますか。

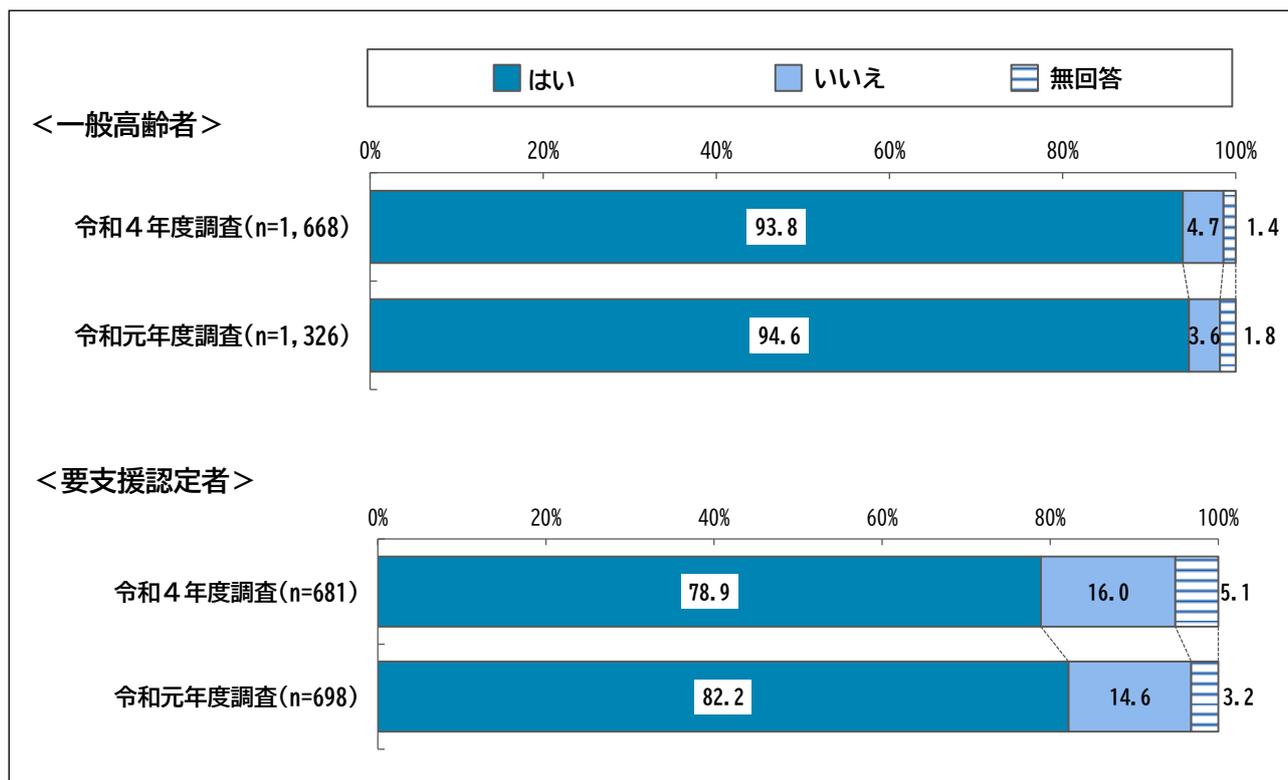
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」は1.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が3.3ポイント減少しています。

図表 117 5分前のことが思い出せるか（前回比較）



問4（18）その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。

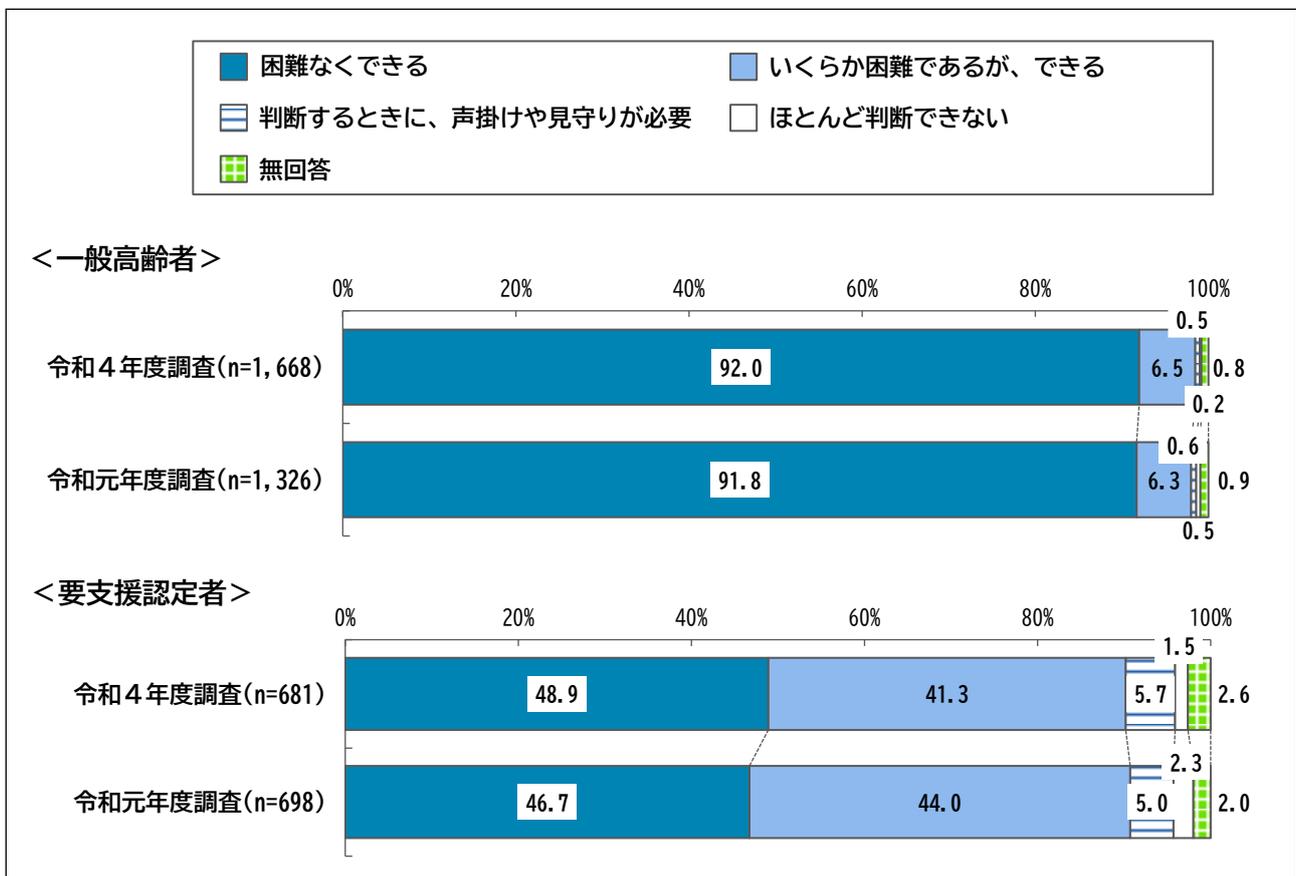
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「困難なくできる」、「いくらか困難であるが、できる」は、いずれも増加しています。これらを合計した『判断できる』の割合は、令和元年度の98.1%に対し、令和4年度は98.5%となっており、0.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「困難なくできる」は増加し、「いくらか困難であるが、できる」は減少しています。これらを合計した『判断できる』の割合は、令和元年度の90.7%に対し、令和4年度は90.2%となっており、0.5ポイント減少しています。

図表 118 その日の活動を自分で判断できるか（前回比較）



問4（19）人に自分の考えをうまく伝えられますか。

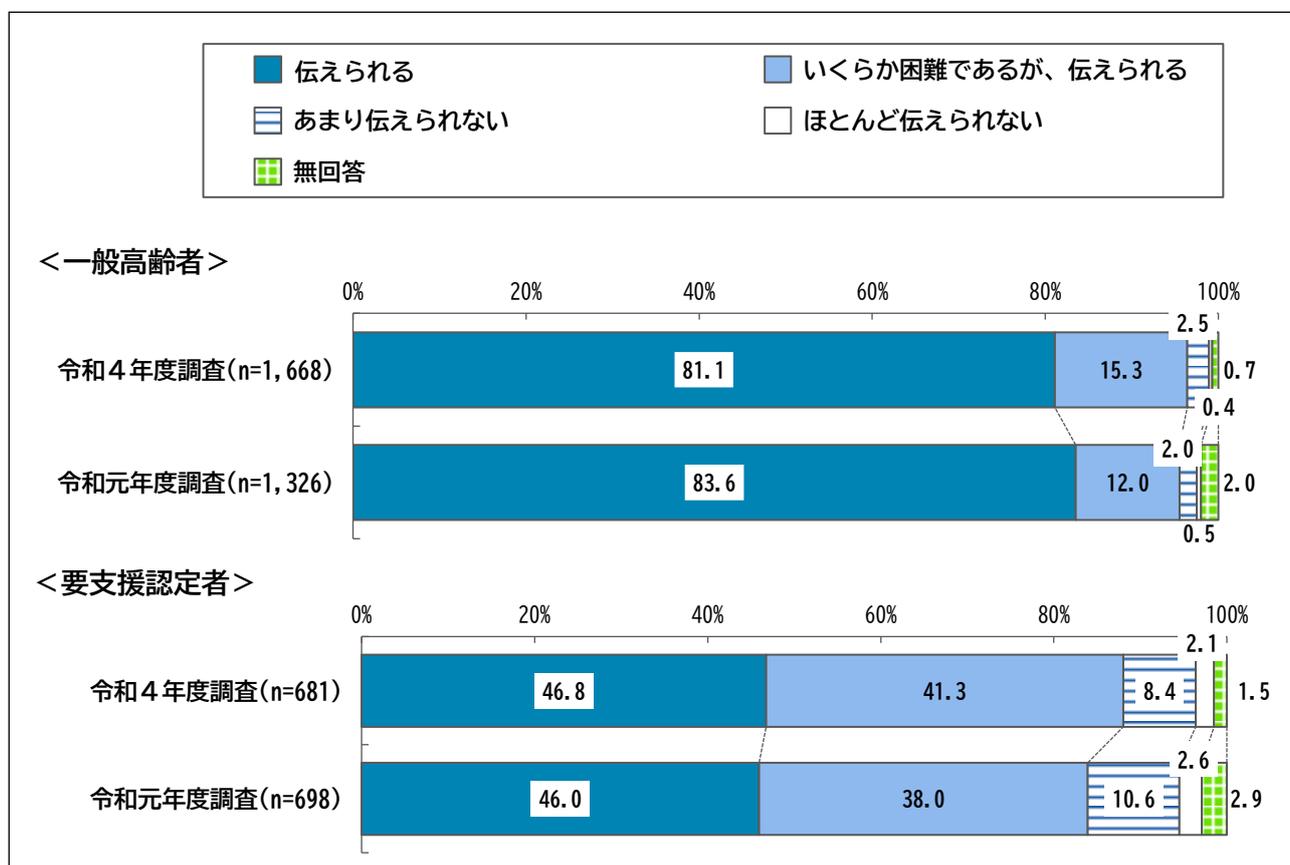
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「伝えられる」は減少し、「いくらか困難であるが、伝えられる」は増加しています。これらを合計した『伝えられる』の割合は、令和元年度の 95.6%に対し、令和4年度は 96.4% となっており、0.8 ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「伝えられる」、「いくらか困難であるが、伝えられる」は、いずれも増加しています。これらを合計した『伝えられる』の割合は、令和元年度の 84.0%に対し、令和4年度は 88.1% となっており、4.1 ポイント増加しています。

図表 119 人に自分の考えをうまく伝えられるか（前回比較）



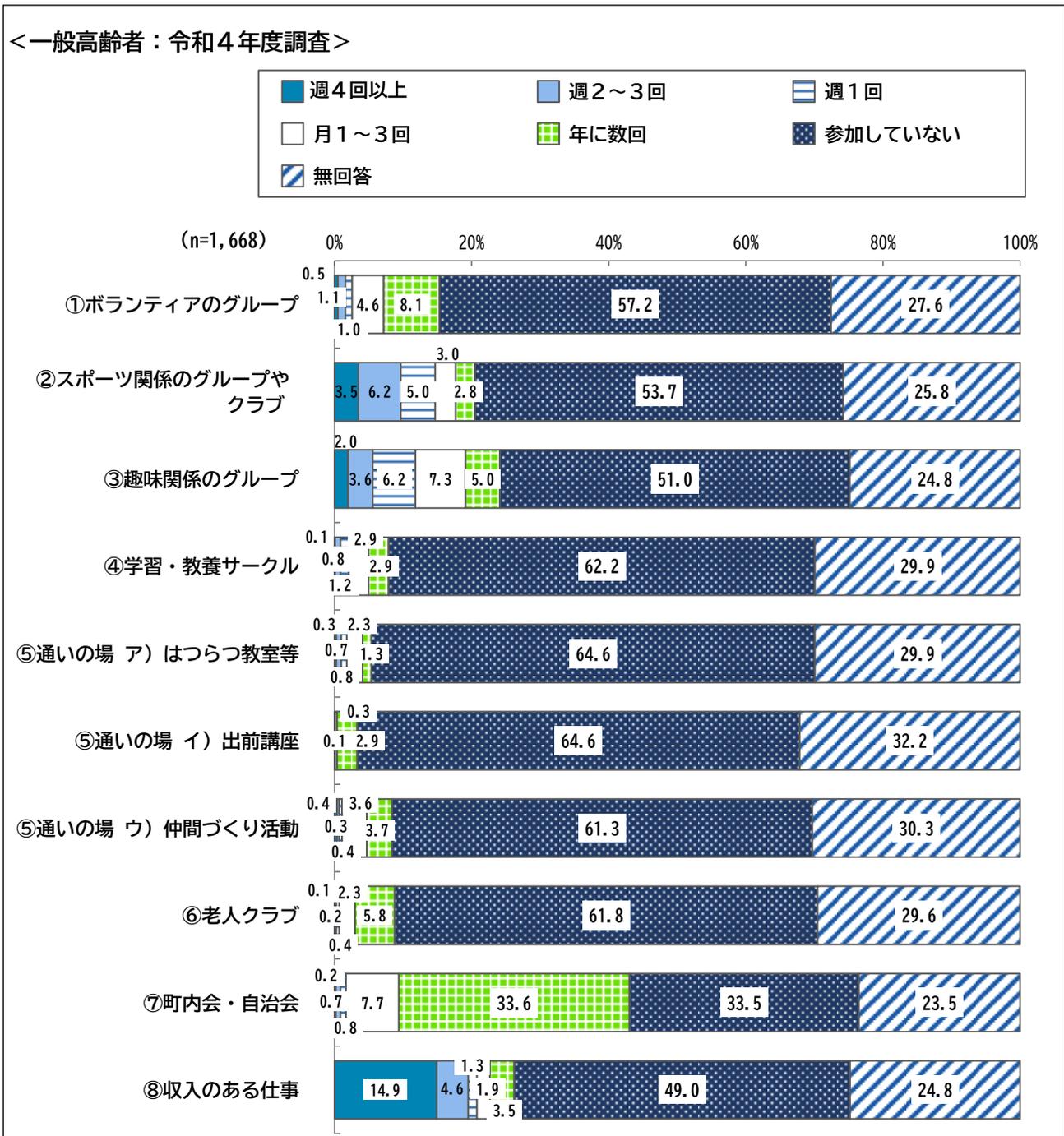
5 地域での活動について

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

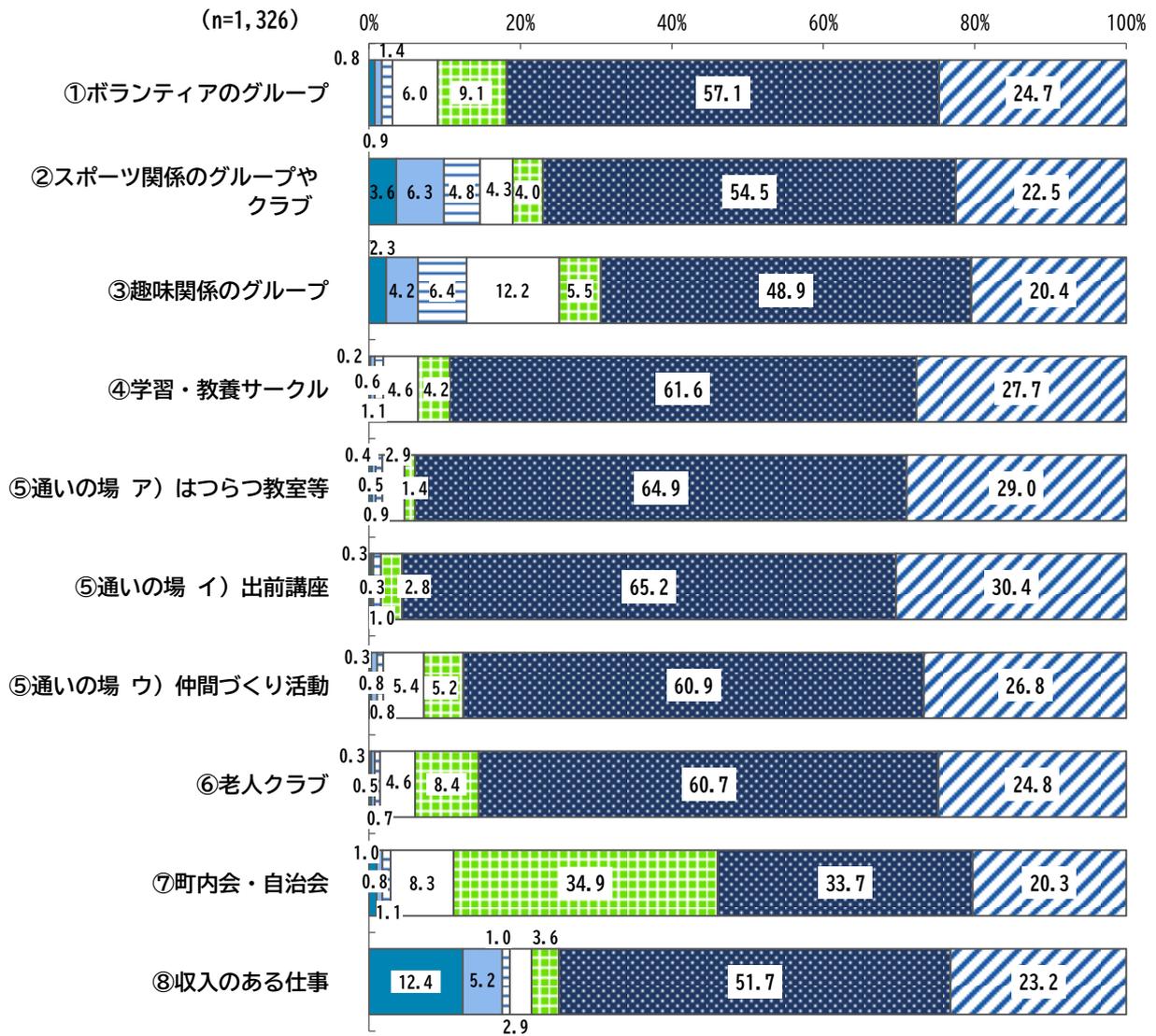
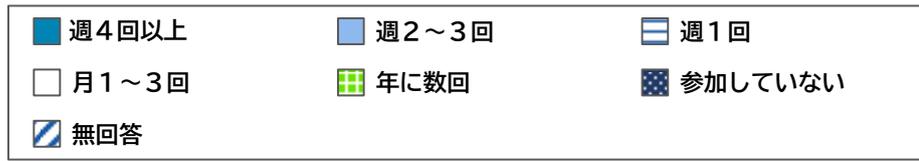
【一般高齢者】

「週4回以上」から「年に数回」までの割合を合計した『参加率』を前回調査と比較してみると、③趣味関係のグループでは6.5ポイント減少、⑥老人クラブでは5.7ポイント減少しています。

図表 120 社会参加の状況（前回比較）



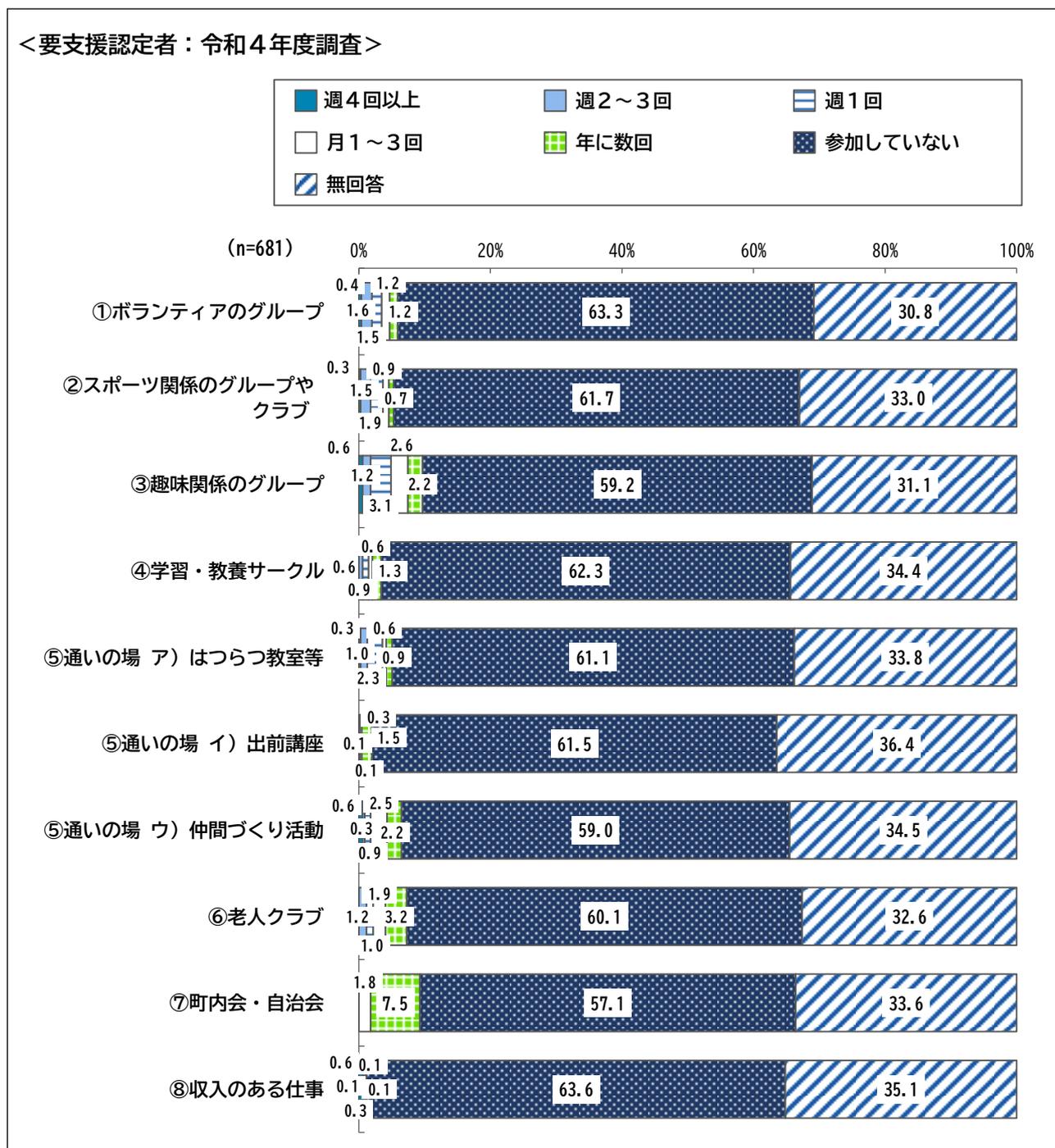
<一般高齢者：令和元年度調査>



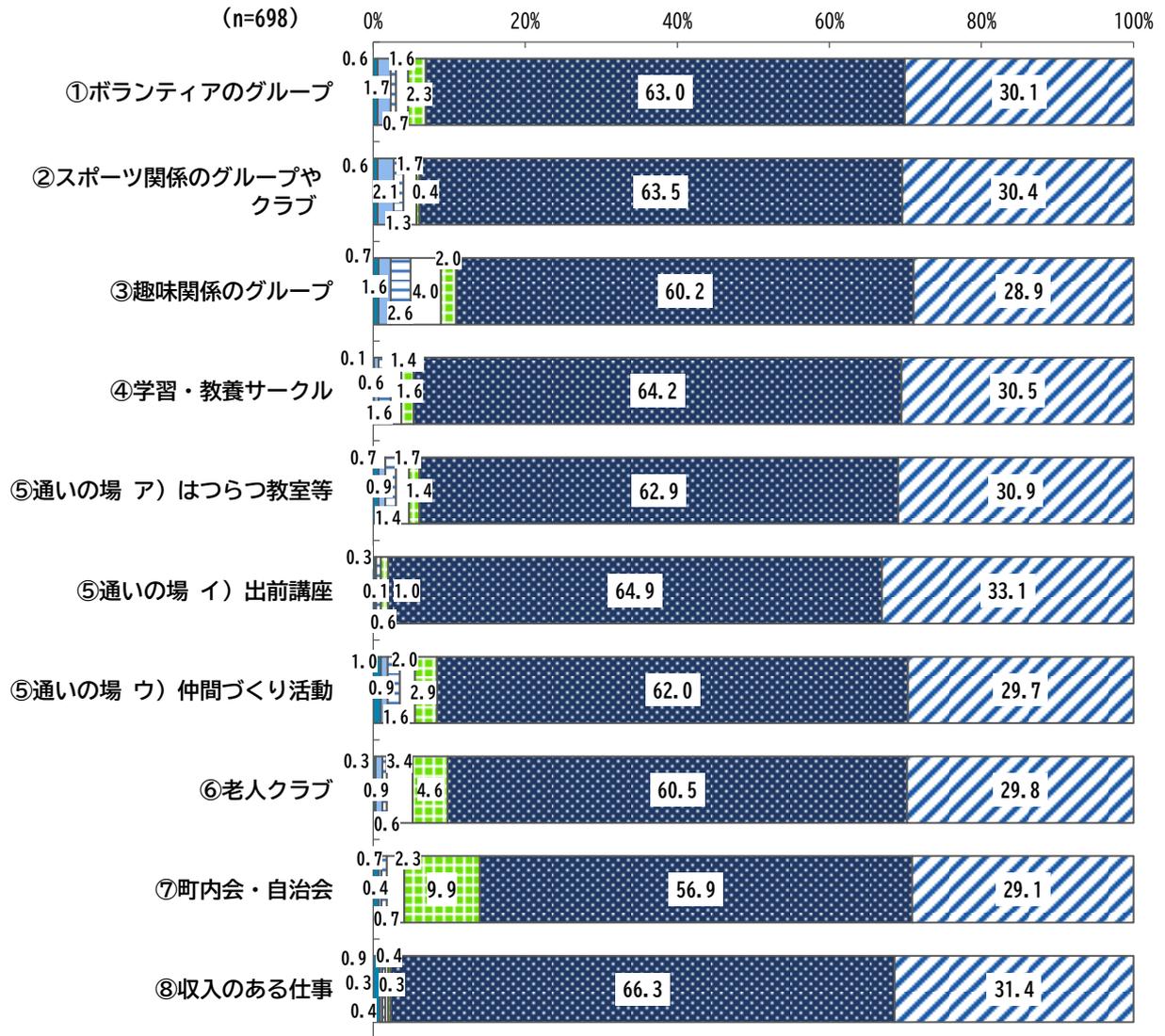
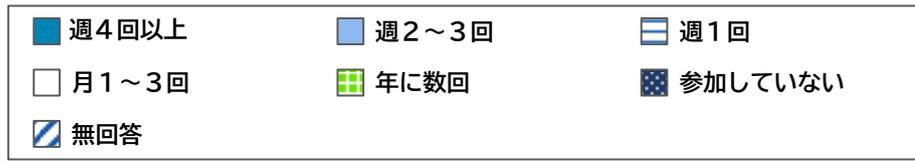
【要支援認定者】

「週4回以上」から「年に数回」までの割合を合計した『参加率』を前回調査と比較してみると、いずれの地域活動についても減少しており、特に⑦町内会・自治会は4.7ポイント、⑥老人クラブは2.5ポイント減少しています。

図表 121 社会参加の状況（前回比較）



<要支援認定者：令和元年度調査>



問5（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

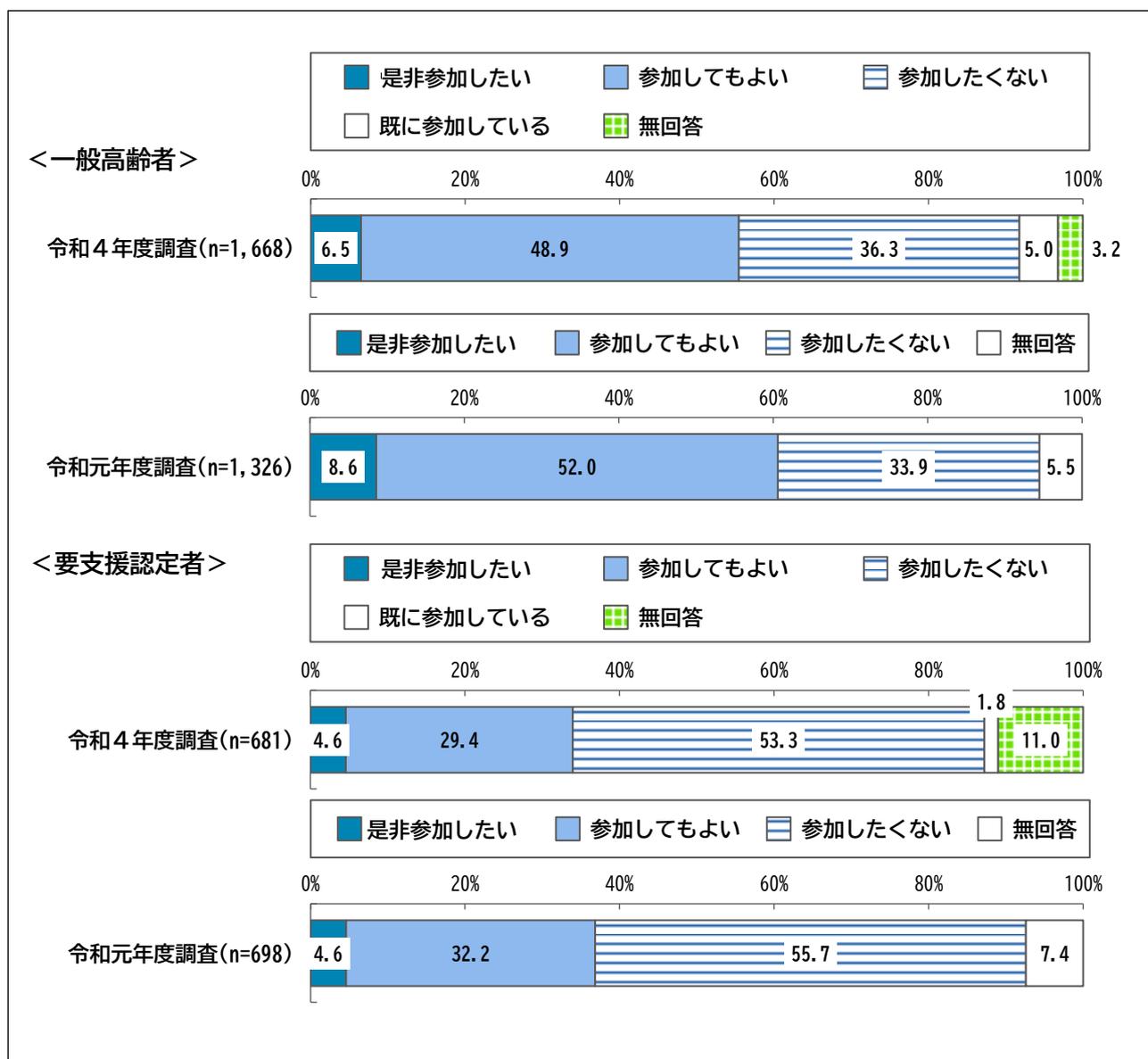
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「是非参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも減少しています。また、これらを合計した『参加者として参加してもよい』割合は、令和元年度の60.6%に対し、令和4年度は55.4%となっており、5.2ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「是非参加したい」は変化がみられず、「参加してもよい」は減少しています。また、これらを合計した『参加者として参加してもよい』割合は、令和元年度の36.8%に対し、令和4年度は34.0%となっており、2.8ポイント減少しています。

図表 122 地域づくりへの参加意向（参加者）（前回比較：参考）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

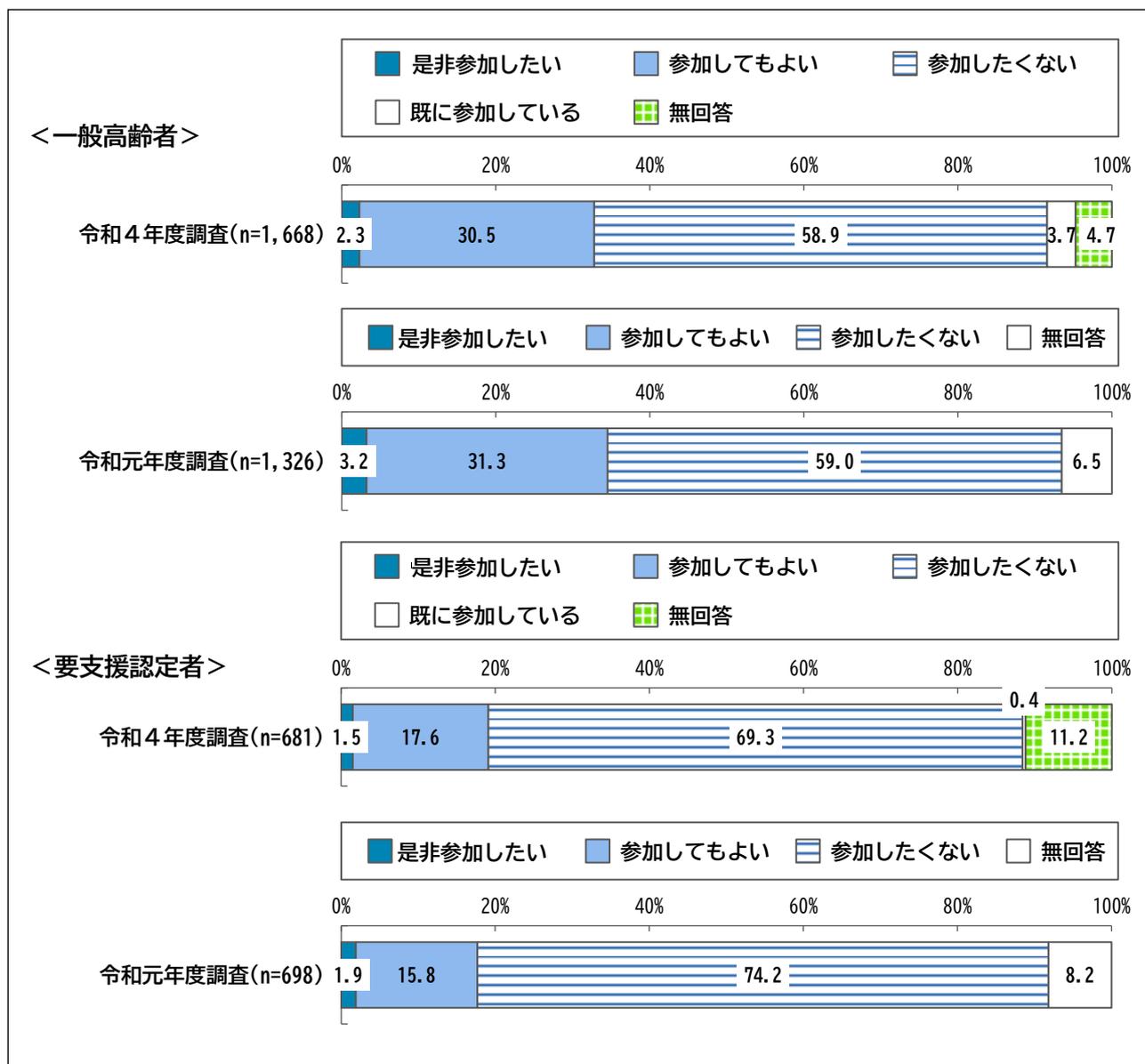
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「是非参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも減少しています。また、これらを合計した『企画・運営として参加してもよい』割合は、令和元年度の34.5%に対し、令和4年度は32.8%となっており、1.7ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「是非参加したい」は減少し、「参加してもよい」は増加しています。また、これらを合計した『企画・運営としてとして参加してもよい』割合は、令和元年度の17.7%に対し、令和4年度は19.1%となっており、1.4ポイント増加しています。

図表 123 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（前回比較）



6 たすけあいについて

問6 (1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人。(いくつでも)

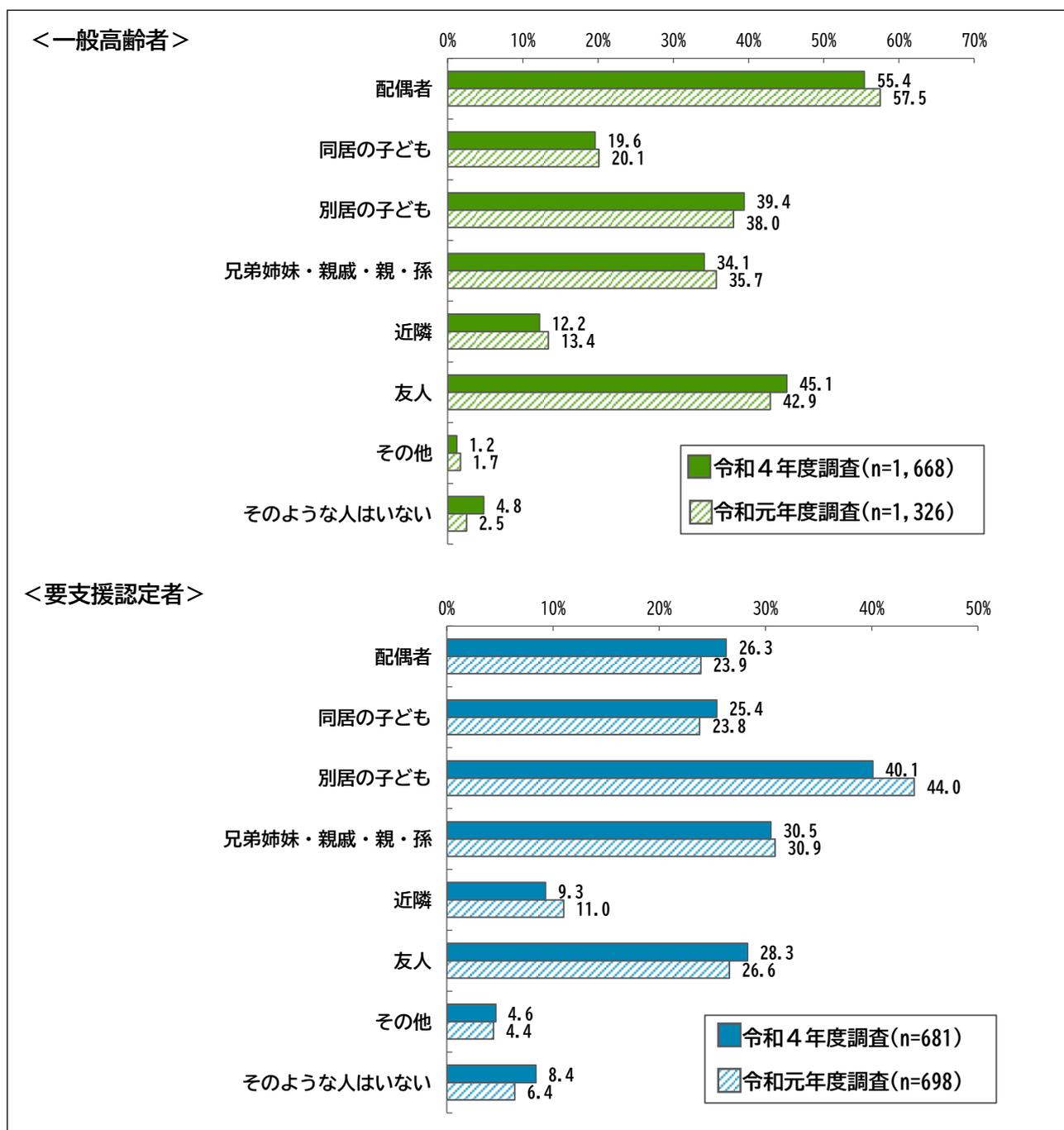
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「配偶者」が2.1ポイント減少し、「友人」が2.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「配偶者」が2.4ポイント増加し、「別居の子ども」が3.9ポイント減少しています。

図表 124 心配事や愚痴を聞いてくれる人(前回比較/複数回答)



問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（いくつでも）

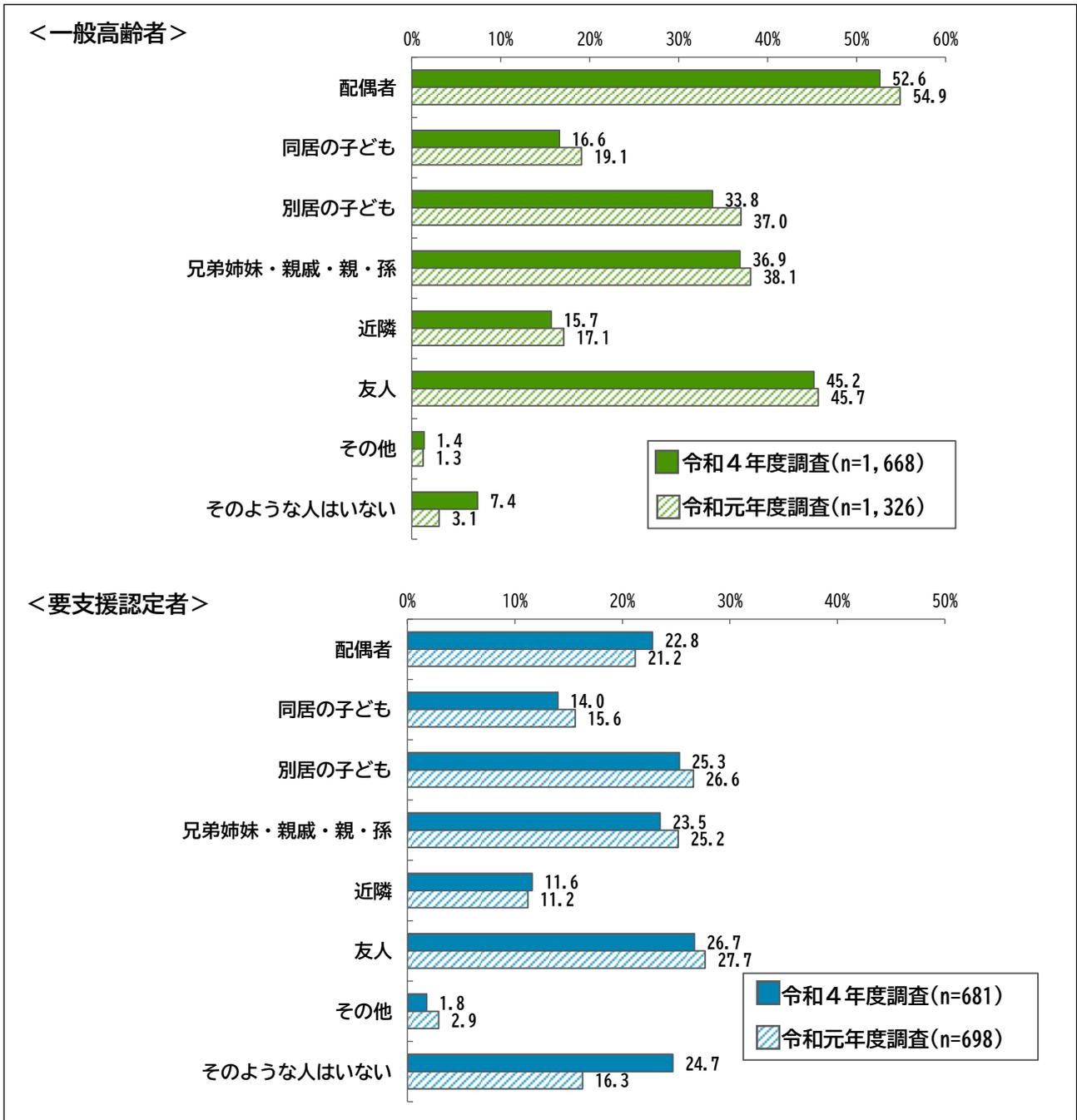
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「同居の子ども」が2.5ポイント、「別居の子ども」が3.2ポイントそれぞれ減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が8.4ポイント増加しています。

図表 125 心配事や愚痴を聞いてあげる人（前回比較／複数回答）



問6（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。（いくつでも）

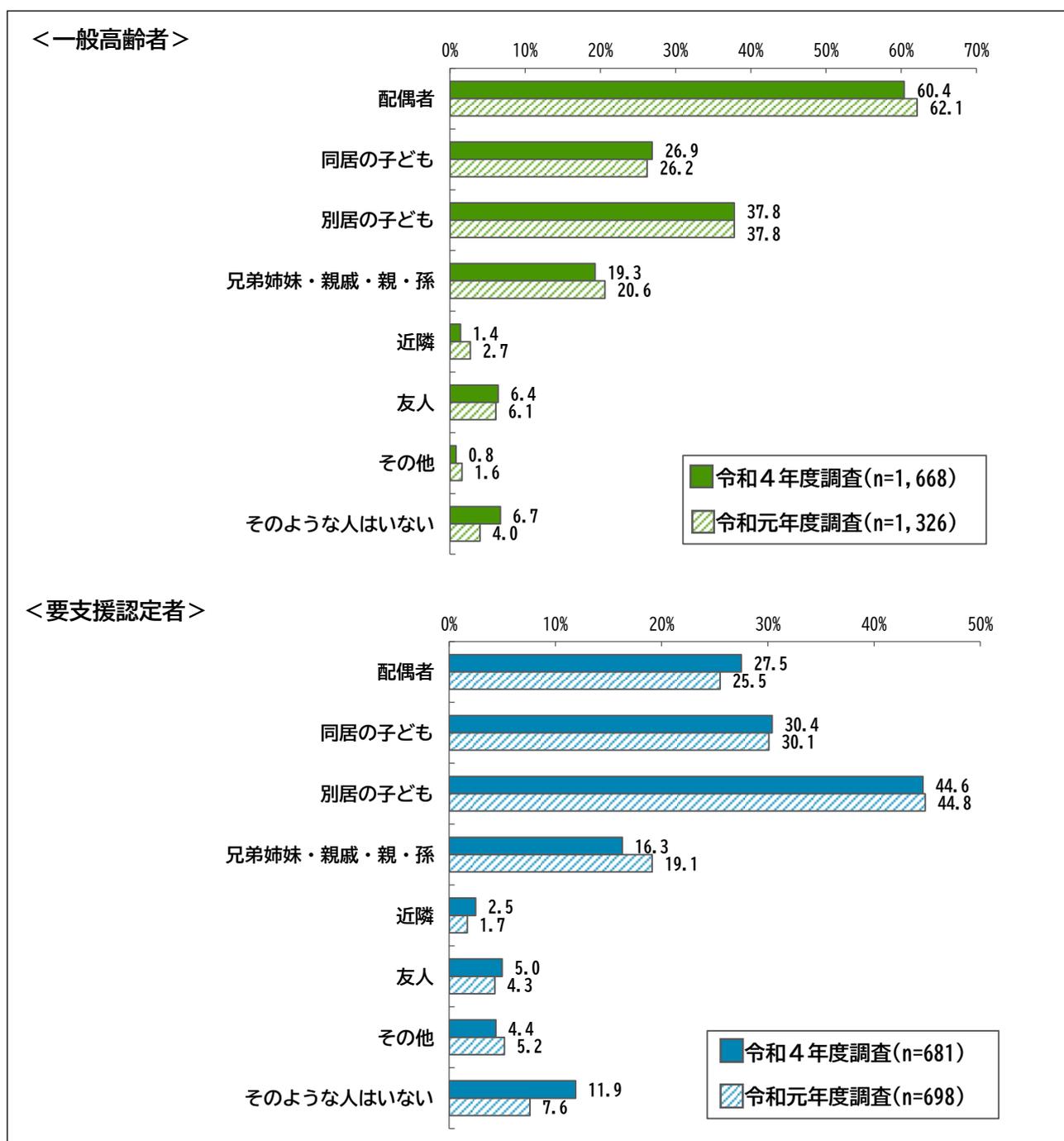
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が2.7ポイント増加していますが、それ以外の看病や世話をしてくれる人の割合は、2.0ポイント未満の増減となっています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「配偶者」が2.0ポイント増加し、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は2.8ポイント減少しています。

図表 126 看病や世話をしてくれる人（前回比較／複数回答）



問6（4）反対に、看病や世話をしあける人。（いくつでも）

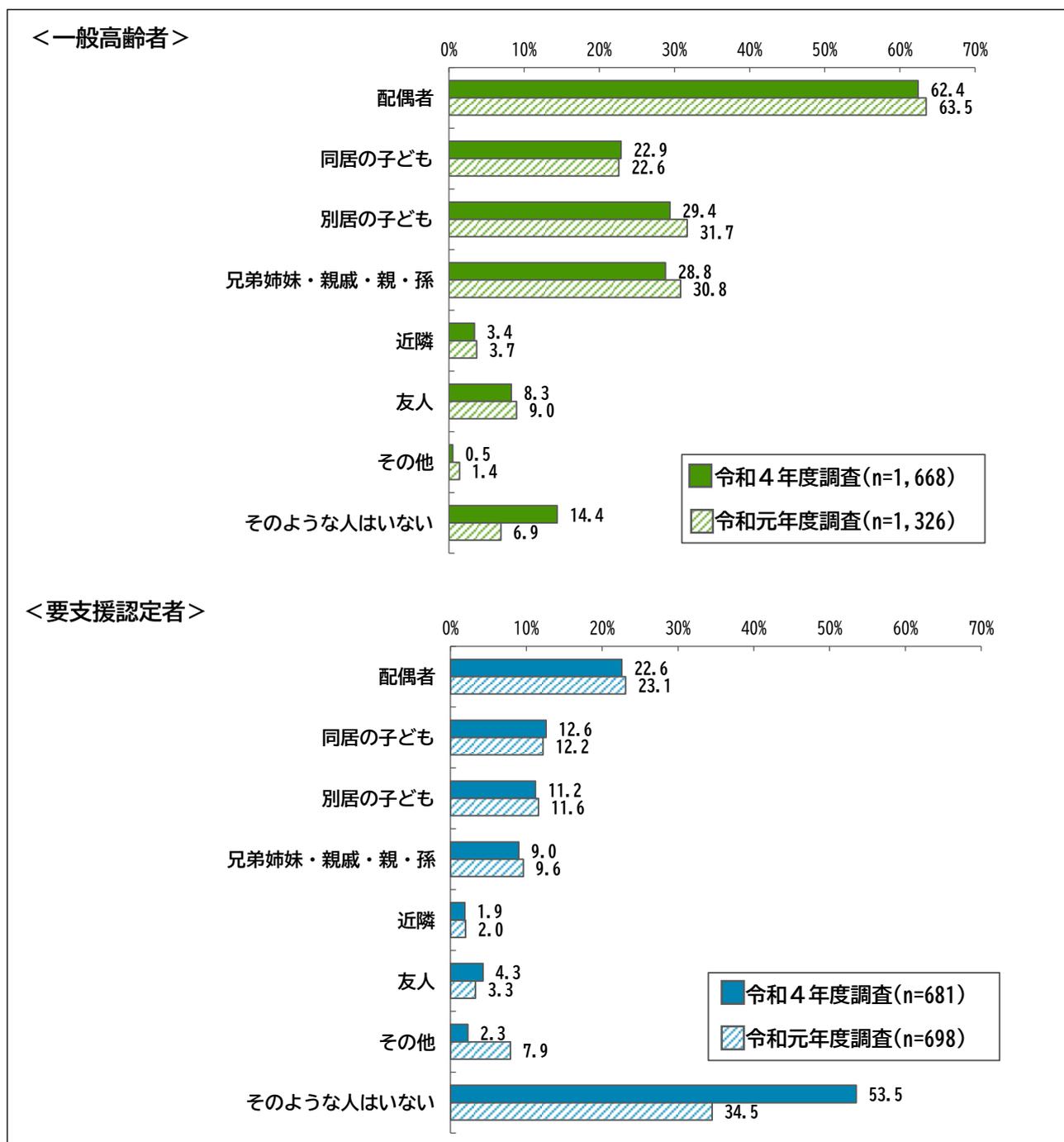
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が7.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が19.0ポイント増加しています。

図表 127 看病や世話をしあける人（前回比較／複数回答）



問6（5）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも）

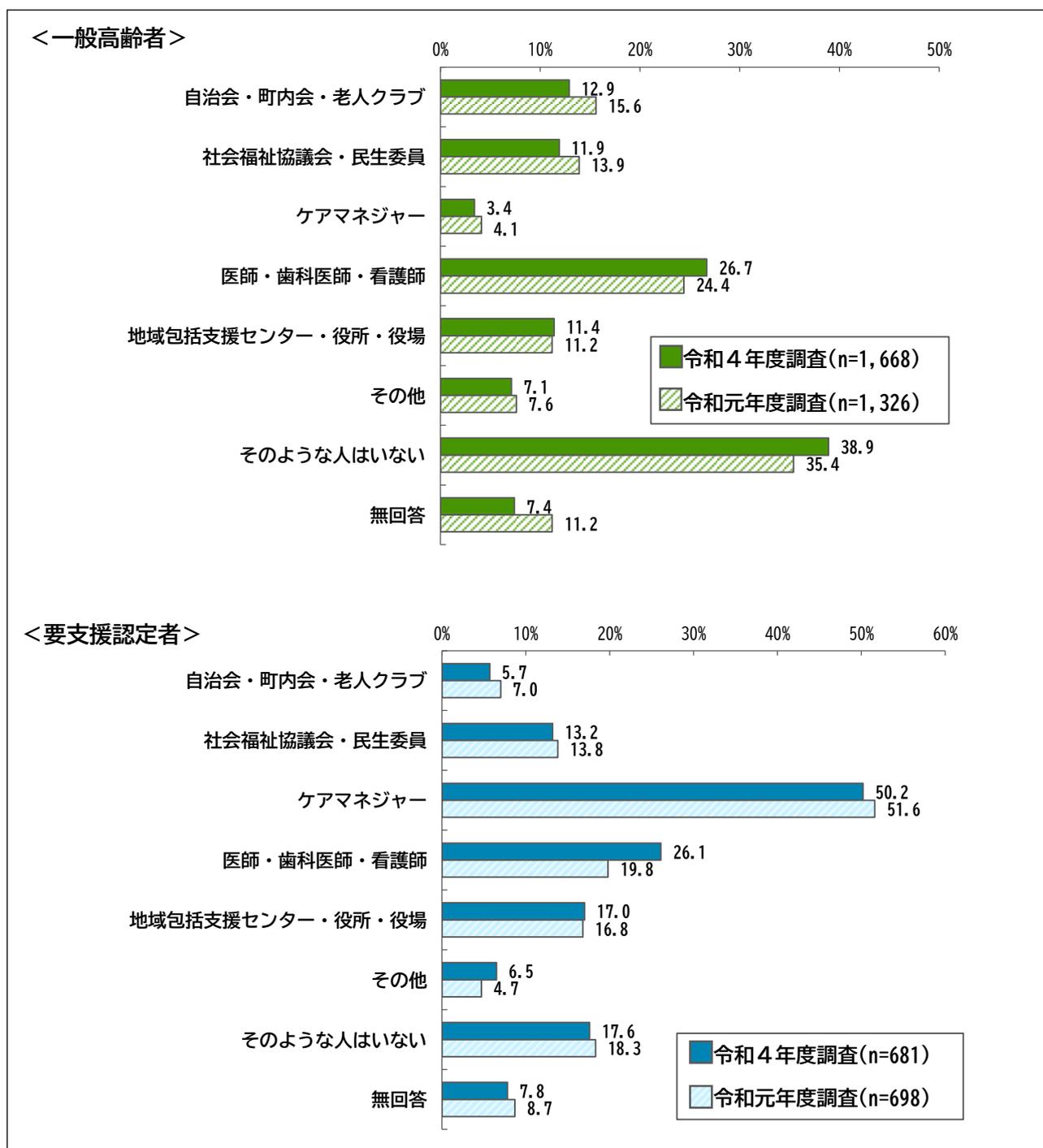
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「医師・歯科医師・看護師」が2.3ポイント、「そのような人はいない」が3.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「医師・歯科医師・看護師」が6.3ポイント増加しています。

図表 128 家族や友人・知人以外の相談相手（前回比較／複数回答）



問6（6）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「週に何度かある」が2.9ポイント減少しています。

また、友人・知人と会う機会がある人の割合を合計すると、令和元年度の84.3%に対し、令和4年度では82.5%となっており、1.8ポイント減少しています。

一方、友人・知人と会う機会が「ほとんどない」人の割合は、5.0ポイント増加しています。

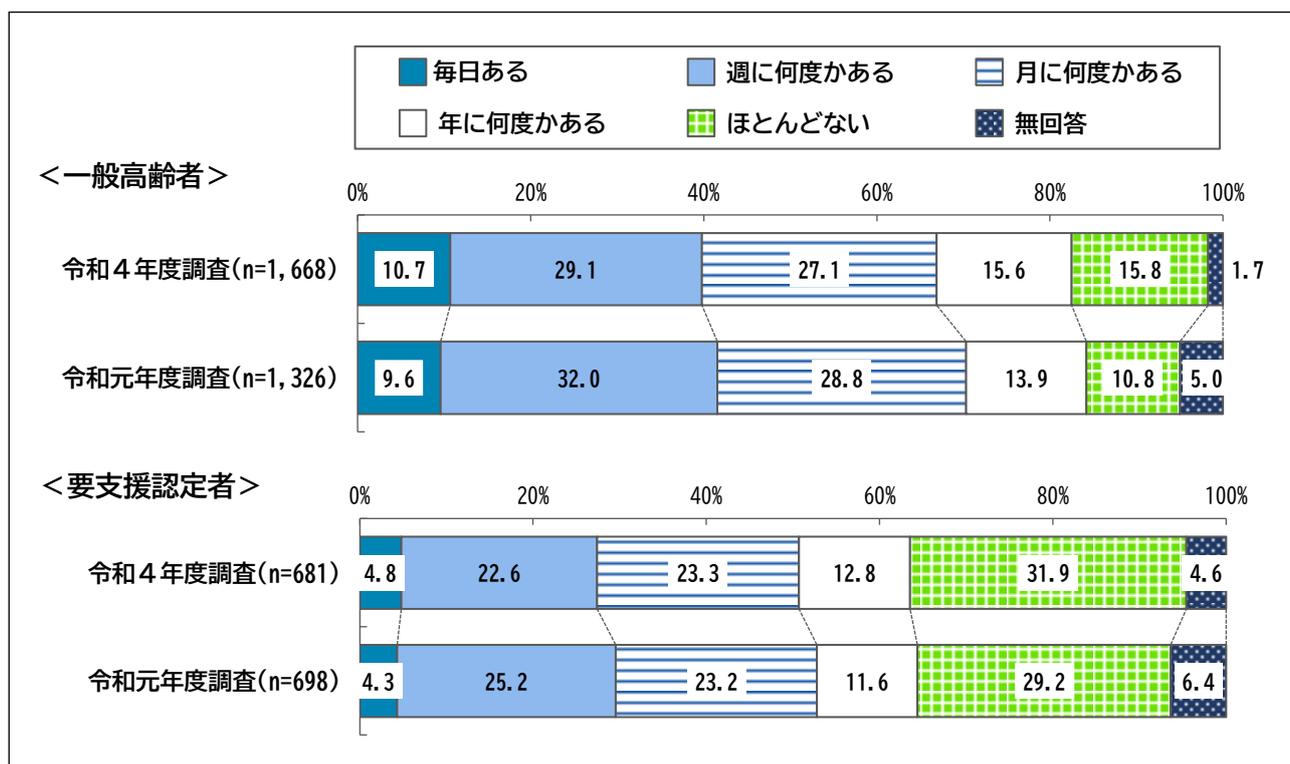
【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「週に何度かある」が2.6ポイント減少しています。

また、友人・知人と会う機会がある人の割合を合計すると、令和元年度の64.3%に対し、令和4年度では63.5%となっており、0.8ポイント減少しています。

一方、友人・知人と会う機会が「ほとんどない」人の割合は、2.7ポイント増加しています。

図表 129 友人・知人と会う頻度（前回比較）



問6（7）この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「0人（いない）」が4.0ポイント増加し、「10人以上」が4.8ポイント減少しています。

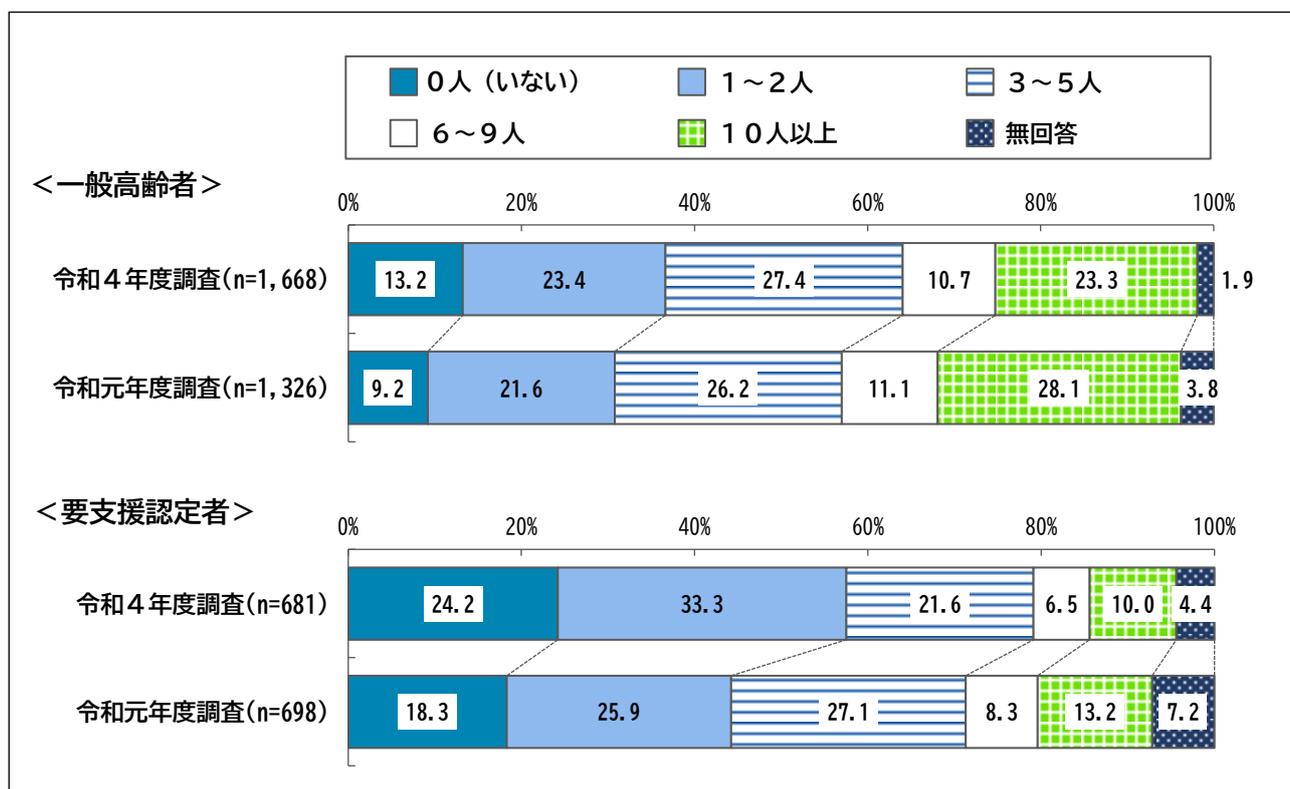
0人～5人までの割合は増加し、6人以上の割合は減少していることから、1か月間に会う友人・知人の人数は少なくなっていることがうかがえます。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「0人（いない）」が5.9ポイント、「1～2人」が7.4ポイント増加し、「3～5人」が5.5ポイント減少しています。

0人～2人までの割合が増加し、3人以上の割合が減少していることから、一般高齢者同様、1か月間に会う友人・知人の人数は少なくなっていることがうかがえます。

図表 130 1か月間で何人の友人・知人と会ったか（前回比較）



問6（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

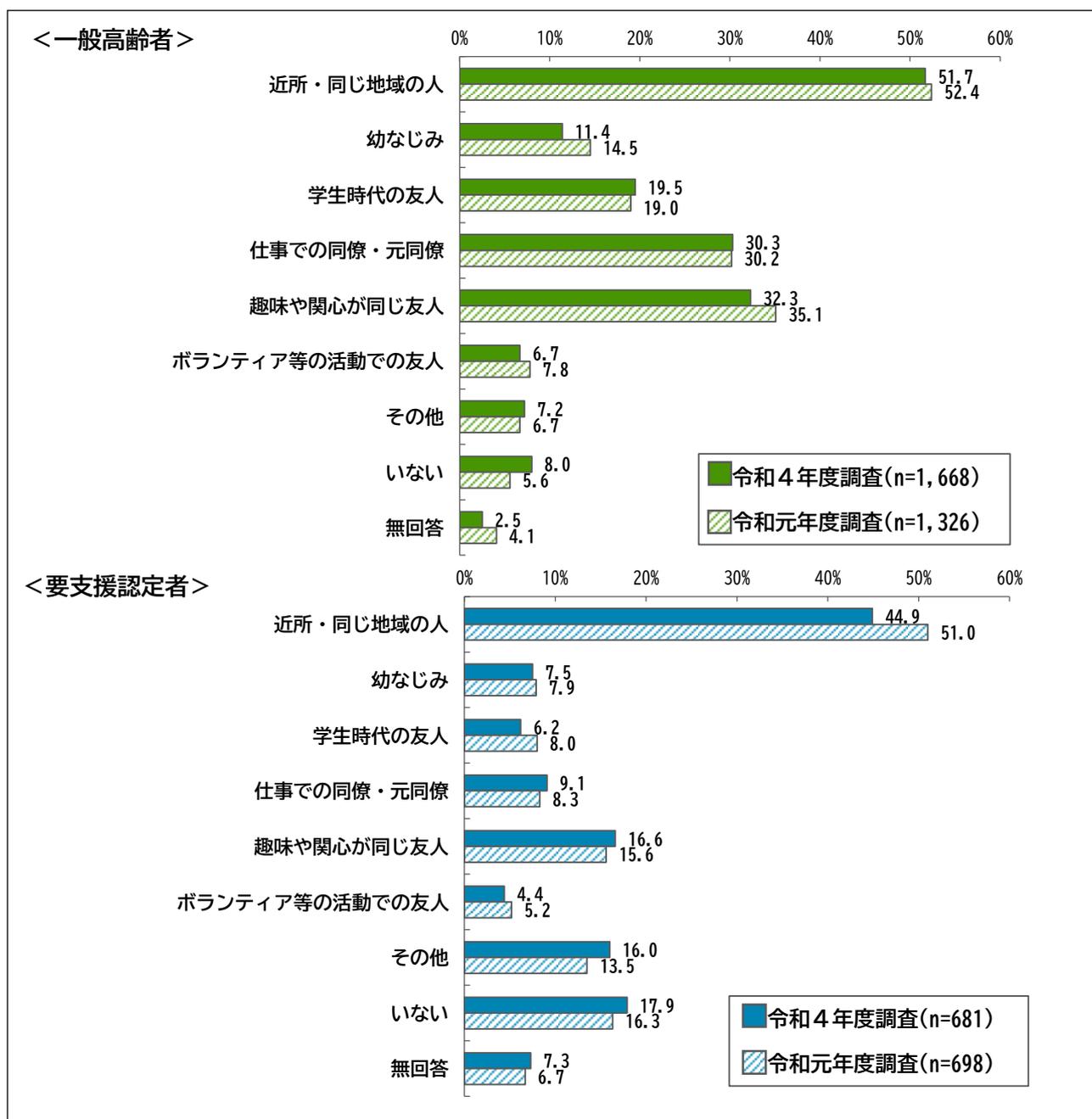
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「幼なじみ」が3.1ポイント、「趣味や関心が同じ友人」が2.8ポイント減少し、「いない」が2.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「近所・同じ地域の人」が6.1ポイント減少しています。

図表 131 よく会う友人・知人との関係（前回比較／複数回答）



問6（9）地域で何らかの日常生活の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについてあなたの考えに近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

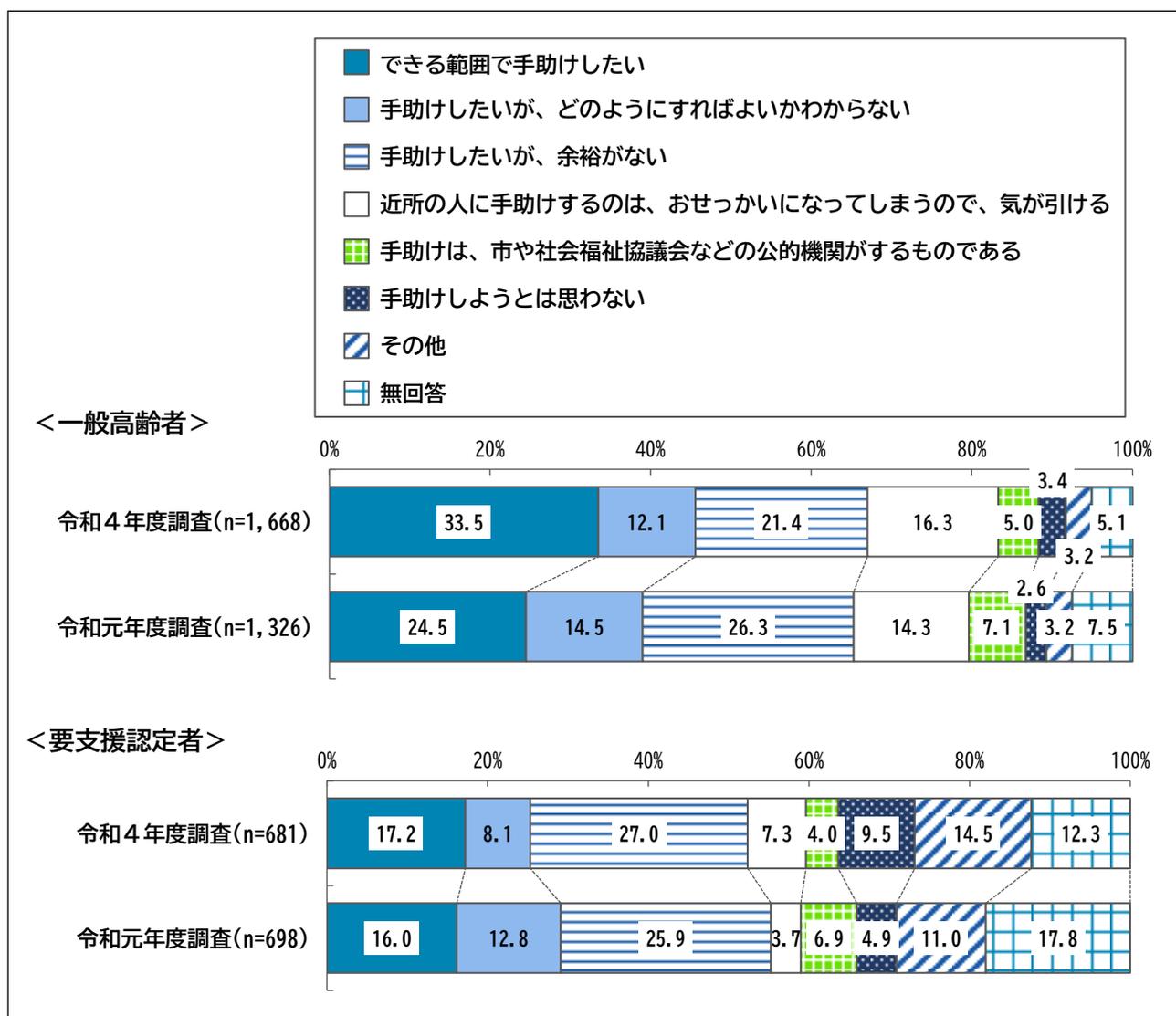
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「できる範囲で手助けしたい」が9.0ポイント増加し、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」が2.4ポイント、「手助けしたいが、余裕がない」が4.9ポイント減少しています。高齢者への手助けについて、積極的な考えの人の割合が増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」が4.7ポイント減少しており、「手助けしようとは思わない」が4.6ポイント増加しています。

図表 132 地域の高齢者への手助けについて（前回比較）



7 健康について

問7（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「とてもよい」と「まあよい」を合計した、健康状態が『よい』の割合は、令和元年度の80.9%に対し、令和4年度では79.8%となっており、1.1ポイント減少しています。

一方、「あまりよくない」と「よくない」を合計した、健康状態が『よくない』の割合は、令和元年度の16.4%に対し、令和4年度では18.8%となっており、2.4ポイント増加しています。

健康状態がよいと感じる人の割合が減少し、よくないと感じる人の割合が増加していることがうかがえます。

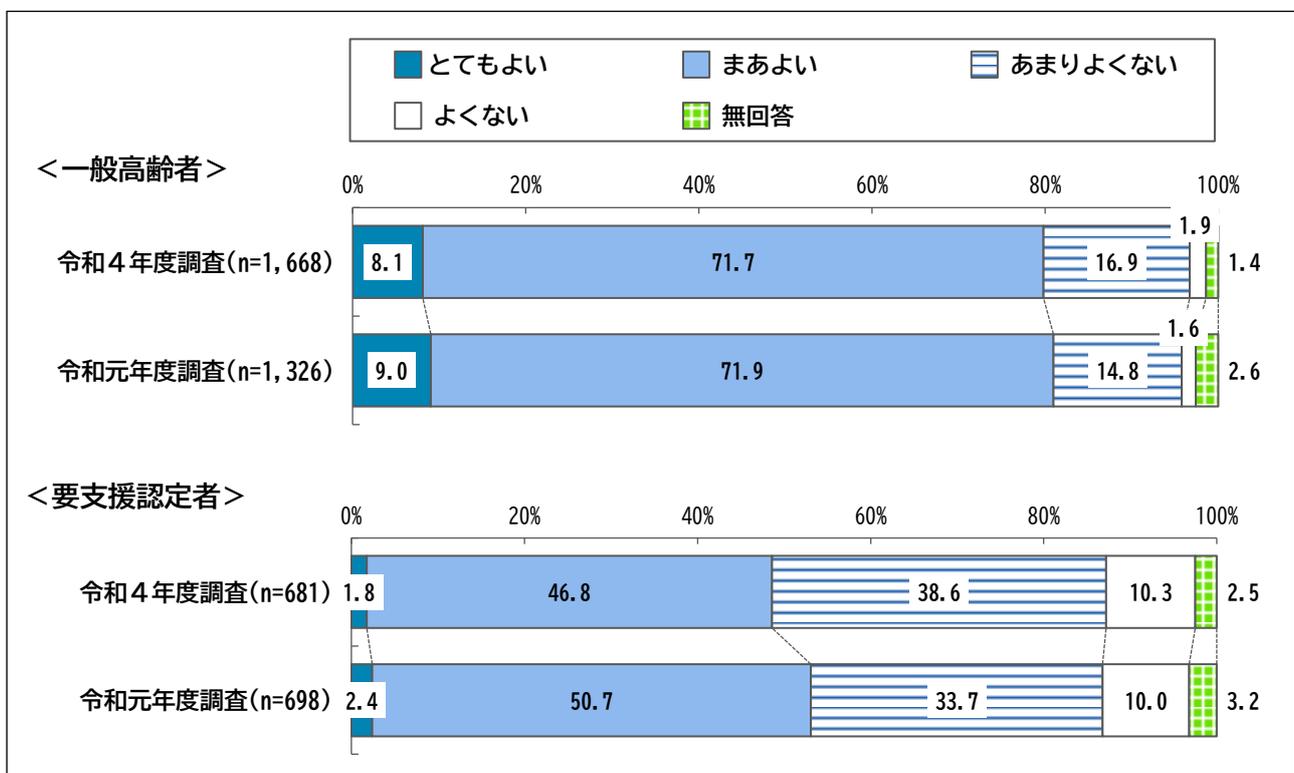
【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、健康状態が『よい』の割合は、令和元年度の53.1%に対し、令和4年度では48.6%となっており、4.5ポイント減少しています。

一方、健康状態が『よくない』の割合は、令和元年度の43.7%に対し、令和4年度では48.9%となっており、5.2ポイント増加しています。

一般高齢者同様、健康状態がよいと感じる人の割合が減少し、よくないと感じる人の割合が増加していることがうかがえます。

図表 133 主観的健康感（前回比較）



問7（2）あなたは、現在どの程度幸せですか。

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「幸せ（7～9点）」が3.4ポイント減少し、「普通（4～6点）」、「とても幸せ（10点）」はそれぞれ2.0ポイント増加しています。

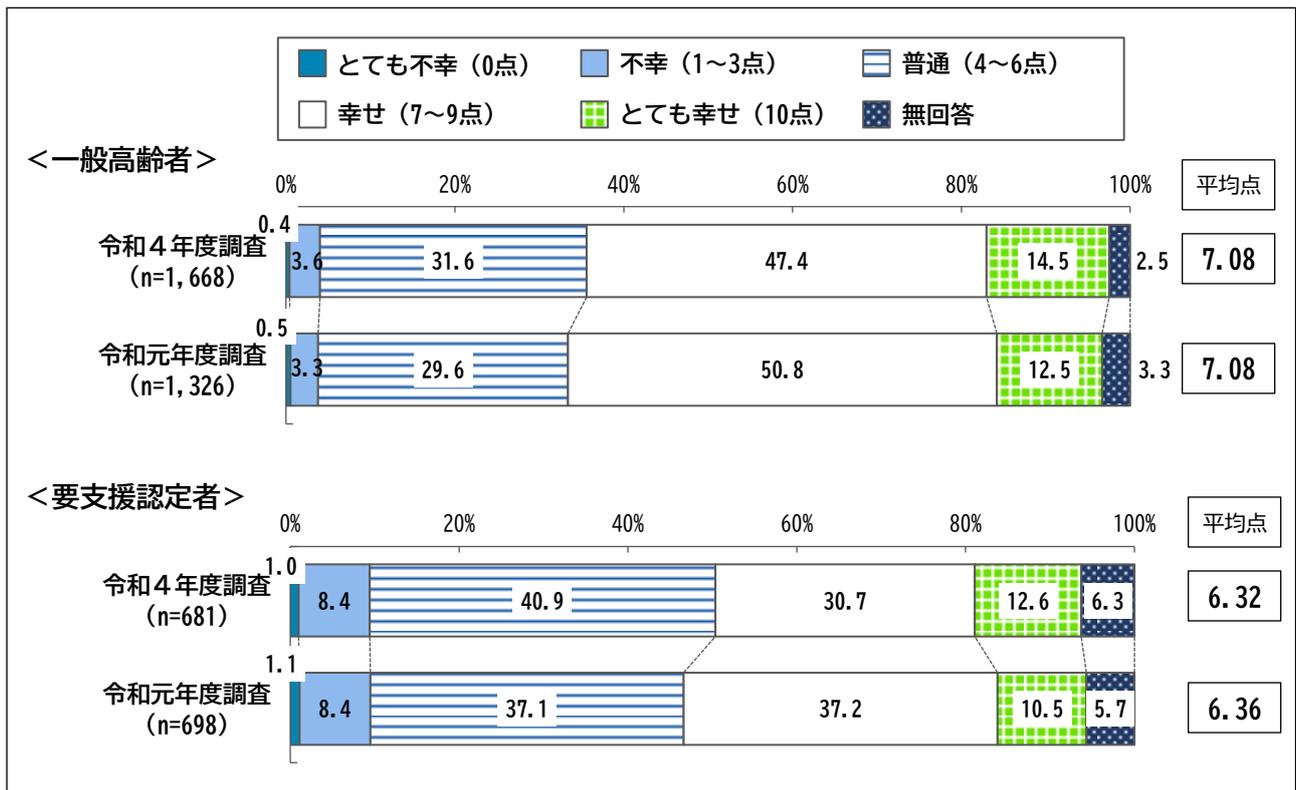
7点以上で幸せと回答した人の割合は、令和元年度の63.3%に対し、令和4年度では61.9%となっており、1.4ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「幸せ（7～9点）」が6.5ポイント減少し、「普通（4～6点）」は3.8ポイント、「とても幸せ（10点）」は2.1ポイント増加しています。

7点以上で幸せと回答した人の割合は、令和元年度の47.7%に対し、令和4年度では43.3%となっており、4.4ポイント減少しています。

図表 134 主観的幸福感（前回比較）



問7（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになりましたか。

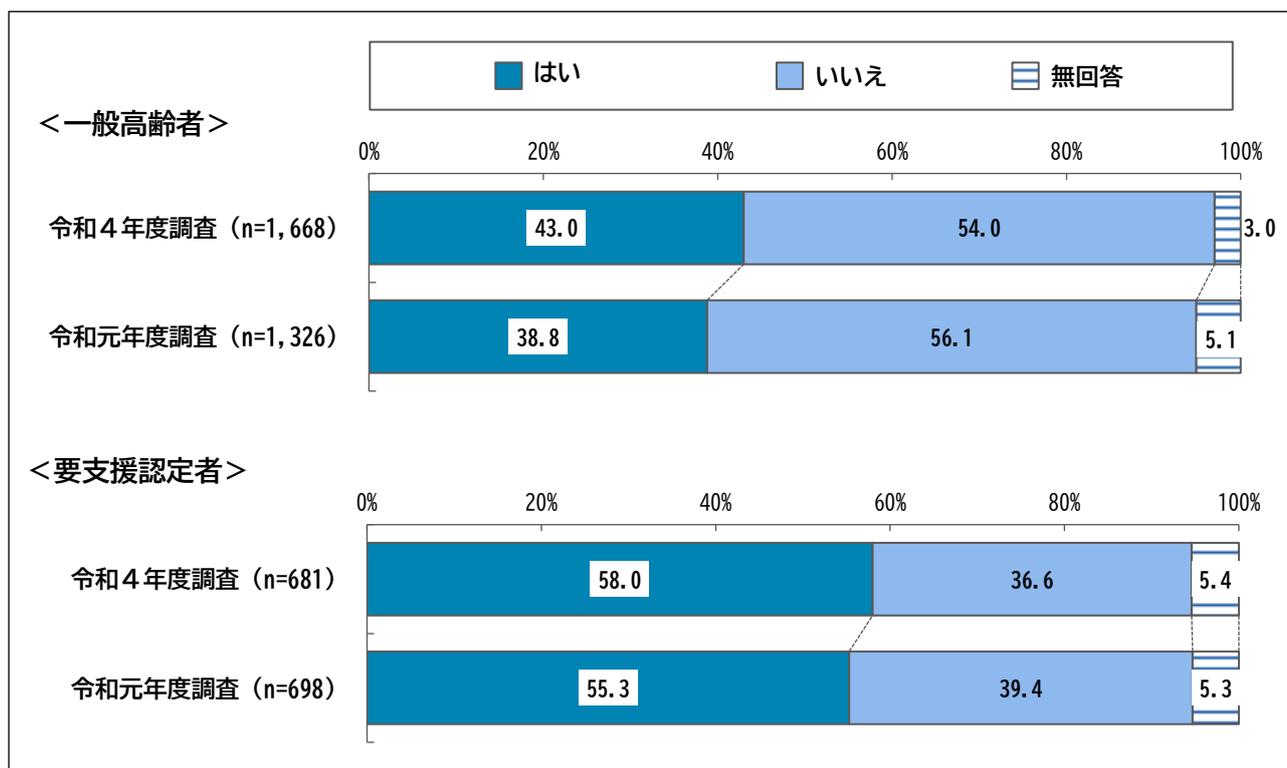
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が4.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.7ポイント増加しています。

図表 135 ゆううつな気持ちになることがあったか（前回比較）



問7（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

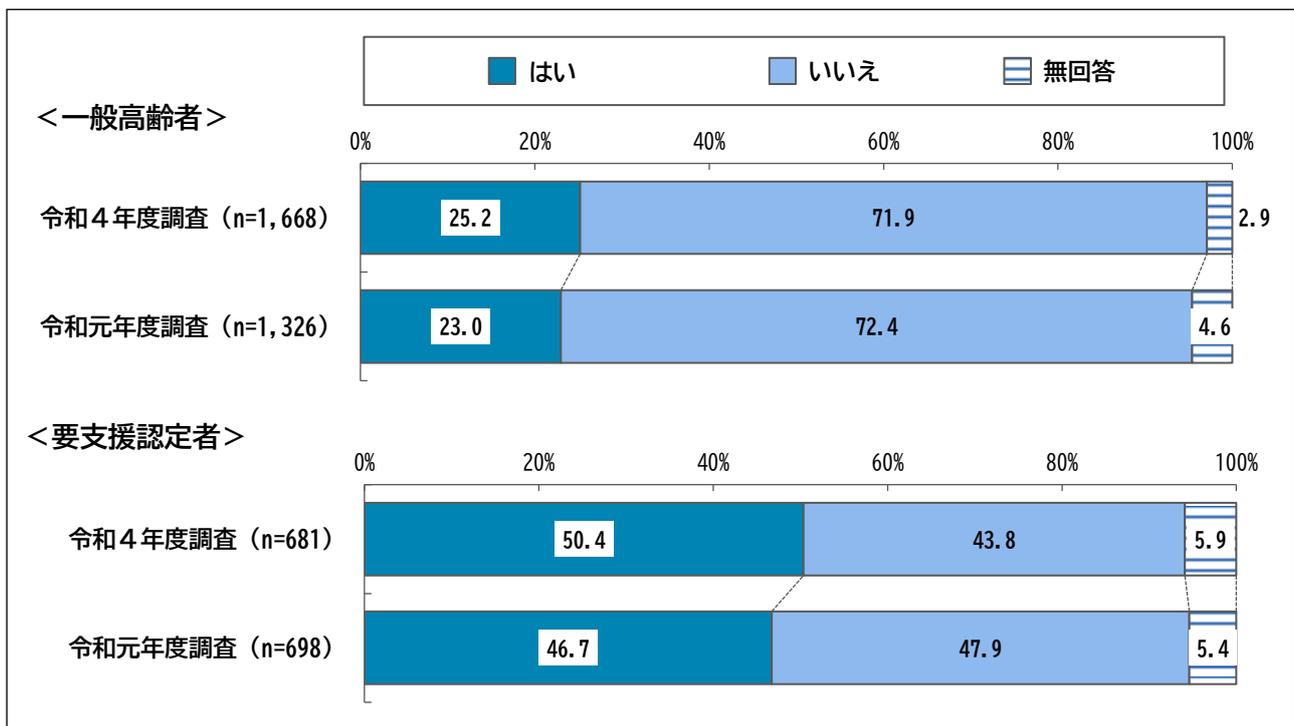
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が3.7ポイント増加しています。

図表 136 物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか（前回比較）



問7（5）お酒は飲みますか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「ほとんど飲まない」が1.9ポイント増加しています。

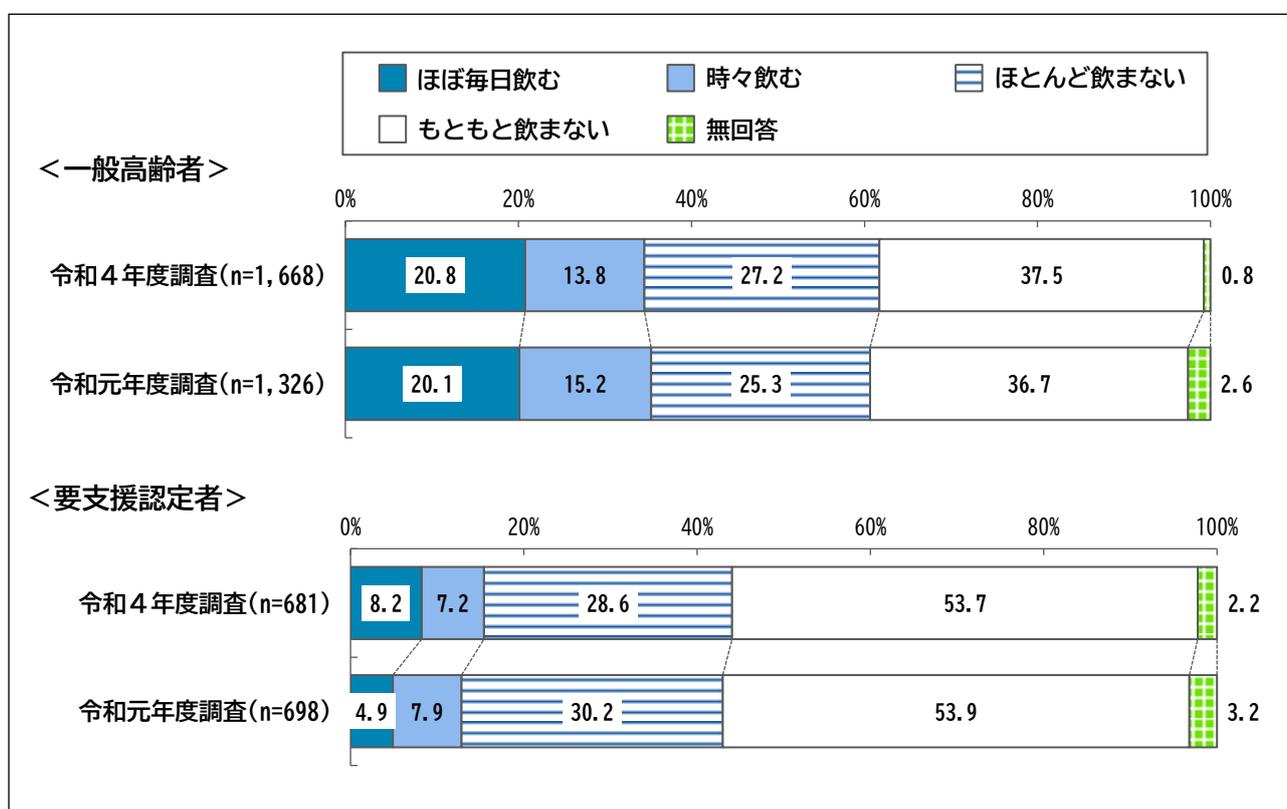
「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の割合を合計した、『飲酒の習慣がある』人の割合は、令和元年度の35.3%に対し、令和4年度は34.6%となっており、0.7ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「ほぼ毎日飲む」が3.3ポイント増加しています。

『飲酒の習慣がある』人の割合は、令和元年度の12.8%に対し、令和4年度は15.4%となっており、2.6ポイント増加しています。

図表 137 飲酒の習慣（前回比較）



問7（6）タバコは吸っていますか。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「吸っていたがやめた」が2.6ポイント減少し、「もともと吸っていない」が2.7ポイント増加しています。

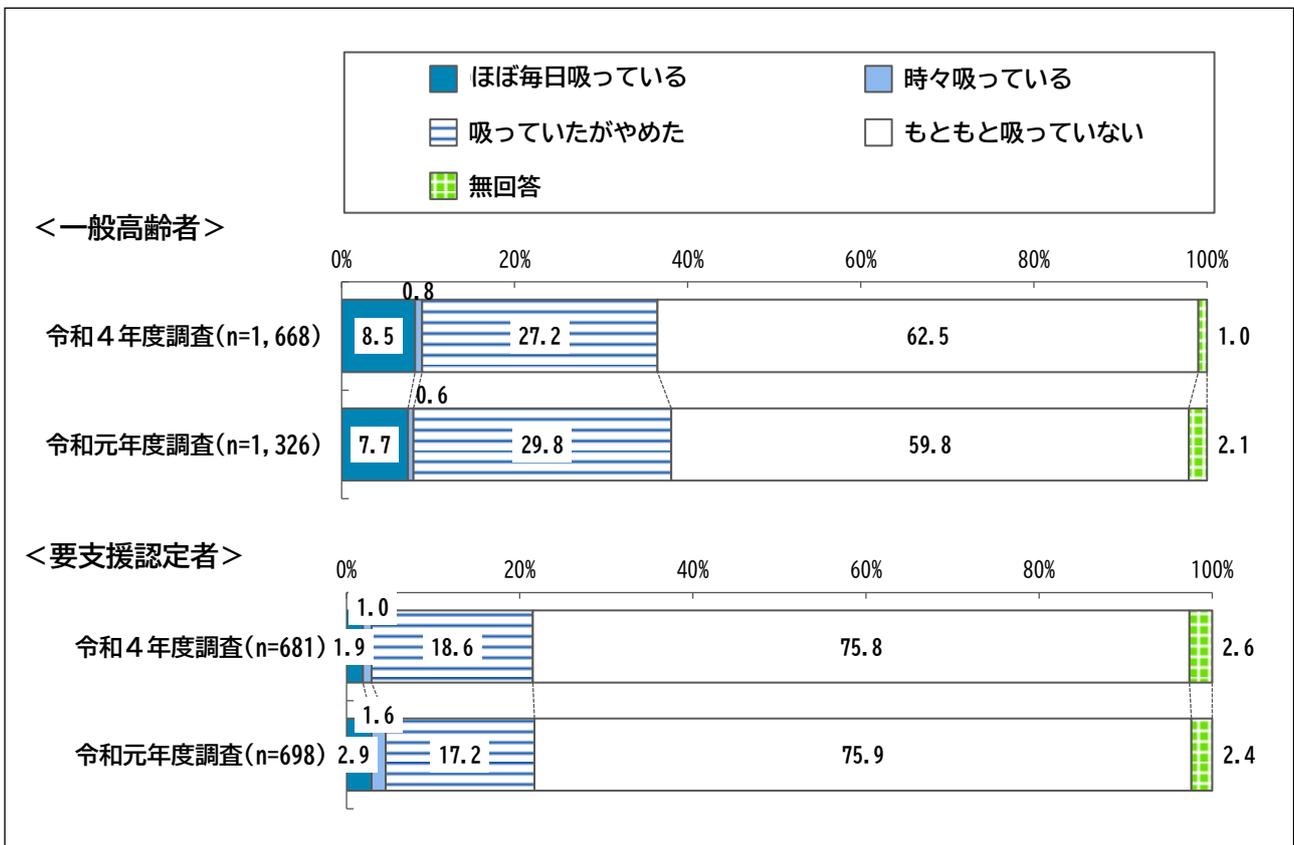
「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の割合を合計した、『喫煙の習慣がある』人の割合は、令和元年度の8.3%に対し、令和4年度は9.3%となっており、1.0ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「吸っていたがやめた」が1.4ポイント増加しています。

『喫煙の習慣がある』人の割合は、令和元年度の4.5%に対し、令和4年度は2.9%となっており、1.6ポイント減少しています。

図表 138 喫煙の習慣（前回比較）

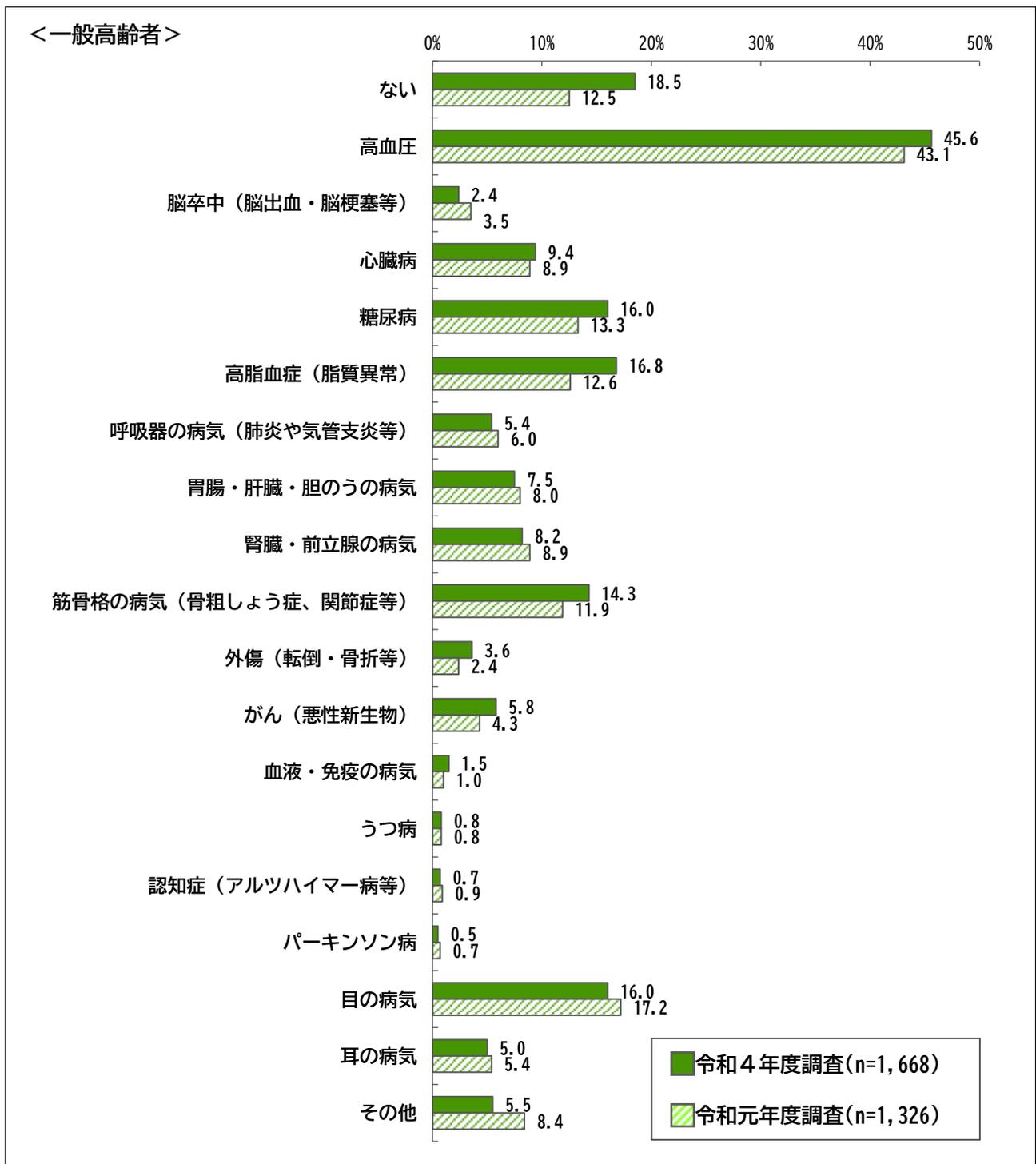


問7（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「高血圧」は2.5ポイント、「糖尿病」は2.7ポイント、「高脂血症（脂質異常）」は4.2ポイント、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が2.4ポイント増加しています。
また、「ない」は6.0ポイント増加しています。

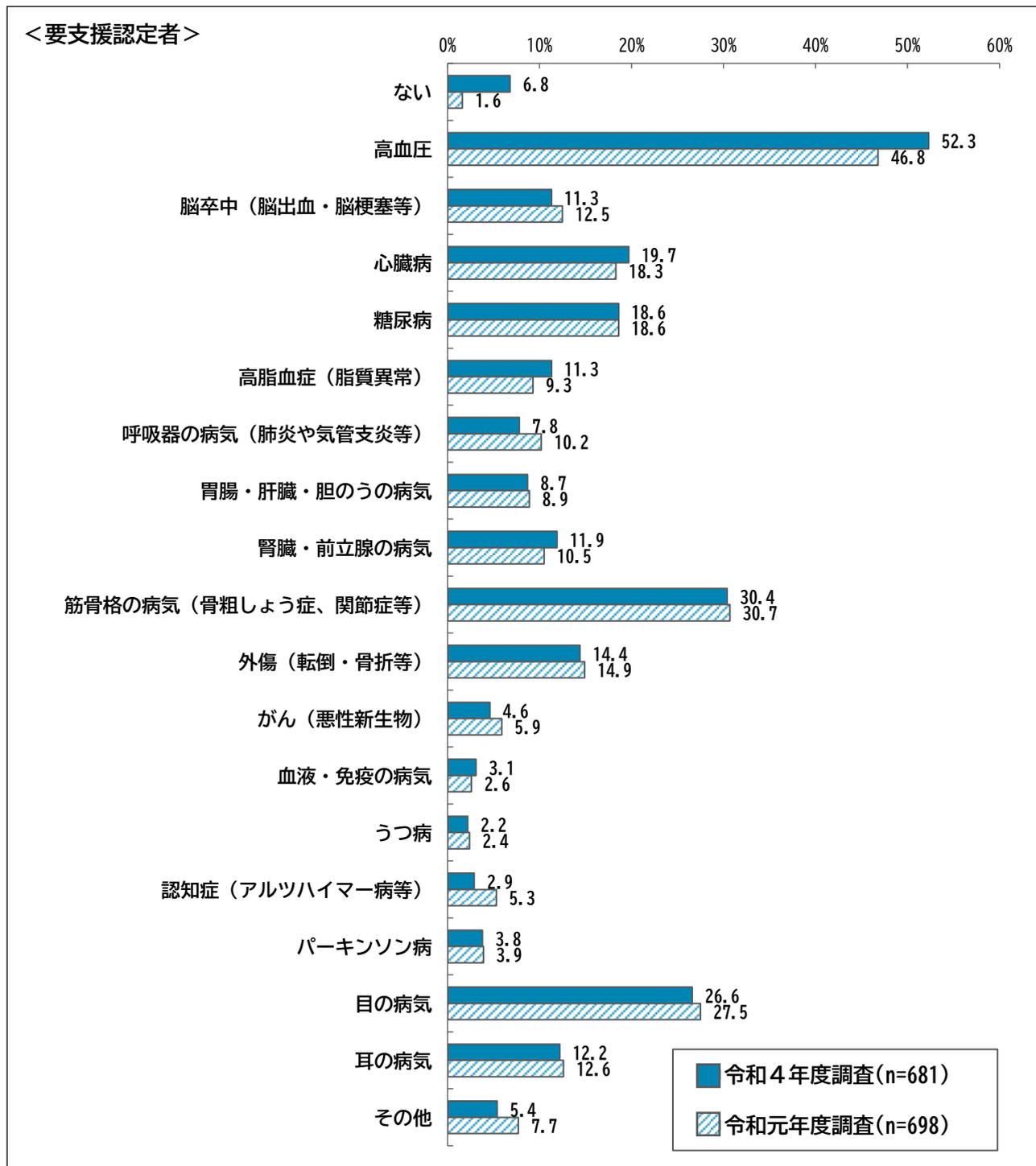
図表 139 現在治療中、後遺症のある病気（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）」は2.4ポイント減少しており、「高血圧」は5.5ポイント増加しています。また、「ない」が5.2ポイント増加しています。

図表 140 現在治療中、後遺症のある病気（前回比較／複数回答）



8 認知症にかかる相談窓口の把握について

問8（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人いますか。

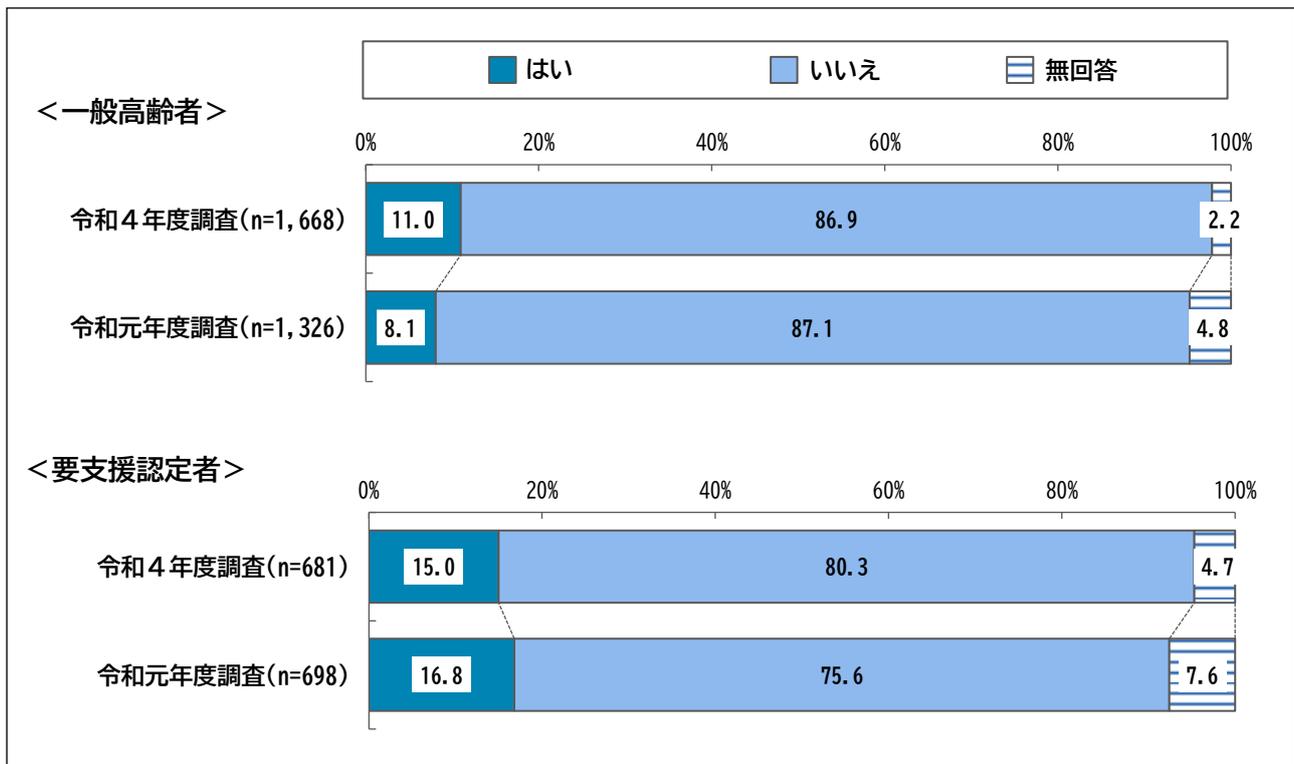
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「いいえ」が4.7ポイント増加しています。

図表 141 本人または家族の認知症の症状の有無について（前回比較）



問8（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか。

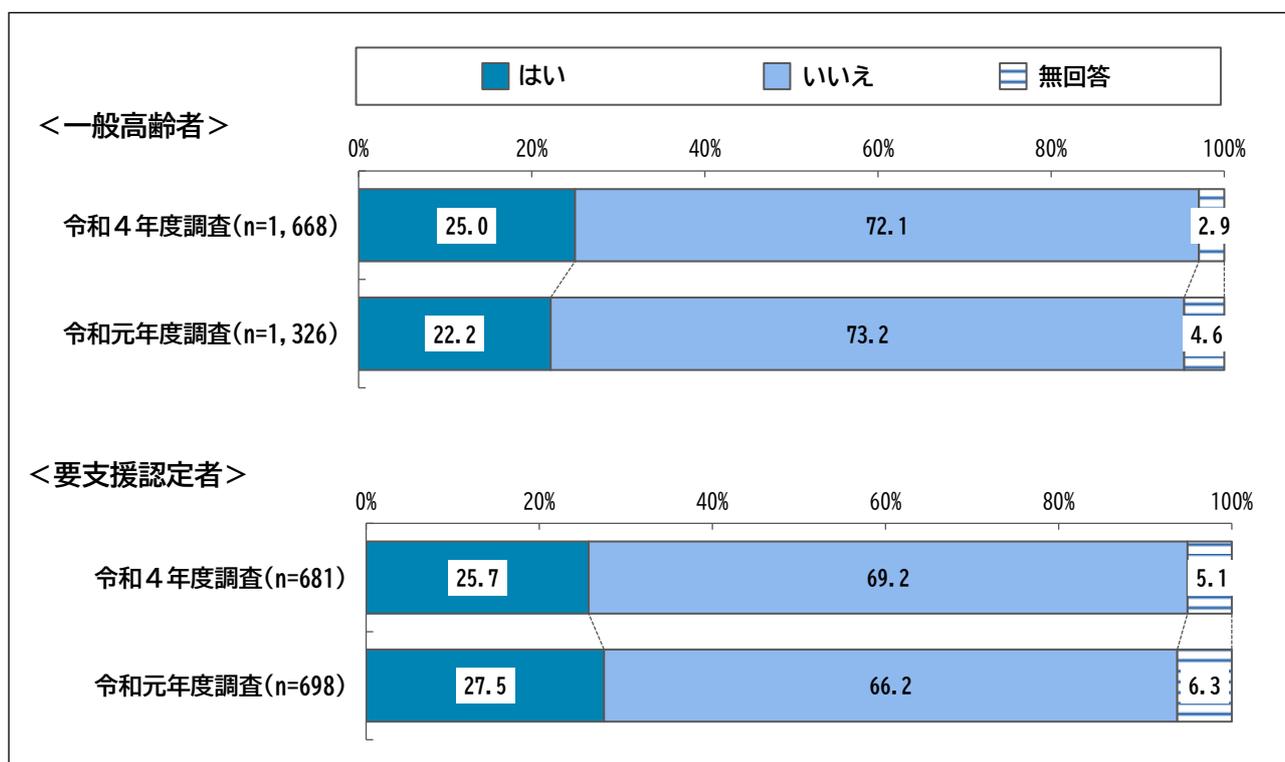
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が2.8ポイント増加しており、認知度は上がっています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しており、認知度が下がっています。

図表 142 認知症に関する相談窓口の認知度（前回比較）



※問8(2)で「はい」と答えたかたのみ

問8(3)相談窓口で知っているところはどこですか。(いくつでも)

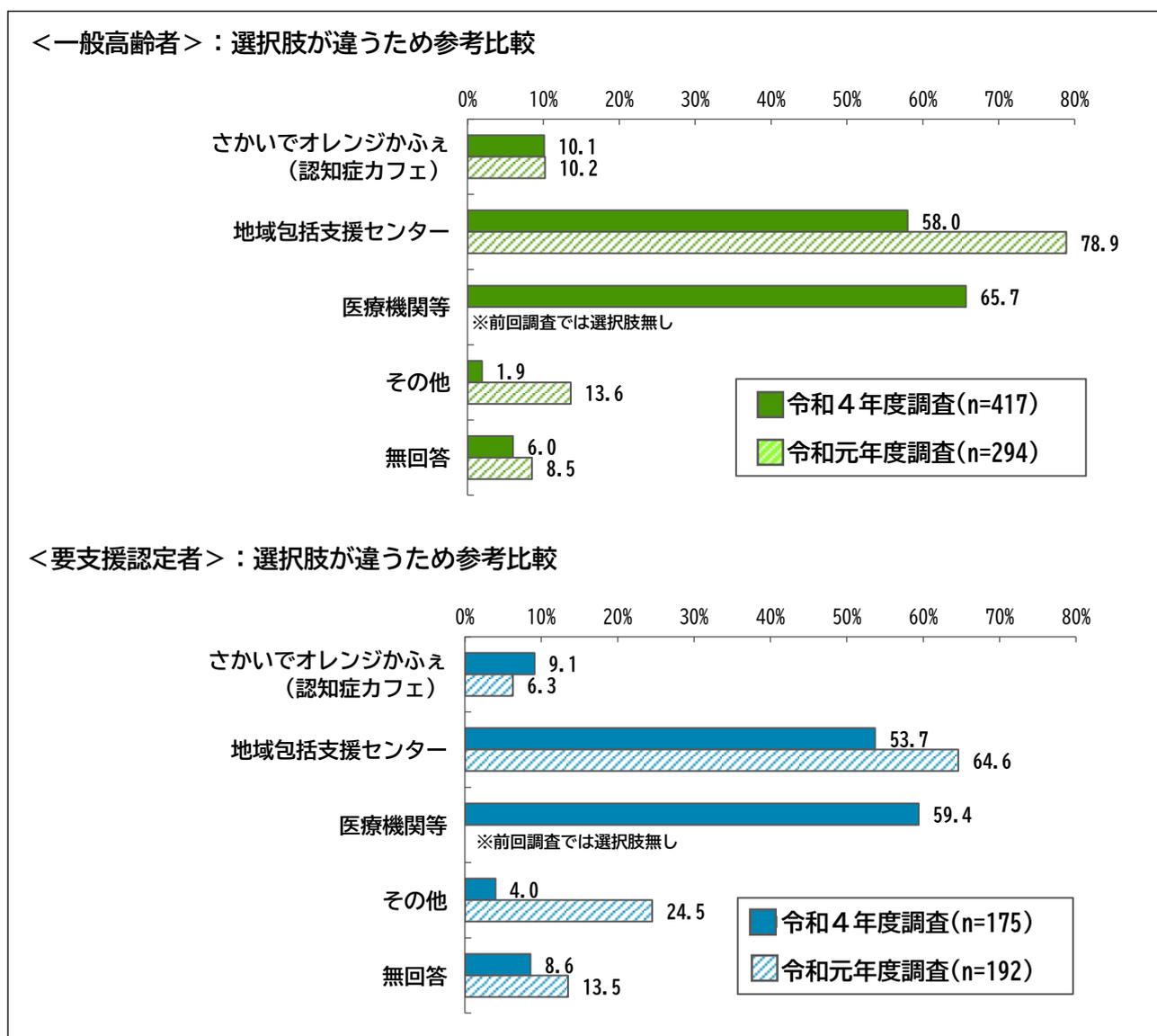
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「地域包括支援センター」が20.9ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「地域包括支援センター」が10.9ポイント減少しています。

図表 143 知っている認知症の相談窓口（前回比較／複数回答）



9 在宅医療・介護について

問9（1）あなたは、自分の希望する治療やケアについて、家族等と話し合ったことがありますか。

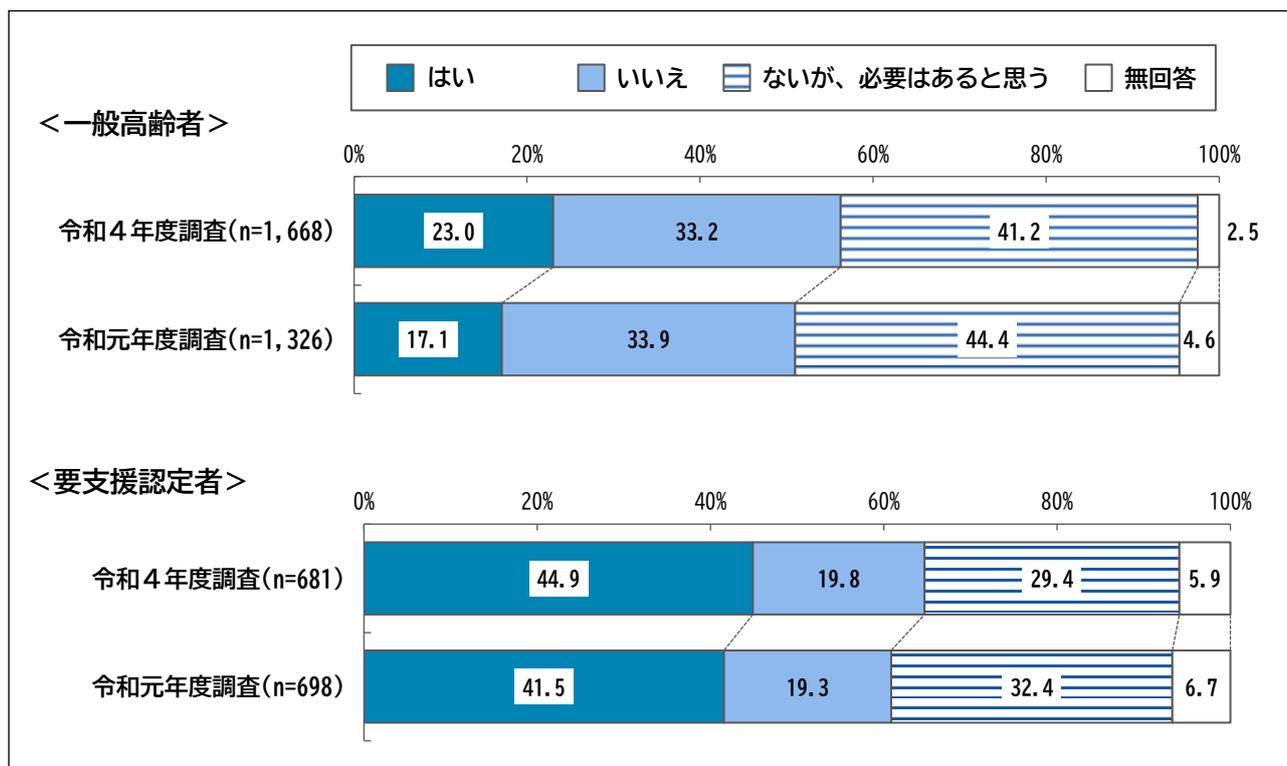
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が5.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「はい」が3.4ポイント増加しています。

図表 144 治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無（前回比較）



問9（2）あなたは、自分の希望する治療やケアについて、書面を作成していますか。

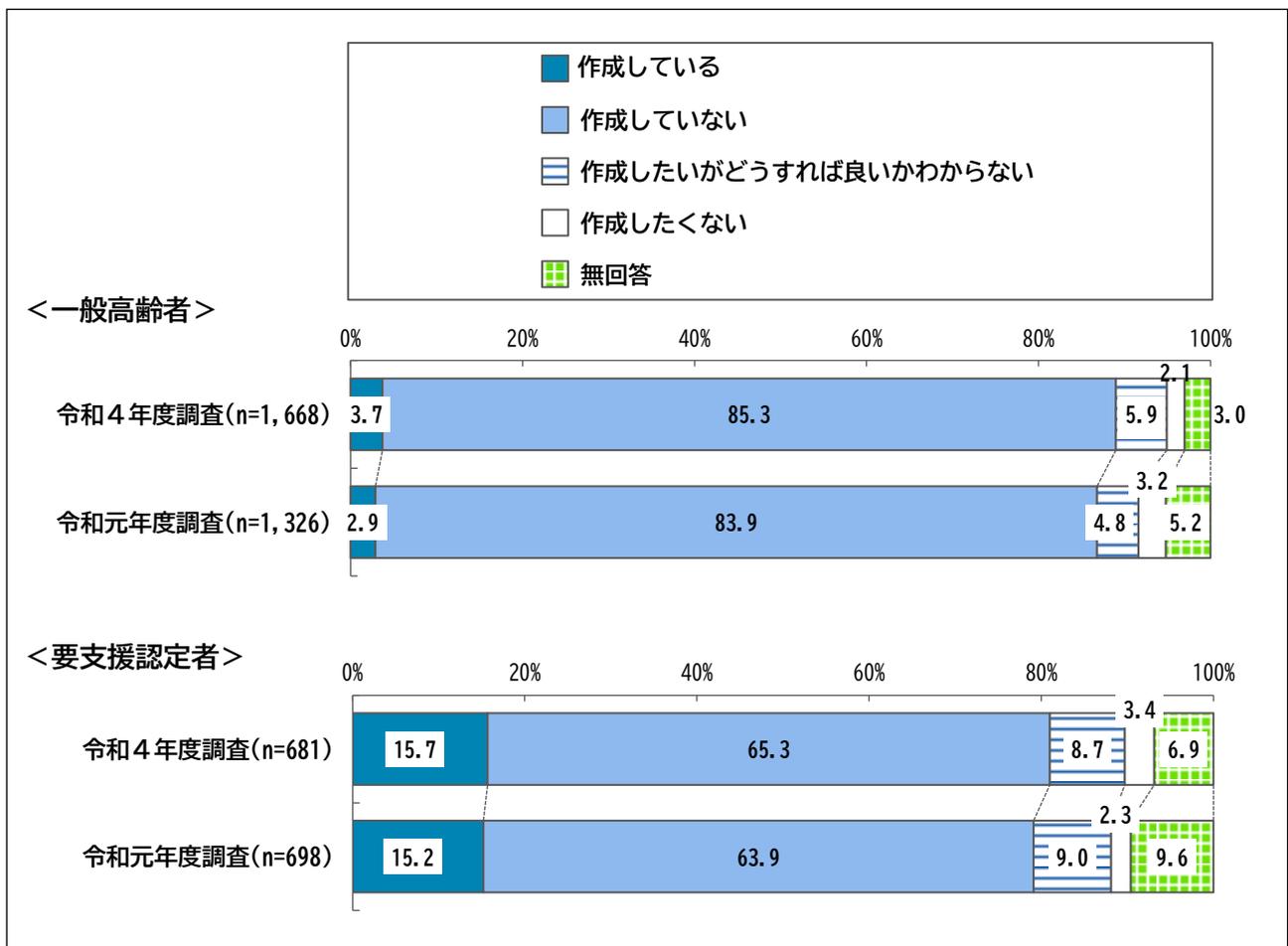
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「作成している」は0.8ポイントの増加にとどまり、「作成していない」が1.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「作成している」は0.5ポイントの増加にとどまり、「作成していない」が1.4ポイント増加しています。

図表 145 治療・ケアに関する書面作成の状況（前回比較）



10 介護・福祉サービスについて

問 10 (1) 平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命を伸ばすことが大切です。本市では、高齢者の皆さん自ら介護予防を行う手助けとして「はつらつ教室」等、様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う「介護予防事業」について当てはまるものを1つだけ選んでください。

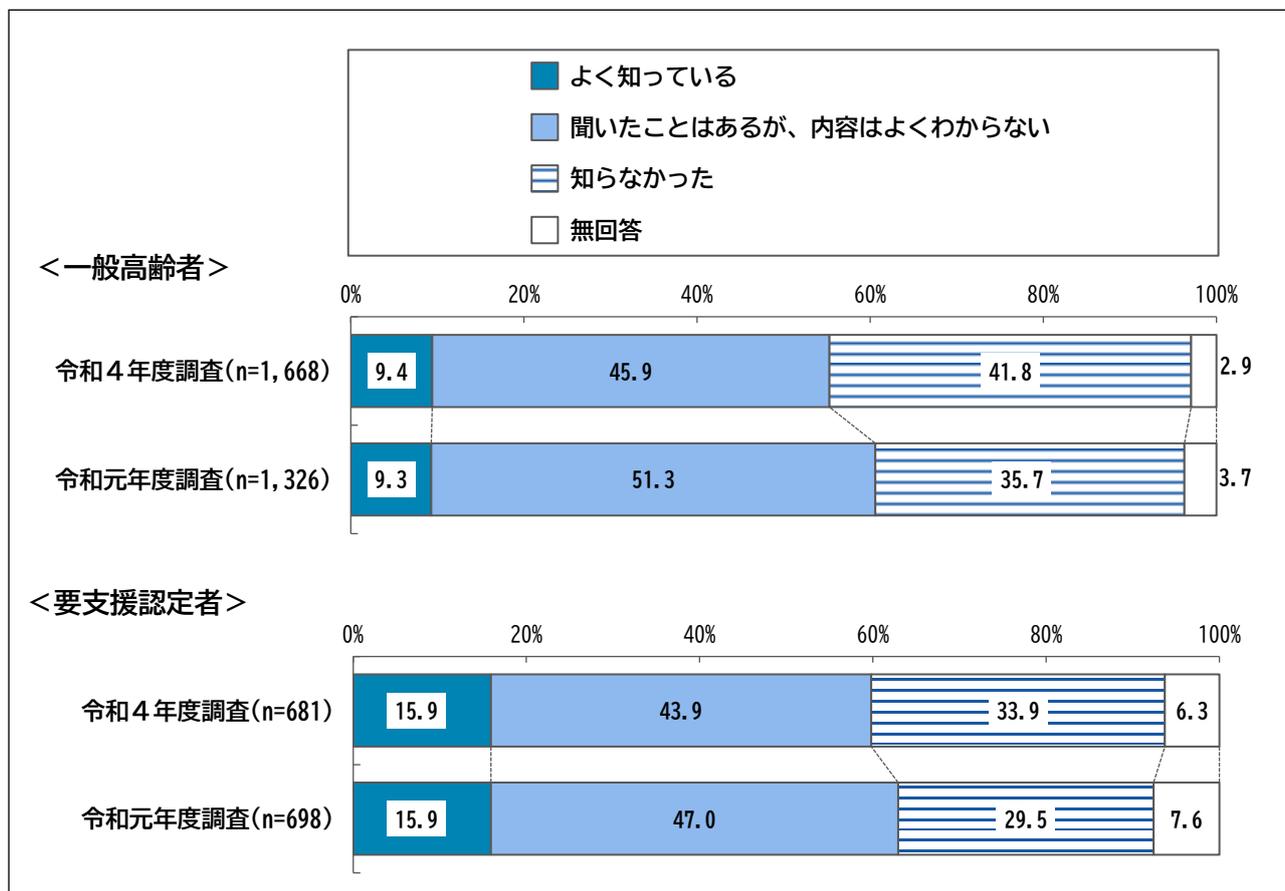
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が5.4ポイント減少し、「知らなかった」は6.1ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が3.1ポイント減少し、「知らなかった」は4.4ポイント増加しています。

図表 146 介護予防事業の認知度（前回比較）



問 10（2）介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。

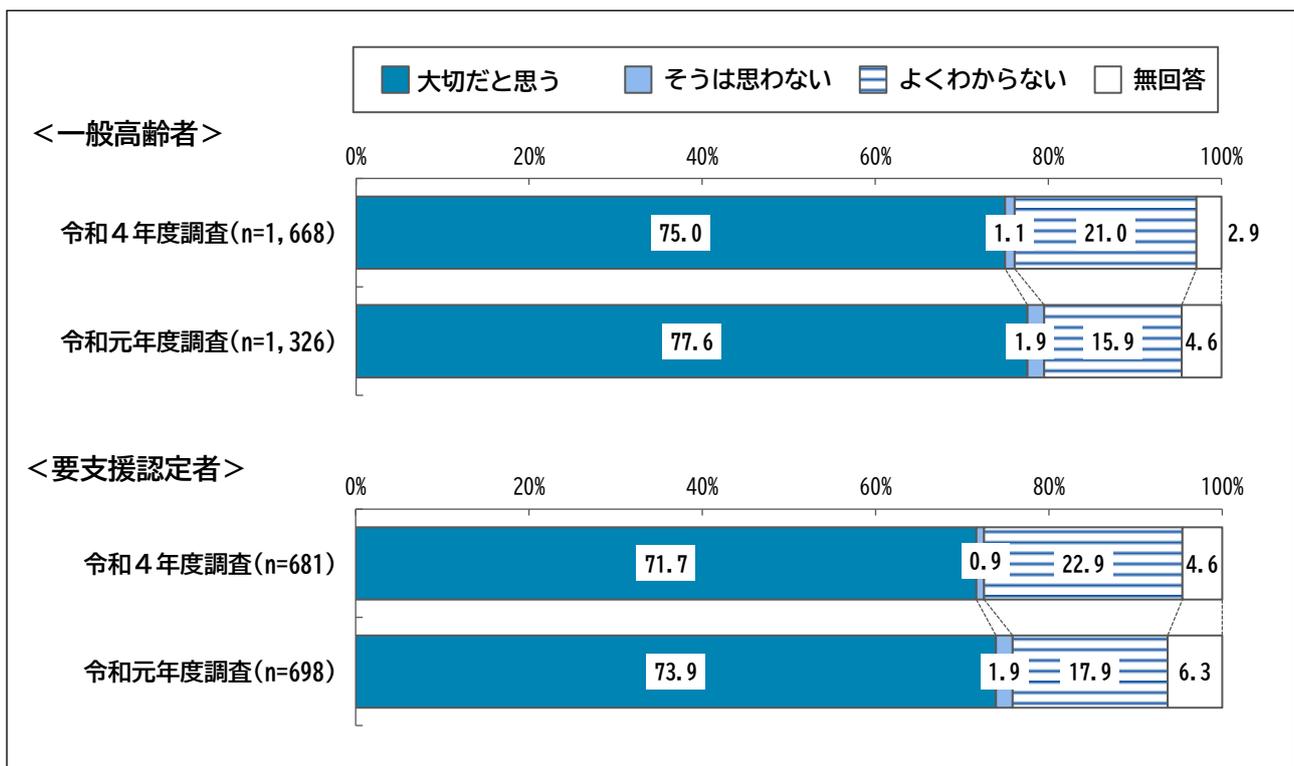
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「よくわからない」が5.1ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「よくわからない」が5.0ポイント増加しています。

図表 147 介護予防の取り組み推進は大切だと思うか（前回比較）



問 10（3）現在の介護保険に対するあなたの評価として一番近いものを1つだけ選んでください。

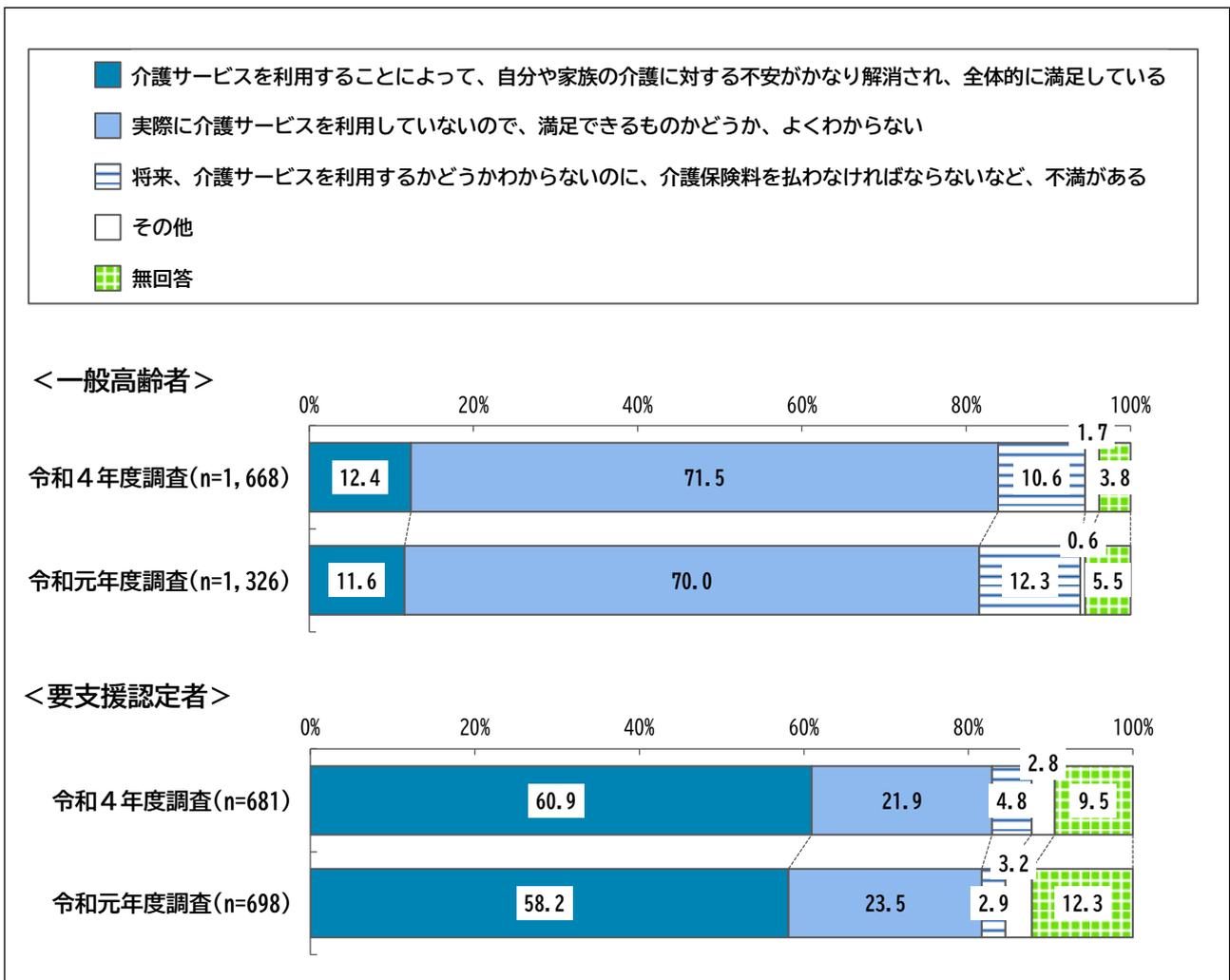
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「将来、介護サービスを利用するかどうか分からないのに、介護保険料を払わなければならないなど、不満がある」は1.7ポイント減少しています。また、「実際に介護サービスを利用していませんので、満足できるものかどうか、よくわからない」が1.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「介護サービスを利用することによって、自分や家族の介護に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」は2.7ポイント増加しているものの、「将来、介護サービスを利用するかどうか分からないのに、介護保険料を払わなければならないなど、不満がある」も1.9ポイント増加しています。

図表 148 現在の介護保険に対する評価（前回比較）



問 10（４）将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。一番近いものを1つだけ選んでください。

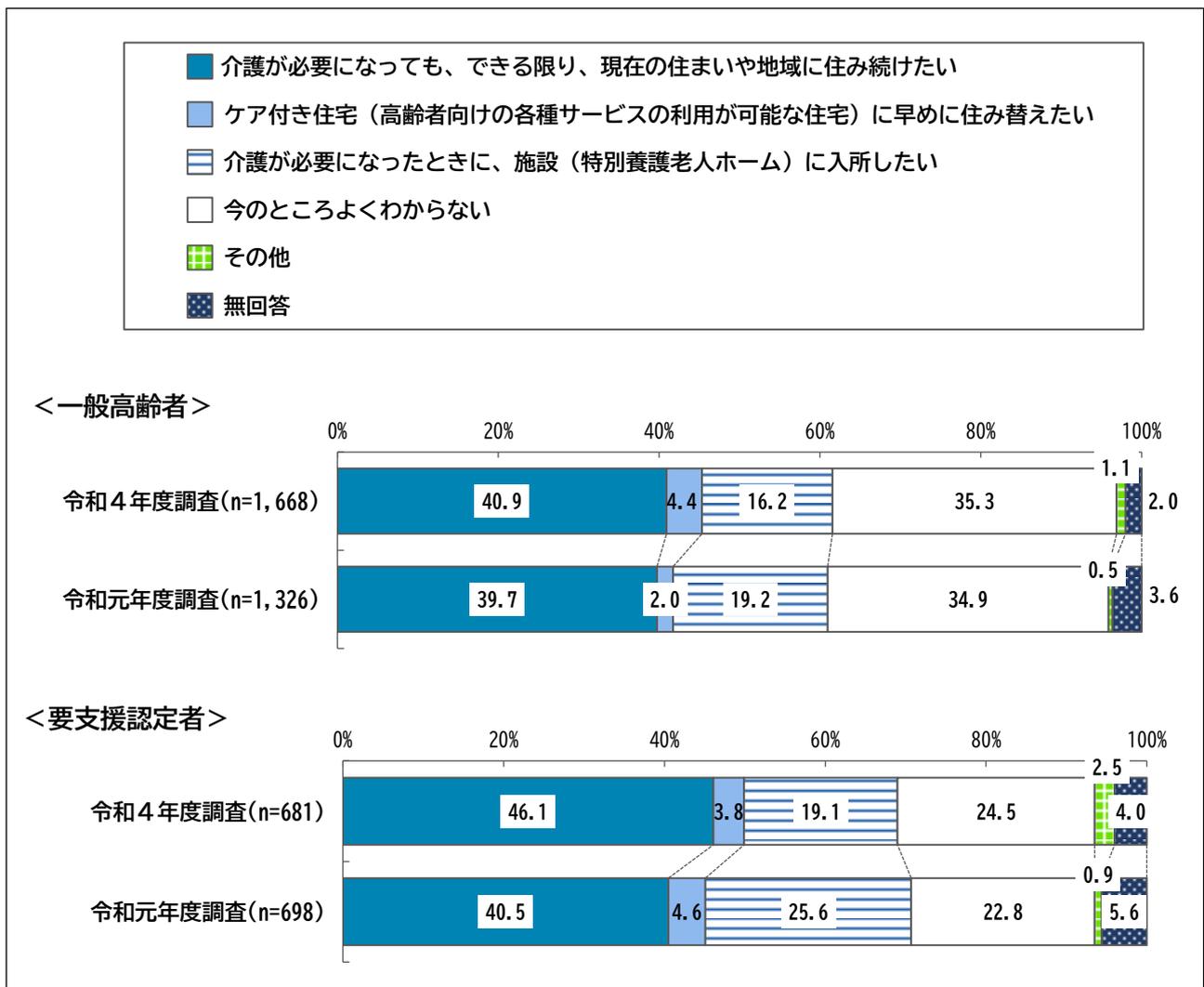
【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が1.2ポイント、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」が2.4ポイント増加しています。一方、「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム）に入所したい」が3.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が5.6ポイント増加しています。一方、「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム）に入所したい」が6.5ポイント減少しています。

図表 149 将来の住まいと介護サービスの利用について（前回比較）

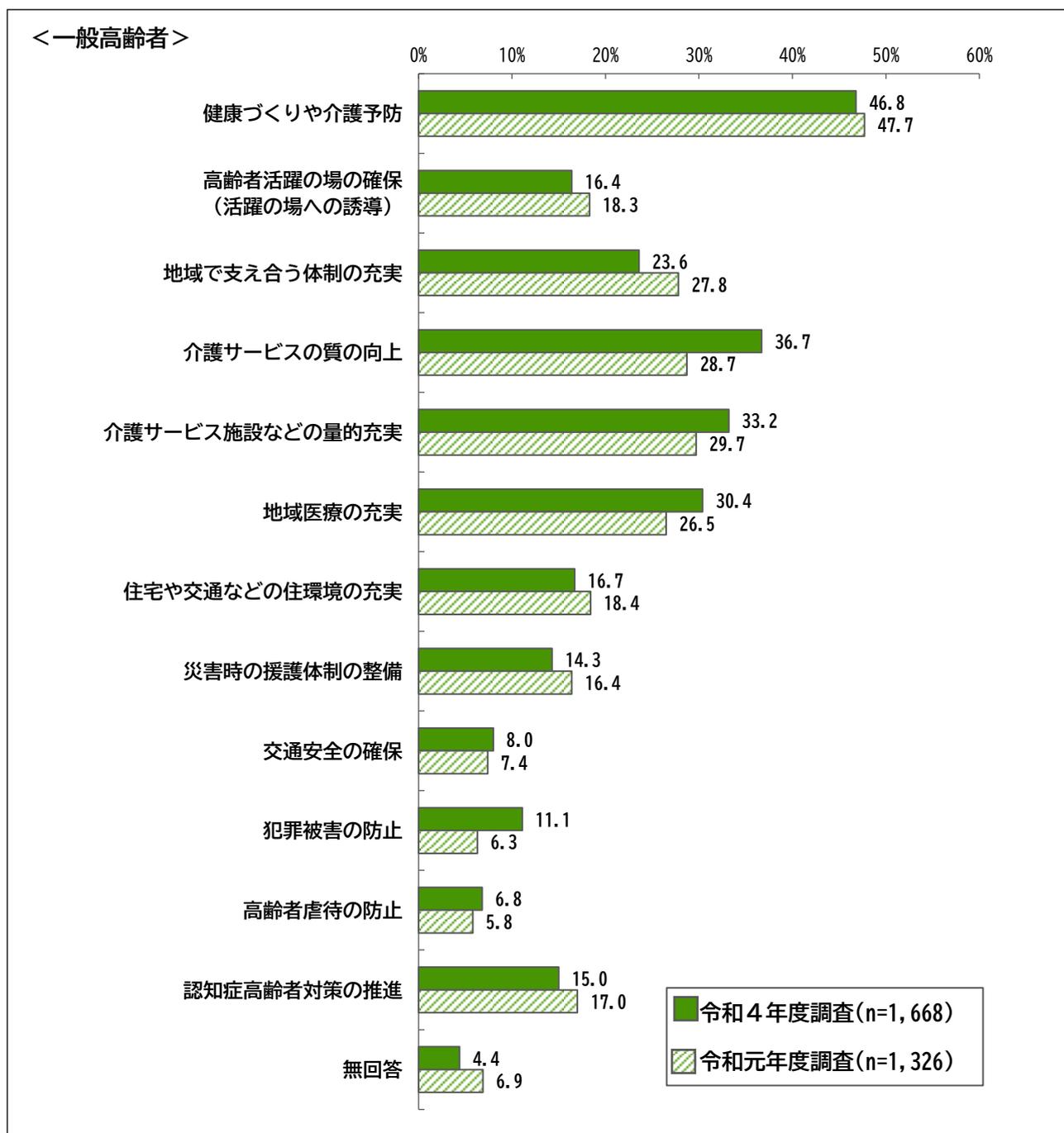


問10(5) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

【一般高齢者】

令和元年度調査と比較すると、「地域で支え合う体制の充実」は4.2ポイント減少していますが、「介護サービスの質の向上」が8.0ポイント、「介護サービス施設などの量的充実」が3.5ポイント、「地域医療の充実」が3.9ポイント、「犯罪被害の防止」が4.8ポイント増加しています。

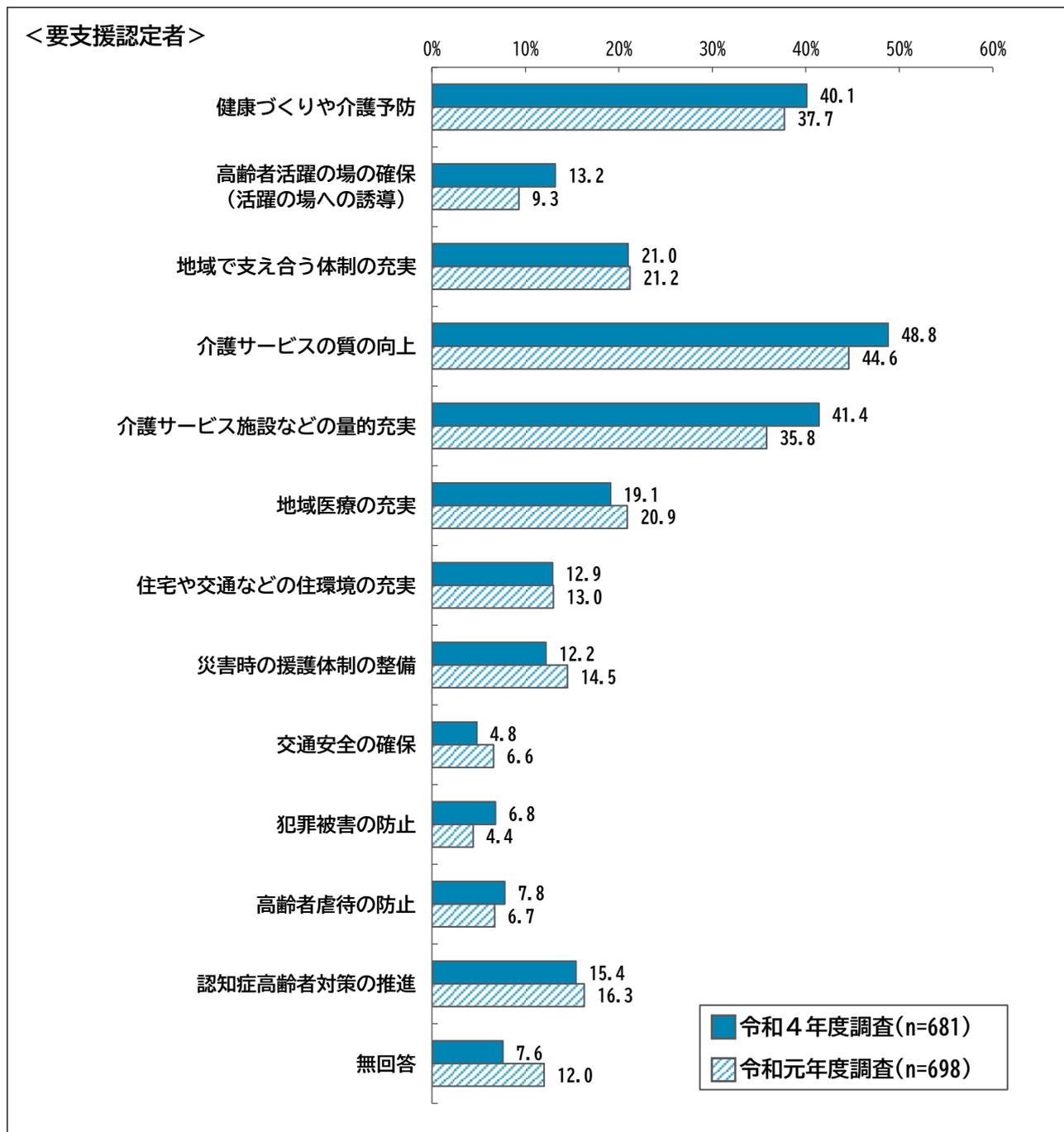
図表 150 高齢化社会において重要な方策（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和元年度調査と比較すると、「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が3.9ポイント、「介護サービスの質の向上」が4.2ポイント、「介護サービス施設などの量的充実」が5.6ポイントそれぞれ増加しています。

図表 151 高齢化社会において重要な方策（前回比較／複数回答）



V 生活機能評価等に関する分析

I 機能別リスク該当者割合の分析

・リスク判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
機能低下の 運動器	問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
	問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
閉じこもり 傾向	問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 or 「2. 週1回」
状態 低栄養	問3(1)	身長、体重	BMI<18.5
	問3(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔機能 低下	問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問3(4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
機能低下 認知	問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ 傾向	問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法・・・該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下・・・該当：3点以上
- ②転倒リスク・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態・・・該当：2点
- ⑤口腔機能低下・・・該当：2点以上
- ⑥認知機能の低下・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向・・・該当：1点以上

(1) 運動器の機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

運動器の機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、事業対象者、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。また、一般高齢者、要支援認定者では85歳以上での割合が最も高く、事業対象者では70～74歳で最も高くなっています。

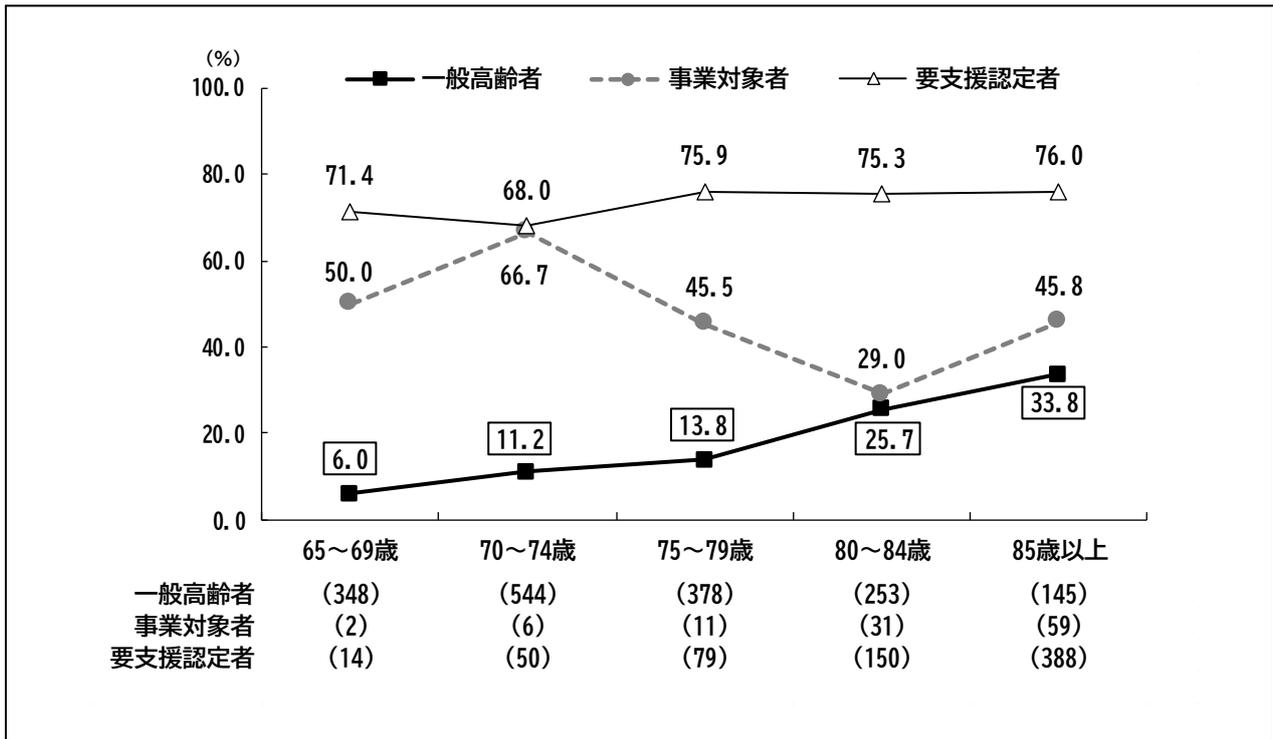
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.9ポイント高くなり、14.9%となっています。

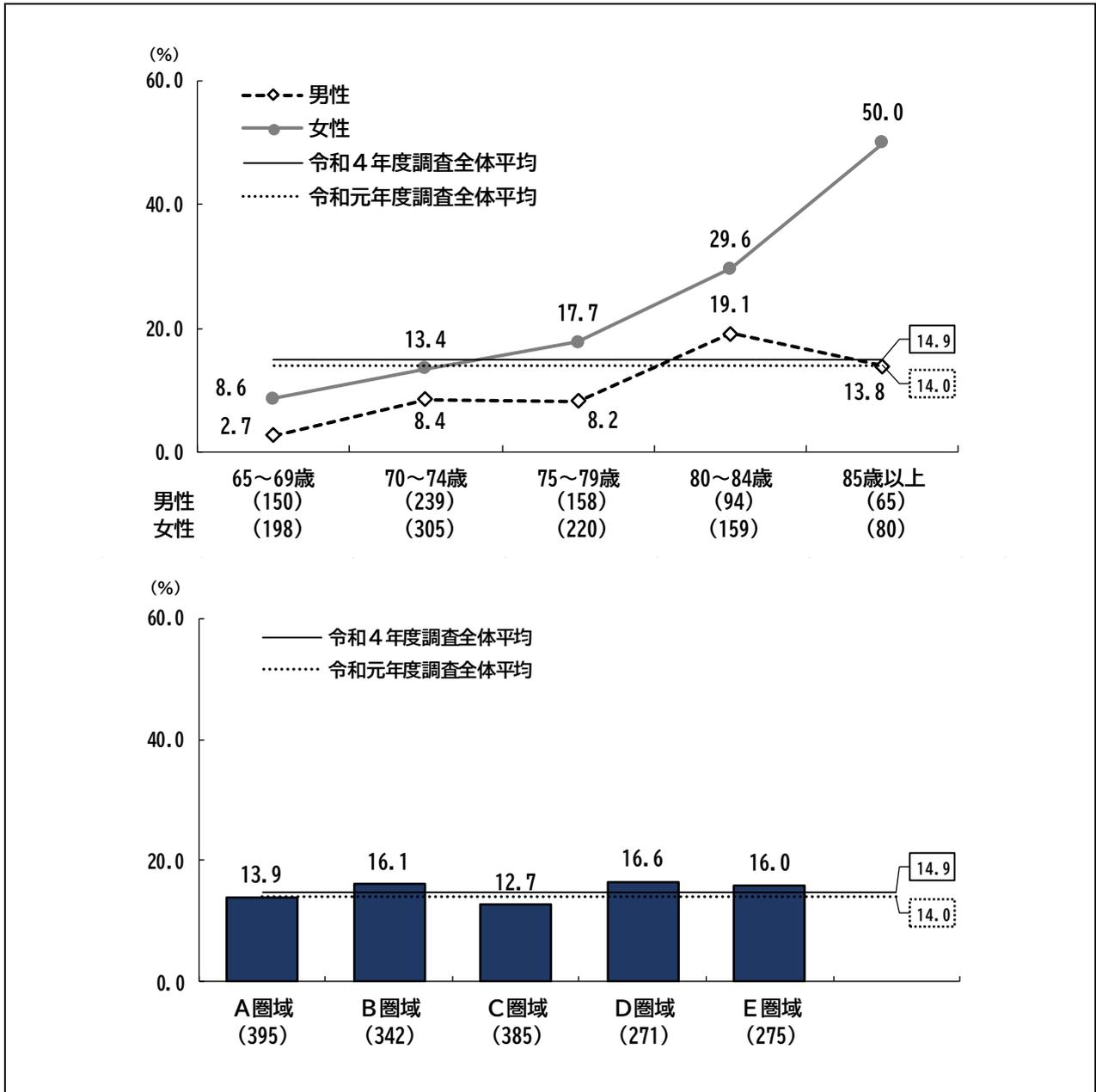
性別にみると、女性は男性に比べてリスク該当者の割合が高く、特に85歳以上でその差が顕著となっています。

圏域別にみると、B圏域、D圏域、E圏域で全体平均の14.9%を超えています。最も割合が低い圏域はC圏域の12.7%となっており、最も高い圏域はD圏域の16.6%となっています。

図表 152 運動器の機能低下の該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 153 運動器の機能低下の該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(2) 転倒リスク

【認定状況別リスク該当状況】

転倒のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、事業対象者、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。また、一般高齢者では85歳以上、事業対象者では70～74歳、要支援認定者では65～69歳で最も割合が高くなっています。

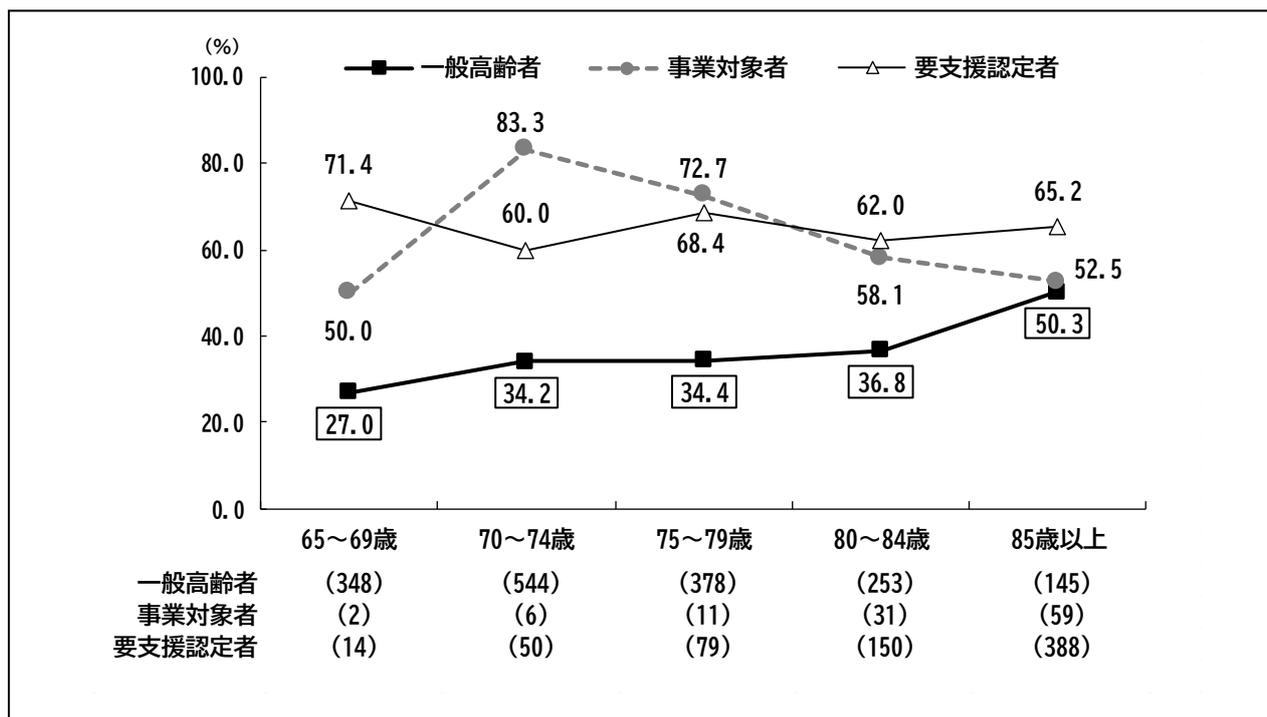
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より2.5ポイント高くなり、34.5%となっています。

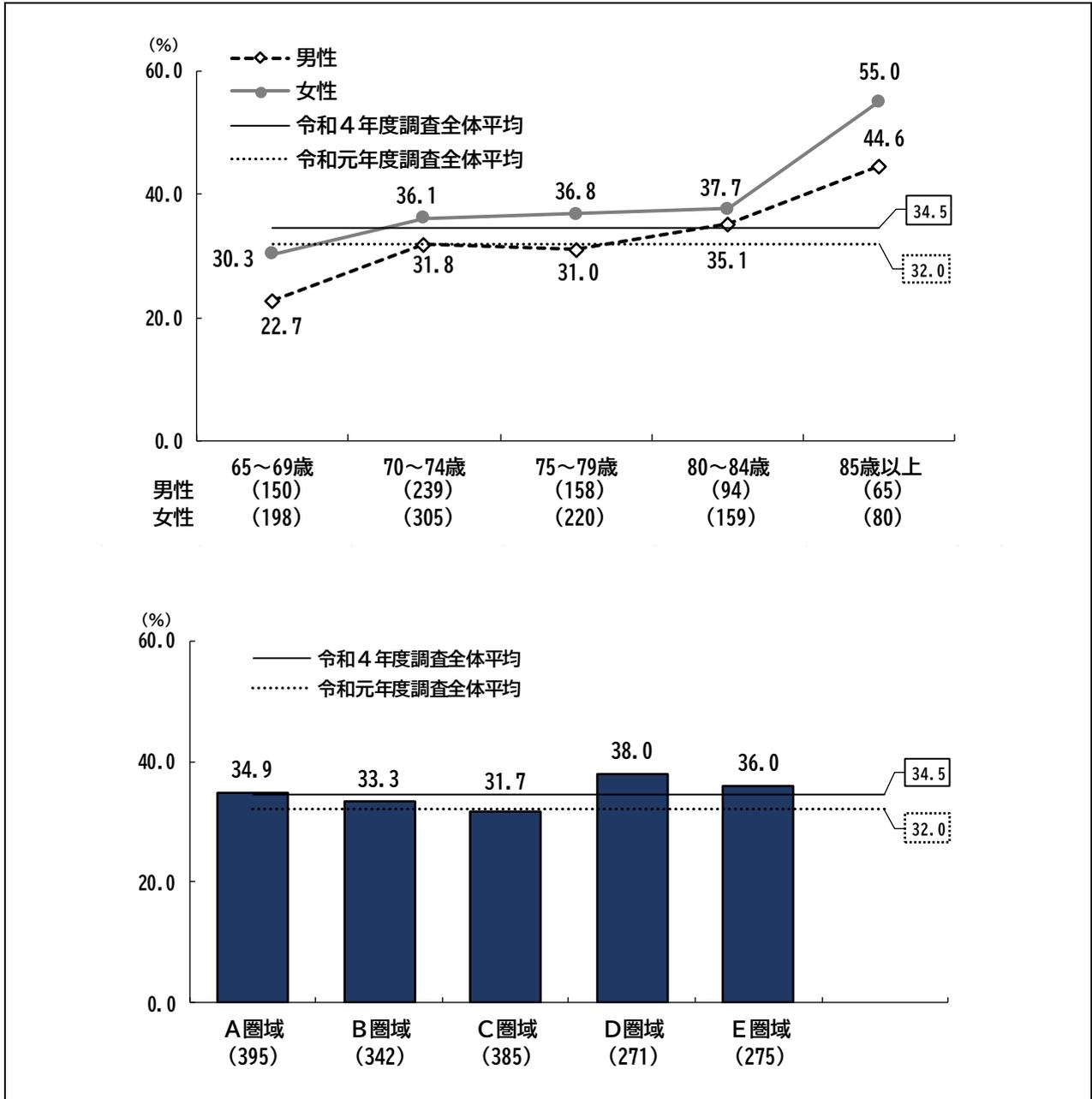
性別にみると、女性は男性に比べてリスク該当者の割合が高く、特に85歳以上では10.4ポイント差となっています。

圏域別にみると、A圏域、D圏域、E圏域で全体平均の34.5%を超えています。最も割合が低い圏域はC圏域の31.7%となっており、最も高い圏域はD圏域の38.0%となっています。

図表 154 転倒リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 155 転倒リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(3) 閉じこもり傾向

【認定状況別リスク該当状況】

閉じこもり傾向のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、70～74歳、80～84歳では要支援認定者の割合が高くなっていますが、65～69歳、75～79歳、85歳以上では事業対象者の割合が最も高くなっています。

また、一般高齢者、事業対象者では85歳以上でリスク該当者の割合は最も高く、要支援認定者では80～84歳で最も高くなっています。

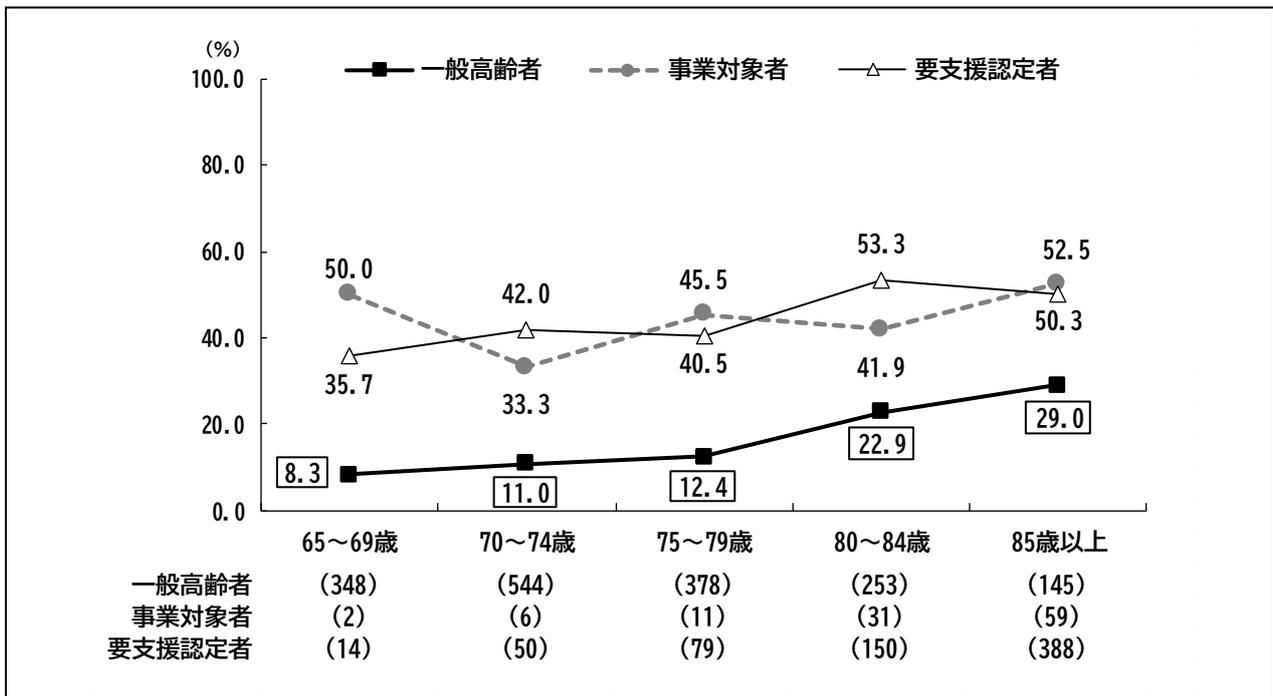
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.2ポイント低くなり、14.1%となっています。

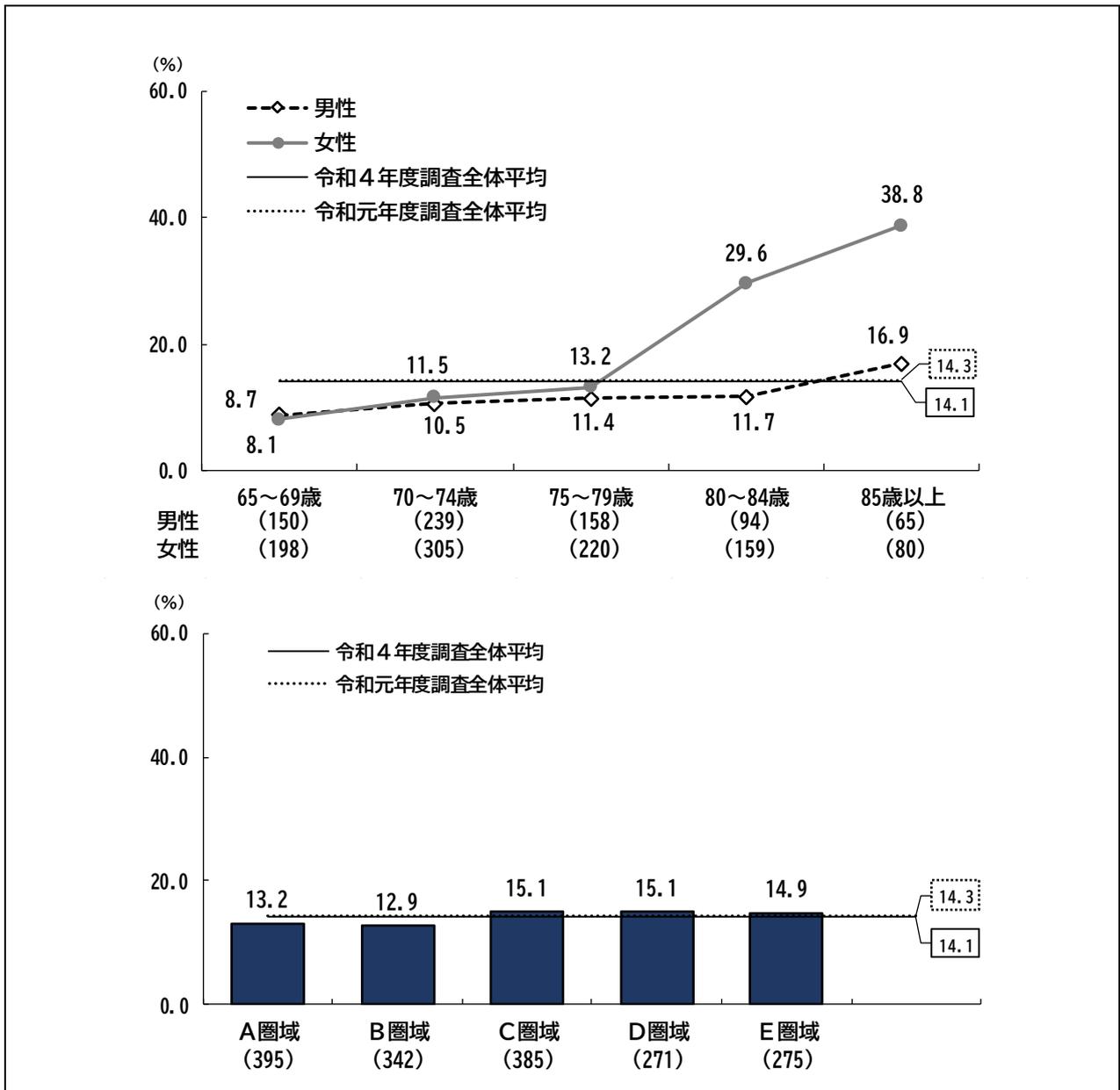
性別にみると、65～79歳までは男女で割合に大差はみられませんが、80歳以上では女性が男性を大きく上回る結果となっています。

圏域別にみると、C圏域、D圏域、E圏域で全体平均の14.1%を超えています。最も割合が低い圏域はB圏域の12.9%となっており、最も高い圏域はC圏域、D圏域がともに15.1%となっています。

図表 156 閉じこもり傾向リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 157 閉じこもり傾向リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(4) 低栄養状態

【認定状況別リスク該当状況】

低栄養状態のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、一般高齢者、要支援認定者では大差はみられませんが、事業対象者の75～79歳では18.2%とその割合は突出しています。

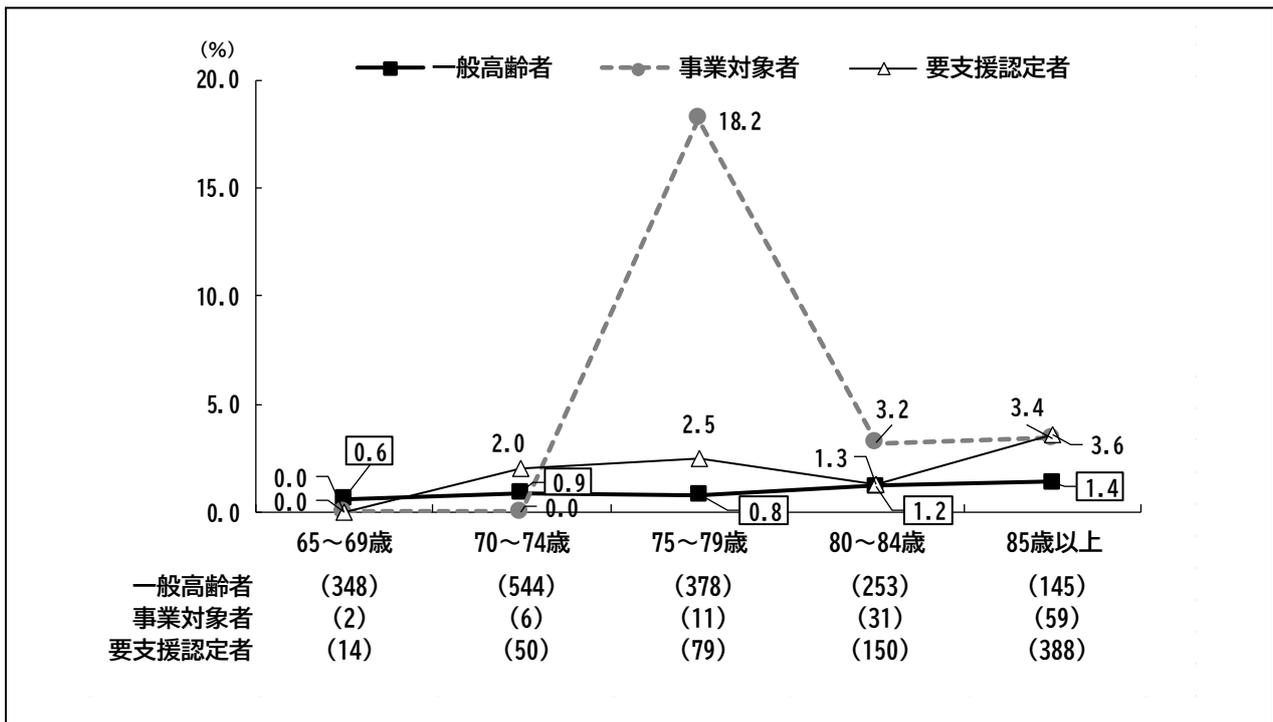
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.1ポイント低くなり、0.9%となっています。

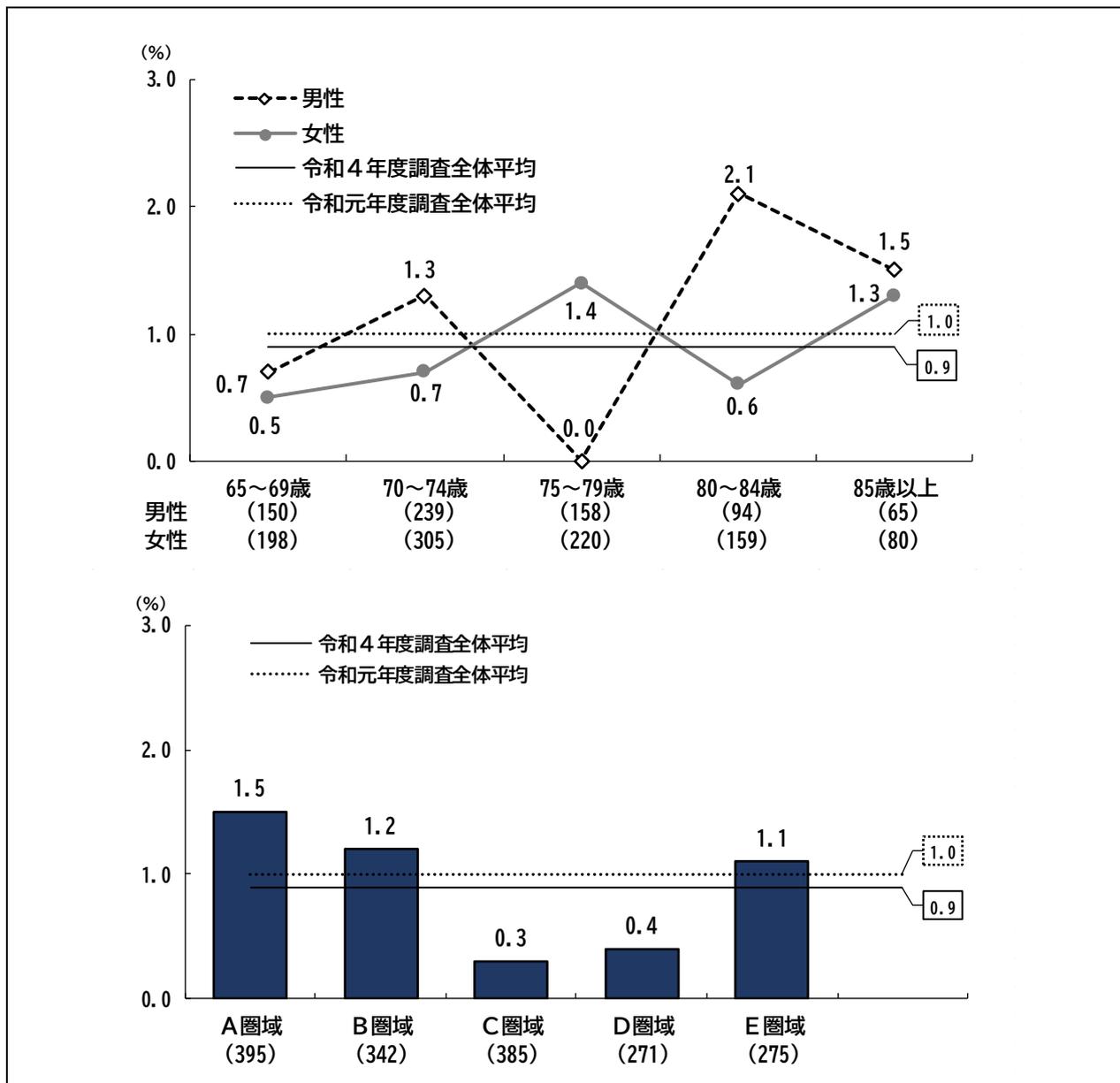
性別にみると、75～79歳では女性のリスク該当者の割合が男性を上回っていますが、それ以外の年齢階級では、男性が女性を上回っています。

圏域別にみると、A圏域、B圏域、E圏域で全体平均の0.9%を超えています。最も割合が低い圏域はC圏域の0.3%となっており、最も高い圏域はA圏域の1.5%となっています。

図表 158 低栄養状態リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 159 低栄養状態リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(5) 口腔機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

口腔機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、65～69歳では一般高齢者、要支援認定者の割合差は50.0ポイント以上となっていますが、70歳以上からはその差は縮まり、85歳以上では16.8ポイント差となっています。

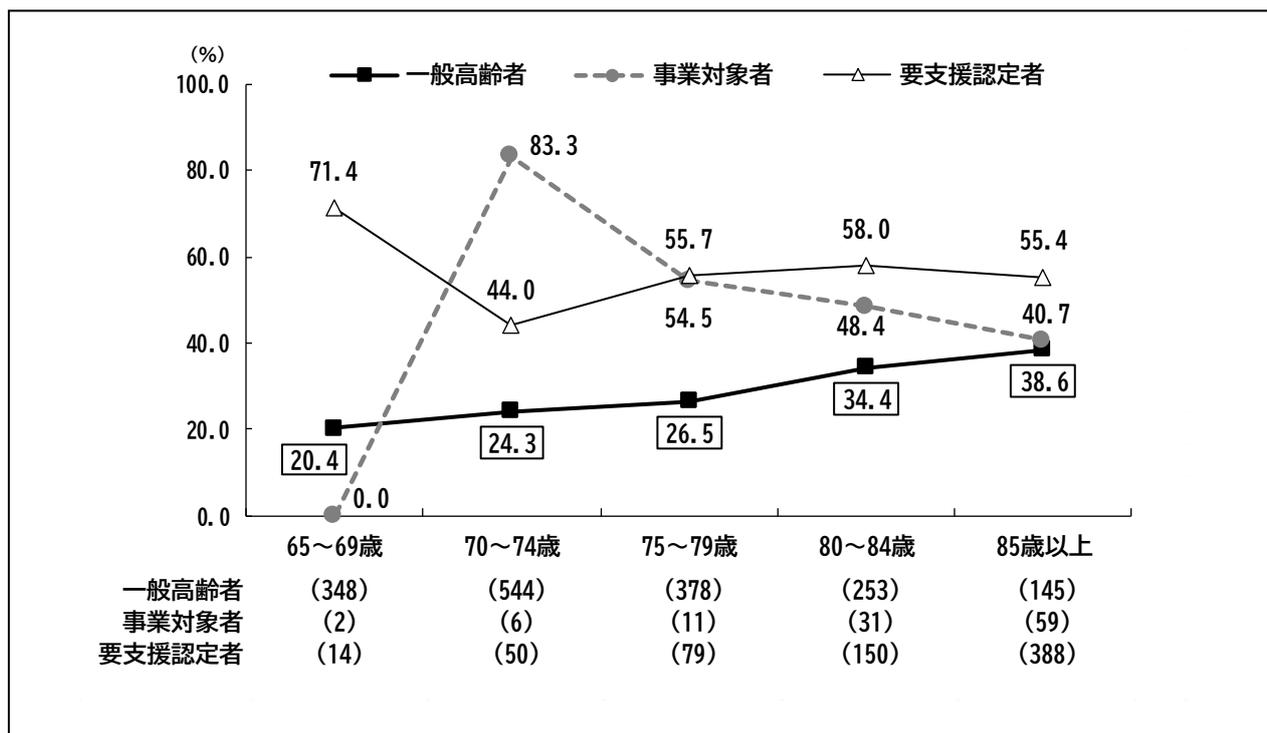
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より3.7ポイント高くなり、26.7%となっています。

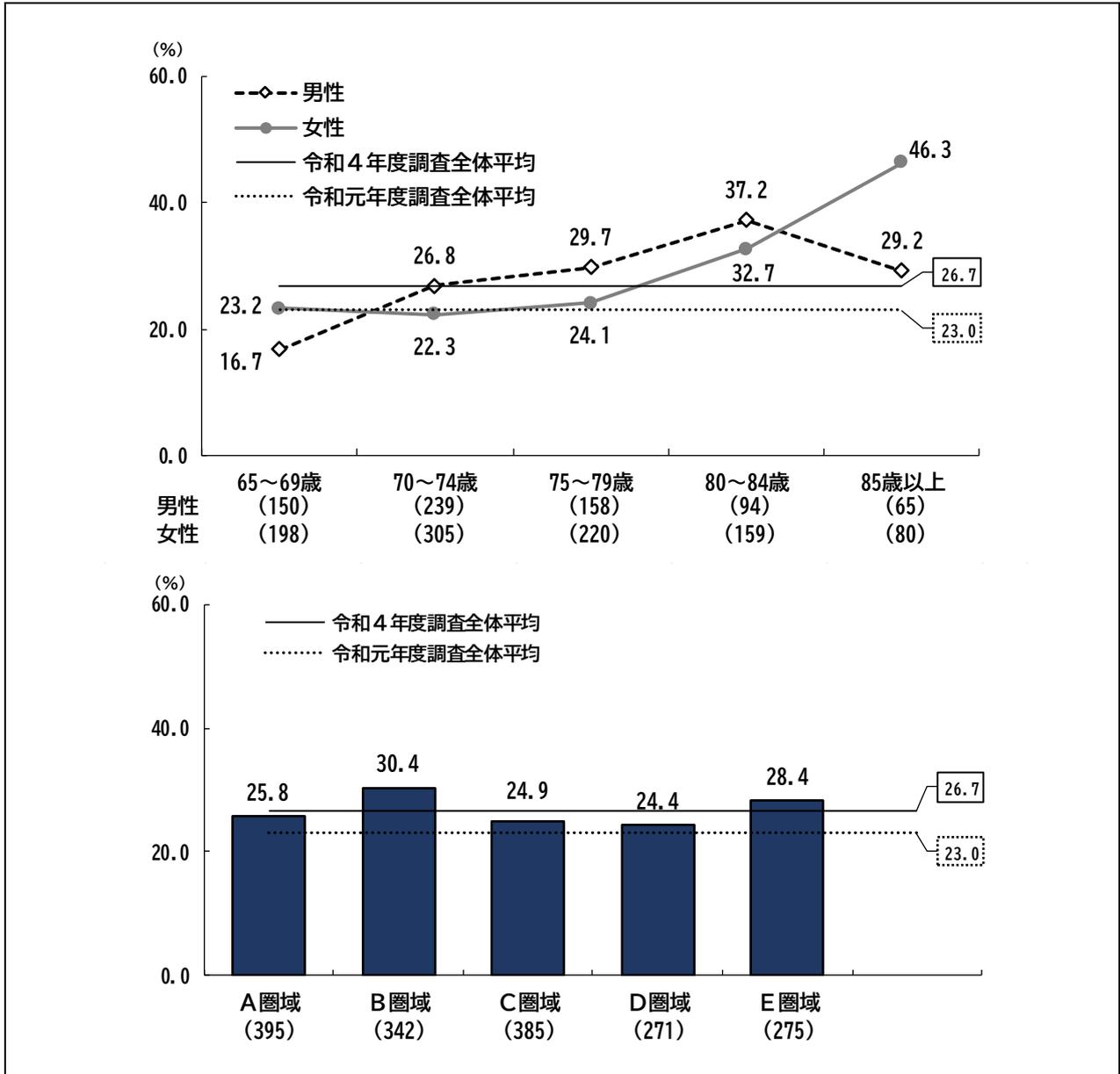
性別にみると、70～84歳では、男性のリスク該当者の割合が女性を上回っていますが、85歳以上では女性が男性を17.1ポイント上回っています。

圏域別にみると、B圏域、E圏域で全体平均の26.7%を超えています。最も割合が低い圏域はD圏域の24.4%となっており、最も高い圏域はB圏域の30.4%となっています。

図表 160 口腔機能低下リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 161 口腔機能低下リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(6) 認知機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

認知機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、一般高齢者、要支援認定者に比べて、事業対象者でのリスク該当者の割合が高くなっています。また、一般高齢者の割合は、65～74歳では要支援認定者よりも高くなっています。80歳以上の年齢階級では、いずれの認定状況においても、リスク該当者の割合は5割を超えています。

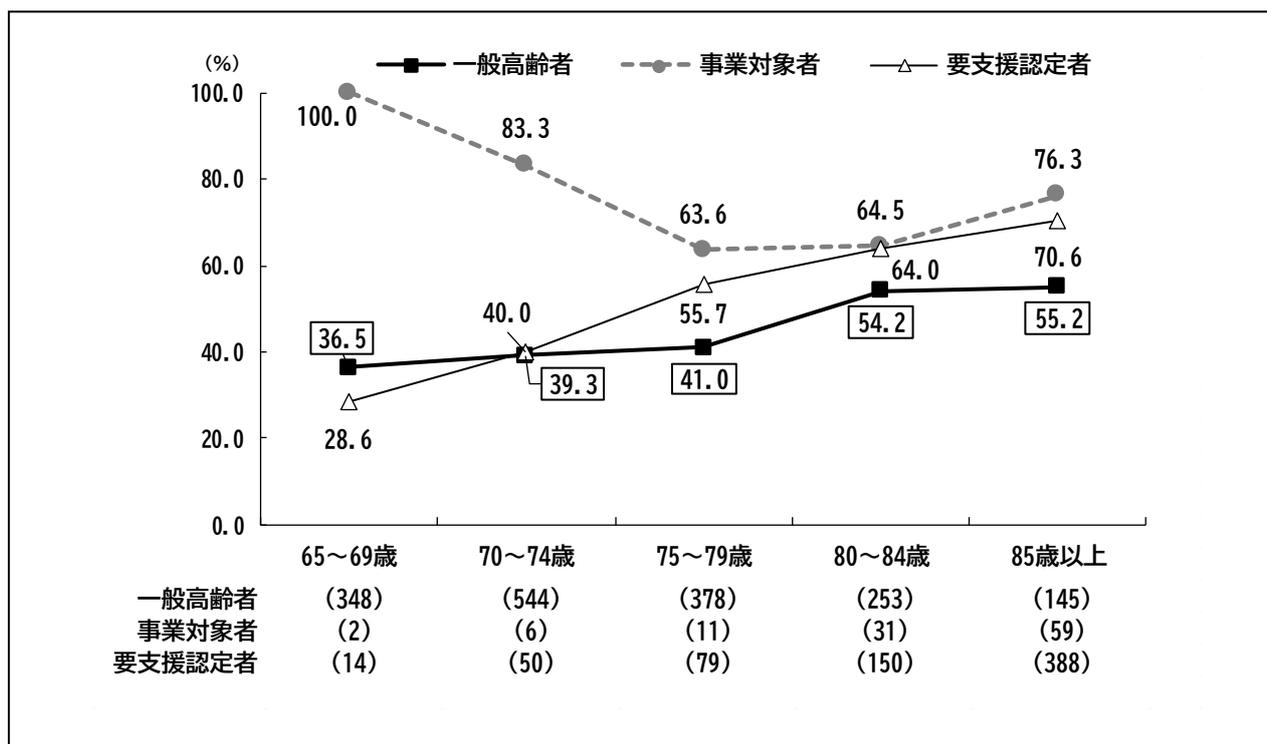
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.3ポイント高くなり、42.7%となっています。

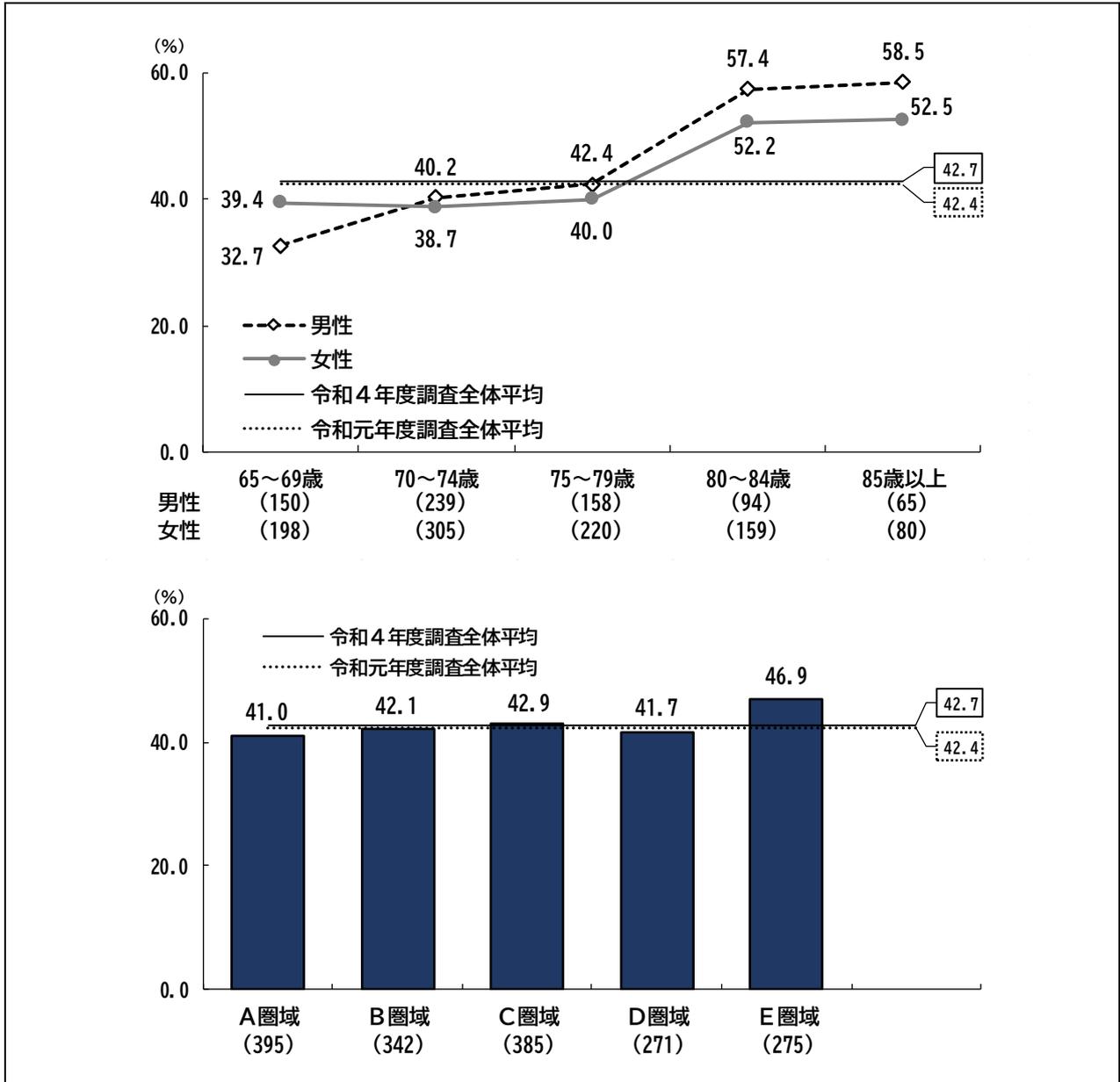
性別にみると、65～69歳では女性の割合が上回っていますが、70歳以上では男性が女性の割合を上回っており、80歳以上ではその差は6.0ポイントとなっています。

圏域別にみると、C圏域、E圏域で全体平均の42.7%を超えています。最も割合が低い圏域はA圏域の41.0%となっており、最も高い圏域はE圏域の46.9%となっています。

図表 162 認知機能低下リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 163 認知機能低下リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(7) うつ傾向

【認定状況別リスク該当状況】

うつ傾向のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。また、いずれの認定状況においても、85歳以上ではリスク該当者の割合は5割を超えています。

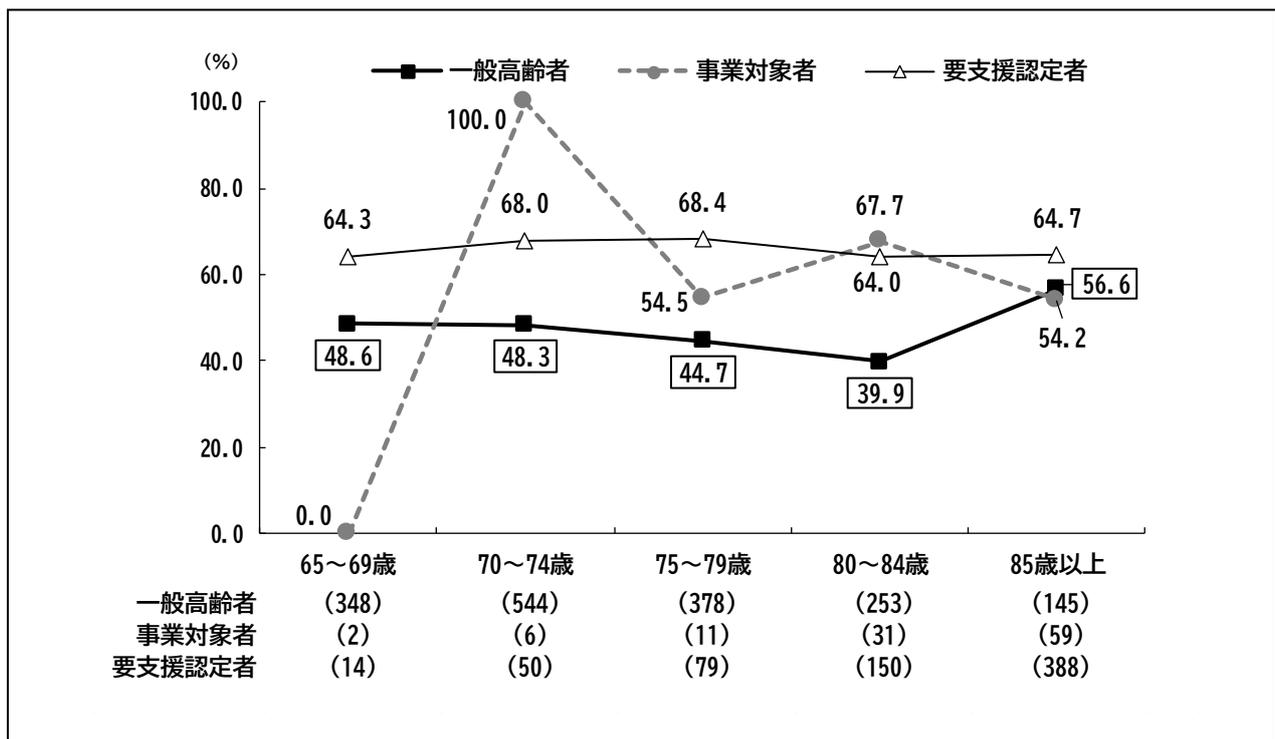
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より3.2ポイント高くなり、47.0%となっています。

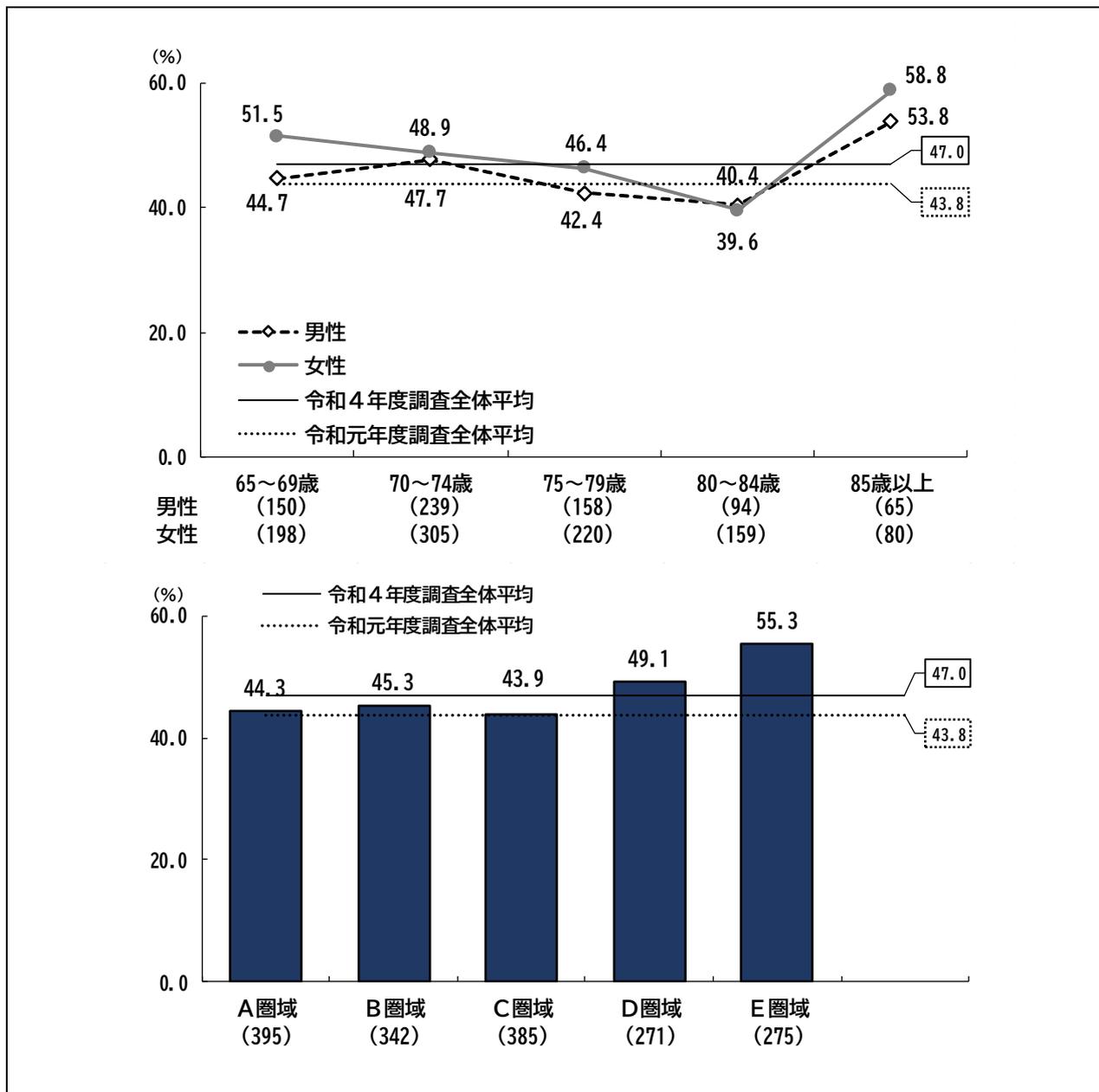
性別にみると、80～84歳を除くすべての年齢階級別では、女性が男性の割合を上回っています。また、85歳以上では、男女ともにリスク該当者の割合は5割を超えています。

圏域別にみると、D圏域、E圏域で全体平均の47.0%を超えています。最も割合が低い圏域はC圏域の43.9%となっており、最も高い圏域はE圏域の55.3%となっています。

図表 164 うつ傾向リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 165 うつ傾向リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



2 日常生活・社会参加

・判定方法（老研式活動能力指標）

① IADL（老研指標）

設問		選択肢
問4（4）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1.できるし、している」 or 「2.できるけどしていない」 1点
問4（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4（6）	自分で食事の用意をしていますか	
問4（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

○5点：高い

○4点：やや低い

○0～3点：低い

②社会参加

・知的能動性（老研指標）

設問		選択肢
問4（9）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1.はい」：1点
問4（10）	新聞を読んでいますか	
問4（11）	本や雑誌を読んでいますか	
問4（12）	健康についての記事や番組に関心がありますか	

○4点：高い

○3点：やや低い

○0～2点：低い

(1) IADL－手段的日常動作

【認定状況別手段的自立度低下者の状況】

5点満点の評価のうち、5点を「高い」、4点を「やや低い」、「3点以下」を「低い」と評価しており、ここでは、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

手段的自立度の低下者の割合を、認定状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者、事業対象者に比べて自立度の低下者の割合が高くなっています。また、一般高齢者では85歳以上で最も高くなっており、要支援認定者では75～79歳で最も高くなっています。

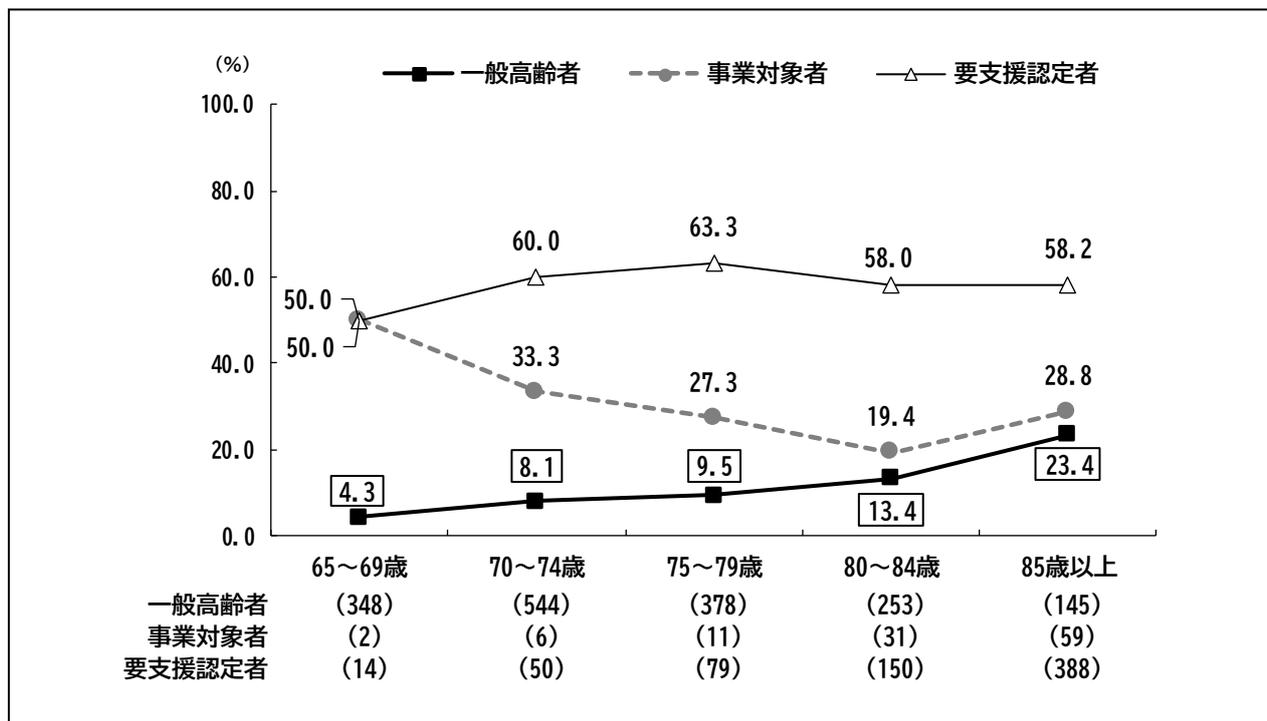
【一般高齢者の手段的自立度低下者の状況】

一般高齢者の手段的自立度の低下者の割合をみると、全体平均は前回調査より1.7ポイント低くなり、9.8%となっています。

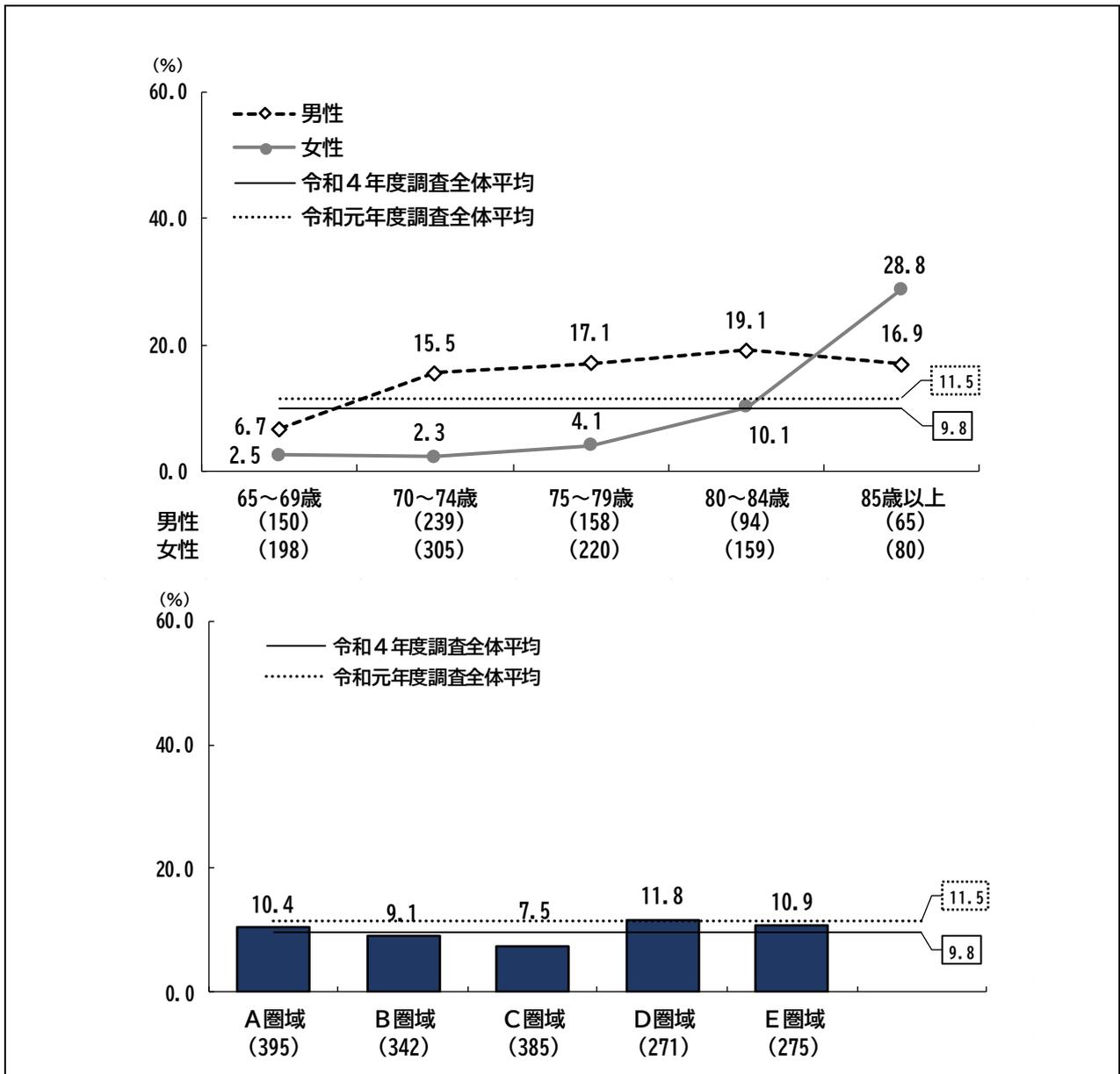
性別にみると、65～84歳までは、男性が女性の割合を上回っています。一方、85歳以上では女性が男性を上回り28.8%となっています。

圏域別にみると、A圏域、D圏域、E圏域で全体平均の9.8%を超えています。最も割合が低い圏域はC圏域の7.5%となっており、最も高い圏域はD圏域の11.8%となっています。

図表 166 IADL（手段的日常動作）低下者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 167 IADL（手段的日常生活動作）低下者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(2) 知的能動性

【認定状況別知的能動性低下者の状況】

4点満点の評価のうち、4点を「高い」、3点を「やや低い」、「2点以下」を「低い」と評価しており、ここでは、2点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

知的能動性の低下者の割合を、認定状況別・年齢階級別にみると、70歳以上では、一般高齢者、事業対象者の割合に大差はみられません。要支援認定者では65～84歳にかけて、一般高齢者では65～79歳にかけて知的能動性低下者の割合は減少傾向がみられますが、その後再び増加しています。

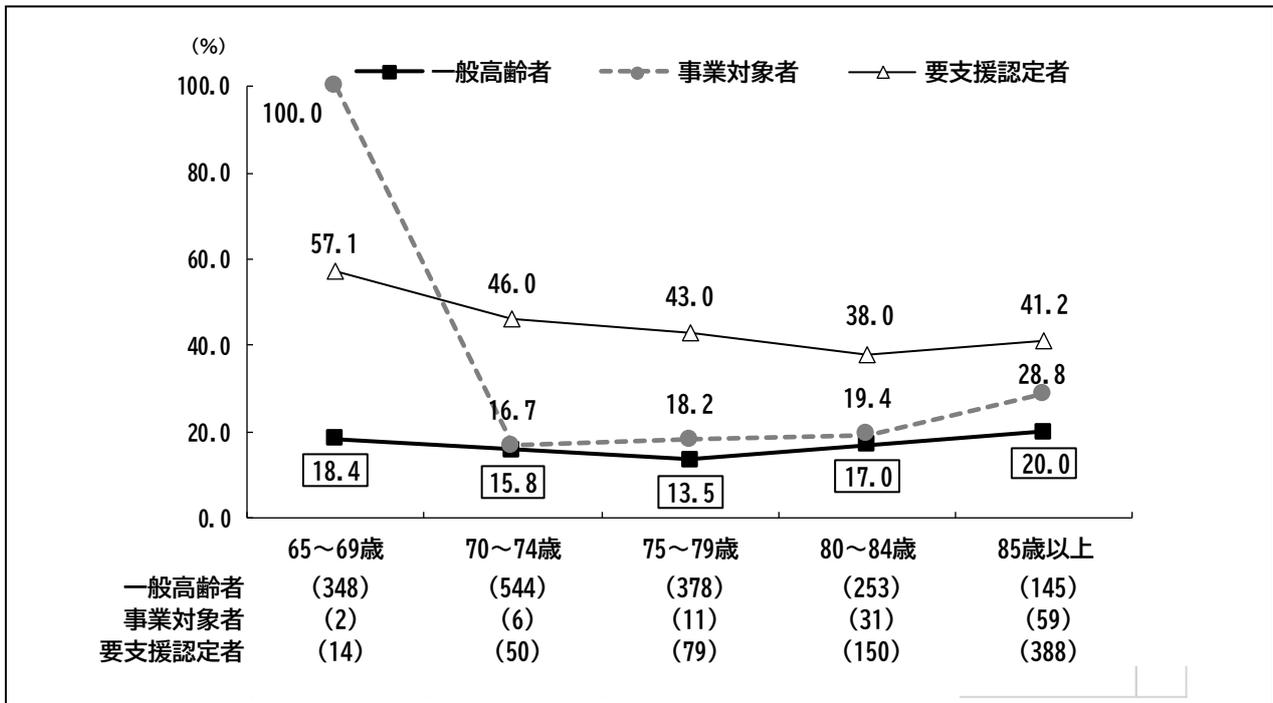
【一般高齢者の知的能動性低下者の状況】

一般高齢者の知的能動性低下者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.6ポイント低くなり、16.4%となっています。

性別にみると、85歳以上では男女ともに20.0%となっていますが、概ね男性が女性の割合を上回る傾向がみられます。また、男性の75～79歳では全体平均を下回っていますが、それ以外の年齢階級では全体平均を上回っています。

圏域別にみると、B圏域、D圏域で全体平均の16.4%を超えています。最も割合が低い圏域はA圏域の15.7%となっており、最も高い圏域はB圏域の17.3%となっています

図表 168 知的能動性低下者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 169 知的能動性低下者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）

